Vol.73 通巻840号　平成4年3月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

1992

3

特集

建築とデザイン―東海支部―

日本建築協会



Day by Day——きっといい明日

大阪ガス

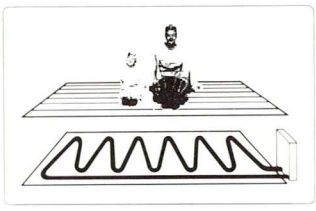
◎新居に床がある限り、床暖房はカンタンです。

近い将来、新居を計画してる方と、
遠い将来だけど、予定はしてるぞって方に、お伝えします。
これからのおうち暖房は、ガス温水床暖房がいいですよ。
ぜひ、よーく知って欲しいのですよ。
みんなが思ってる以上に、身近なモノなのですよ。



そのぬくもりは、日なたぼっこみたいなんです。

床の下にお湯をめぐらせてあったためる温水床暖房は、頭寒足熱の健康的な暖房です。しかも、皮ふ内の温点に直接作用する遠赤外線効果で、からだの芯までポカポカに。寒い冬の日も、日だまりみたいなお部屋で過ごせるんですね。



その燃費は、ホントは安あがりなんです。

とはいうものの、ガス代が気になるわって声に、ズバリお答えします。1時間でわずか約17円、1カ月でも約3,050円。お部屋を効率よくあったためる温水床暖房ならではの、うれしい燃費です。これなら冬中使い続けられますね。

※1時間当たり　1日6時間連続運転した場合ひと月当たり　1時間当たりのガス代、6時間、30日6畳洋室、外気温5℃（湿度60%）室温18℃　ガス119.42円、m大阪ガス実測値

その工事は、おおげさに考えなくて大丈夫。

家を建てる前に計画しておけば、とってもスムーズに設置できますよ。洋室から和室まで、床材も豊富に揃ってます。設置にかかる費用もそんなにおおげさな値段ではありません。ホントです。まずは大阪ガスに、声をかけてください。

ガス温水床暖房

（よーし、わが家も考えてみようと思ったら、）

【ガス温水 床暖房に関する資料請求・お問合せは、お近くの大阪ガス各支社まで】

大阪支社　大阪市西区千代崎3-2-95☎ 06(586)3200
南部支社　堺市住吉橋町2-2-19☎0722(38)1131
北部支社　高槻市藤の里町39-6☎0726(71)0361
東部支社　東大阪市稲葉2-3-17☎0729(62)1131
兵庫支社　神戸市中央区東川崎町1-8-2☎078(360)3100
京都支社　京都市下京区中堂寺粟田町1☎075(312)3961
奈良支社　奈良市学園北2-4-1☎0742(44)1111
和歌山支社　和歌山市本町1-5☎0734(31)2481
兵庫西支社　姫路市神屋町4-8☎0792(85)2221
豊岡支社　豊岡市三坂町6- 57☎0796(23)2221
湖南支社　草津市追分町字荒堀680-1☎0775(62)5311
彦根支社　彦根市大東町12-11☎0749(22)3131

◀監事並びに本部所属評議員の当選

平成４年２月26日開催の通常総会において、監事並びに本部所属評議員の選挙を執り行いましたところ、下記の方々が当選されました。

記

監事　（１名）

尾亀清四郎君（三　晃　空　調）

本部所属評議員（21名）

荒川　治徳君（清　水　建　設）
下笠　晃右君（大阪市都市整備局）
下村　健治君（修成建設専門学校）
玉井　龍男君（近　畿　地　建）
名手　宏彦君（ミサワホーム）
山尾　弘子君（インタープラン）
大塚日出夫君（淺　沼　組）
上出　秀雄君（藤木工務店）
楠　正世君（戸　田　建　設）
柴田　邦彦君（間　　組）
高橋　保夫君（錢　高　組）
飛岡　宏佳君（安　藤　建　設）
三木　敏男君（奥　村　組）
原　精一君（コーナン建設）
和田　眞一君（東　和　組）
今村　騰君（中央電気工業）
山本　永造君（ヤマト電気）
清水義一郎君（清水工業所）
田崎　至成君（日比谷総合設備）
江藤　正昭君（万年スレート）
小山　年光君（タ　ジ　マ）

◀名誉正会員56名が推挙される

去る２月26日開催された本会通常総会において、次の方々が名誉正会員に推挙されました。

本会に対する永年のご支援、ご協力に対し深く感謝申し上げるとともに、今後のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

なお、すでに名誉正会員に推挙されている方々も、ここに改めてご紹介申し上げます。

現名誉正会員（敬称略）　31名

青木　茂雄	一圓　俊郎	今元　康彦	岡田　孝男
岡橋作太郎	岡本豊治郎	汲川　圭司	黒明　澄夫
小林　清	四方　靖郎	白井　周二	白石登喜男
竹内　さく	竹中　錬一	高橋　慶夫	塚本　猛次
東畑　謙三	野田　清三	野々村五四男	久田　良吉
藤田　重治	本多　正道	前野慶太郎	水野長三郎
森　忠一	薮本　芳一	山田　芳雄	山手　研吾
吉田光太郎	吉原九州男	渡辺　幸蔵	

新名誉正会員（敬称略）　56名

浅井　泰	天池嘉平治	新井　辰一	井上　實
井澤　善哉	池田　達雄	犬伏　武芳	今津　義勝
今西　茂雄	岩井金三郎	小川静一良	小川　正
尾亀清四郎	大内　茂	大林　芳郎	沖田　誠一
片山　一郎	川合　安平	川谷　勇	熊澤　六朗
小西　岬	小山　武	坂本　忠義	杉山　廣吉
谷口　尚武	佃　忠夫	富松　助六	中村　隆慶
廣瀬　勇	堀内　三郎	松永　崇志	南出　信雄
宮田　禮彰	森　定夫	森　茂樹	米田　良男
石川　四郎	岩下　久哉	越智　隆晴	加藤　宜彦
河井　覺弘	貴志　満二	黒川　巳喜	鴻池　藤一
佐藤　重夫	関原　猛夫	染木　正夫	知見　義夫
手賀　徹	服部　小虎	原川　一巳	福永　薫
村上　孝一	森岡　武夫	矢野　豊作	和田　精一

◀世界建築博覧会 プレイベント トリエンナーレ奈良1992—日本建築協会後援—

1998年に市制100周年を迎える奈良市は、これを記念して、「歴史と未来の共生」をテーマに「世界建築博覧会」を企画しています。

この博覧会は、奈良市が従来から実施している歴史的町並みの残る「ならまち」の保存整備事業によるまちづくりと、「ＪＲ奈良駅周辺地区」における新都市拠点整備事業によるまちづくりそのものを見せようというものであり、まちづくりそのものが博覧会であり、街全体が博覧会会場となります。

その第１回目のプレイベントとして「トリエンナーレ奈良1992」が開催されます。この中心イベントとして「現代建築家展」「現代建築シンポジウム・講演会」などが予定されています。

■「現代建築家展」

現代建築を代表する国内外の建築家の作品（模型・ドローイング等）の展示。また、「世界建築博覧会」の第一会場（ＪＲ奈良駅周辺地区）に建設予定の「（仮称）奈良市民ホール」の国際設計コンペ参加作品も併せて展示。

期　間　1992年 **5** 月 **16** 日(土)～ **6** 月 **14** 日(日) 9：00～17：00
5月18日を除く月曜日休館

会　場　奈良県立美術館（奈良市登大路町10—６）

入場料　600円

●出展予定建築家（敬称略）

安藤忠雄／石井和紘／石山修武／磯崎新／伊東豊雄／川崎清／黒川紀章／高松伸／竹山聖／長谷川逸子／原広司／山本理顯
ジャン・ヌーヴェル(フランス)／クリスチャン・ド・ポルザンパルク(フランス)／リチャード・ロジャース(イギリス)／ジェームス・スターリング(イギリス)／ピーター・クック(イギリス)／ノーマン・フォスター(イギリス)／アルド・ロッシ(イタリア)／ヨセフ・Ｐ・クライフュース(ドイツ)／ハンス・ホライン(オーストリア)／ヘルマン・ヘルツベルガー(オランダ)／ベルナール・チュミ(スイス)／オリオール・ボヒガス(スペイン)／イムレ・マコベッツ(ハンガリー)／ヴァクタング・ダビタイア(旧ソ連・グルジア共和国)／リチャード・マイヤー(アメリカ)／トム・メイン(アメリカ)／ピーター・アイゼンマン(アメリカ)／ケネス・ヤング(マレーシア)／チャールズ・コリア(インド)

■「現代建築シンポジウム・講演会」

「現代建築家展」に出展した建築家・評論家の参加を得て、建築や都市景観、まちづくりについて討議を行う。

期　間　1992年 **5** 月 **17** 日(日)～ **5** 月 **19** 日(火) —— 時間未定 ——

会　場　奈良市史跡文化センター（奈良市三条大路１－５－37）

入　場　無料（申し込み制）

問合先　㈱世界建築博覧会協会事務局（〒630 奈良市二条大路南１－１－１ 奈良市役所内　TEL 0742-34-1111）
申込方法、締切等の詳細は上記へ問い合わせられたい。

■その他のイベント

●ならまち歴史展

期　間　1992年 **4** 月 **25** 日(土)～ **5** 月 **24** 日(日)

場　所　奈良市ならまちセンター　入場無料

●ならまち歴史講演会

期　日　1992年 **5** 月 **14** 日(木)　PM１：00～

場　所　奈良市史跡文化センター　入場無料（申し込み制）

講　師　犬養孝氏、土井實氏

日本建築協会・海外研修旅行

世紀末ふたたび―中欧の建築を訪ねる―



百塔の街・プラハの朝もや

今世紀も一桁の年を残すのみとなった20世紀末のいま、ヨーロッパでは社会主義国家体制の崩壊が相次ぎ、政治的に西と区別されていた東欧諸国は、ドイツ、オーストリアを含めた以前の呼び名、ミッテルオイローパ（中欧）として甦ろうとしています。

歴史的建築文化の遺産を数限りなく持ち、第二次世界大戦前にはモダニズム建築運動の中核の一つをなしていた中欧。このたび、今までの社会体制下では訪れる機会の少なかったこれら旧東欧諸国への建築の旅を企画いたしました。

この旅では19世紀末ユーゲントシュティルから、モダニズムを経て、ふたたび世紀末現在の最新建築までを主な見学対象とし、民族色濃いハンガリーの建築、ハイブリッド的なチェコキュービズムにも触れ、番外として、19世紀前半ベルリンの大建築家シンケルの作品、その他、ドレスデン等々の歴史都市を訪れる予定です。

建築に伴う時代性、地域性、社会性、それらを突き抜けて輝く作家の個性。建築は見る人それぞれの捉え方、切り口によって、各々異なった様相でこたえてくれるでしょう。

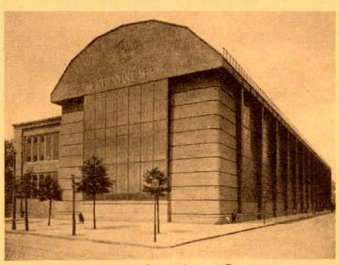
5年前、当協会では『ふたつの世紀末の建築を訪ねて』と題し、ウィーンを起点に西欧9都市を巡りました。今回は、ウィーンを最終ゴールとする前回の続編、再旅（ふたたび）でもあります。

ともあれ、いくつかの時代の層を重ね、民族色の隠し味と、ハイブリッドのスパイスをきかせた建築サンドウィッチの旅を存分に味わおうではありませんか。



➔大阪発 7月10日夕刻

➔ベルリン、ポツダム 7月11日～13日



AEGタービン工場



フィルハーモニー



テーゲル地区IBA



アインシュタイン塔

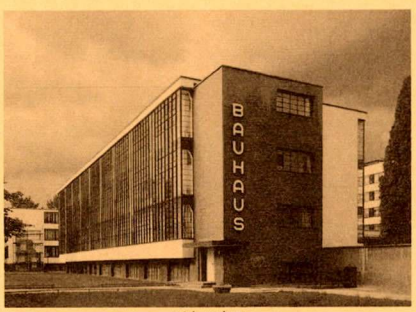


アルテスムゼウム

AEGタービン工場(ペーレンス)、ツェーレンドルフ・ジードルンク(タウト、ヘーリンク)、ホーエンツォーレルン広場の教会(ヘーゲル)、ユニテ(コルビュジエ)、フィルハーモニー／州立図書館(シャロウン)、IBA(クライフス他)、国立美術館(ミース)、アルテスムゼウム／シャウシュピールハウス／シャルロッテンホフ宮殿(シンケル)、アインシュタイン塔(メンデルゾーン)、ベルナウ労組高校(マイヤー)

➔デッサウ、ヴィッテンベルク、ドレスデン 7月14日

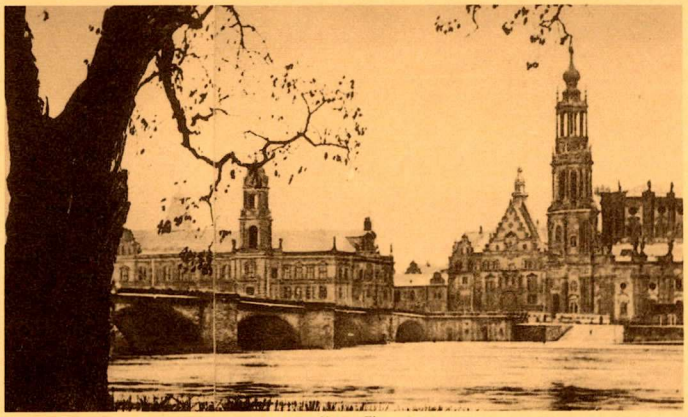
バウハウス／マイスタージードルンク(グロピゥス)、ヴィッテンベルク・中世都市の街並、ルターの家、ドレスデン・ツヴィンガー宮殿(ペッペルマン)、オペラハウス(ゼンパー)



バウハウス



ヴィッテンベルク



ドレスデン

日本建築協会・海外研修旅行

実施要項

旅行期間　1992年7月10日(金)～26日(日)〈17日間〉
定　　員　35人（申込者多数の場合は抽選）
参加費用　会員 570,000円（団体会員は1社1名を会員扱い）
　　一般 600,000円
　　※見学・交通・宿泊費などを含む。
　　※定員に満たない時は変更する場合があります。
企　　画　㈳日本建築協会事業委員会若い会員の集い小委員会
　　米井　寛、杉本真一、龍野豪利、山田和弘
　　特別幹事／岡田聿之（東畑建築事務所）

申し込み・問い合わせ

●㈳日本建築協会事業課
〒530 大阪市北区梅田1-1 大阪駅前第3ビル21階
TEL 06-348-0633　FAX 06-348-0634
●㈱日本交通公社団体旅行難波支店　担当／小塩、服部
〒542 大阪市中央区難波2-3-7 リクルート難波ビル8階
TEL 06-213-1192　FAX 06-213-1160
旅行業務取扱主任者／諏訪忠泰

申し込み締切　5月15日(金)

※日程・見学先は、交通・訪問先事情等により、一部変更することがありますので、予めご了承願います。

➔プラハ 7月15日～17日


市民会館

中央駅(ファンタ)、市民会館（ボリーフカ）、ヤロシュ・ヴィラ／ネクラノヴァ通りの共同住宅(ホホル)、黒い聖母の家(ゴチャール)、イエズス教会／プラハ城庭園改修(プレチェニク)、ババ地区・モダニズム住宅群、プラハ城他歴史的建造物


黒い聖母の家


イエズス教会

➔ブルノ、ブラティスラヴァ 7月18日～19日


トゥーゲントハット邸

トゥーゲントハット邸（ミース）、ホテル・アヴィオン／ヴェスナ女子職業学校と寮(フックス)、聖エルジェーベト教会／ギムナジウム(レヒネル)


聖エルジェーベト教会

➔ブダペスト、ケチュケメート 7月20日～22日

西駅(エッフェル)、旧郵便貯金局／装飾美術館／ケチュケメート市庁舎（レヒネル)、ホテル・ゲレールト（ヘゲデュス)、リスト音楽院(コルブ)、デューラー街の小学校(バウムガルテン)、カルヴィニスト教会(アールカイ)、メトロクラブ


ブダペスト西駅




旧郵便貯金局



メトロクラブ

➔ウィーン 7月23日～25日

郵便貯金局／シュタインホフ教会／カールスプラッツ駅(ワグナー)、ゼツェッション館(オルブリッヒ)、ヴィラ・スキワブリマフェジ(ホフマン)、レッティ／シュリン／ケェーラーガッセの小学校／ハースハウス(ホライン)、フンデルトワッサーハウス、ファボリーテン街の銀行(ドメニク)、屋上の増築(コープヒンメルブラウ)


ゼツェッション館


郵便貯金局


シュタインホフ教会


ハースハウス

➔ウィーン発 7月25日午後 ➔大阪着 7月26日夕刻

◀ニユービルディング関西'92開催
－日本建築協会協賛－

高度化、多様化するニーズに対応する建物に関した最新の技術、機器・システムの普及や企業活動に直結したビジネススペースのあり方をテーマに、ソフトとハードの融合を目指し、企業経営者、建築関係者等との技術・情報交流を通して企業の発展を図ることを目的とした標記催しが開かれます。主催は㈳日本能率協会。

会　期　1992年 5 月21日㈭～ 5 月23日㈯

会　場　マイドームおおさか（大阪市中央区）

構　成　①展示会
ビル・オフィスのインテリジェント化、アメニティ化のための建築関連技術、システム・機器、ソフトウエアの展示。
②特別企画「人間生活工学フェア」
人間生活工学からみた快適環境づくり並びに製品開発のための装置・システムの展示。
③シンポジウム
ビジネススペースとしてのビル・オフィスのあり方、課題をテーマに、学識経験者並びに産業人による発表・交流。
④見学会
最新のビル・オフィスの見学と関係者との情報交換。

入場料　1,000円

問合先　ニュービルディング関西'92事務局（社団法人日本能率協会内　TEL 06-261-7151）

◀「建築工事共通仕様書」
－日本建築協会でも頒布－

社団法人新日本建築家協会監修、大阪府建築家協同組合発行の下記仕様書、ノートを頒布しています。

従来、当協会で頒布している「四会連合協定・工事請負契約約款」と併せて、皆さまのご利用をお待ちしています。

品　名	価格（含消費税）
1991年度版　建築工事共通仕様書	2,900円
1991年度版　建築設備工事共通仕様書	3,300円
第15版　現場監理ノート（建築編）	2,600円
第15版　現場監理ノート（設備編）	2,600円
第３版　設計チエックノート	515円

なお、1991年度版　特記仕様書ガイドブック、制定書式501号（見積表書）、502号（工事別内訳）、503号（内訳その１）、504号（内訳その２）、505号（コンクリート・型枠集計）、506号（鉄筋集計）、507号（鉄骨集計）、508号（横ケイ紙その１）、509号（横ケイ紙その２）、601号（５㎜方眼・枠線なし）、602号（５㎜方眼・枠線入り）についても、ご入用の都度お取りつぎいたしますので、ご利用下さい。（事務局・総務課）

日本建築協会企画図書目録

日本建築協会創立60周年記念事業

建築技術選書　発行：学芸出版社

NO	書　籍　名	税込価格
1	茶室の話（岡田孝男著）	￥1,339-
8	建具の知識と意匠（山片三郎著）	￥1,339-
9	エレベータ・エスカレータ（木村利雄著）	￥1,339-
13	医院・診療所の計画と設計（池田有隣・船越暉由著）	￥1,339-
15	PC建築の話（下伊豆隆三著）	￥1,236-
16	石垣と石積壁（窪田　祐著）	￥1,339-
17	基礎と地盤の手ほどき（中堀和英著）	￥1,339-
20	タイルの話（田中　弘著）	￥1,339-
24	鉄骨構造の話（金多潔・甲津功夫・西澤英和著）	￥1,339-
27	建築積算業務（生島道春著）	￥1,442-
28	建築金物の知識（立野一郎著）	￥1,339-
29	瓦と屋根構造（佐藤滋朗著）	￥1,442-
32	建築塗装の手引き（児島修二著）	￥1,442-
33	建築式典の実際（若林嘉津雄著）	￥1,339-
38	住宅の照明（大島　博監修）	￥1,442-

日本建築協会創立70周年記念事業

選書特装版　発行：学芸出版社

NO	書　籍　名	税込価格
1	構造コストと経済設計（須賀好富著）	￥3,605-
2	建築設備の健康診断（牧野　茂著）	￥3,914-
3	新・建築と設備の接点（宮脇　毅・南部　武著）	￥3,605-
4	外壁構法チェックリスト（飯塚五郎蔵著）	￥3,399-
5	建築デザインのための構造計画（須賀好富著）	￥2,884-
6	場所打ち杭の設計と施工（阪口　理著）	￥3,296-

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹編

〈プロのノウハウ〉シリーズ　発行：学芸出版社

NO	書　籍　名	税込価格
1	TQCから見た建設業（荒木睦彦著）	￥1,648-
2	軀体工事監理のチェックポイント100（須賀好富著）	￥2,060-
3	パソコン会計術（西部明郎著）	￥1,854-
4	建築の値打ちの高め方（小林清周著）	￥1,751-
5	空調設備のトラブル50（建築設備トラブル研究会著）	￥2,060-
6	衛生設備のトラブル50（建築設備トラブル研究会著）	￥2,060-
7	火災安全学入門（岡田光正著）	￥1,700-
8	現場マンのアイデア発想（合原一夫著）	￥1,854-
9	建築基準法の実際（矢吹茂郎著）	￥1,854-
10	工務店の税金対策100ポイント（建設税務所研究会著）	￥1,854-
11	工業化住宅・考（松村秀一著）	￥2,060-
12	鉄骨工事の現場学（石田満裔著）	￥2,060-
13	建築紛争の実際（岡本辰義著）	￥1,854-
14	仕上工事監理のチェックポイント（監理業務研究会著）	￥2,060-
15	ゼロ災への道（表　一郎著）	￥1,648-
16	木造住宅のしくみ（浅野平八・東　敏博著）	￥2,060-
17	コンクリート工事のチェックポイント100（加賀秀治著）	￥2,060-
18	インテリアコーディネートの100ポイント（町田ひろ子監修）	￥1,648-
19	建築基準法を読みこなすコツ（高木任之著）	￥2,060-
20	ニュー組積建築のすすめ（福嶋孝之著）	￥2,060-

日本建築協会事務局でお求めの場合、建築技術選書と〉プロのノウハウシリーズが100円割引き、選書特装版が200円割引きでおのおの頒布しておりますのでせいぜいご利用下さい。

1917創刊
1992
73集

建築と社会 CONTENTS

© ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

「建築と社会」3月号表紙
デザイン・白子正人
（グラフィックデザイナー 日本タイポグラフィ協会会員）

下から見上げた、バルコニー部分の造形美は、雑木林の表現とのこと。3月号のモチーフは、プリンセス有馬である。
そしてカラーリングは、フランスの伝統色チャートより、Lilas リラの色である。リラは、近東諸国（トルコ・シリア・サウジアラビア）原産の落葉灌木。フランス郊外の家の垣根などに、よく使われているとのこと、いかにも春らしい色である。

■特集予告

4月号／建築家のための設備知識—III—
5月号／地球環境時代の建築
6月号／住宅・都市整備公団特集

会長 佐野正一
副会長 金多 潔・薬袋公明
市川 宏・鴻池藤一
編集委員会（平成3年度）
■編集理事
井上 豊
金井 弘次
川島 繁三
小島 雄
須賀 好富
竹中 錬一
深江 實
松村 慶三
溝神宏至朗
若山 繁
■編集委員長
溝神宏至朗
■編集顧問
東 孝光
■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
梅村 宏尚
河端 秀直
小浦 久子
鈴木 克彦
○田中 直人
中井 省吾
松川 敏正
山尾 弘子
横関 真紀
吉村 英祐
☆建築計画系
石山 道男
磯村千恵子
上杉 秀隆
江副 敏史
菅野 忠司
○北村 潤
黒川 明彦
※佐藤不二男
塚本 史郎
刃金 国男
山本 匡
吉羽 逸郎
☆インテリア・住宅系
大森 智子
大橋眞由美
加藤 力
角方 利幸
※神谷 剛
○北浦かほる
駒田 哲男
中村 孝之
西川 純一
福田 由利
★構造分科会
稲葉 繁夫
○角 彰
多賀 謙蔵
野村外喜夫
馬場 研介
★設備分科会
池田 秀行
遠藤 進
大田 克彦
梶井 宏修
河津 隆之
○伊達 正雄
★施工材料分科会
有光 利治
植田 実
小椎八重猛
志水 史典
加藤 眞
○村上 信直
★法令分科会
稲継 典彦
岩田 純一
樫田 攻
○佐藤 勝
高見 成志
中島 弘志
■作品性風小委員会
荒川 朱美
遠藤 公介
尾崎 久純
岡本 隆
※北澤 修一
田中 均一
富田 昌義
福地 一彦
前川 治彦
松田 善弘
松村 衡
○宮下 幹雄
水川 尚彦
■会員企画小委員会
伊藤 郁郎
稲木 裕子
尾崎 俊文
大沢 智弘
北村 恭一
グレッグ ホール
小板橋鉄雄
小林 孝一
※佐伯由紀子
佐野 洋
○高田 光雄
※高橋 麗子
塚口 明洋
増渕 昌利
山嵜 章子
■広告企画小委員会
※池渕 俊男
上井 善一
衣川 徳好
○佐野 寛志
山東 晃
下村 甫
原田 常介
藤田 孝吉
山下 修司
○印 副委員長と幹事 ※印 同代行

印刷 平成4年3月20日
発行 平成4年3月25日
発行人 社団法人日本建築協会
発行所 社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電 06—348—0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所 青葉印刷株式会社
電 06—351—5428(代)
日本電植株式会社
電 06—357—1803(代)
定価 980円（本体価格951円・送料共 消費税29円）

3 840

会告
作品作風
ART PROCESS
書評
ブックステーション
GBRCニュース
法令コーナー
新建材紹介コーナー
建築の眼

特集
作品

東海スケッチ
座談会
論文・随想

リポート
追悼文
構造の頁202
設備の頁203
施工材料の頁180
デザインコンクール
INFORMATION

月報

特集●建築とデザイン—東海支部—

SPECIAL FEATURES ON ARCHITECTURE AND DESIGN-THE TOKAI BRANCH OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN.

監事並びに本部所属評議員の当選．名誉正会員56名が推挙される．世界建築博覧会プレイベントトリエンナーレ奈良1992．海外研修旅行「世紀末ふたたび—中欧の建築を訪ねる—」．ニュービルディング関西'92開催．「建築工事共通仕様書」—日本建築協会でも頒布 — 1
プリンセス有馬 — 設計監理：昭和設計 施工：前田建設工業大阪支店 — 6
神田ビル — 設計施工：錢高組 — 10
抽象と具象 中島一平 栗岡孝於／竹村揚子 — 12
『建築の形態言語』—デザイン・計算・認知について—／塚口明洋 — 14
短評6冊／稲木裕子・大沢智弘・佐野 洋・山嵜章子 — 15
1000tf構造物圧縮曲げ試験機の自動制御化 — 16
京都市駐車場条例の一部改正—駐車施設の付置義務区域の拡大および設置基準の強化／糸井恒夫 — 17
カルチャードストーン／元木貞次 — 19
お父さんの居場所／北浦かほる．笑いの失敗／島崎 勉．都市景観とファッション／中川洋一．VE契約制度のすすめ／小林志朗 — 20

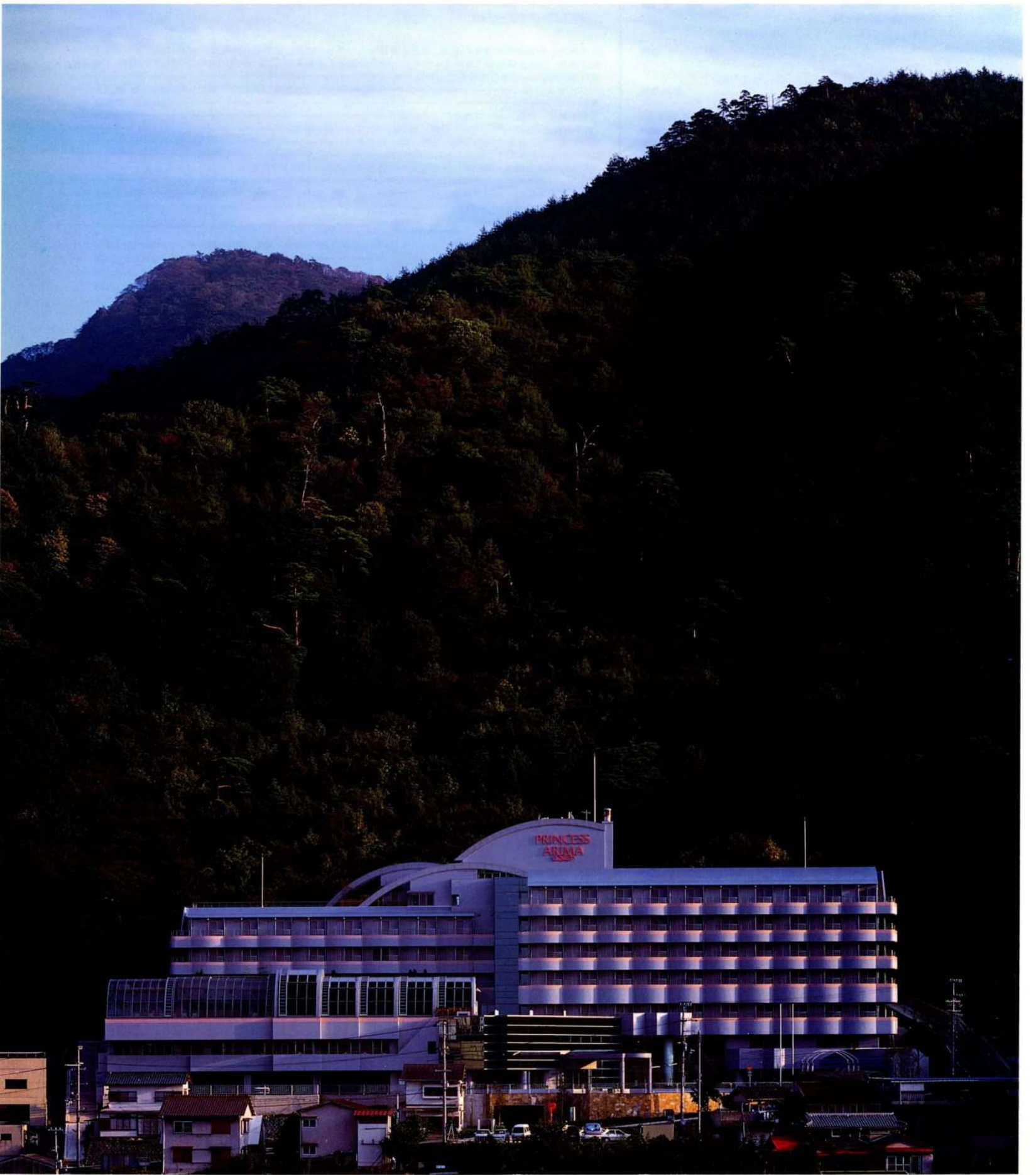
建築とデザイン—東海支部—

大府市勤労文化会館 — 設計監理：安井・加藤設計共同企業体 施工：鴻池・愛知・カミキン建設共同企業体 — 22
INAX本社ビル — 設計施工：竹中工務店名古屋支店 — 26
愛知芸術文化センター 愛知県図書館 — 設計監理：愛知県建築部営繕課 日建設計・名古屋 施工：佐藤・西松・大日本・名工・六合・長瀬建設共同企業体 — 30
豊橋市二川宿本陣資料館 — 基本設計・監修：小野木重勝 実施設計・監理：伊藤建築設計事務所 施工：藤木工務店名古屋営業所 — 32
浜松市消防本部・中消防署合同庁舎 — 設計監理：浜松市建設部住宅営繕課・安井建築設計事務所 施工：須山建設・和久田組共同企業体 — 34
明和町総合体育館 — 設計監理：岡設計名古屋支店 施工：フジタ・伊藤特定建設工事共同企業体 — 36
津島地域文化広場 児童科学館・総合プール — 38
設計：児童科学館 愛知県建築部営繕課・津島市建設部都市計画課・伊藤建築設計事務所
総合プール 津島市建設部都市計画課・伊藤建築設計事務所
施工：児童科学館 津島建設共同企業体（ミタニ建設・太陽建設工業所）
総合プール 飛島建設名古屋支店
小牧市温水プール — 設計監理：小牧市・大建設計名古屋事務所 施工：佐藤・小田急建設共同企業体 — 40
鈴鹿市立郡山小学校 — 設計：鈴鹿市都市計画部建築課・東畑建築事務所 監理：鈴鹿市都市計画部建築課 施工：浜口・田中建設共同企業体 白木・大野建設共同企業体 近藤・西城建設共同企業体 — 42
大同工業大学図書館 — 基本構想：DIT図書館基本設計プロジェクトチーム 設計監理：日本設計 施工：大林組名古屋支店 — 44
愛知淑徳学園・中央棟 — 設計施工：竹中工務店名古屋支店 — 46
名古屋記念病院 — 設計監理：青島設計 施工：前田建設工業（1期） 鴻池組（2期） — 48
名駅IMAIビル — 設計監理：青島設計 施工：鹿島名古屋支店 — 50
NHK名古屋放送センタービル — 設計監理：日建設計・名古屋 設計協力：大成建設 施工：大成建設・鹿島・矢作建設工業共同企業体 — 52
サナルビルヂング（佐鳴学院本部ビル） — 設計施工：大林組名古屋支店 — 54
モーニングパーク主税町 — 設計監理：鹿島名古屋支店＋KAPLAN・McLAUGHLIN・DIAZ 施工：鹿島名古屋支店 — 56
プライベートリゾートエクシブ鳥羽アネックス — 設計監理：安井建築設計事務所 施工：大林組 — 58
水明館 青嵐荘 — 設計施工：竹中工務店名古屋支店 — 60
豊田自動織機製作所 誠和ハイツ — 設計施工：竹中工務店名古屋支店 — 62
メゾン三好ヶ丘 第1期 — 設計施工：竹中工務店名古屋支店 — 64
奈良若草カントリー倶楽部クラブハウス — 設計：東畑建築事務所名古屋事務所 監理：東畑建築事務所大阪事務所 施工：大林組・鴻池組JV — 66
みずなみC.C.クラブハウス — 設計施工：大成建設名古屋支店 — 68
岐阜交通株式会社本社ビル — 設計監理：伊藤建築設計事務所 施工：岐建木村 — 70
トヨタ自動車田原事務館 — 設計：トヨタ自動車一級建築士事務所・大成建設名古屋支店 監理：トヨタ自動車一級建築士事務所 施工：大成建設名古屋支店 — 72
日本ガイシ本社社屋 — 設計監理：日建設計・名古屋 施工：鹿島・大林組共同企業体 — 74
エバラ倶楽部 — 設計施工：清水建設名古屋支店 — 76
濃飛ニッセイビル — 設計監理：清水建設名古屋支店 施工：清水・鹿島・大日本土木建設共同企業体 — 78
コスモ栄ビル — 設計施工：鴻池組名古屋支店 — 80
新建築作品5点 — 82
「建築とデザイン」 — 伊藤和子／河邉信行／寺本英一／森口雅文／（司会）中島 一 — 83
「美」と「実用性」の調和をめぐって — ヤン・スィンゲトー — 93
都市再開発と景観とデザインと — 横井 太郎 — 94
『清少納言の住まい観』 — 若山 滋 — 96
映像に想う「建築空間」 — 小川 辰男 — 98
表現コードの歴史と展開 — 加藤 和雄 — 100
近代建築の流れの中で ストラクチャーの様相と変移 — 渡辺 誠一 — 102
省力化の対策例と今後の課題に向けて — 岩田 正弘 — 104

北欧の都市と建築(4)—フィンランド・ヘルシンキ(II)／中島 一 — 106
井手正雄氏を偲ぶ／河島勝三 — 108
鋼構造の設計／生産における汎用3次元モデルとCAD/CAMアプリケーション／山本義行 — 109
体感温熱環境制御用センサー／古川良知 — 111
万能大口径削孔工法／秋山一郎 — 112
大阪府公共建築設計コンクール「ちょっとおしゃれなYU・MEの派出所」 — 113
連続公開講座「都市」（フジタ都市講座）、4月はフランチェスコ・ダル・コ氏の講演．インターコミュニケーション'92
『脱着するリアリティ』入江経一＋藤幡正樹．「第4回建築省エネルギー賞」決まる — 116
平成4年1月分 — 117

プリンセス有馬

設計監理　昭和設計
施　　工　前田建設工業大阪支店
　　電気　住友電設神戸支店
　　機械　新菱冷熱工業大阪支社



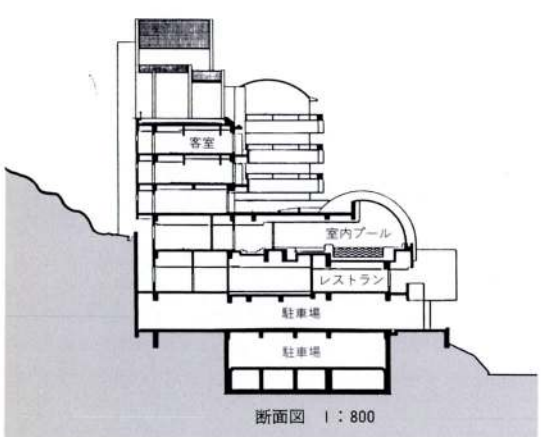
プリンセス有馬は、ジャンボクラブで知られる大倉建設を施主として計画された、会員制（共有制）のリゾート・ホテルである。

「阪神の奥座敷」として、古い歴史をもつ有馬温泉は、大阪・神戸からの利便性や、抜群の知名度にもかかわらず、六甲の深い山々に抱かれた、その地形的な限界性が、安易な開発やスプロール化を妨げ、やみくもな拡張や増殖でなく、高級化への道を歩んでいる。そんな伝統ある旅館街を、眼下におさめる、小高い丘の斜面に敷地を得たこの計画の、コンセプトイメージは、深い山（＝自然）を背景に、日常（＝街）を遠望するという、都市近効型リゾートの姿勢そのものであった。

背にした丘陵の山々の連なりを、幾重にも重ねたヴォールトの屋根へと引用し、並んだ波型のバルコニーは、雑木の林の表現である。外装は45二丁掛のモザイクタイルに、斜めスクラッチ状に波形面状をつけたものを制作したが、波頭の部分に陽光がキラキラと反射し、葉が風をうけて、さわさわとそよぐ様を連想させる。

有馬＝温泉旅館＝和風という固定的な印象の内にあって、会員制という特化したイメージの、差別化をはかるため、インテリアは意識して、洋風のものとした。テーマを、西欧に吸収された日本風と定めて、格子や四ッ目・市松といったモチーフを用いつつ、ディテールはシンプルで、形式にとらわれないものをめざした。色彩は、伝統色だが、印象の強い使い方をしている。建物全体を自由で多様な空間の集合体とすることで、ゲストの気分の高揚をはかり、日常から距離のあるところに魂を漂わせ、心身をリフレッシュするという、『リゾート空間』のあり方を、形として表現したいと考えた。

（池本　裕／昭和設計）



断面図　1：800



外観東北面


外観北面ディテール


エントランス廻り夜景



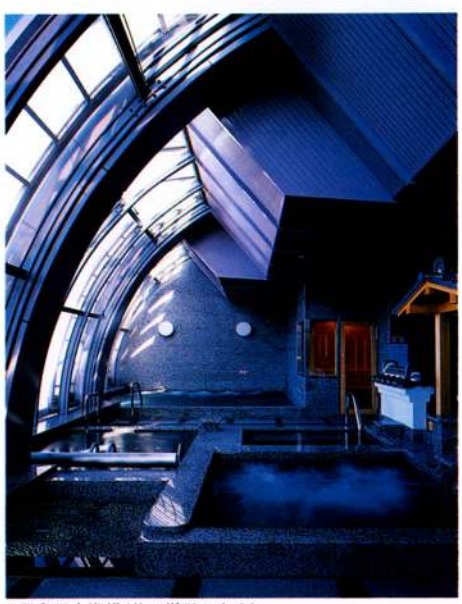
2階レストラン



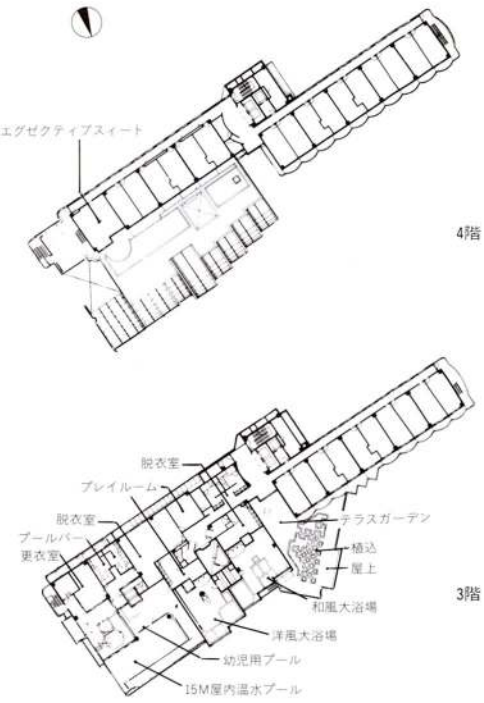
2階バーラウンジ

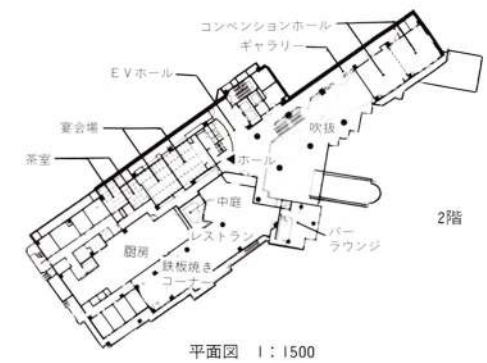


2階和風宴会場前路地



3階和風大浴場(他に洋風がある)





平面図　1：1500

所 在 地　神戸市北区有馬町射場1338
敷地面積　6,112.38㎡(うち調整区域2,120㎡)
建築面積　2,083.05㎡
延床面積　9,048.63㎡
構造規模　SRC、B2F、6F
工　　期　1989年11月～1991年9月
最 寄 駅　神戸電鉄有馬温泉駅

撮　　影　松村芳治



7階ロイヤルスイート寝室

▶右頁：2階より1階
玄関ロビーをみる



神田ビル

設計施工　錢高組



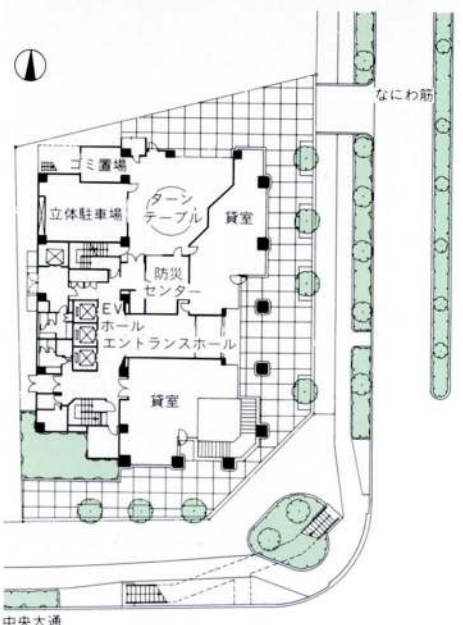
外観東面



外観東西面



基壇部分ファサード



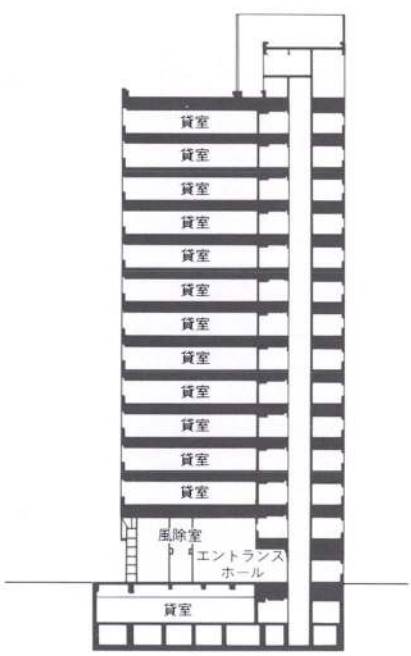
配置・1階平面図　1：800

建設地は「なにわ筋」と大阪のほぼ中心を東西に横断する「中央大通り」(頭上は阪神高速道路東大阪線）との交差点に位置している。
近年、にわかに大型オフィスビルが建ち並ぶ新ビジネスゾーンの中にあって、東西に伸びる高速道路からの見え方と共に、角地という好立地ながら高速道路により上部の視線がカットされるため、足元廻りのデザインでいかにアイデンティティーを出せるかが課題であった。
高層部のデザインについては白色タイル打込ＰＣ版にグレーの横連窓と排煙パネルの組合せで水平方向に伸びる軽快なリズム感と、四隅は東面がガラスカーテンウォール、西面は空調室外機スペース、避難タラップの目隠しルーバーによる垂直性でコーナーをデザインし、「端正」な表情になるよう留意した。
基壇部分のファサードは柱頭に特徴を持たせた御影石による列柱と凹凸のあるサッシュにより陰影を落とすことで彫の深い表情と重厚さを表現した。
また、角地に設けたサンクンガーデン、エントランス廻りのピロティー等が公開空地と一体となって開放感のある景観を創り出すよう意図した。

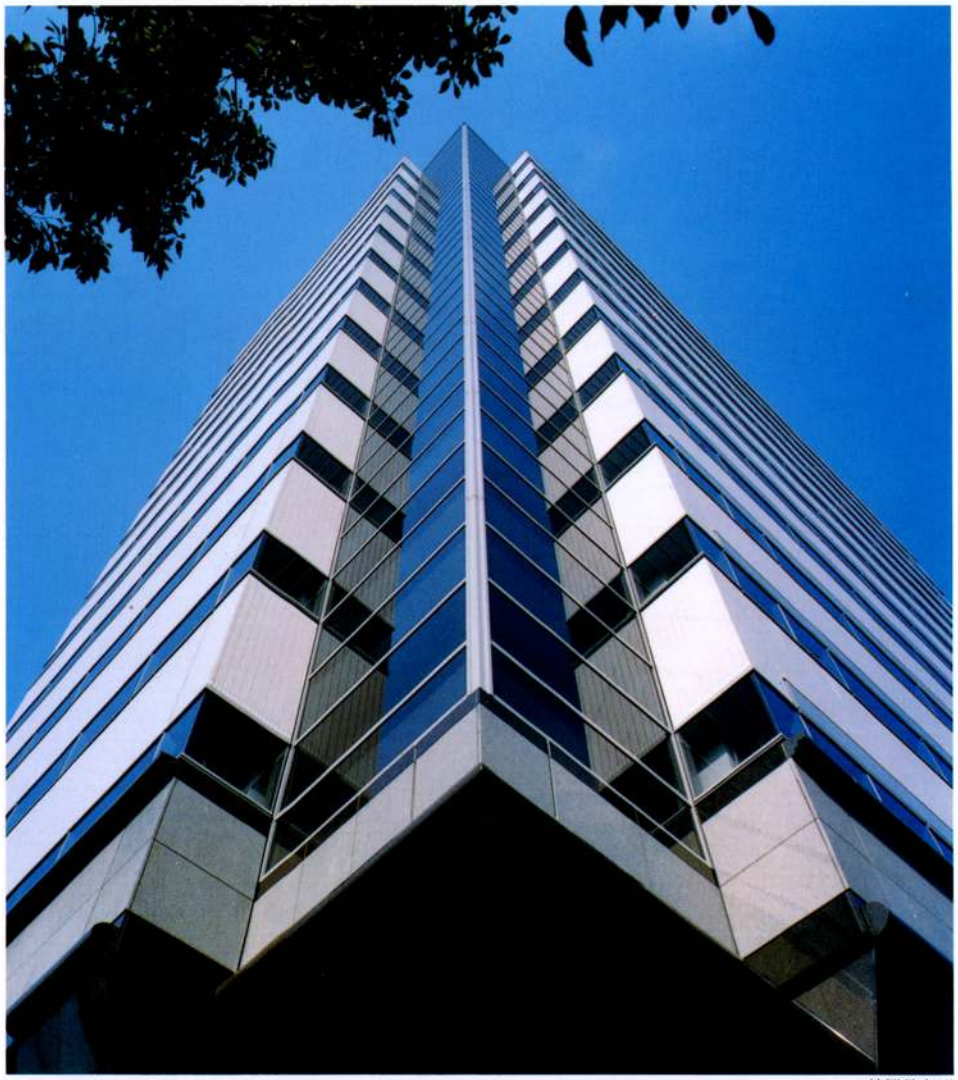
（柿本正和／錢高組）

所 在 地　大阪市西区西本町２番21号
敷地面積　1,206.09㎡
建築面積　758.43㎡
延床面積　11,183.46㎡
構造規模　S、ＢＩＦ、14F
工　　期　1990年３月～1991年10月
最 寄 駅　地下鉄四ツ橋線本町駅・中央線阿波座駅

撮　　影　PHOTOS U



断面図　1：800


外観見上げ


エントランス廻り夜景

ART●アートプロセス
PROCESS

抽象と具象





◀▲PHOTO:M.KARAMATSU

総合的な絵を僕はかきたいと思う。

快い絵とは、そのうしろにすべての要素を含んでいる。一枚の絵の中に、喜びや楽しさ、活動性や反省的なことがら、感性とさらには悲しさや決意、思想性までも込めたいと思う。一つのタッチ、一本のストローク、線の強弱、色彩の対比、構成と融合、余白の広さ、絵具の厚み、絵具の透明度、筆の選択、直線と曲線、基底材とのなじみ具合、手の速度、色の重なり、とめる位置、おおいかくす面積、表面のつや、あるいはマットな色面、構図のバランス、アンバランス、重力との対話、プロセスの豊かさと緊張、あるいは失敗をメリットに転化できる工夫と勇気……これらすべての描くという現象の中に、一点の絵画が生成するあらゆる要素の中に僕の感性と思想の総合が反映されるような作品でありたい。何らかの象徴や意味性にたよることなく、あくまで絵画的な要素の連続の中にそのことを表現したい。

それはまた、画面をフィールドとした行為と反省の結晶としてあり、あるいは見知らぬ空間へのドキドキするような旅のようでもある。一枚の絵にとりかかるということは、それが大作であれ小さなものであれ、たとえシンプルな線描であれ、始めて出合う世界への期待感と、その途中における苦労と、そしてプロセスを結晶化するんだという決意を含んでいる。

このようにすてきな場と、日々向いあえる職業に僕は感謝したい。

作家・**中島 一平**

プラド美術館や、ルーブル美術館など、ヨーロッパの大美術館には、西洋絵画が一堂に集められている。ギリシャ、ローマに始まり、中世、ルネサンスを経、近代へ。その間我々にとっては奇異な位い蜒蜒とキリスト磔刑図が続く。その間に、風景、静物画が見られる程度である。ルネサンスにしても、キリスト教宗教画より、免がれてはいない。

近代に入り、印象派により、ようやく、曇天より解放され、人々の表情が、見えてくる。そして、20世紀に入り、起爆がおこり、宗教や従来の絵画表現を破る、芸術的発想や表現が生れる。

その表現の一つに、抽象化、抽象絵画があげられる。ようやく、マリア像や王様を描かなくてよくなった。よく見ると、古来より有名な画家は、まず、絵がうまく、王やキリストを端正に描いている。そして、その上に不思議な作品も残している。その不思議な作品こそ、近代に続がる影響を与えたものである。例えば、ゴヤの〝黒の絵〟エル・グレコの〝羊飼いの礼拝〟など、その時代の、うまい絵を、越えた、狂気迫るものがあるし、大胆な抽象化が存在する。人の顔の様なものはあっても、その周辺は〝闇〟である。それは心の〝闇〟であり、黒の世界である。現実の写実では表現しきれない世界である。

抽象を述べる時、カンディンスキーより始めるか、装飾古墳に求め

企画協賛：大井建興㈱ 大阪市北区堂山町1-2(豊田ビル) 06-312-6831　キムラ硝子建材㈱ 大阪市中央区内平野町3-2-11 06-941-4181



MOLLUSK



ASCENSION

▲PHOTO:M.MIZUTANI

僕は絵を描く時、余り抽象、具象といったことは意識しません。例えば空想の形を画面に描く時も、眼の前に置かれたコップを描く時にも、その対称とする物から感じた、特性、共通性、本質といったものを色、形、空間、質感、等の絵を形造る要素に置き変えて表現します。

ここに取り上げた10年くらい前の壁画作品は、NATURE OF NATURE(自然の法則)シリーズのASCENSION(昇天)と題した作品です。天に昇るようなイメージを、アルミという金属素材を使って、円、三角の組み合わせで表現しました。画面に立ち昇るようなリズム感と華やいだ色の輝きを与えるため、金属の肌を、あえて薄く塗った色彩のタッチの間から見せるようにしました。これらは自分の心の中にある昇天というイメージ空間を、いかにすれば表現できるかという作業でした。

僕の場合、作品をシリーズの形で創って行きます。NATURE OF NATUREの後、FLOWER(花シリーズ)を経て、今MOLLUSK(軟体動物)というシリーズに移行しています。これを見た人は、魚、人、果物と、いろんな形を想像するかもしれません。僕にとっては体内にある生命体をスケッチしていたら、こんな形になっていました。

どのシリーズ作品も一貫して自然から感じたフォルムを、主観に則して形にし、それらを組み合わせ、色を塗って自分の空間を画面上に創り出すという行為でした。

その時の色、形は自己を伝達する言葉です。生まれ育って現在に至る経緯が、体質として色や形を選択させます。

そんな色、形を含めた自分の言葉を使って、今まで僕が見たり、体験したことのない空間世界を画面上に見せること。あえて言えばそれが僕の抽象画です。

作家・**栗岡 孝於**

るか、考えれば、少しずつ、ニュアンスの異なる抽象化は存在してきた。唯その形象の持つ意味より、完全に解き放たれる為の努力が始まったのは、20世紀を待たねばならない。

それ以前の作品には、意味が、説明が存在しえた。「レンブラントの『夜警』のどの人物は誰れである」という式にである。

頭で理解する部分が全くなくなった抽象絵画、つまり心の感性と、精神的哲学のみで成立する抽象絵画の誕生である。研ぎすまされた感性と、表現への強い意志、豊かな心が、アーチストと抽象画を成立させる基本である。

中島氏も、栗岡氏も、色と形の魔術師である。暖かく、熱い抽象、理性的に極限まで切り捨ててゆくミニマリズムに対して、あふれる様な感性により、美しく、変化に富み、有機的な形態と色彩を展開させる。

とはいえ、作画法には特色がある。中島氏は、ある種のオートマティズムを取入れて、偶然性の豊かさを求め、栗岡氏は、題名よりわかる通り、自然形態の有機的シェイプが筆を動かすバックにある。

私は、新しい作品をみる事を、ギャラリー主冥利につきると、いつも思う。作品の生れるたびに、新しい楽しい世界に引き込まれ、これ等の作品に出合えた事の幸せに酔ってしまう。

㈱AD&A・**竹村 楊子**

三和シヤッター工業㈱ 大阪市淀川区宮原4-4-50(真和ビル) 06-396-6871　不二サッシ㈱ 大阪市中央区本町3-4-10(本町野村ビル) 06-262-2541

『建築の形態言語』——デザイン・計算・認知について

塚口明洋

ぼくは常々、建築を造る行為は、必ず論理的でなければならないと思っている。さらに、機能と建物の形態の間に一対一の対応のないことが明らかになった今、形態の構成に関する論理的なアプローチが必要であると考える。本書は、以上の二つの問題点に取り組んでおり、建築の設計を目指す人に、是非読んでほしい本である。

本書の全体の構成を知るには、巻頭にある『訳者の言葉』を引用させてもらうのが、最も分かりやすいと思われる。「ここには、建築も文章もメディアこそ異なれ同じ記号の一種であるという視点から、建築の構成原理も、文章の構成原理になぞらえて理解してみようという発想がある。形態と機能という建築の持つ二側面に対して、デザイン体系と批評言語という二形式を適宜使い分けながらモデル化していくのが基本姿勢である。したがって、建築デザインの側面には、手で描くよりも言葉によって表現され組み込まれなければならない重要な部分があることを再確認しておくべきだ。本書は、認知科学的なバックグランドに立って建築デザインを掘り起こした、恐らく最初の本である。そして、本書のサブタイトルであるデザイン・計算・認知の三者の意味は、建築・認知科学の両分野と、間でそれを橋渡しするコンピューター・サイエンスの三つに由来するものである。本書には、デザインを理論化可能な知的プロセスとして追及する態度が表明されている。」

この本は、１０章で構成されており、第１章～第７章は、形態文法について書かれており、論理学による表記を説明しながら、建築形態を取り扱っている。

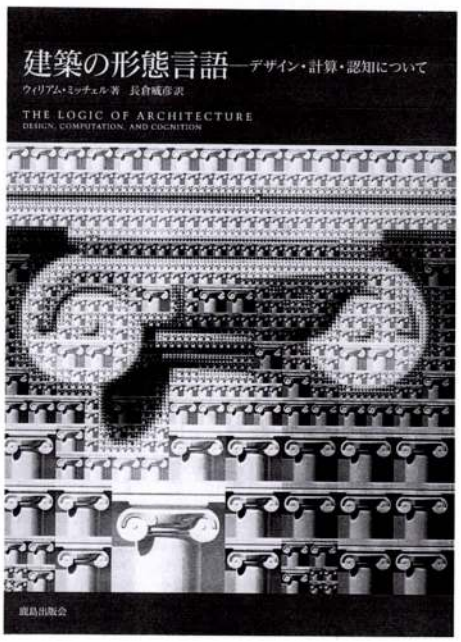
第１章建物の記述．　第２章建築形態．　第３章デザイン体系．　第４章批評言語．　第５章デザインにおける推論．　第６章タイプとヴォキャブラリー．　第７章デザイン演習．　第８章は、パラディオ風ヴィラの平面の文法について詳細に述べられている。第９章、第１０章は、形態論から（記号論的側面を含んだ広義の）機能論へと発展する部分となる。

以下、もう少し詳細に各章をみてみると、**第２章　建築形態**では、建物の形態的特性に注目し、以下第８章まで、形態論的観点からのみデザインをとらえることを表明している。「古代ギリシャ人達は、カオス（混沌）とコスモス（秩序）という対概念を基本に使った。彼らは、科学においても世界観、つまり宇宙の形態に潜む秩序を発見しようと努めた。芸術においても形態の構成に関する規則性や原理に対して際立った関心を持っている。この流れは、究極的には形態論者的な批評という一つの伝統を築く土台となった。

１９世紀から２０世紀にかけての美学理論家達は、形態的な価値に対して、一方で材質的な価値を区別し、他方では連想による価値を区別した。

この種の形態論者の批評の根底にある態度には、材質的な価値や連想による価値に対し、逆に形態的な価値こそ芸術作品において最も重要なものであるという信念がうかがえる。

形態論者の批評は、リズム、比例、対称性など、建物の形態的特性にまず注目する。



この後に続く章の幾つかでは、デザインは、主にこのような形態構成という観点からのみとらえる。デザインは、美を造りだすために形態的特性を実現するもの、としてのみ扱われる。

その後で議論を拡張し、デザインが実用性や表現という目的に照らしてみても適切でふさわしいかという観点を含めて論ずる。」

また、**第五章　デザインにおける推論**では、建築家として必要な素養について、次のように書かれている。「建築の批評に用いるうえで適切な知識ベースとなるような公理、事実および規則は、広範にわたる。これらには、幾何学や古典物理学、経済学、社会科学、諸々の文化的背景などが含まれていなければならない。したがって、建築家を一人育てるためには、単にデザイン体系を操作する能力を育むだけではなく、十分広い知識ベースを養って自分の提案したデザインが何を帰結するかを適切にとらえられるような素養を持たせなければならない。

デザインとは、あるデザイン体系における形態的可能性の探究と、ある知識ベースにおける批評的推論とを同時に展開して行き、最後にその両者が調停に達するようにしようというものだ。」

また、**第９章　機能**では、機能に関するアリストテレスの「家の本質は『風と雨と熱による破壊を防ぐシェルター』という公式でもって規定する事ができる。」とする理論から、物質体系、社会体系での機能について、ヴィトルヴィウスの『建築十書』、アルベルティの『建築十書』他を引用しながら詳細に書かれている。ヴィトルヴィウスの書いた住宅の所有者の地位に応じた様々なプログラムは、非常に具体的な内容で、一読の価値がある。次に「建築のプログラム」から、建物やその他の部分が「記号論的に果たす役割」へと話が進む。「近代主義の理論家や批評家達は、建物のプログラムや建物の物質体系としての働きに的を絞って議論する事が多かったのであるが、近年になって、これらとは違う第三の機能的側面に新たな関心が寄せられるようになってきた。『建物が芸術でありえるのは、それが何らかの方法で、象徴、意味、参照、記号化の働きを持つときのみに限る。』N・グッドマン。」

第十章　機能的動機をもつデザインでは、機能とデザインの関係について、以下のように述べている。「一つのプログラムが与えられた時、それを解決するための建築言語は、通常、幾通りも異なるものが存在する。したがって、建築家には形態的特性や記号論的特性の異なる様々な解答を追求する自由が与えられている。

建築のデザイン・プロセスの中心には、どの対応を選択するとどのような帰結がでてくるか、という批評的洞察が常に存在する。重要な建築作品に知的でかつ感動的な力を生じさせるのは、まさにデザインにおけるこの洞察的側面なのである。

使いうるヴォキャブラリーのエレメントの形、材料、およびその使い方について建築家が持っている知識は、その建築家なりの特徴を持った建築言語を構築する。これが、その人のスタイルと呼ばれるものだ。」

この本では、現代論理学の考え方を適用したり、人工知能や認知科学を引き合いに出しているので、記述内容に、ややとまどう部分もあるが、本の構成がしっかりしていることから、推理小説を読むように問題点が明確になってくるおもしろさがある。この種の本が少ない中で、貴重な役割をになうことだろう。

（つかぐち　あきひろ／塚口明洋建築研究室）

建築の形態言語
——デザイン・計算・認知について
ウィリアム・ミッチェル 著
長倉威彦 訳
鹿島出版会　1991年9月5日刊　B5W判　264頁　6,386円

京都・南座の記録
——やわらかい劇場論——

「京都・南座の記録」出版委員会 編

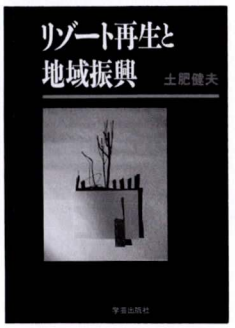


昨年大改修を終えてオープンした京都・南座は、その起源を1600年代の四条河原町の仮設小屋にさかのぼる。歌舞伎という伝統芸能の発達とともに、江戸・明治・大正・昭和の300年余を、その姿を変えつつ歴史を刻んできた。それは、単なる“ハコモノ”ではなく、京都という町やそこに住む人々、役者・裏方・観客たちが一緒になってつくりあげてきた一つの文化である。本書はこのような視点に基づき、伝統芸能や芝居見物の歴史、劇場の変遷、南座についての出演者や裏方の回想など、様々な側面から南座とそれをめぐる文化をまとめた貴重な記録である。（Y）

六耀社　1990.12.10刊
A4変判　168頁　7,800円

リゾート再生と地域振興

土肥健夫 著



バブル経済の崩壊と共についこの間までの百花繚乱の騒ぎが嘘のようにリゾートの周辺は静まり返っている。いやむしろ多くの矛盾を抱えたブームのツケに追い回されていると言ったほうがいいだろうか。個々のプロジェクトのみならず、ブームの火付け役となったリゾート法自体の見直しも始まったと聞く。本書はそんなリゾートの現在を総括し、真に豊かな地域社会の創造のためのリゾート再生の方向を探ろうとする。様々にちりばめられたキーワードはやや総花的な嫌いはあるが、地域マーケティングによる地域ブランドの確立、地域づくりから地域づかいへ、一つの有機体としての地域経営システムの構築、といったコンセプトには今後の地域振興とリゾート定着への一つの方向が示されている。（O）

学芸出版社　1991.9.25刊
四六判　272頁　2,266円

建築家たちのヴィクトリア朝
ゴシック復興の世紀

鈴木博之 著

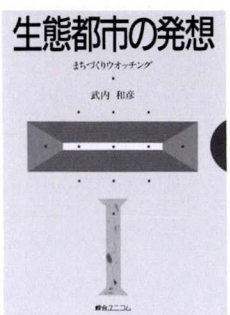


19世紀、ヴィクトリア朝時代のイギリスは、太陽の没することのない帝国としてかってない繁栄を誇っていたが、近代社会の成立による大きな矛盾もはらんでいた。国家の威信を示す国民的様式としてゴシック様式が復興する一方で、職人による手工芸を生活芸術として確立していこうとするアーツ・アンド・クラフツのような運動も起こった。このような時代に建築家たちが何を理想とし、どの様に時代をのり越えようとしたかを、ウィリアム・モリスなど15人の建築家・デザイナーの姿を通してたどっていく。豊かな経済力を背景に都市や人々の生活が変容していく様は、現代の日本にも通じるものがあって、考えさせられる一冊である。（Y）

平凡社　1991.11.20刊
A5判　328頁　2,980円

生態都市の発想
まちづくりウォッチング

武内和彦 著

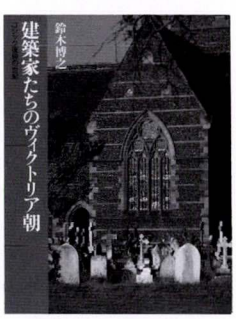


筆者は、「現在の日本のまちづくりは個々の事例を統合化していく視点にかけている。しかし、エコロジーとアメニティの発想を取り込むことによって都市全体として体系的なまちづくりを実現することが可能である」と主張する。本書は、そのような筆者の一連の考えを連載した新聞や学会誌等の記事や論文などを加筆修正し、一冊にまとめたものである。この中で筆者は、自然と伝統文化、都市アメニティ、都市の緑など幅広い視点から、まちづくりの具体的事例を紹介している。また、筆者お勧めのまちづくり事例がガイドマップとして紹介されているので、それを参考に自分なりのまちづくりウォチングを楽しんでみるのもいいかも知れない。（S）

綜合ユニコム　1991.11.20刊
A5変判　240頁　3,200円

現代建築ポスト・モダン

松葉一清 著

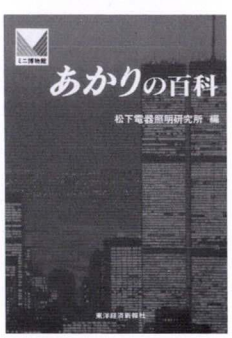


様々な様相を見せている1990年代の日本の現代建築について、その傾向と建築作品そのものの捉え方や新しい発見を記した書物。作品例としては、丹下健三の東京都庁新庁舎から、磯崎新の「北九州国際会議場」まで、建築界で話題になった作品をずらりとそろえての新解釈が披露されている。言わんとしていることは優しいのだが、表現が小難しくなっているのが難。作品例が多いので、これを読んでから見に行くも、見に行ってから自分の感じ方と比べるのも面白いかと思う。（I）

鹿島出版会　1991.12.25刊
四六判　228頁　2,369円

ミニ博物館
あかりの百科

松下電器照明研究所 編



光とはいったい何だろう？色とはいったい何だろう？私たちはどのようにしてものを視るのだろう？ミニ博物館と題されたシリーズの一冊である本書は、理科や科学の授業を思い出させるそんな懐かしい話題から始まって、光の種類・光の尺度・光の機能、そして最新の照明技術やライティングといったあかりに関する様々な話題を、身近な疑問と興味深いエピソードを交えながら平易に解説してくれる。空間を私達の目に見えるものとし、その性格を決定する重要な役割を担いながら、ともすれば深く意識することなく見過ごしてしまうあかりの問題を、見開き1ページのコラムを気軽に読みながら、様々な角度から理解させてくれる優れた入門書。（O）

東洋経済新報社　1992.3.5刊
四六判　208頁　1,300円

担当：会員企画小委員会／稲木裕子・大沢智弘・佐野　洋・山嵜章子

1000tf構造物圧縮曲げ試験機の自動制御化——新規購入機器紹介

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1 〒565
電　　話…(06)872－0391　FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：00
　　土曜：9：00～12：00(第2、第4土曜休日)

構造物試験室では、平成3年度の施設整備事業の一環として、試験精度の向上ならびに試験実施の迅速化を目的とした「1000tf構造物圧縮曲げ試験機の自動制御化」を昨年末に完了しましたので、その概要をご紹介します。

本試験機は、大型構造物あるいは部材の圧縮、曲げ等の試験用として、昭和47年に導入された。その後、既に20年が経過し、電気系統ならびに油圧系統の更新を要する時期となり、この機会に、制御系統を手動制御のみから自動制御＋手動制御系統に改造して制御性能の向上を図るとともに、電気系統ならびに油圧系統の一部を更新することとした。

今回の改造の結果、本試験機のシステムは、**図**に示すように、既設の試験機本体とサーボ弁、増幅器、検出器およびパーソナルコンピューターを組み合わせた構成となっている。このシステムでは、パーソナルコンピューターから制御用増幅器を介して出力された発信命令によってサーボ弁が作動油の流量を制御する。この作動油の吐出量に応じた試験機本体のラム・シリンダーの変位量をマグネスケールおよびポテンショメーターで、また、オイルカプセル内の油圧（荷重値）を高精度圧力センサーでそれぞれ検出し、これらの検出量を計測用増幅器を介してパーソナルコンピューターに入力しており、サーボ機構によるクローズド・ループを形成している。

これらの出力（制御）側および入力（計測）側の主な仕様を**表**に示す。なお、荷重値はM1レンジで、変位量（ラムストローク変位量）はM2またはM3レンジでそれぞれ計測・制御される。また、M4レンジは、試験体の変位量等の外部制御対象を直接制御する場合に用いる。通常、静的載荷試験では、荷重、ラムストローク変位量、外部制御対象のいずれかのレンジにおいてコンピューターからの入力量に応じて一定速度制御や一定量保持制御を行うこととなる。また、作動時の安全システムとして、上限リミット機能、破壊判定機能、緊急除荷機能等が設けられており、不測の実態に応じられるように考えられている。

なお、改造完了後、鉄骨部材および鉄筋コンクリート部材の載荷実験をおこなったが、その際、試験体の剛性および最大耐力に応じて制御速度等を適切に設定すれば、より精確で安定した、載荷が行えることを確かめている。したがって本試験機の自動制御化により、大型構造試験についてもこれまで以上に精確に実施できることとなった。

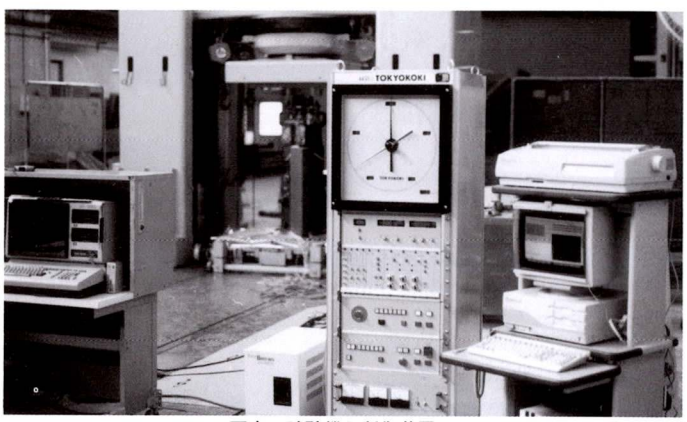


写真　試験機と制御装置

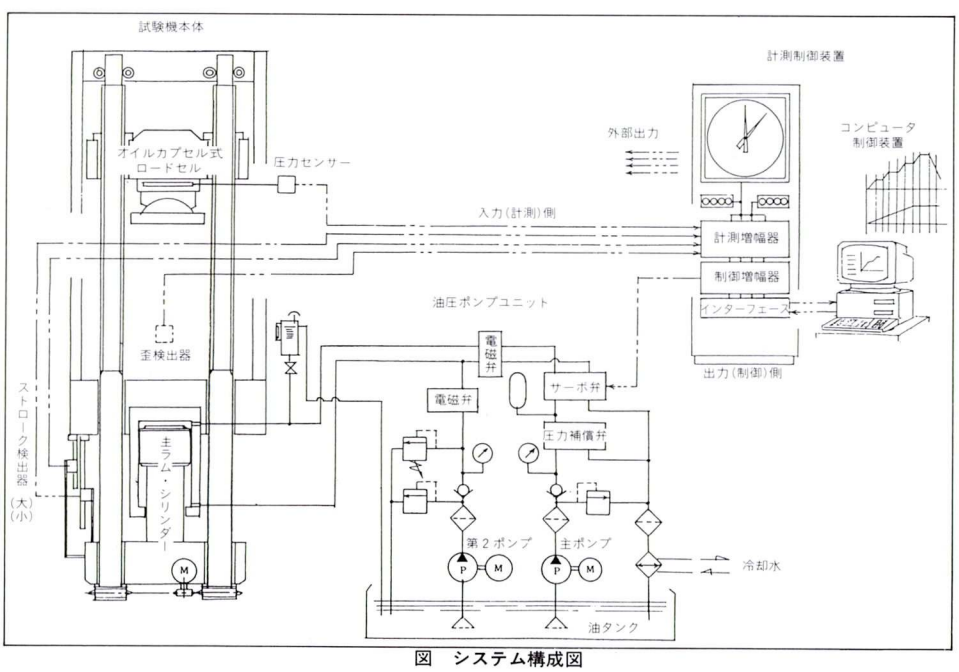


図　システム構成図

表　試験機システムの主な仕様

	項　目	仕　様
計測	計測対象	M1：荷重、M2：ラムストローク変位大、M3：ラムストローク変位小、M4：外部入力の4種類
	計測レンジ	M1：1000tf、500tf、200tf、100tfの4レンジ M2：600mm、300mm、120mm、60mmの4レンジ M3：400mm、200mm、80mm、40mmの4レンジ M4：入力値　10V/F.S
	精度	M1：各計測レンジの1/5以上において各指示値の±1%以内 M2－4：各計測レンジの1/5以上において±1%F.S以内
	分解能	各レンジ　フルスケール(0－10V)を12bit(約2000)分割
	サンプリングタイム	各値　50msec.毎
制御	制御対象	M1、M2、M3、(またはM4)の内1種
	制御切替え	負荷中(保持状態)に制御切替え可能 (通常、負荷中に制御切替えを行なう場合は1sec.の保持状態が必要)
	制御波形	ランプ波、ホールド波の2種
	制御波形出力分解能	各レンジ　フルスケール(0－10V)を16bit(約32000)分割
	試験速度設定範	
	試験速度設定範囲	M1：0.1－99.99tf/sec M2：0.01－1.67mm/sec M3(M4)：0.01－1.67mm/sec
	レンジ切替え	制御中のレンジは、切替え不可。 (制御中のレンジを切替える場合は、一旦他のモードへ制御を移してからおこなう)
	CRT表示	試験中にリアルタイムで、実働値をCRTに表示します。
その他	安全システム	・上限リミット機能：設定対象　M1、M2、M3、(M4)において実働値がレンジを越えた場合、自動的にM2制御に切替えてその時点の変位で保持する機能 ・破壊判定機能：M1制御中に荷重値が設定条件を越える速度で低下した場合、自動的にM2制御に切替えてその時点の変位で保持する機能 ・破壊スイッチ機能：キー入力によって、破壊判定を発生させる機能 ・緊急除荷機能：キー入力によって、直ちに除荷を開始する機能 ・試験機監視機能：試験機の状態を監視する機能

法令コーナー

編集委員会法令分科会

266

京都市駐車場条例の一部改正
—駐車施設の付置義務区域の拡大および設置基準の強化—

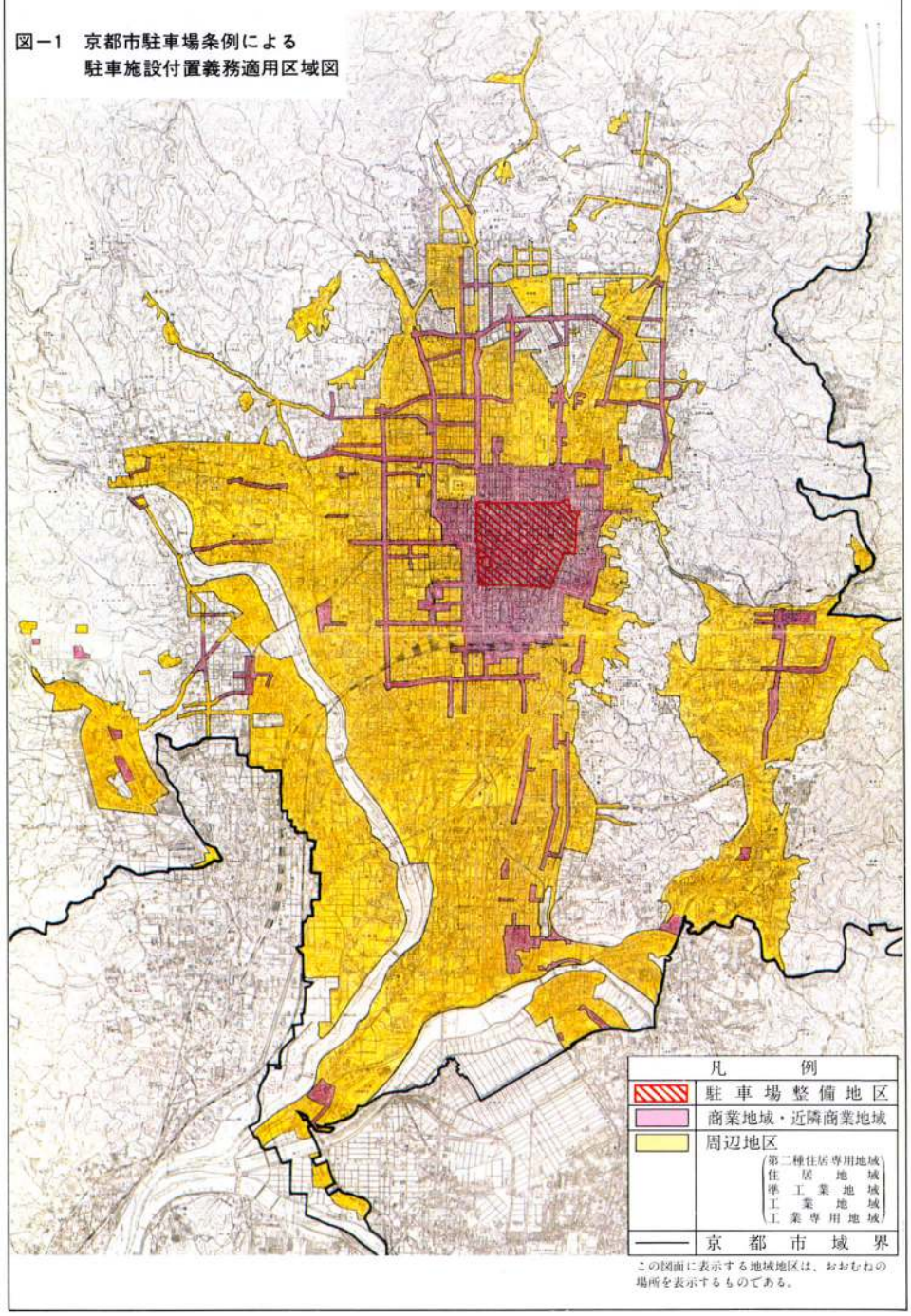
近年の都市化とモータリゼーションの急速な進展により、交通渋滞や交通事故の増加をまねく違法路上駐車は、大きな社会問題になっている。

京都市では目的施設での駐車施設の拡充を図るため、都心部の大規模な建築物の新築や増築を行うときに、駐車施設の付置を義務づけている「京都市駐車場条例」の一部を、昨年3月に改正し、付置義務の対象となる区域と設置基準を拡大・強化した。

なお、付置義務の適用区域内においては、一定規模以上の建築物を新築、増築または用途変更等をする場合、その建築物内または建築敷地内に所定の台数の駐車施設を設置基準に従って付置することを義務づけており、建築確認申請をする前に市長に届け出ることが必要となる。また、届け出られた駐車施設を変更するときも、同様に届け出が必要である。

改正点を以下にまとめた。

図－1　京都市駐車場条例による駐車施設付置義務適用区域図



この図面に表示する地域地区は、おおむねの場所を表示するものである。

適用区域の拡大

改正前の条例では、都心部において、駐車場整備地区（都心部の商業地域内の約300haの区域）およびその周辺の商業地域および近隣商業地域を主とする区域（周辺地区）の合計約800haの区域に付置義務を適用していたが、今回の改正で、駐車場整備地区以外の商業地域および近隣商業地域にも駐車場整備地区と同基準の付置義務を適用するとともに、周辺地区は第1種住居専用地域以外の市街化区域に拡大し、付置義務の適用区域を拡大した。（**図－1**参照）

付置義務の適用下限の引き下げ

駐車機会の多い駐車場整備地区や商業地域・近隣商業地域での店舗・事業所等の商業業務施設（特定用途*1）では、付置義務の適用下限を延べ面積3,000m²から1,500m²に改正した。

付置義務台数の設置基準の強化等

改正前の条例では、上記の都心部の約800haの区域において、商業業務施設等の特定用途に対して、400m²または500m²に1台であったのを、駐車場整備地区や商業地域・近隣商業地域での特定用途は200m²に1台、学校・神社仏閣等の非特定用途*2は300m²に1台、周辺地区での特定用途は、250m²に1台に改正した。（**表－1**参照）

＊1「特定用途」とは

劇場、映画館、演芸場、観覧場、放送用スタジオ、公会堂、集会場、展示場、結婚式場、斎場、旅館、ホテル、料理店、飲食店、待合、キャバレー、カフェ、ナイトクラブ、バー、舞踏場、遊技場、ボーリング場、体育館、百貨店その他の店舗、事務所、病院、卸売市場、倉庫および工場であり、政令で定められている。

＊2「非特定用途」とは

住宅、学校等、上記の特定用途以外のものをいう。また共同住宅を計画する場合は、「京都市共同住宅建築に関する指導指針」に従うものとする。

表－1　条例による付置義務台数の算定（新築の場合）

（小数点以下は切り上げ）

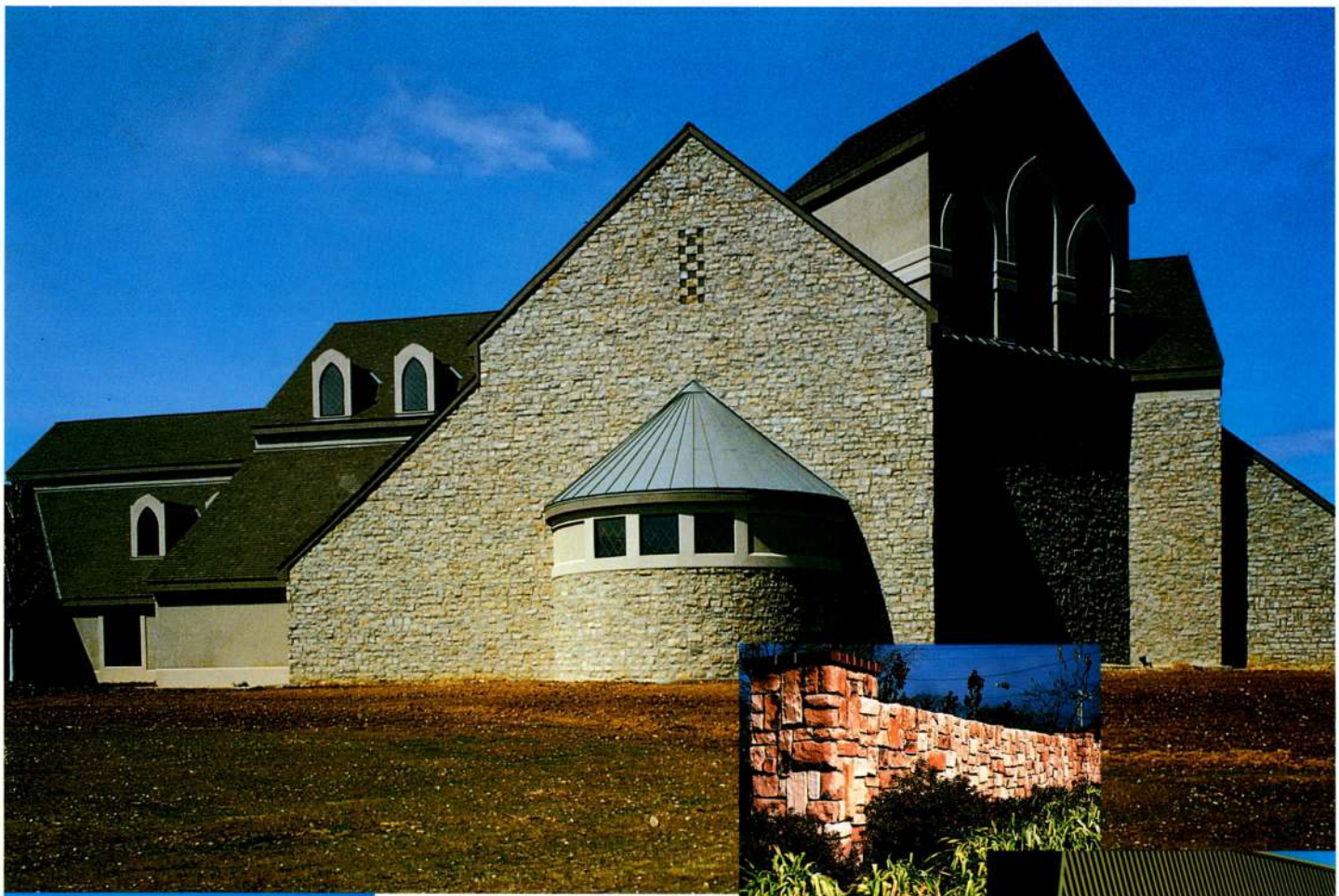
	駐車場整備地区 商業地域 近隣商業地域	周辺地区 （第二種住居専用地域、住居地域、準工業地域、工業地域および工業専用地域）
特定用途	延べ面積が1500m²をこえるとき （延べ面積）－1300m² / 200m² 台	延べ面積が3000m²をこえるとき （延べ面積）－2750m² / 250m² 台
非特定用途	延べ面積が3000m²をこえるとき （延べ面積）－2700m² / 300m² 台	―

注1　算定表において「延べ面積」とは、建築物の総床面積から駐車施設部分の面積を除いた面積をいう。

注2　特定用途と非特定用途の両方を有する建築物や、増築、用途変更、または建物用途等により算定台数が異なることがある。

（京都市都市計画局都市計画部都市計画課長 **糸井恒夫**）

Cultured Stone



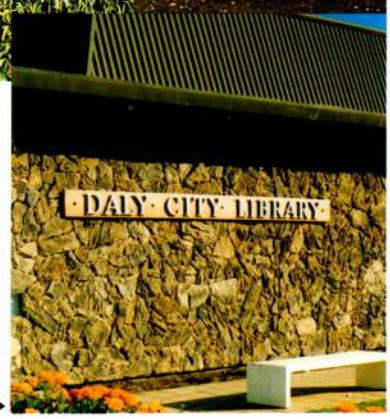
Ohio Limestone

Brown Cobblefield

「天然石の重厚さ、質感を見事に再現した
堅牢かつ軽量な画期的新製品です。
天然石の約半分の重さなので ビル内装・
木造下地にも対応出来、使用範囲が拡がっ
ていきます。」



◀Classic Castle Stone



Bronze Driftstone▶

発売元

株式会社 森新

■本社 〒569 大阪府高槻市梶原中村町7-1
TEL 0726-69-3388/FAX 0726-69-5079

■環境資材部 〒569 大阪府高槻市紺屋町7-27(桃陽ビル)
TEL 0726-85-2688/FAX 0726-85-2677

- 泉佐野営業所 TEL. 0724-64-7667/FAX. 0724-64-7668
- 堺営業所 TEL. 0722-73-0555/FAX. 0722-73-3331
- 加古川営業所 TEL. 0794-35-0022/FAX. 0794-35-0032
- 姫路北営業所 TEL. 0790-22-2121/FAX. 0790-22-1761
- 建築石材部 TEL. 0726-69-1868/FAX. 0726-69-1830

人工石材

カルチャードストーン

株式会社 森 新　本　社　大阪府高槻市梶原中村町7－1
TEL 0726－69－3388
環境資材部　大阪府高槻市紺屋町7－27
TEL 0726－85－2688

1．はじめに

本商品は、天然石の量感・質感を忠実に再現した人造石材です。

過去、軽量骨材をベースにした石調タイルは、数社が発売していたが、色調が人工的であったり、形状も一定の方形であったりして、大きな反響を呼ぶには至りませんでした。

●

今回ご紹介します"カルチャードストーン"は天然石の肌合いを再現した、軽さも半分の外装化粧材です。施工も石工に限定されずに、モルタルになれた職人なら、左官・タイル工でも施工出来ます。十数年前に愛知県の某メーカーが日本に始めて紹介して以来、市場への定着は長い間低迷していましたが、近年の高級化志向、本物志向、自然志向の追風を受けて、輸入品・国産品合せて六社余りが市場に参画して来ており、現在国内総市場は十数億円強に成長して来ています。

2．カルチャードストーンの特徴

カルチャードストーンはアメリカの最有力メーカーであるスタッコストーン社の商品であり、競合する他の輸入商品と比較しても、商品群の多彩さ、風合いで、最も優れております。

軽量骨材、無機顔料、セメントをベースに製造されていますので、38kg/m²程度の軽さです。したがって、特別の下地補強をしなくても、ツーバイフォー住宅の外装や、テナントビルの店舗内装など、天然石材では無理な部分への施工も可能です。

また、火災時に有毒ガスの発生もなく、コンクリート製品にありがちな爆裂現象もおこしません。

次に、安定供給が出来るのかと言った問題ですが、カルチャードストーンはスタッコストーン社の年間生産能力と比較して、日本の需要量はまだまだ少なく、現在のところ充分な商品供給が出来ます。輸入商品をいかにスムーズに供給していくかという問題は、逆に考えれば「必要な出荷量をこなせる企業＝最有力メーカー」とのコンタクトがないと輸入の継続は困難であり、その点カルチャードストーンはアメリカ最大手の主力商品ですので、まず心配はありません。

3．カルチャードストーンの用途

軽量骨材をベースのセメント製品のため、舗装材料としては使えませんし、水の中にも使えません。しかしその軽さゆえに、木造下地でも圧着工法で施工出来ますし、施工者が石工に限定されない加工性の良さ、施工性の良さは、大幅な工期の短縮、コストダウンになっております。

建物の内外装から門塀、擁壁面の化粧、ログハウスの煙突、暖炉廻り等、いろいろな使用例を見ることが出来るようになってきております。これもモルタルまたはコンクリートボンドが使える下地ならどこにでも施工出来る、カルチャードストーンの適応性の広さの表れです。

4．カルチャードストーンの梱包

アメリカで流通している防水ダンボール梱包がそのまま適用されています。

通常、フラットピース（平物）は大小のストーンが約1.1m²分混入されて1ケースになっており、コーナーピース（出隅役物）も長短入り混じって約2.4m²分が1ケースにパッキングされています。重量も1ケースが約40kg程度ですので、防水ダンボール梱包と共に現場保管、配送にも大変便利になっております。

また、大型物件用には5m²入りの大箱（パレット配送）も用意されております。

5．カルチャードストーンの施工法

(1)　下地の準備

貼付モルタルが良く付くようにして下さい。

(2)　ストーンの仮並べ

貼る前に、1ケース分を床に並べて全体のバランスを見ながら配置を決めます。

(3)　ストーンへ貼付モルタルを盛る。**（図－1）**

ストーンの裏側へ中央を高く、10～15mmの厚さに貼付モルタルを塗ります。

(4)　ストーンの貼り付**（図－2）**

ストーンを下地へ押しつけ、周囲からモルタルをはみ出させます。はみ出したモルタルを利用して目地を仕上げながら順次貼り上げて下さい。

(5)　ストーンの切断**（図－3）**

ストーンの量感を生かすため大きなピースは出来るだけそのまま使用し、小さなもの、薄いものを加工します。アメリカでは大型のペンチ（図－3参照）でカットしています。ハンマーで割る場合は裏側から叩いて下さい。

(6)　仕上**（図4、5）**

貼りながら目地を仕上げて行きますが、全体を見て目地が切れている所を補修します。清掃は、乾いた刷毛で、モルタルが乾燥してから行います。

(7)　シーラー処理についてお願い

カルチャードストーンは表面がザラ付いており、吸水性も10%強ありますので、暖炉廻りや外装で使用する際には、よごれ防止の撥水剤処理をお推めいたします。

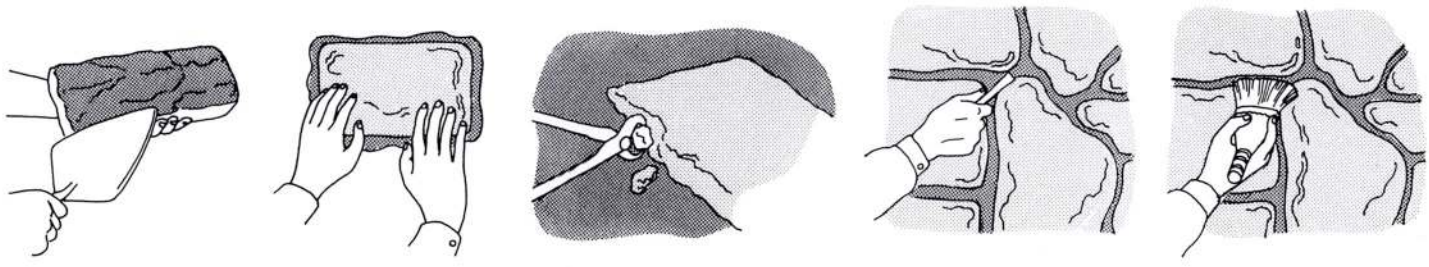
6．まとめ

天然石を模して、見事に再現した商品ですので樹木、草花との調和も良く、簡単に施工出来ます。

天然顔料で着色しておりますので、耐候性も良好で、天然石と同じように自然な感じで変化しますので、タイルの様に洗いをかける必要はありません。

（元木貞次／建材委員）

■施工方法



1　2　3　4　5

建築の眼



コモンシティ星田Ａ２ゾーン住宅
設計　坂本一成

北浦かほる（きたうら）
大阪市立大学生活科学部
生活環境学科助教授

島崎　勉（しまざき　つとむ）
愛知県建築部長

中川洋一（なかがわよういち）
安井建築設計事務所
設計部長

小林志朗（こばやししろう）
フジタ大阪支店近畿圏
設計部長

お父さんの居場所

「お父さんの居場所はなぜ消えた」と言う週刊誌の車内広告を見た。子供部屋はあっても書斎はないと言われている今の日本の住まいの中で、父親たちはどのように毎日を過ごしているのだろうか。小学生から高校生までの子供約1000人とその父親を対象に最近、研究室で調べた結果では、書斎の所有率は約２割である。また平日の夕食を家族と共にとっている父親は全体の約３割で、睡眠時間以外の平日の在宅時間は平均４時間足らず、食事・入浴・身仕度などを除くと１日の自由時間は約１時間40分となっている。４割の父親は机を持っているがその机を使わず、通勤鞄や本や趣味の道具などを居間においている。通勤着や普段着まで居間においている父親もあり、在宅時間の大半をほとんどの父親は居間でＴＶや新聞を見て過ごしている。「居間」が父親の「居場所」になっている。しかし、そこにあるのは居間で家族と仲良くおしゃべりしている父親の姿ではなく、父親の椅子だけがぽっかり空いた食卓風景と、夜遅く帰宅し子供も妻もいない居間にぽつんと取り残されている父親の姿でもある。（K.K）

笑いの失敗

笑いは健康にとって良薬といわれるが、心底から笑える機会は少ない。まして他人を笑いに巻き込むことは一層むずかしい。簡単な挨拶などでまず笑いを誘うことから始められたらと思うが、いつも固苦しくなってうまくいかない。笑いには前例がないし、かといって頭の中で考えたものはわざとらしく無理がある。自分を意識しない状態にした上でのパーソナリティの出現が必要である。他人の目を気にせず失敗を恐れてはいけないのだとも思う。しかし、どれにも挑戦できず安全第一になってしまう臆甲斐無さを感じる。

ところで、笑いは人間関係の世界のみでなく建物にも考えられないだろうか。建物を表わす言葉は、威厳や壮大、繊細や軽快等いくらでもあるが笑いは聞いたことがない。設計作業の中では常に自意識が働くし、恒久的に残るものだから秩序なきものは受け入れ難いのである。それからインテリアに笑いを取り入れてみたらと考えた。

一体どんな風に、例えば、インターホンを押した時、壁に掛けた熊がピンポーンと鳴くといったたぐいか？　からくり人形のようで目新しいものではないが、ほほえみ程度なら可能性があるだろう。あれこれ考えるが、やはり頭の中だけのものはたかが知れている。（T.S）

都市景観とファッション

「京の着だおれ、大阪の食いだおれ、神戸のはきだおれ」という言葉は、子供の頃から聞かされてきた各都市の個性を生活面から表現するものである。

京都は「京の着だおれ」の通り、依然として日本を代表するファッション都市であり、現時点でこの立場を守る基盤は京都の文化的集積と歴史的景観に加えて古くからの庶民感覚である。

近年、神戸では重工業や港湾を中心とした都市から情報やファッションを都市経営の柱とする方向転換が進められてきた。神戸においては、自然の海と山を基本的背景としながらも計画的な景観整備が急速に実現化され、これに伴い市民のファッション感覚も高まり、今や「神戸の着だおれ」という感がある。ファッションにとって都市の景観は、その背景として大きな立地条件である。

京都と神戸は違った意味の代表的ファッション都市であり、京都のファッションを本来の意味で理解し強力に振興することが、京都の街づくりの原動力として市民レベルにとってもわかりやすい有効な一つの方法ではなかろうか。世界のファッション都市は、歴史的景観や自然景観を大切にした都市であり、古い町家から世界をリードする新しい情報が発信されている光景が、ふるさと京都へのイメージである。（Y.N）

VE契約制度のすすめ

最近建設業の中でＶＥ契約が話題となっている。ＶＥは米国で生まれた経営工学の手法の一つであるが、我が国では製造業を中心としたいろいろな産業分野に活用され、多大の成果を上げている。特に最近では建設業にも広く適用されて来ており、各企業の中ではハードな分野から、サービス・ソフトの分野にも広がりつつある。ここにおいて、今話題とされつつあるのは、企業内におけるＶＥと異なり、発注者から業者に対しＶＥによる提案を奨励し、その生じたメリットを双方で分配しようというものであって、これをＶＥ提案による契約というのである。

現在始められているものはまだ一部であり、かなり狭いハード分野であるが、これを大きくサービス・ソフト・設計・企画といった前段階の分野に広げていくことによって、民間のみならず、官公庁発注分にも大きく寄与していくことができよう。見方によれば民活なり事業コンペもＶＥ提案ともいえるし、方法は多岐に亙ると思われる。公共投資の大きな節約にもなるし、そのメリットは国民全体のものになるのではないか。すでに一部公共工事で始められていると聞くが、更に発注者側の検討と、受注者側の努力によってその実現を推進していきたいと思う。（S.K）

特集　建築とデザイン —東海支部—

本会の機関誌「建築と社会」は、大正6年9月「関西建築協会雑誌」として第1巻第1号発行にはじまり、大正8年日本建築協会と名称変更とともに「日本建築協会雑誌」としましたが、大正9年に「建築と社会」と改題し、今日に至っています。この雑誌は建築界では永久記録の雑誌となり、わが国有数の建築雑誌の一つとして高く評価されているところです。

私ども東海支部としましては、この編集に協力し、機関誌に東海四県における建築に関する学術、技芸、事業の進歩発展に寄与する作品・論文などを編集にとりあげ、主に昭和58年より毎年度末号に「東海特集」として特別編集を行ない、広く世に問うてまいりました。

今回は、テーマを「建築とデザイン」とし、右記のような内容でとりまとめました。皆様がたの温かいご理解とご支援をお願いいたします。

（社）日本建築協会東海支部長　中島　一

本特集企画・日本建築協会東海支部
特別編集委員会

委員長：中島　一
委　員：今津清直　岩田正弘　小坂忠勝
小宮三辰　後藤利秋　寺本英一
畑中圭助　林　金之　廣瀬敏郎
福田泰造　桝林宏二　松本壮一郎
宮崎辰敬　森口雅文　森田富士男
盛田輝勇　（50音順）

作品

大府市勤労文化会館
INAX本社ビル
愛知芸術文化センター　愛知県図書館
豊橋市二川宿本陣資料館
浜松市消防本部・中消防署合同庁舎
明和町総合体育館
津島地域文化広場 児童科学館・総合プール
小牧市温水プール
鈴鹿市立郡山小学校
大同工業大学図書館
愛知淑徳学園・中央棟
名古屋記念病院
名駅IMAIビル
NHK名古屋放送センタービル
サナルビルヂング（佐鳴学院本部ビル）
モーニングパーク主税町
プライベートリゾートエクシブ鳥羽アネックス
水明館 青嵐荘
豊田自動織機製作所 誠和ハイツ
メゾン三好ヶ丘 第Ⅰ期
奈良若草カントリー倶楽部クラブハウス
みずなみC.C.クラブハウス
岐阜交通株式会社本社ビル
トヨタ自動車田原事務館
日本ガイシ本社社屋
エバラ倶楽部
濃飛ニッセイビル
コスモ栄ビル

東海スケッチ

新建築作品5点

座談会

建築とデザイン
伊藤和子/河邉信行/寺本英一/森口雅文/（司会）中島　一

論文・随想

「美」と「実用性」の調和をめぐって／ヤン・スィンゲトー
都市再開発と景観とデザインと／横井太郎
『清少納言の住まい観』／若山　滋
映像に想う「建築空間」／小川辰男
表現コードの歴史と展開／加藤和雄
近代建築の流れの中で—ストラクチャーの様相と変移／渡辺誠一
省力化の対策例と今後の課題に向けて／岩田正弘

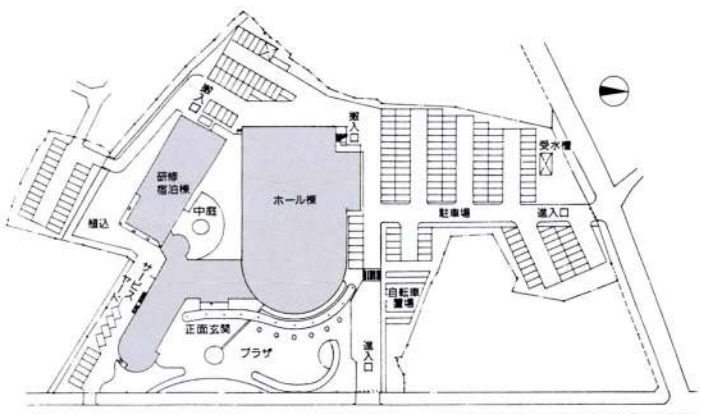
大府市勤労文化会館

設計監理　安井・加藤設計共同企業体
施　　工　鴻池・愛知・カミキン建設共同企業体

給排水衛生　三晃空調
空気調和　朝日工業社
電　　気　三和・アイワ・新栄電気工事共同企業体
舞台機構　三精輸送機
舞台照明　松下電工
舞台音響　教育産業

所在地　大府市共和町五ッ屋下80番地
敷地面積　15,284.39 ㎡
建築面積　4,444.11 ㎡
延床面積　7,166.70 ㎡
構造規模　SRC、BIF、3F
工　　期　1989年6月～1991年2月
最寄駅　JR東海道本線共和駅

撮　　影　SS名古屋



配置図



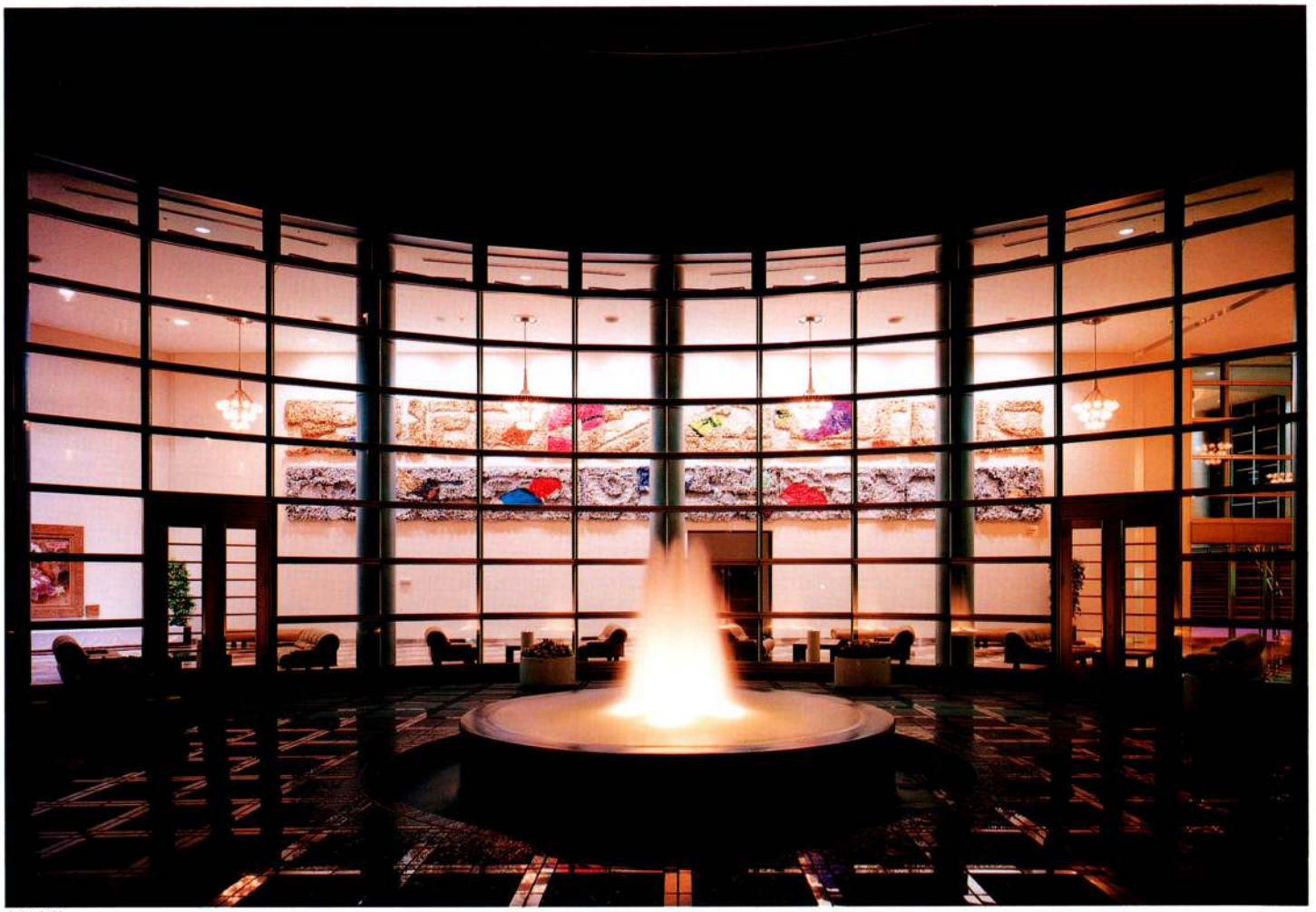

全景鳥瞰図


アプローチ・キャノピー廻り

東側外観



エントランスホール

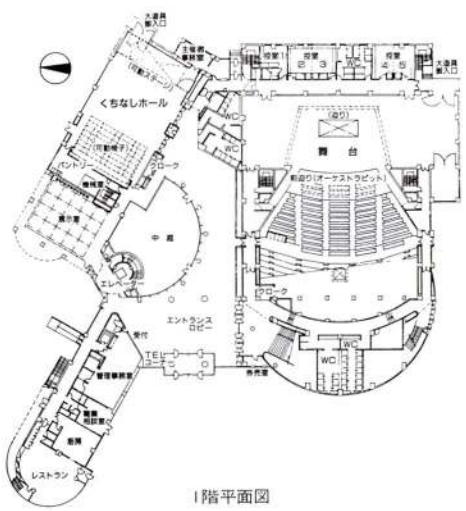


中庭夜景

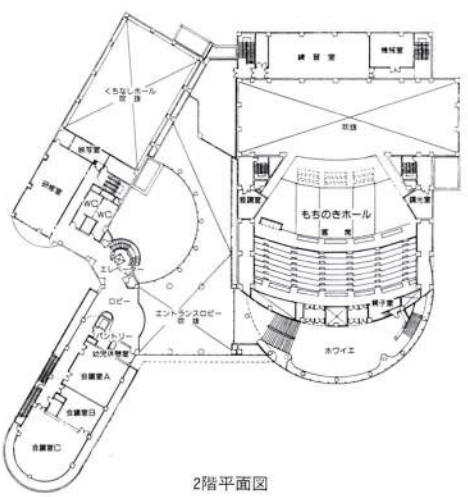
当会館は大府市の市制20周年の記念事業として計画された。勤労者や市民のだれもが教養の醸成や余暇の健全な活用の場として、また、優れた芸術文化の拠点として広く利用ができる施設である。ＪＲ東海道本線の共和駅より西方へ徒歩で約10分の位置に有り、会館には「まち」のランドマークとしての「20＋１の宝輪」のシンボルタワーが設けられ、昼間はもちろん、夜はライトアップによりかなり遠くからでも見え、会館の所在が確認できる。施設全体のボリュームは、農地と住宅が混在する周辺の現状に比して相当な大きさとなり、近づく人々に威圧感を与えないよう屋根や庇の形状を工夫した。外装は淡いグレーのタイル貼で横線を基調にして、タイル・ガラス・金属の組合せによる落ち着いた親しみの有る現代的な表情を創り出すことを意図した。

エントランスホール及びそれに続く中庭を中心にして、ホール・研修宿泊・管理事務の各棟を三方向に配し、建物全体の構成を明解にした。施設内容は残響可変設備を備えた817席の「もちのきホール」をはじめとして、400人収容の多目的な「くちなしホール」、間仕切自在の展示ホール、大小４室の研修・会議室、舞台・茶室を備えた80帖の和室、52人宿泊可能な和洋10室、トレーニングルーム、浴室など多種多様な機能を備えた複合建物である。そのために各用途ごとに集約し、各階の使用目的を明確にすることにより、利用者はもちろん、管理上からも使い易い建物を意図して計画にあたった。

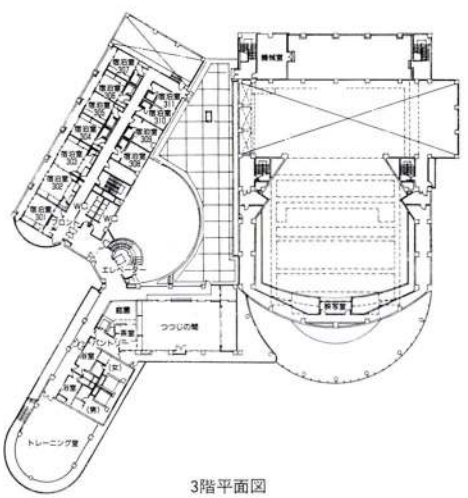
（中村哲士／安井建築設計事務所）



1階平面図



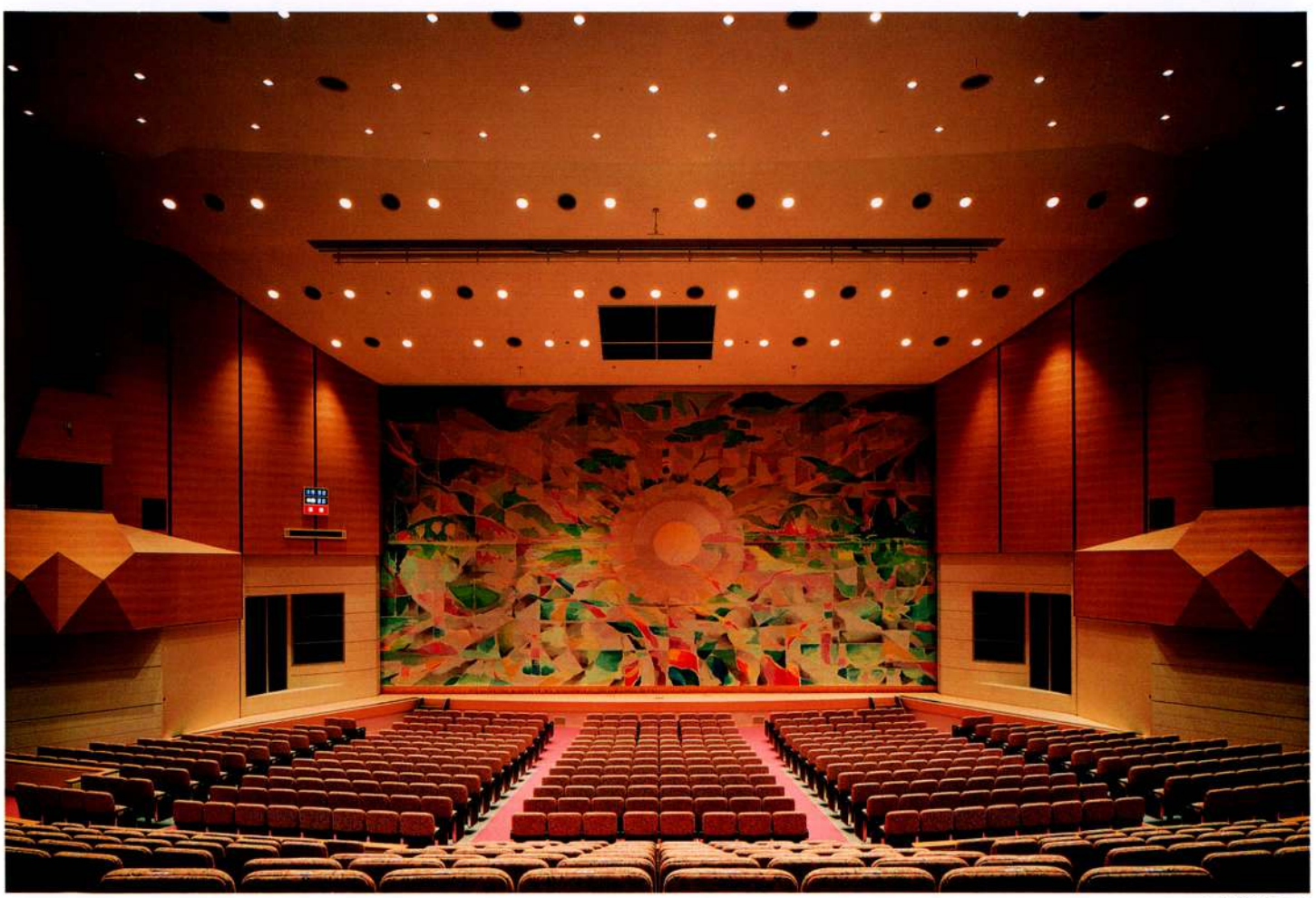
2階平面図



3階平面図



もちのきホール　ホワイエ



もちのきホール

INAX本社ビル

設計施工　竹中工務店名古屋支店

所 在 地　愛知県常滑市鯉江本町5—1
敷地面積　4,099.06㎡
建築面積　1,974.99㎡
延床面積　8,143.14㎡
構造規模　S、SRC、7F、P2
工　　期　1990年3月～1991年4月
最 寄 駅　名鉄常滑線常滑駅

撮　　影　村井　修



正面エントランス

知多半島の中央、伊勢湾を望む常滑の街は今、中部国際空港計画、再開発、伝統産業の復活など、21世紀をめざし、大きく変貌しつつある。
「ＩＮＡＸ本社ビル」はこの伝統ある常滑の街と、ＩＮＡＸの新らしい企業イメージとの調和を求めて、先覚的役割と、先進性ある内外観の創造性を追求し、具現化した。
建物全体は、本社事務機能としての高層棟と、会議、展示場としての低層棟により構成されている。全体構成の中で特徴的なのは、両棟の間に設けられた3層吹抜けのコンコースアトリウム空間である。全体の動線計画の軸とすると共に、企業のイメージアップ空間として対応させている。
アトリウムは、ガラススクリーンと、トップライトで構成、明かるい外に開かれた空間とすると共に、常滑の街の原風景をモチーフとした間接照明ポールと、陶板レリーフによる斜面を流れる「せせらぎ」を設けている。街と企業との隔和を図る演出効果を担っている。
「セラミック外装タイルの大型パネル工法」を開発し、乾式カーテンウオールを実現する事により、軽量化に役立ち、水密性が高く、無足場で施工出来る建物である。
セラミックタイルの持つ味わいを、ＩＮＡＸブルーの基調に合わせ、清楚で格調高い印象と存在感を創り出している。やきものは、人の気持にやさしく写し出してくれる素材なのである。
空と海、光と影、旧と新の対比の中に、審美性を設定し、ＩＮＡＸの企業イメージをまさに表現した建物である。

（高橋　勝／竹中工務店）

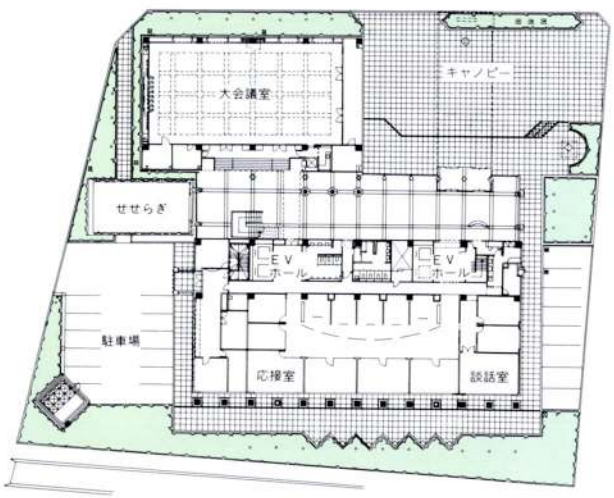

エントランスキャノピー



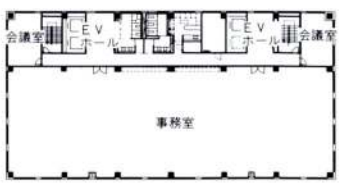
外観北東面



外観南面見上げ



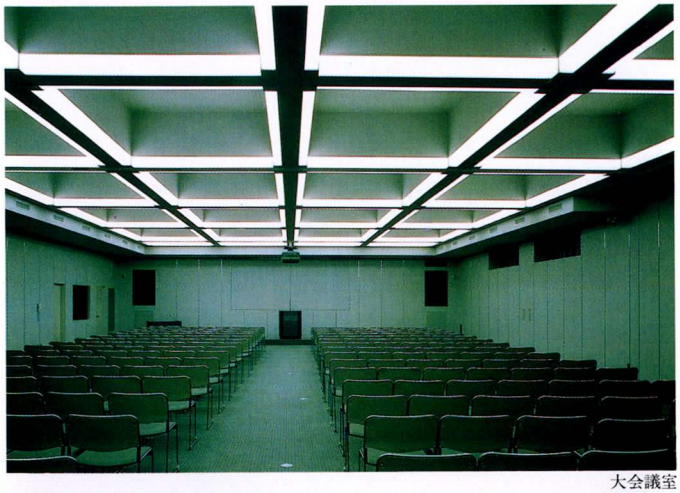
1階平面図　1：1,000



基準階平面図　1：1,000



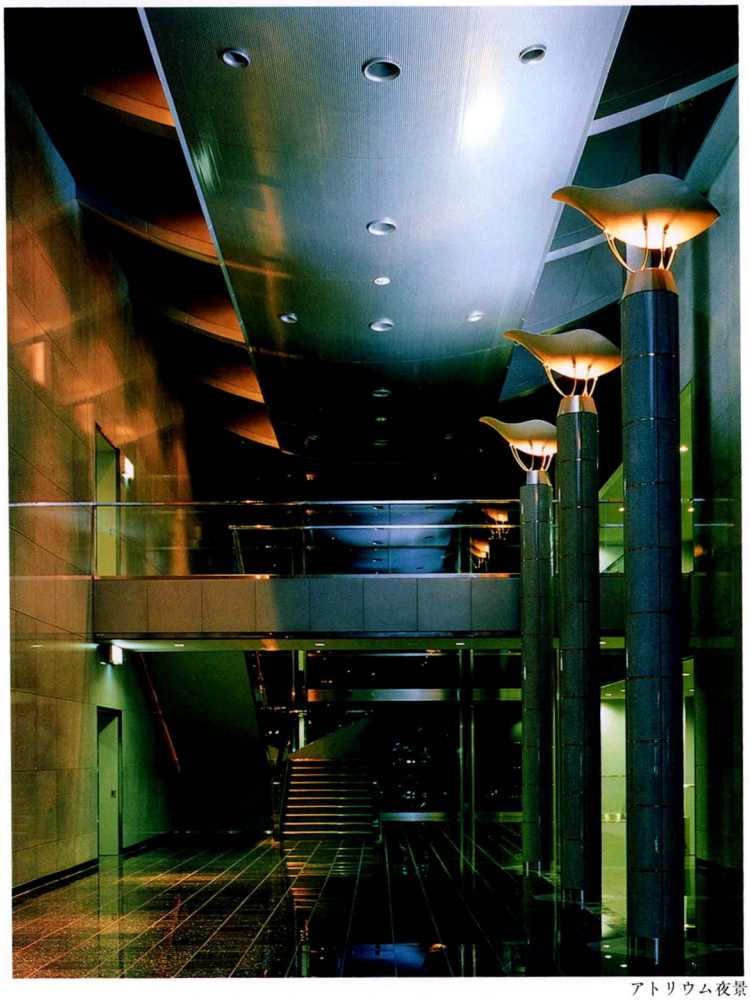
ミーティングコーナー



大会議室



役員応接室



アトリウム夜景



外観／名城郭内にふさわしい景観づくり

愛知芸術文化センター 愛知県図書館

設計監理　愛知県建築部営繕課　日建設計・名古屋
施　　工　佐藤・西松・大日本・名工・六合・長瀬建設共同企業体

所 在 地　名古屋市中区三の丸1丁目9−3
敷地面積　10,120㎡
建築面積　3,516㎡
延床面積　19,604㎡
構造規模　SRC、B2、5F、PI
工　　期　昭和63年12月〜平成3年4月開館
最 寄 駅　地下鉄鶴舞線・桜通線丸の内駅

撮　　影　SS名古屋

愛知県図書館は「愛知芸術文化センター」の一部門で、公開設計競技で選ばれた設計である。
敷地は、名古屋城郭内南西部の緑豊かな一角にあり、敷地を囲む石垣や土塁は名古屋城跡の特別史跡であるなど、図書館にふさわしい環境にある。
設計は「明快でわかりやすい階構成」「カウンター中心の自由度の高い平面」「迅速なサービスシステムの導入」「環境になじむ景観づくり」の4つのコンセプトを中心にまとめられている。一般参考・新聞・雑誌部門等は、2層吹抜のエントランスホール、ブラウジングコーナーなどと一体化した。各階毎にわかりやすいようワンルームとし、9m角のモジュールで統一、将来に対するフレキシビリティをもたせた。玄関のみブックディテクション方式を採用し、館内は自由にどこででも読書できるように窓際に閲覧席を設けて書斎的な雰囲気を作り出している。
外観は石垣や土塁などの史跡を借景とし、セットバックや雁行の手法で環境になじむ落ち着いた景観とした。

（南石周作／日建設計・名古屋）



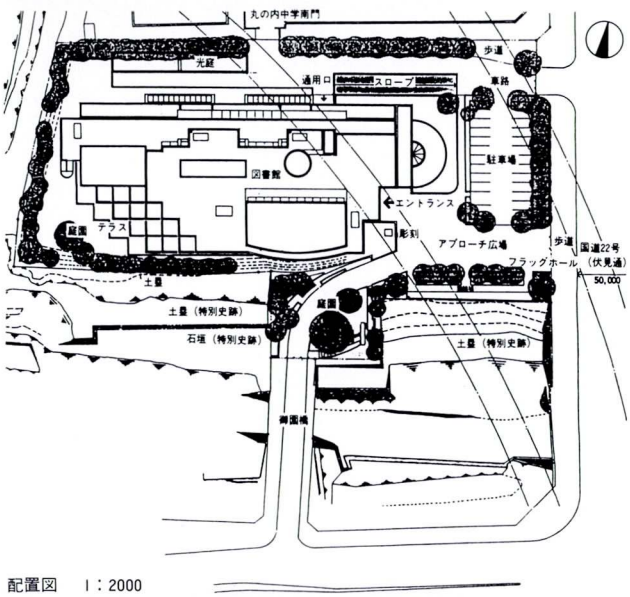
ブラウジング／みどりの環境に開かれた空間づくり



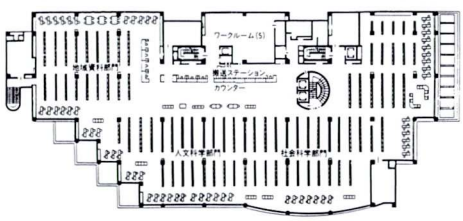
閲覧室／窓側の読書・キャレル



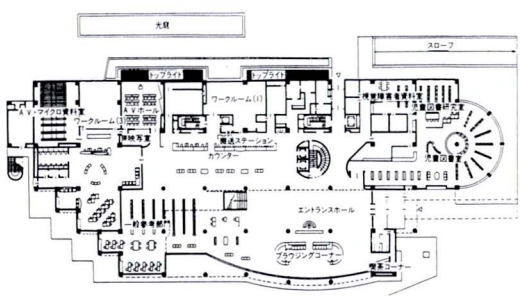
1階／エントランスホール



配置図　1：2000



3階平面図　1：1500



1階平面図　1：1500



AVマイクロ室／時代に応える情報サービス



児童図書館／子供のスケールでデザイン

豊橋市二川宿本陣資料館

施　　主　豊橋市
基本設計・監修　豊橋技術科学大学教授　小野木重勝
実施設計・監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　藤木工務店名古屋営業所

所 在 地　愛知県豊橋市二川町字中町65番地
敷地面積　3,449.37㎡
建築面積　1,504.17㎡
延床面積　1,920.79㎡
構造規模　W、平家建・2F及びRC、2F
工　　期　昭和63年10月～平成3年7月
最 寄 駅　JR東海道本線二川駅

撮　　影　SS名古屋



御門・主屋外観(北面)



資料館外観(北面)

豊橋市二川宿本陣資料館は、東海道五十三次の宿駅であった二川宿の本陣遺構を復原保存するとともに、敷地内に近世交通関係の資料館を併設した全国的にもユニークな博物館施設である。

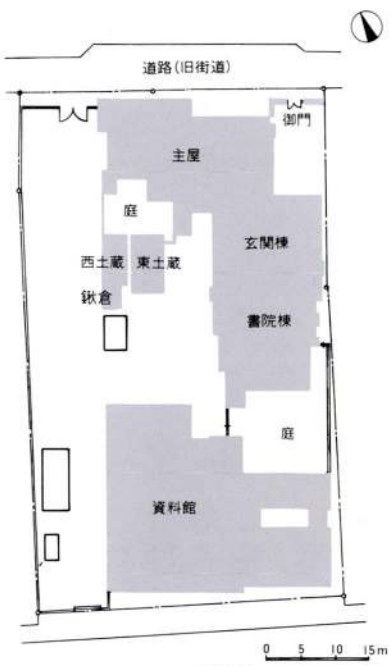
本陣遺構は、宝暦３年（1753）に建てられた主屋西半部、土蔵二棟（享保３年、同18年）、鍬倉（享保18年）と、本陣職になった文化４年（1807）以後に増築・整備された主屋東半部（嘉永２年再建）、御門（嘉永３年再建）、玄関棟（安政元年再建）からなり、旧東海道筋に現存する本陣遺構としては、草津宿本陣（滋賀県・国指定史跡）とともに、貴重な歴史的遺産である。

旧二川宿の町並み調査、本陣遺構の調査を手がけてこられた豊橋技術科学大学小野木重勝教授の提唱によって、上記の保存活用が具体化し、同先生の基本設計・監修のもとに、昭和63年度より改修復原工事が実施された。半解体（主屋）・解体（その他）修理が施されたが、いずれも、史料調査・痕跡調査などの綿密な学術的調査にもとづいて建立・再建時の姿に完全復原された。また、明治時代に取りこわされていた、上段ノ間のある書院棟も、現存する間取り図や他本陣遺構を参考に、文化５年建立時の姿に新たに復原再建された。

資料館は、鉄筋コンクリート造二階建で、敷地南端に新設された。北面外壁線は、往時同所に建てられていた灰小屋・倉・馬小屋等の外壁線を遵守した。北側外観も、これらの建物の外観を再現することとし、本陣遺構との調和をはかるため、全体をなまこ壁の土蔵風の姿にまとめた。内部は、東海道宿駅・二川宿・二川宿本陣関係資料の常設展示と特別企画展示が行われている。

歴史的遺産の保存活用や、地域の活性化をめざしたこの博物館の誕生は各方面の関心を集め、平成３年８月の開館以来、連日県内外の多数の入館者で賑わっている。

（澤村喜久夫／伊藤建築設計事務所）



配置図


書院棟外観（南面）


玄関棟・書院棟外観（西面）


西土蔵・鍬倉外観（西面）

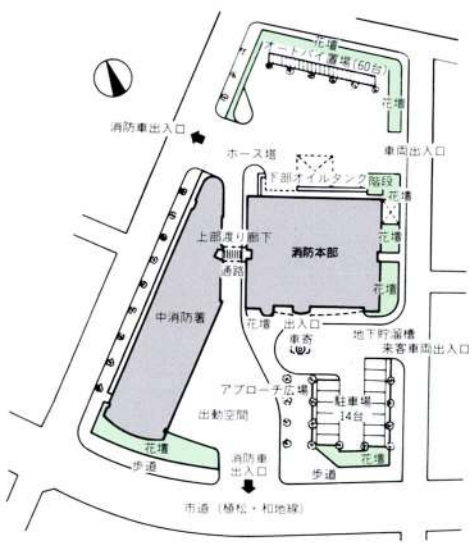
浜松市消防本部・中消防署合同庁舎

設計監理　浜松市建設部住宅営繕課・安井建築設計事務所
施　　工　須山建設・和久田組共同企業体
　　電　気　栗原工業・石川電気工業共同企業体
　　空　調　須賀工業
　　衛　生　鈴木製作所
　　昇降機　三菱電機



外観南面


全景鳥瞰



配置図　1：1800

静岡県で最大の人口を擁する浜松市は、近年都市機能の集積化が急速に進行しているところである。この施設は第三次浜松市総合開発基本構想に基づき、地震をはじめ様々な災害から市民を守り、安全な環境を確保することを目的として建設された。防災活動拠点としての機能を果たすため、総合防災情報システムを導入し、24時間体制で災害情報の迅速かつ正確な管理と出動体制の強化を図るとともに、大規模地震に備えた建築構造強度と免震床による情報機器の安全性も確保され、非常時の活動拠点となる施設づくりがおこなわれている。また、市民に開かれた消防庁舎として、本部棟には開放的なエントランスホールを設け、防災教育展示が行なわれている。

この施設が浜松市の防災拠点として機能することはもちろんのこと、街並みに新しい魅力を加える施設として市民に親しまれることを期待している。

（大島弘資／安井建築設計事務所）

所 在 地　浜松市下池川町19－1
敷地面積　5,937.97㎡
建築面積　1,859.72㎡
延床面積　7,348.57㎡
構造規模　SRC、BIF、7F
工　　期　平成元年8月～平成3年5月
最 寄 駅　JR浜松駅

撮　　影　SS名古屋



本部棟1階エントランスホール



本部棟6階ホール



本部棟3階指令室

明和町総合体育館

設計監理　岡設計名古屋支店
施　　工　フジタ・伊藤特定建設工事共同企業体



正面外観



エントランスホール・ロビー

所 在 地　三重県多気郡明和町
敷地面積　14,865.00㎡
建築面積　 4,317.35㎡
延床面積　 4,434.44㎡
構造規模　RC、一部SRC及びS、2F
工　　期　昭和62年 9 月～昭和63年10月
最 寄 駅　近鉄斎宮駅

撮　　影　田中昌彦、セントラルフォート

明和町は、国史跡「斎宮跡」を中心とした「王朝ロマンの町」です。また、緑の多いところでもあります。このような敷地の特性と、文化、歴史性を重視しながらさわやかで清潔感のあるスポーツ施設となるように考えました。

外観は、遺跡をイメージした色彩とし、周辺の環境にも馴染むようにしました。また、エントランスホール・ロビー、アリーナ、柔剣道場の3つのゾーンを明確に外部に表現する、大、中、小のボールト屋根は、アプローチ道路からもっとも美しく見えるようにデザインしました。

内部空間は、町民のふれあいの場となるエントランスホール・ロビーを中心に、アリーナ（バレーコート3面）、トレーニング室、柔剣道場がダイレクトに接続されたシンプルなプラン構成となっています。エントランスホール・ロビーは、トップライトをふんだんに使い、明るいさわやかなイメージにしています。また、アリーナは多目的な使用にも対応できるようにステージを設け、舞台設備、音響設備、照明設備を設置しています。

この建物は、社会教育施設として町民の健康増進、体力づくり、文化活動など、スポーツやレクリエーションを通して新しいコミュニケーションの場として活用されるように計画しました。

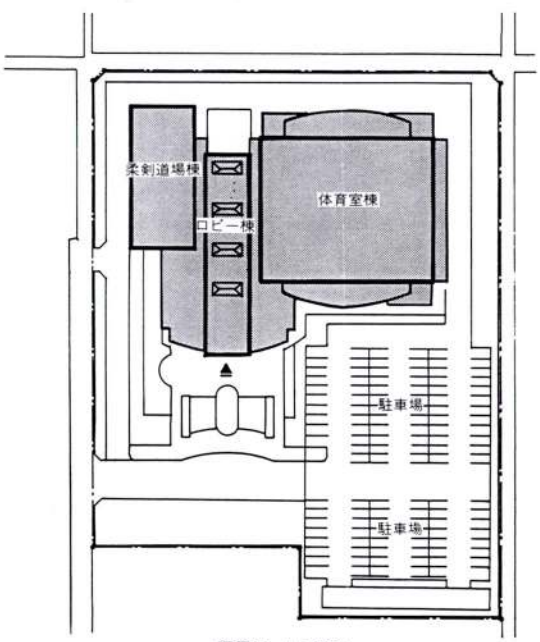
（城山　哲／岡設計）



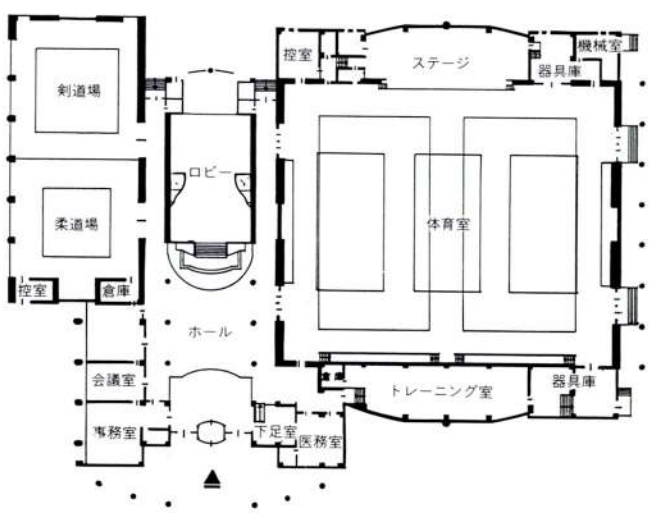
体育室



柔剣道場



配置図　1：2000



平面図　1：1000



児童科学館越しに屋内プールを見る

津島地域文化広場　児童科学館・総合プール

設　計　児童科学館/愛知県建築部営繕課・津島市建設部都市計画課・伊藤建築設計事務所
　　総合プール/津島市建設部都市計画課・伊藤建築設計事務所
施　工　児童科学館/津島建設共同企業体（ミタニ建設・太陽建設工業所）
　　総合プール/飛島建設名古屋支店
　　児童科学館/電気：弘電社・中央電気　設備：水谷商会　エレベーター：日本エレベーター製造
　　植栽他：平野土木造園（総合プール共）

所在地	津島市大字津島字南新開	
敷地面積	23,260.00㎡	
	児童科学館	総合プール
建築面積	1,022.43㎡	1,859.08㎡
延床面積	1,861.37㎡	1,886.92㎡
構造規模	RC、一部S、2F	S、一部RC、2F
工期	1989年10月～1990年12月	1990年3月～1991年3月
最寄駅	名鉄津島線津島駅、名鉄バス文化広場前	
撮影	加藤敏明	

文化広場は、老若男女を問わずすべての階層の県民が、気軽に集い、心をふれあう場を広く県下に設け、心豊かな新しい地域づくりの核とするため、昭和53年度から整備を進めているもので、県民の多様な価値感や活動領域に対応して、地域文化広場、地区文化広場、ふれあい広場の３種類があり、今回の計画は地域文化広場で、津島市をはじめ町村にまたがる広域的利用を対象とした複合的文化施設である。

津島地域は、近年、余暇時間が増加しており、有効な余暇の利用と住民の文化・スポーツ・レクリエーション等に対する要望は多様化、高度化する傾向にある。また、住民の活動範囲は生活圏から広域圏へと広がっているという状況のもと、交流の場の整備と、これを利用して健全な人間関係を形成してゆく、地域づくりの場として計画された。

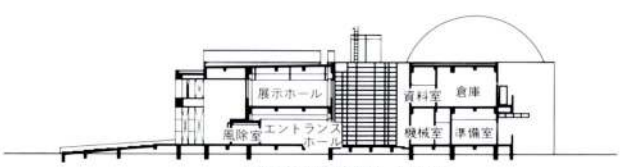
計画用地は、津島市東南部の日光川沿いにあり、都市公園の一部で、２haの広さであり、すでに野球場・練成館・弓道場・テニスコート等のスポーツ施設が、整備されている。

県と市の事業として、児童科学館、市の事業として、総合プール（屋外50mプール、屋内温水プール、25mプール、幼児用プール併設）、ジョギング・サイクリングコース、及びはなのき広場の諸施設が建設され、その施設の管理・運営は津島市が行っている。

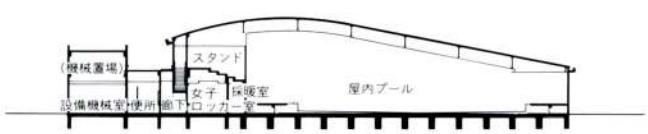
施設配置は、敷地上空を縦横に交叉する、中電、関電の高圧送電線があり、その安全規準をクリアーしつつ、北側の既スポーツ施設ゾーンに、総合プール・屋内温水プールを集約し、南側に児童科学館を配置し、その間に緑豊かな、はなのき広場を緩衝スペースとして設け、さらにこれらの施設をとりまくように、ジョギング・サイクリングコースを配置している。

津島文化広場が、気軽に訪れ集い、健康増進と体力向上をめざし、また、自然科学に親しみ、住民の生涯教育の場として、多いに利用されることを願っている。

（岡田満弘／伊藤建築設計事務所）



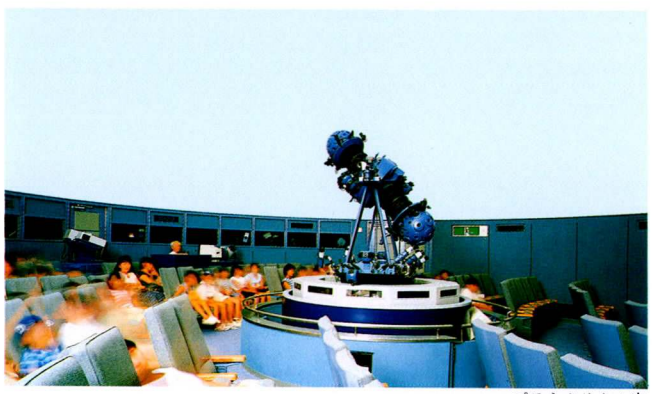
児童科学館断面図　1：600



屋内プール断面図　1：600



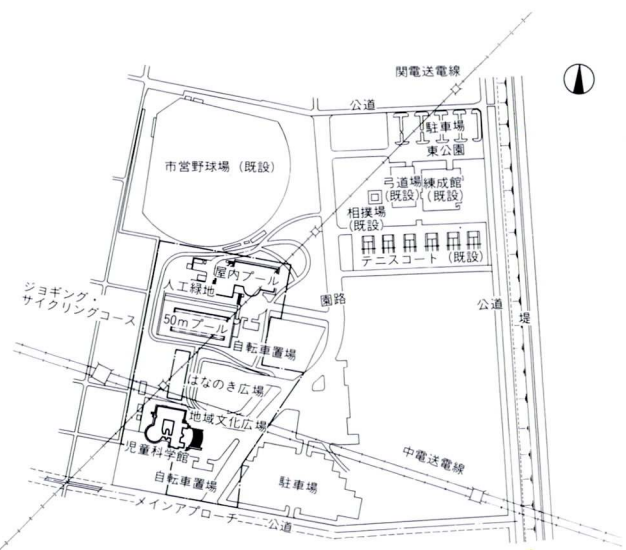
総合プール棟



プラネタリウム室



屋内プール



全体配置図　1：5,000

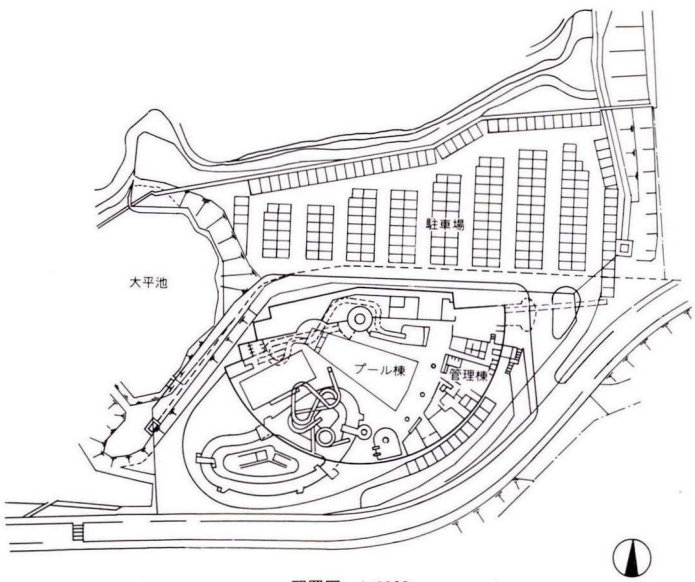


児童科学館

南面鳥瞰



レストラン



配置図　1:3000

小牧市温水プール

設計監理　小牧市・大建設計名古屋事務所
施　　工　佐藤・小田急建設共同企業体
　　機械　新菱・ナミレイ建設共同企業体
　　電気　住友・沖建設共同企業体

所 在 地　小牧市大字野口2394番地の3
敷地面積　20,401.63㎡
建築面積　5,022.40㎡
延床面積　6,659.72㎡
構造規模　RC(一部S)、B1、2F
工　　期　平成2年4月～平成3年9月
最 寄 駅　桃花台線桃花台センター駅

撮　　影　フォトスタジオ・タクミ



山辺のはざまに忽然と海のパラダイス出現



プール室内

愛知県東部、未来都市交通システムを携える桃花台ニュータウンの北、名古屋市に隣接する都市、小牧市に昨年10月6日「小牧市温水プール」がオープンした。グリーンとグレーのコントラストの外壁と、なだらかな円錐形の屋根が、緑豊かな山並を背に、和傘を広げたような巨大な外観をくっきり浮かびあがらせている。総事業費29億円。自治体が手掛ける室内プールとしては全国でも、最大規模の大型レジャープールで一度に1300人が利用できる。半径54m，高さ30mの半円錐状の空間には、造波、流水、スライダー、渓流、冒険、ちびっこ、競泳、と7色（テーマ）のプールがあり、なかでもスライダーは、超人気だ。温水は隣接するゴミ焼却場の余熱利用で、産廃、公害問題等に対し、最新のハイテクを駆使して効率の良い利用法で省エネに取り組んでいる。

南面はガラスになっており外部プールとの一体化をはかり、より開放性の高い空間とした。夜間も利用時間が設定してあるので、ヤング層のレジャーステージとしての位置づけもでき、七色のライティング効果も加わり、山辺の間に突然の海のパラダイスの感が強い。

造波"は長さ37m、幅20m、最大波60㎝、の波を造り出す。"流水"は一周170mで、屋内と屋外二通の使用が可能である。スライダー"は高さ12m、4.5mから長さ105m、41mのスライダー2基。自治体では初めての"渓流"は高さ9mから浮輪にのって109mの急流を下るスリリングなもの。一度に何百人もの甲羅干しのできるテラス、高さ12mの吊橋などがある。

自治体主体の施設が今後この様な展開で市民にアピール、エントリーできるスペースが各方面で実現していくと楽しい。子供から熟年までが楽しめるプール＝それは従来の体力作り、泳ぐためだけのプールという概念から解き放ち、よりレジャー性の高い場。そこへ行けば楽しめる場を提供し、空間のゆとりと、心と体のリラクゼーションとしての目的をなげかけ、体感できる空間にまで昇華した。　（小山哲男／大建設計名古屋事務所）

コロネード

鈴鹿市立郡山小学校

設計　鈴鹿市都市計画部建築課・東畑建築事務所
監理　鈴鹿市都市計画部建築課
施工　浜口・田中建設共同企業体
　　白木・大野建設共同企業体
　　近藤・西城建設共同企業体



東面外観

ロケーションⅠ
・鈴鹿山脈の麓より伊勢湾へ広がる穏やかな丘陵地

ロケーションⅡ
・新興の戸建住宅団地と旧来からの集落の境界線上

コロネード
・新しい団地と古くからの集落を結ぶコミュニケーション

時計塔
・子供達のシンボルとして、地域の人々の為の誇りと愛着の印として
・プランの焦点

ボールト屋根
・周辺丘陵地帯になじむ風景としての緑錆の重なり——穏やかさの表現
・対比する白い壁——若々しさの表現

楽しさ
・コロネード、ワークテラス等、外部空間を取り込んだ変化のある空間構成、敷地、校舎の全てを生活の一部に

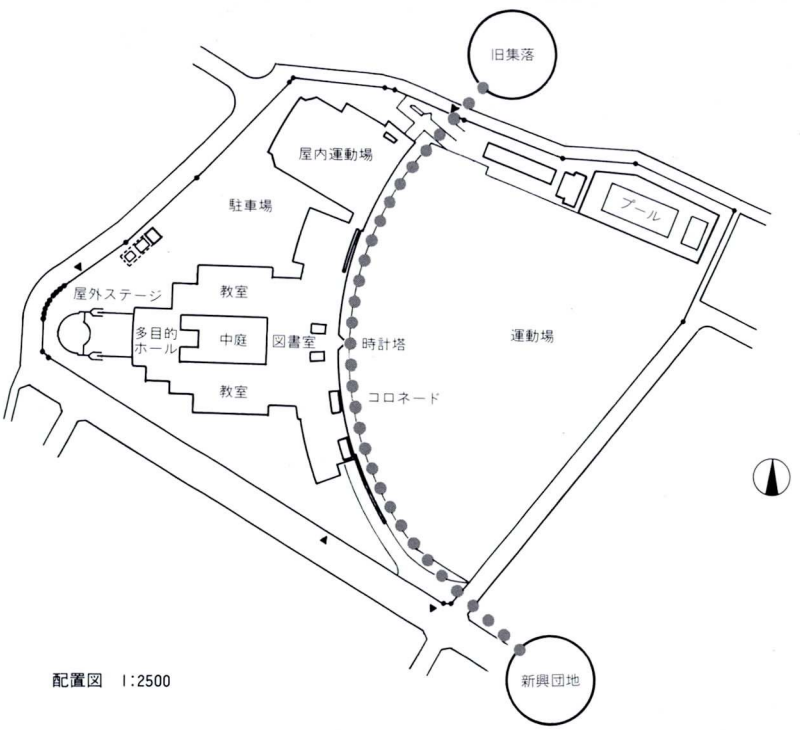
空間機能
・多目的ホール、ワークスペース＋普通教室、図書室（メディアスペース）を、それぞれ回廊状に配する事により、独立性と可変性を高める。

将来性
・図書室のメディアスペース化——フロアダクト、システム天井
・生涯学習の場としての社会開放——シャッター間仕切の設置

願い
・地域の人々がいつまでも愛着を持って親しんでくれるように
・巣立つ子供達にとってこの学校が原風景となるように

（瓦田伸幸、高木耕一／東畑建築事務所）


屋内運動場



配置図　1:2500

所 在 地　三重県鈴鹿市郡山町710番地の6
敷地面積　23,270㎡
建築面積　4,330㎡
延床面積　6,708㎡
構造規模　RC、SRC、一部S　3F
工　　期　平成2年3月～平成3年2月
最 寄 駅　JR伊勢線中瀬古駅

撮　　影　SS名古屋

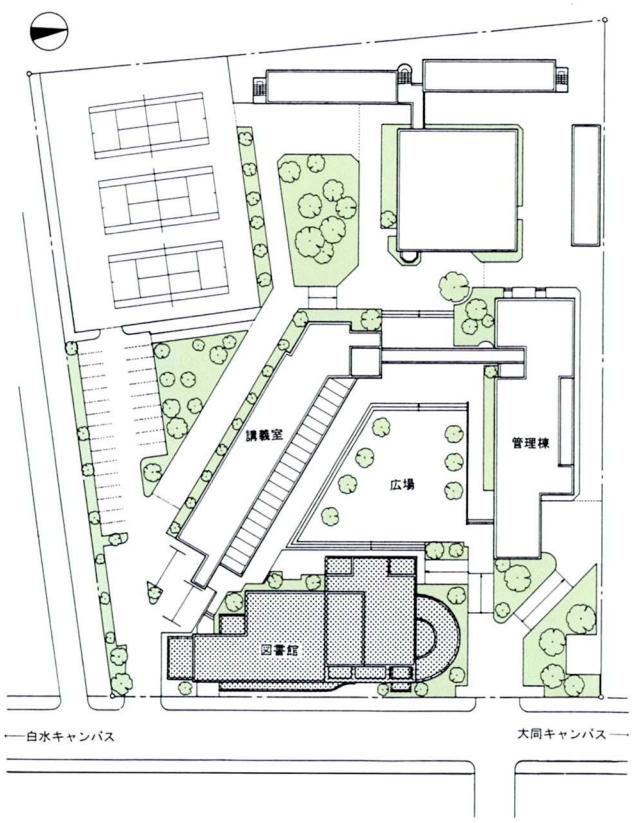

プール、アプローチ


南面外観

外観西北面



外観北面



配置図　1:1600

大同工業大学図書館

基本構想　DIT図書館基本設計プロジェクトチーム
設計監理　日本設計
施　　工　大林組名古屋支店



2階中庭とオブジェ

所 在 地　名古屋市南区滝春町10−3
敷地面積　31,075㎡
建築面積　1,117.24㎡
延床面積　3,593.42㎡
構造規模　RC、5F
工　　期　昭和63年6月～平成1年6月
最 寄 駅　名鉄常滑線大同町駅

撮　　影　SS名古屋

大同工業大学は名古屋の南西に位置し、附近は工場地帯であるにもかかわらず、大学の影響か静かな住宅街となっています。この計画は学園創立50周年、大学創立25周年の記念事業として計画されたものです。基本構想は、大学のDIT図書館基本設計プロジェクトチームが行い、その構想にもとづいて設計を進めました。

当初より学生のための「学習図書館」として位置づけ、開かれた図書館を発想の原点といたしました。明かるく、入りやすい図書館でありたい、そのため平面計画は間仕切を可能な限り少なくし、開放的な空間作りに努めました。外観は船のイメージから曲線を多く用い、外壁にオフホワイトの45二丁掛けタイルを使うなど、シンプルなデザインといたしました。但し正面ファサードは大学のシンボルとしての形態を表現すべく、キュービックなアルミパネルの構成によりメリ、ハリをつけました。

インテリアは、明かるく機能的であることを第一に、成型岩綿吸音板の天井と壁のクロスペンキは淡いグレーで統一し、床は吸音効果の高いカーペットタイルをフロアー毎にブルーグリーン、モスピンクで色分けするなど、空間領域が容易に識別出来る効果をねらいました。全体としては、軽薄でない程度にカラフルで、さわやかな雰囲気をつくっています。

1階ロビーのニツチには「百万塔」といわれる、経文を納めた容器と経文のレプリカが展示されていますが、経文は人類最古の印刷物であり、容器は日本最古の大量生産品といわれ、百万塔は本大学の成田壽一郎博士の手で復元されたものです。

（今泉清司／日本設計）



1階AVラウンジ



3階図書閲覧室



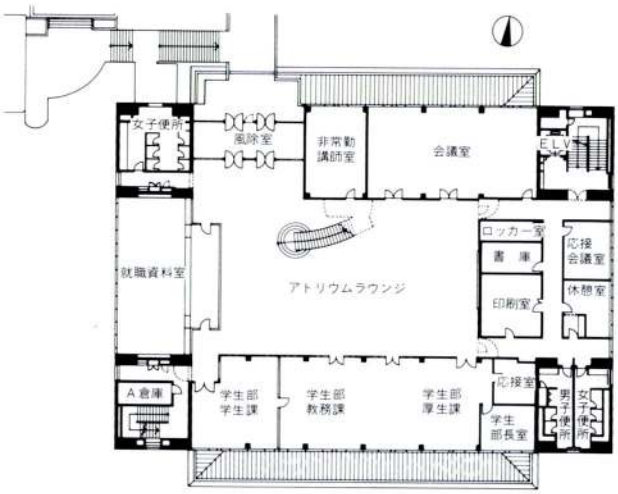
外観



全景鳥瞰

愛知淑徳学園・中央棟

設計施工　竹中工務店名古屋支店



5階平面図　1：700



5階アトリウムラウンジ

所 在 地　名古屋市千種区桜が丘23番地
敷地面積　51,523㎡
建築面積　 2,224㎡
延床面積　 9,282㎡
構造規模　SRC、RC、S、B1、6F
工　　期　1989年5月－1991年3月
最 寄 駅　地下鉄東山線星ヶ丘駅

撮　　影　丸善企画、田中昌彦



AVコーナー



アリーナ

中央棟は愛知淑徳学園創立85周年記念事業として、校舎のリニューアルとキャンパス環境の整備充実を目指して建設した、高校と短大の複合校舎である。斜面状の狭い敷地の高低差を巧みに利用して、大空間の3層で構成し、下層は高校校舎の小アリーナ、中層はアリーナ、上層には短大校舎のアトリウムラウンジを中心に学生部・研究室・ゼミ室・AVコーナーを配置している。設計にあたっては、「光と風と緑」をテーマに「感性豊かな自立性と、創造的キャンパスライフをおくれるよう」女性らしい品位ある伸びやかな空間をつくりだすよう心がけた。

また今後のキャンパスのリニューアルの基本として、既設校舎と調和をはかり、歴史と伝統を受け継ぐよう、落ちついた色のタイルを外装に採用した。アリーナ部の軽量のカーテンウォールの外壁より大きく跳だし、トラス部を消した横連窓のサッシにより全体構成に変化をあたえた。

構成計画は大空間の3層構成を実現するために、PSコンクリートと、4本のトラスの吊構造の大架構、TMDを組み込んだ立体床構造で、重層架構リフトアップ工法で施工した。

学生達の新しいコミュニケーション・スペースとして、中央棟はゆったりとした、光あふれるさわやかなアトリウムラウンジと、力あふれる明るい爽快な体育空間を生み出し、時代にふさわしい新鮮な教育空間にしている。　（嶋　俊己／竹中工務店）

名古屋記念病院

設計監理　青島設計
施　　工　1期工事 前田建設工業　2期工事 鴻池組



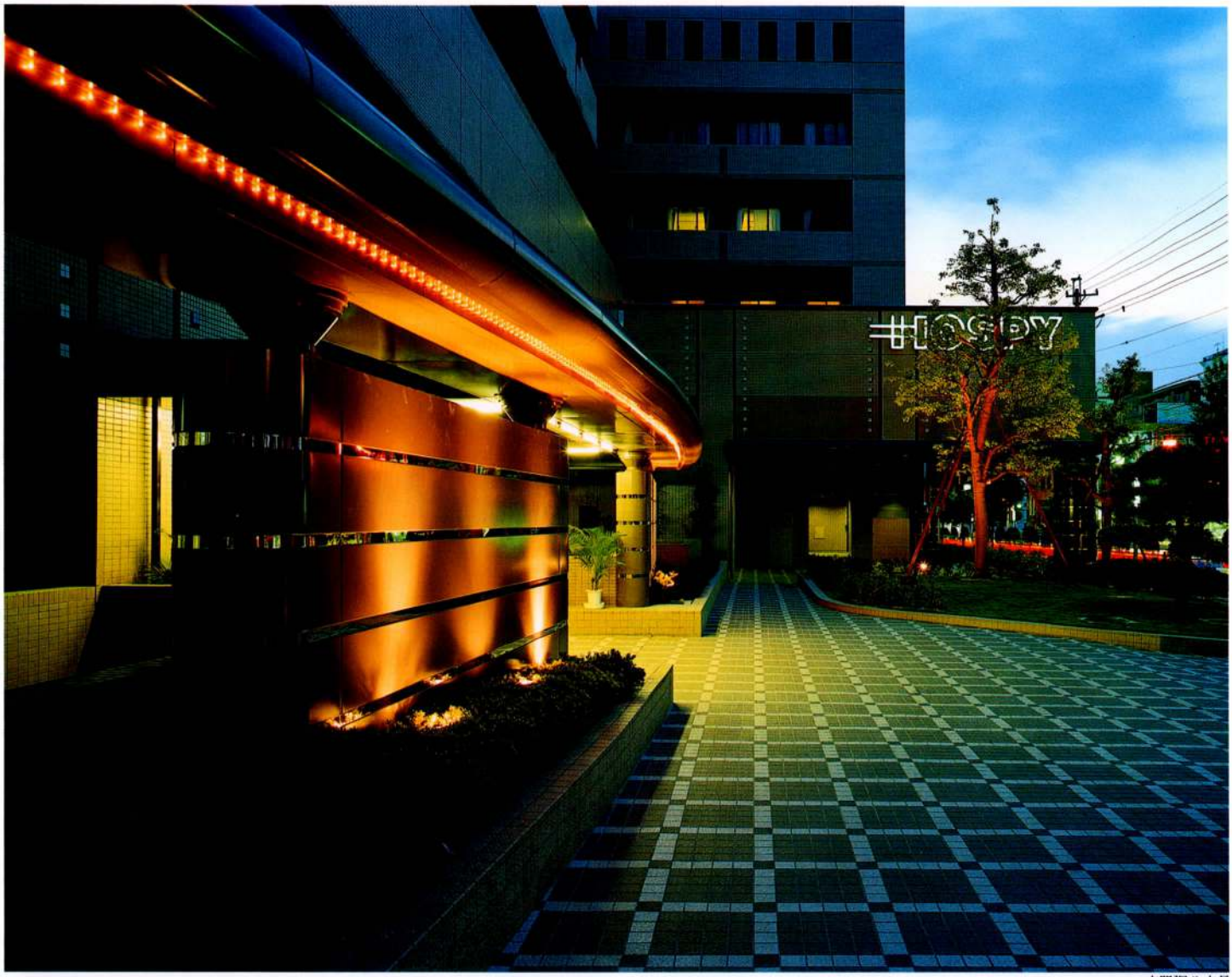
外観北面

名古屋記念病院は東海地方の民間病院では、初めての癌と免疫病を中心とした専門病院をめざし、昭和62年4月にオープンした。
急速に"街"化が進む中で、さらに医療サービスを充実し、最先端の医療技術を提供することが求められ、2期工事においては、病院北側のオープンスペースを改造し、広場を設け、植栽やベンチを配して市民に開かれたうるおいのある空間を計画すること等により総合設計制度の適用を受けて、容積率の割増しを図っている。
名古屋記念病院の新しい医療へのアプローチは、Hospy（ホスピー）と呼ばれ、Hospitality＋Happyから来ているように、建物は、人にやさしく、あたたかみのあるものにすることが求められた。
また、増築した建物にありがちな、動線計画のまずさなどを感じさせないようにレイアウトや空間構成に配慮している。　（近藤敏夫／青島設計）


診察室廊下

所 在 地　名古屋市天白区平針4－308
敷地面積　3,896.51㎡
建築面積　2,563.73㎡
延床面積　14,657.44㎡
構造規模　SRC、RC、B1F、9F、PI
工　　期　1983年11月～1990年6月
最 寄 駅　地下鉄鶴舞線平針駅

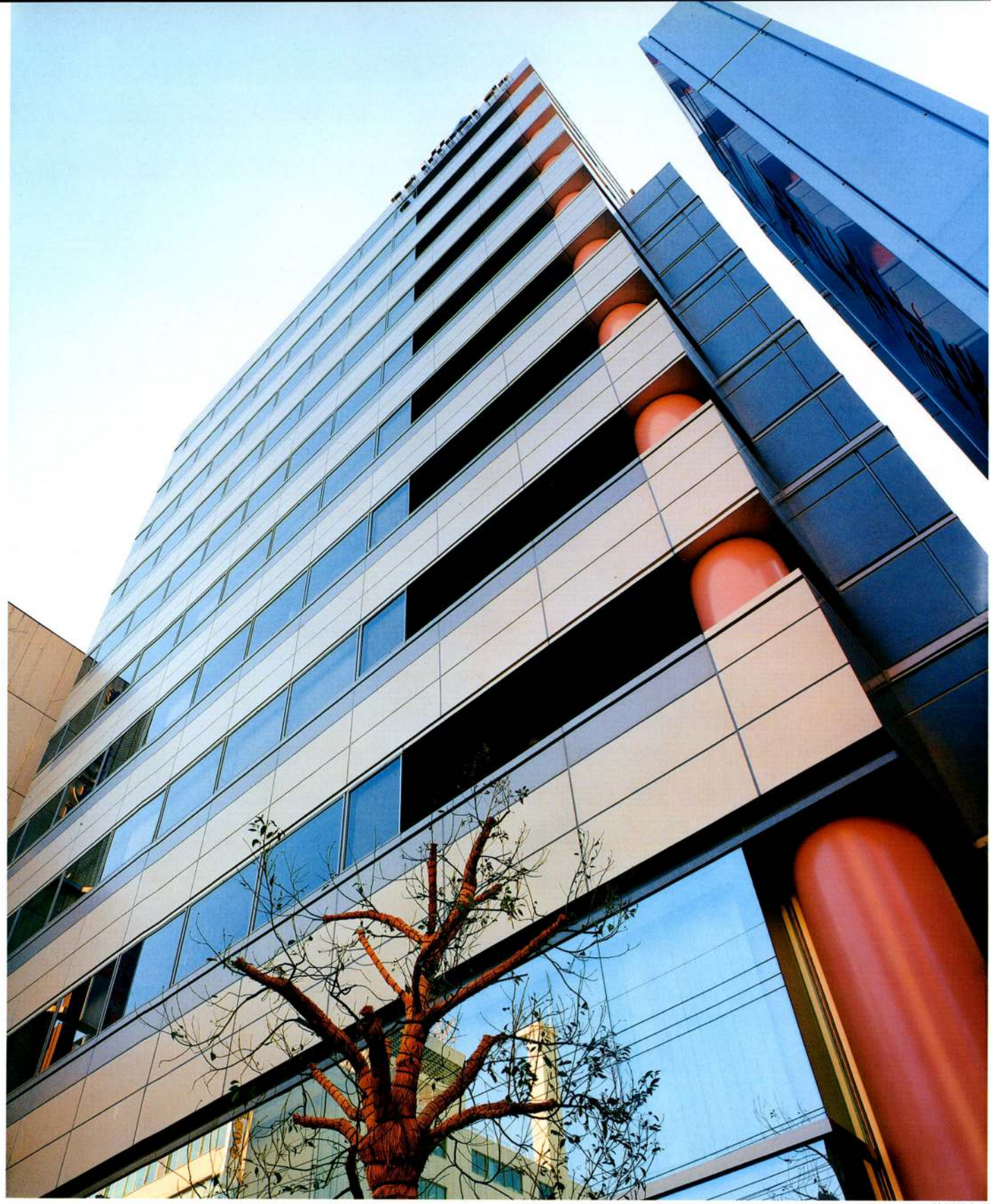
撮　　影　車田 保



玄関廻り夜景


病室廊下


病室



外観見上げ

名駅IMAIビル

設計監理　青島設計
施　　工　鹿島名古屋支店

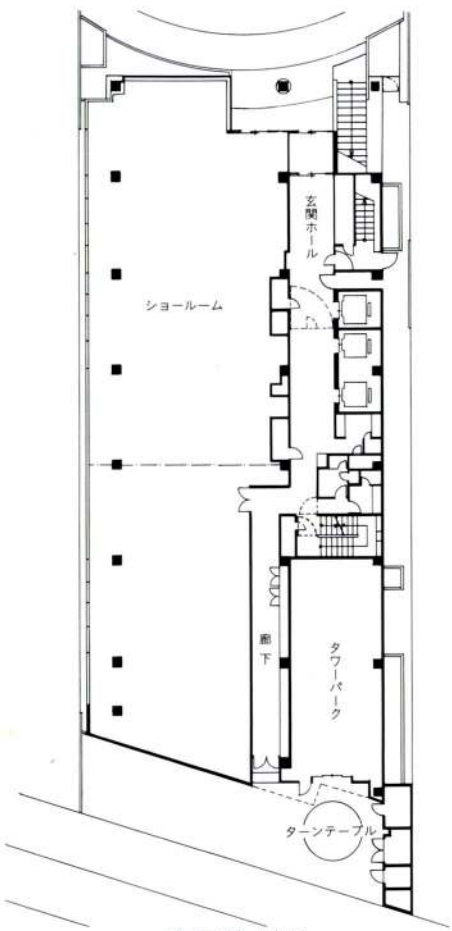
所　在　地　名古屋市中村区名駅四丁目1002-1、2、3、4
土地信託委託者　アイ・エム・エー
土地信託受託者　住友信託銀行
敷地面積　1,222.67㎡
建築面積　898.58㎡
延床面積　9,778.05㎡
構造規模　S(一部SRC)、B1F、11F、P2
工　　期　平成元年6月～平成2年11月
最 寄 駅　地下鉄東山線名古屋駅

撮　　影　そあスタジオ

さわやかな自然の風を味わえるよう配慮

名古屋駅前のオフィスや店舗が混在する一角に誕生したテナントビルである。一帯には新しい時代の容姿を備えたビルが建ち始めており、当ビルも周辺の街並みをリードする。

ゲームセンターや飲食店など、色彩が氾濫する建物が近接しているため、内外装は落ち着いたモノトーン基調にまとめられている。また、内部空間のデザインテーマである「自然」のやすらぎを高めるため、各フロアーの開口部は同一平面片引き窓が多用され、通風を十分に取り入れられるようになっている。また、パブリックスペースには自然の素材やモチーフを様々に取り込んでやすらぎを感じる表情を持たせた。壁面をFix部と同意匠にするとともに、サッシ枠のジョイントシールが見えないように化粧カバーを取り付け、外観をすっきりさせた。　（堀部吉洋／青島設計）



1階平面図　1:500

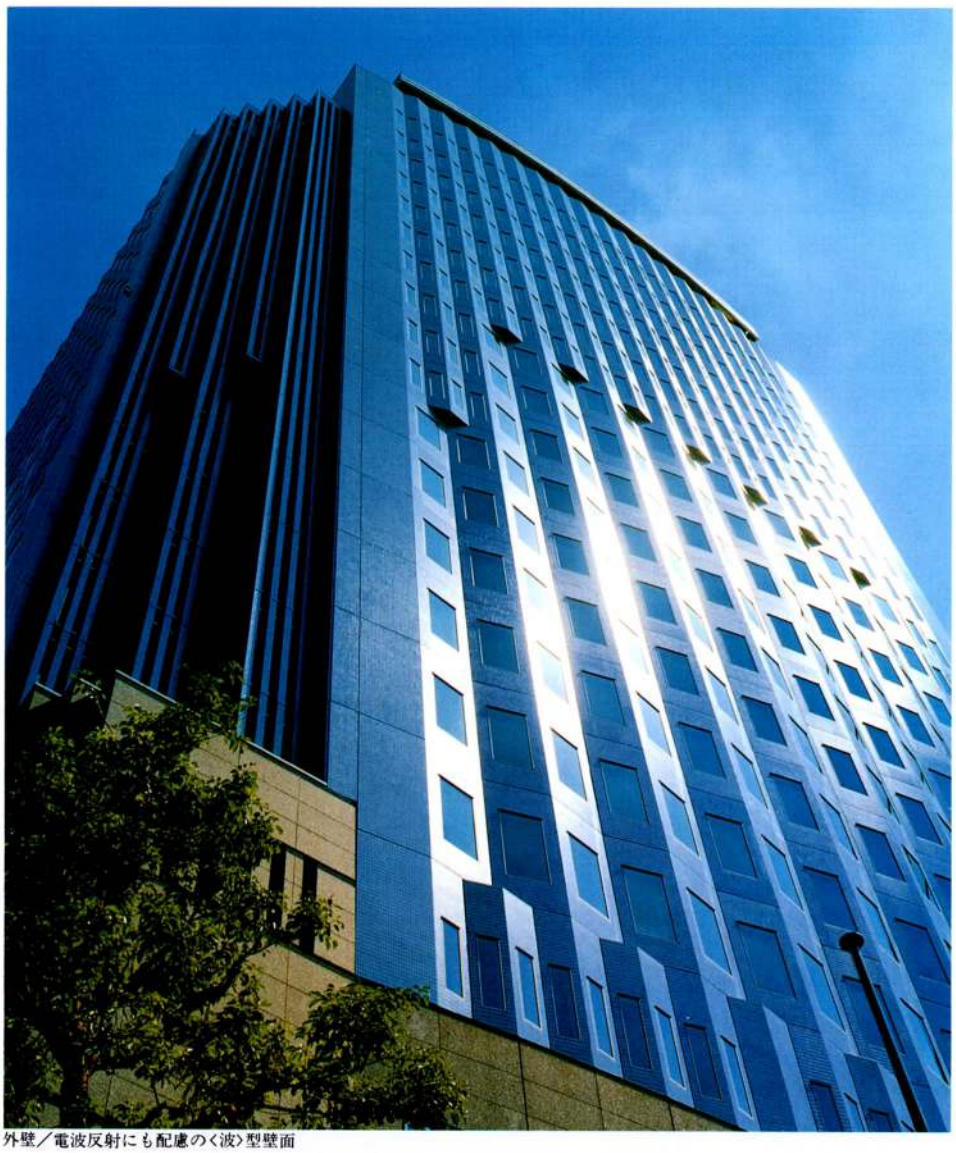

外観南西面


玄関廻り


1階玄関ホール

NHK名古屋放送センタービル

設計監理　日建設計・名古屋（設計協力 大成建設）
施　　工　大成建設・鹿島・矢作建設工業共同企業体


外壁／電波反射にも配慮の〈波〉型壁面

ＮＨＫ名古屋放送センタービルは、放送・情報・文化の発信拠点として、愛知芸術文化センターおよび名古屋市栄公園の総合整備とともに企画された。ＮＨＫとの共同事業として、都市部の高度利用をはかり、市民に開かれた空間づくりと、都市の活性化に寄与することを理念とした事業コンペが行われた。

設計は、主用途の放送局・市民プラザ・オフィスを立体的に複合させながら、周辺環境に調和する景観の創出、放送センターにふさわしいデザイン、ＮＨＫらしい空間づくりと放送機能の重視、市民プラザの活性化と開放的構成、豊かなアメニティをもつインテリジェント化などを重点としている。

中部地方で初めて屋内に設けられた、総合設計による公開空地は「開かれたＮＨＫ」の顔となる「市民プラザ」として、ＮＨＫの公開放送のほか各種イベントのできる空間となっている。オフィスゾーンは、高度情報化に対応するインテリジェントオフィスであり、中央にアトリウムをもつ口型の平面となっている。外観デザインは、高層部をシルバー色のラスタータイルで《波》型の壁面とし、情報発信のイメージ化と反射電波の拡散効果を配慮している。

（南石周作／日建設計・名古屋）

所 在 地　名古屋市東区東桜1丁目13-3
敷地面積　7,927㎡
建築面積　6,045㎡
延床面積　80,281㎡
構造規模　S、SRC、B4、2IF、PI
工　　期　昭和63年12月～平成３年６月
最 寄 駅　地下鉄東山線・名城線栄駅

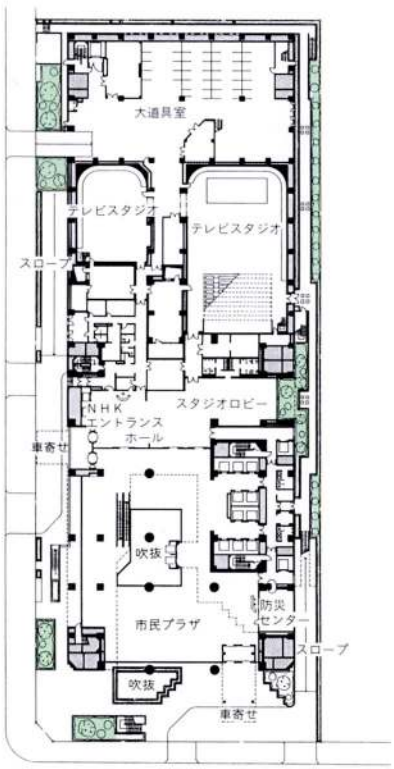
撮　　影　センターフォト


ＮＨＫ／報道スタジオ

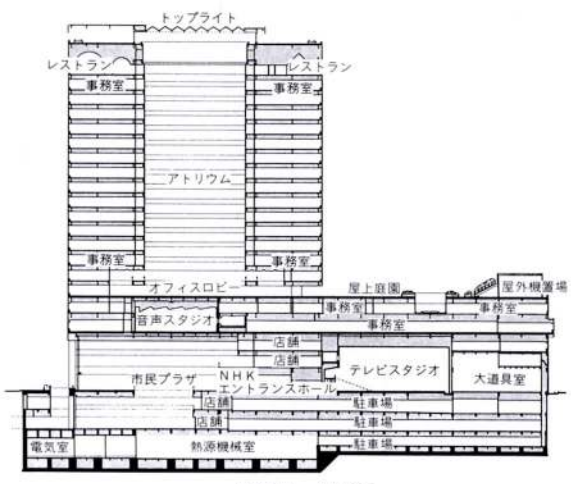

ＮＨＫ／スタジオ〈サウンドウェーブ〉



9階平面図　1：1500



1階平面図　1：1500



断面図　1：2000



外観／放送・文化・情報を発信する〈波〉のイメージ



アトリウム／オフィスのアメニティ空間



市民プラザ／アトリウムを結ぶシャトルエレベーター

サナルビルヂング
（佐鳴学院本部ビル）

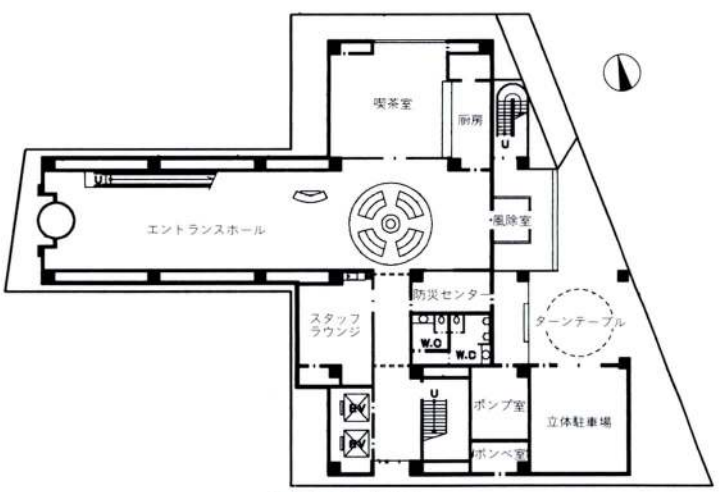
設計施工　大林組名古屋支店



外観西面



1階喫茶サナール



1階平面図　1：500

所 在 地　静岡県浜松市海老塚2丁目101-5 他
敷地面積　652.78㎡
建築面積　648.24㎡
延床面積　4,258.04㎡
構造規模　S、11F、P1
工　　期　平成1年12月～平成3年3月
最 寄 駅　JR浜松駅

撮　　影　SS名古屋

佐鳴学院は現学院長が昭和48年に創立した小・中学生を対象とした塾で、静岡県を中心に現在76校が東海道沿線に開校されている、教育方針は非常にユニークで、学院長自身も情熱をもって生徒に接しておられる。そんな学院長の永年の夢であった総本部ビルがこの浜松に竣工しました。
敷地は浜松駅に近接し市内でも屈指の高さを誇り東海道新幹線の車窓からも目立つ位置にあります。設計するにあたってのテーマは、豊かな人間性を育てる佐鳴学院の本部ビルとして、格調の高さと、個性化をシンボリックに表現することを目ざし、外観は大型特殊タイル打込みのほりの深い単窓のPC版にて重量感を、ハーフミラーガラスで構成するスリットタイプのカーテンウォールと三角のルーフフレームで高さを強調して、伸びる頭脳集団・佐鳴学院のイメージを演出しました。
平面計画は1～3階を外来者のためのオープンスペースとし、1階には3階まで吹抜けで高天井部にはトップライトを設けた白を基調にした明るいエントランスホールと喫茶室を、3階にはエントランスホールからエスカレーターにて直結している200人収容のホールを配し、4～9階までは本部の事務部門をまとめ、10階は、オーク練付パネルの壁面で構成する重厚な学院長執務室関係を、最上階である11階には各地区の先生方がオールタイム自由に利用できる屋上庭園つきの、浜松市街が一望できるスカイラウンジを設けました。

（小森紘次／大林組）


1階エントランスホール


学院長室


11階スカイラウンジ

モーニングパーク主税町

設計監理　鹿島名古屋支店＋KAPLAN・McLAUGHLIN・DIAZ
施　　工　鹿島名古屋支店

所 在 地　名古屋市東区主税町4－26
敷地面積　2,749.30㎡
建築面積　1,622.06㎡
延床面積　5,491.98㎡
構造規模　RC、5F
工　　期　平成1年12月～平成3年3月
最 寄 駅　市営地下鉄桜通線高岳駅

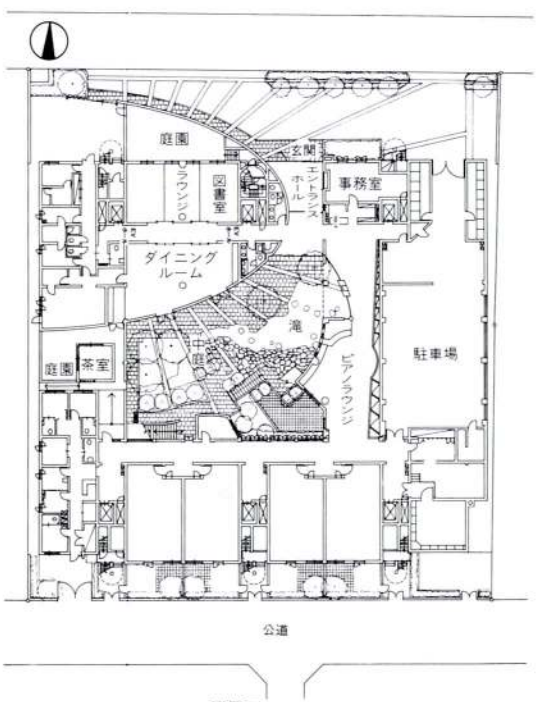
撮　　影　SS名古屋



外観西面



中庭西面



配置図　1:800

旧武家屋敷の面影を残す場所に、未だ元気な方々の高齢者向け高級マンションが誕生しました。
外観はまわりの住環境に合わせて極力低層の建物とし、落ち着きのあるグレー系の色彩としています。外壁の主な仕上げは、上の方はおとなしくタイルで仕上げ、1階部分には建物の基壇として石を多く用いています。窓、バルコニーは、戸建て感覚が出せるようそれぞれ独立させ、直交メタルフレームで区画を明確にしています。
建物は南北2棟からなり、この2棟が取り囲む中庭に、自然とのふれ合い、人々の集いの場を設けています。この中庭には、滝やベンチ、季節を彩る樹々などを設け、外部の憩いの場所としています。さらにその周辺部には食堂、ピアノラウンジ、ビューティサロン、茶室、大浴場、多目的室等を設けていて、内部の憩いの場と一体になるようにしています。共用施設をつなぐ廊下は、ライフサイクルが表現できるインテリアとし、豊かさを出しています。
住戸へのアプローチは、入居者へのサービスの向上とプライバシーを重視して、2戸に1台のエレベーターを採用しています。
住戸内は目にやさしいベージュ系の内装や、車椅子での生活を想定した数々の工夫がされており、快適な生活が出来るように考えられています。

（池田節夫／鹿島名古屋支店）


2階テラスよりの北棟外観


ピアノラウンジ


ダイニングルーム


住戸居間

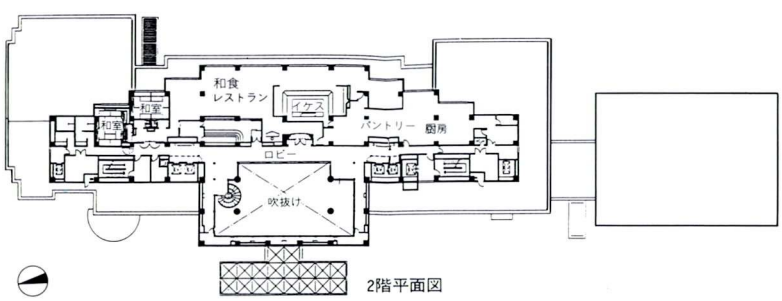

南棟1階廊下



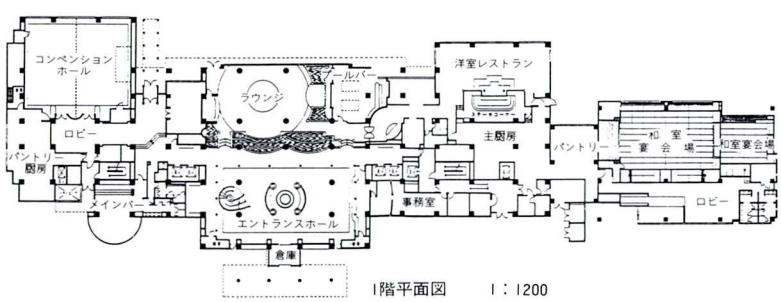
全景鳥瞰

プライベートリゾート エクシブ鳥羽アネックス

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　大林組



2階平面図



1階平面図　1：1200

所 在 地　三重県鳥羽市安楽島町二地169-2
敷地面積　16,033.00㎡
建築面積　3,314.73㎡
延床面積　19,320.84㎡
構造規模　S(一部SRC)、B1、17F、P1
工　　期　平成元年6月～平成3年4月
最 寄 駅　近鉄鳥羽駅

撮　　影　SS名古屋



ラウンジ



コンベンションホール



レストラン



エントランスホール

鳥羽市南西部にあり、小高い山々を背景に波静かな入江に面した自然環境の中に建設された当ホテルは、リゾートトラスト社が全国のリゾート地に展開している会員制のホテルである。

昭和61年に竣工した1期ホテルの二艘の白い帆船を思わせる本館棟と入江に面して帯状に拡がったコテージ棟に連続して、テニスコート等のあるレジャーゾーンと共に一体的に計画された高層ホテル「アネックス」で、同規模の200室を擁している。

緑豊かな丘陵地の間に計画した専用道路により、見え隠れする施設群に心の高まりと期待感を持ちながらアプローチする。

外観は白い壁とガラスで変化に富んだ形状を構成している。周辺の自然と相俟って、季節と時間により、刻々と表情をかえる。エントランスホールは3層吹抜の大空間をスペインの宮殿のパティオ的雰囲気に仕上げている。トップライトからもれる陽光、回廊のステンドグラスの優雅な色彩光、変化に富んだ水の流れと緑が、ゆとりと安らぎの空間を演出する。レストラン、コンベンションホールなどのパブリック施設、客室なども、全体的にスパニッシュコロニアル風のデザインでまとめている。客室からは眼下に入江や庭園を、岬の向こうには伊勢湾や島々、渥美半島を遠望できる。

人々がこの新しい環境の中で、快適で充実した安らぎの時間を送れることを願ってやまない。

（脇田一美／安井建築設計事務所）



外観(屋外プールより建物を見る)

水明館 青嵐荘

設計施工　竹中工務店名古屋支店

所 在 地　岐阜県益田郡下呂町幸田1268番地
敷地面積　19,889.88 ㎡
建築面積　 2,187.02 ㎡
延床面積　 3,294.00 ㎡
構造規模　W・SRC・RC・S、2F
工　　期　平成2年6月～平成3年9月
最 寄 駅　JR高山本線下呂駅

撮　　影　田中昌彦



当館は、天下の三名泉で名高いいで湯の里、下呂温泉を代表する旅館として、昭和7年に開業されました。旅館の利用形態も益々多様化するなか、他との差別化、個別化が強く望まれ、さらに文化的な欲求も高まってきています。今回の青嵐荘は、既設臨川閣の広大な庭のなかに、〝離れ〟として計画した木造数寄屋造りの宿泊施設を幹とし、「湯泉に入りながら、日本の伝統文化を楽しむ」をテーマとして、本格的な茶室と能舞台を配し、ひなびた味わいのなかに〝飛騨の匠の心を創る〟ことを主眼とし実現しました。

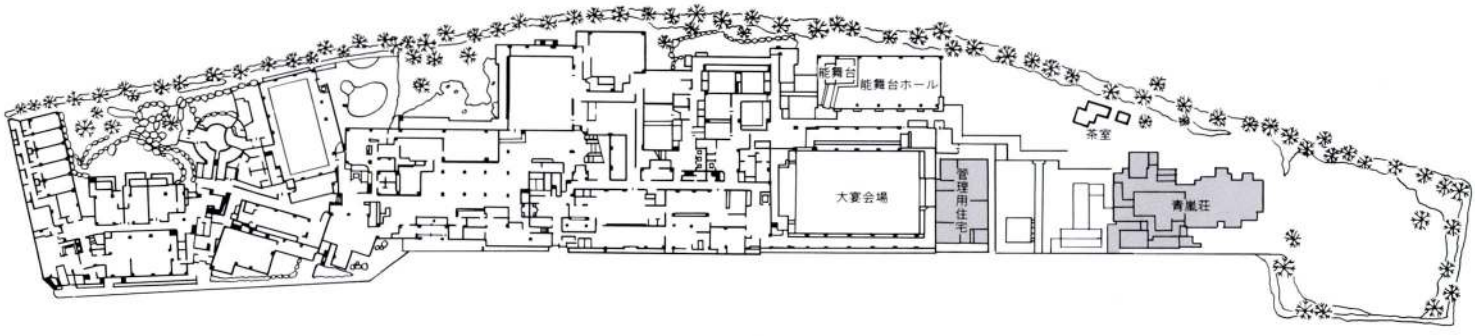
青嵐荘へは、他の宿泊施設とは別の大門をくぐり、臨川閣と向かいあった妻入の玄関から入ります。

外観は、切妻屋根日本瓦葺、一部銅板葺とし、伝統的な数寄屋造りの趣きを表現しました。平面計画は、茶会の時立礼席として使用でき茶室と一体をなすラウンジ、床を畳敷きとした客用廊下、坪庭を持つ35帖の座敷、ゆったりとした広さでそれぞれ雰囲気の異なった客室など、味わい深い人間性豊かな空間構成としました。

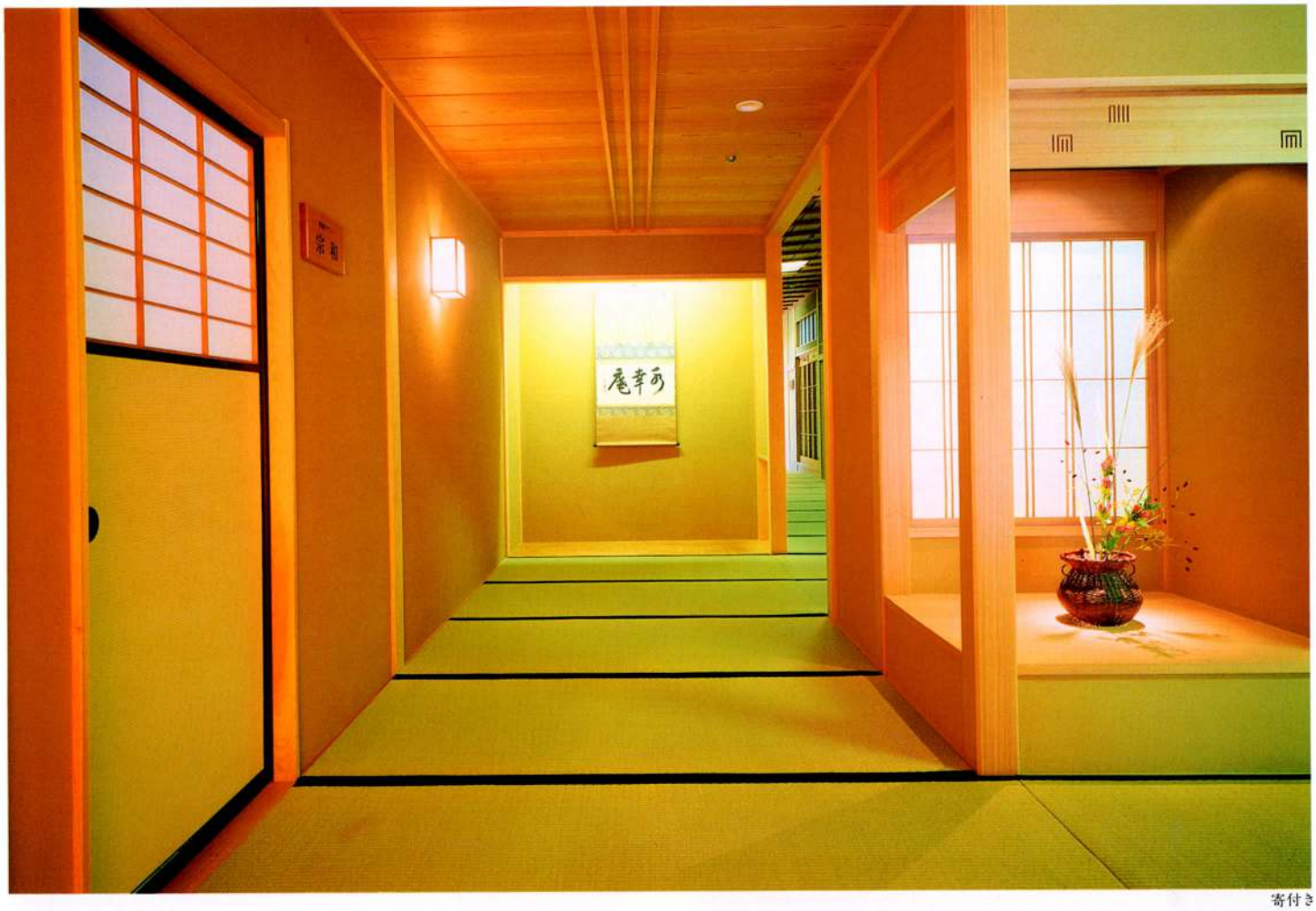
茶室は、地域性を重視した合掌造風の茅葺屋根とし、茶庭と向かいあい飛騨の自然にとけあって情緒を醸しだしている。内部は、四畳半台目の席で、水屋と手洗いを配しました。

又、既設臨川閣に隣接し1階に能舞台ホール、2階にはコンベンションホールを配しました。能舞台ホールは、通常は会議室、宴会場として使用され、前面の芝生庭園とをつなぐ電動吊り上げ窓は、瞬時に内、外空間を一体とし、会場の雰囲気を一層盛り上げるように構成しました。

（坂　文雄／竹中工務店）



配置図　1：1500



寄付き


ラウンジ「宗和」


座敷「千石」


茶室「水幸庵」


能舞台ホール「石橋の間」

豊田自動織機製作所
誠和ハイツ

設計施工　竹中工務店名古屋支店



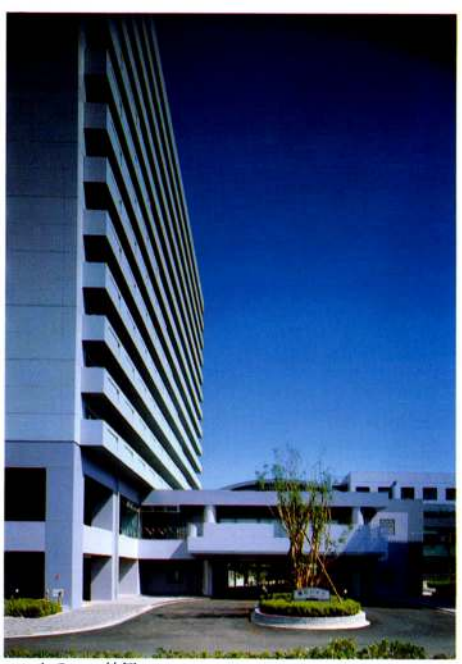
東面外観

所 在 地　愛知県大府市森岡町源吾4番地の21
敷地面積　18,915㎡
建築面積　 2,542㎡
延床面積　18,495㎡
構造規模　SRC、14F、P1
工　　期　平成1年10月～平成3年3月
最 寄 駅　JR東海道線大府駅

撮　　影　田中昌彦



北面外観



エントランス外観

敷地は、健康の森として大府市民に親しまれている「運動公園」と閑静な住宅地に囲まれた丘陵地にあり、市街を一望することができる。「21世紀を見据えた独身寮」を基本コンセプトとし、従業員の「生活をエンジョイする場」・「エネルギーチャージの場」として計画した。また企業のリクルート対策のひとつとして若者が求める施設とデザインをとりいれた。

1・2階はパブリックゾーン、3～14階はプライベートゾーン(514室の寮室)で構成した。

パブリックゾーンには、ピラミッド屋根の広くて明るいしゃれたレストラン、グラスを傾けながら景色が楽しめる円形の談話コーナー、夜食用のナイトレストラン等「楽しく歓談しコミュニケーションをはかれる場」を設け、サウナ、バイブラバスを備えた大浴場、フィットネスコーナー等「疲れをいやす健康増進施設」を計画した。

寮室は、間仕切の遮音レベルと収納スペースの確保のために個別冷暖房設備・AV棚・本棚・洋服ダンス等を組み込み開発した多機能家具と洗面化粧台、電話、冷蔵庫、BS受信設備を設置しプライバシーの確保と個室の機能の充実をはかった。

また、在室管理、食費・電話・電気料金管理や防災設備管理等全てコンピューターにより集中管理できるようインテリジェント化をはかった。

外観デザインは、高層部を「飛翔する若者」をモチーフとしてリズム感のあるバルコニーと力強いフォルムで表現し、低層部は、楽しく明るい内部空間を変化のある外壁と屋根で構成した。

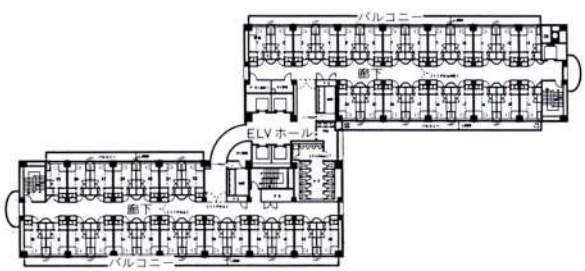
(田中了介／竹中工務店)



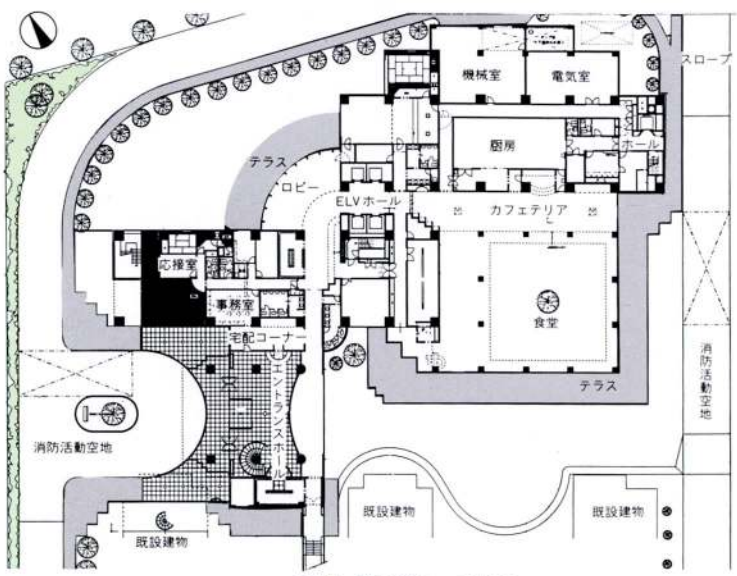
談話コーナー



食堂



2階平面図



配置図・1階平面図　1：1000



寮室

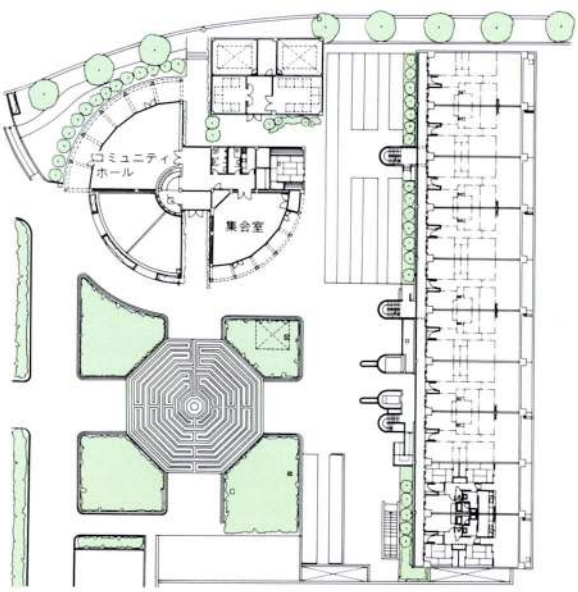
住戸棟・コミュニティ棟北面外観

メゾン三好ヶ丘 第1期

設計施工　竹中工務店名古屋支店



配置図　1：2000



1階平面図　1：1000



住戸棟 南東面外観



住宅棟 東面外観



リビングダイニングルーム

当敷地は名古屋市の東部丘陵地帯の私鉄沿線に住宅・都市整備公団により「アートヒル三好ヶ丘」のネーミングにて開発造成された郊外型住宅団地内にあり、企業の厚生施設として計画された。工事は２期に分かれ今回南住戸棟、コミュニティ施設と中庭広場、駐車場棟が実施されました。計画にあたり「ランドマークとなるシンボル性の高いフォルム造り」、「シティ感覚あふれる豊かな環境の永住型社宅の創造」を基本コンセプトとしました。

住戸棟はアール屋根のリズミカルなフォルムにより周辺の低層住宅地への環境保持に配慮するとともに、シンボリックなシルエットを表現しました。外部階段、エレベーターシャフトも縦の曲面ラインで構成し北面のフォルムに優しさと高級感を感じさせるポイントとしました。

外装は周辺の豊かな緑にマッチするようベージュ系磁器タイルをツートン貼とし壁面にアクセントをつけました。構造面ではエスレンボイドスラブの採用により小梁のないシンプルな天井とし、シンプルな室内環境を確保しました。

コミュニテイ施設は中庭広場とともに団地内のコミュニケーション活動の中心となるよう位置づけ、周辺住民も使用出来るよう開放的なプランとしました。外装は住戸棟と異なるライトグレー色磁器タイルを採用し鋭角的なフォルムと共に施設の存在感を強調しました。中庭広場はタイル貼にて迷路模様を描き、子供達の遊び場として又、住戸棟上階からも楽しめるよう工夫しました。

今後この施設が単に社宅としてだけでなく地域と同化し、同地域の風景の一つとしてなじんでゆく事を願っています。　（俵谷宗作／竹中工務店）

所 在 地　愛知県西加茂郡三好町大字福谷字南井山17-46
敷地面積　7,752.00㎡
建築面積　1,602.19㎡
延床面積　9,494.19㎡
構造規模　SRC(一部S)、11F
工　　期　平成２年３月～平成３年３月
最 寄 駅　名鉄豊田新線三好ヶ丘駅
撮　　影　青山賢三



コミュニティ棟 外観



コミュニティホール

外観東北面

奈良若草カントリー倶楽部 クラブハウス

設計　東畑建築事務所名古屋事務所
監理　東畑建築事務所大阪事務所
施工　大林組・鴻池組 JV



全景鳥瞰

㈱シンコーグループ４番目のコースとして計画された当コースは、Ｊ・ミラーにより熟考された高い戦略性に加え、さまざまな趣きの庭園・小川・池・滝・噴水等に彩られた美しいコースとして完成した。

計画当初、古(いにしえ)の都奈良の地にこれまでにないクラブハウスを目指し寝殿造りがイメージされた。

各々の用途の棟を独立させ機能的に配し、渡り廊によりつながれ周囲に築地塀をめぐらせた手法…その形態を踏まえて凝縮し、重なりの隙間にそれぞれ趣きのちがう中庭・坪庭・雄大な滝のある庭園等を配した。

棟々の重なりあう様相は周囲の自然な山々の連なりにほどよく融和している。

内部においては「和」の贅を尽くしながら華美に走らず優雅で気品のある空間を目指し、近年増加の女性グループに対しては、４人専用使用のコンパートメントロッカー室、広い浴室、サウナルーム、露天風呂等男性に負けぬ充分な設備を設けた。

また、プレイ中の食事については、当地の伝統的な造りである大和棟のランチハウスを別棟に設け、ハウス内レストランはアフタープレイ専用とし、それぞれ機能性とゆとりのあるサービスを実現した。

（平木晶幸／東畑建築事務所）



ラウンジ

所 在 地　奈良県山辺郡都祁村大字上深川字モチダニ
敷地面積　1,564.170㎡
建築面積　6,290㎡
延床面積　9,500㎡
構造規模　RC、3F(屋根S)
工　　期　平成1年4月～平成2年10月
最 寄 駅　近鉄大阪線榛原駅

撮　　影　SS大阪



玄関ロビー



配置図　1:8000



食堂「寧楽」

みずなみC.C.クラブハウス

設計施工　大成建設名古屋支店

所 在 地　岐阜県瑞浪市釜戸町字論栃2385－1
敷地面積　1,277,553.0㎡
建築面積　2,484.176㎡
延床面積　3,555.774㎡
構造規模　BI RC、IF S
工　　期　平成2年1月～平成2年12月
最 寄 駅　JR中央線 釜戸駅

撮　　影　青山賢三



渡り廊下から滝を見る

「みずなみC.C.」は、瑞浪市東部の緑に恵まれた丘陵地に位置している。ゴルフコース全体の設計監修を、川田太三氏があたり、「自然とのバランス」のコンセプトをハウスにもつなげ、自然と融和した形態に心掛けた。

18番のコースを軸線に配置されたクラブハウスは、地形を利用して、アプローチ側を平屋建とし、ヒューマンなスケールの導入となっている。

エントランスを入ると、前方にはフェアウェイが広がり、ゴルファーの心理的高揚を喚起する演出がなされている。

ホールと食堂、コンペルームを各々別棟とし、それを開放的な渡り廊下でむすび、滝や池を配して雰囲気づくりに配慮した。

インテリアは木とプラスターの素材感を生かした落ち着きと親しみを感じさせる構成とした。

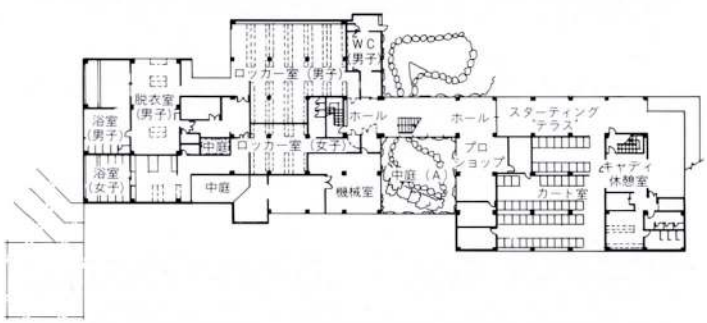
コースのいたるところから眺めることのできるクラブハウスは、雁行する3棟の形態が山の稜線と呼応し、コース内の位置によって変化をし楽しさを創り出している。　（吉村　保／大成建設設計部）



ホール



2階平面図　1:1200



1階平面図



コンベルーム



レストラン

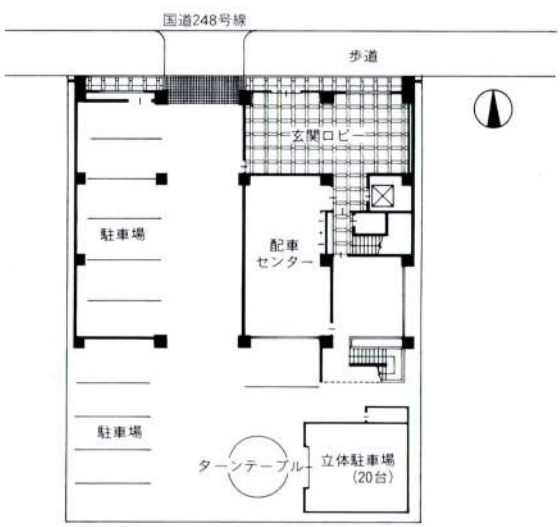
岐阜交通株式会社本社ビル

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　岐建木村

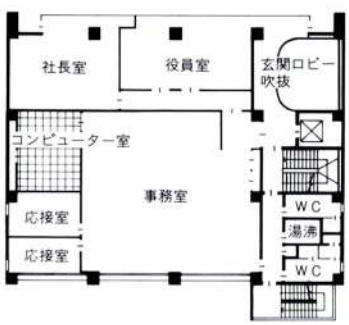
電　　気　トーエネック
衛生・空調　川崎設備工業
機械駐車　新明和工業



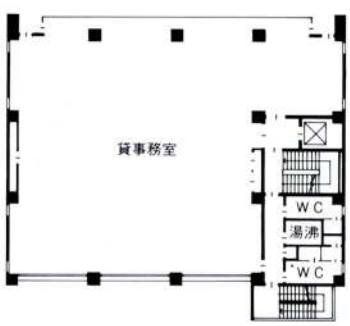
南側遠景



配置図・1階平面図　1：500



2階平面図



4～6階平面図

岐阜交通株式会社は、昭和25年創業、所有台数200台余の県内屈指のタクシー会社である。県下でもいち早く領収書発券機を全車両に搭載したり、AVM（車輌位置表示装置）システムを導入するなど、顧客の利便を第一に考えてこられたと聞いている。

織田信長ゆかりの岐阜城を頂く金華山、その南懐という意味のここ"華陽"の地は、岐阜市街の東部にあり、岐阜と名古屋を結ぶ国道22号線の北の終点にほど近い交通の要衝にある。敷地北側の国道248号線は、岐阜市街を東西に貫く幹線道路であり、昔懐かしい路面電車も走っている。

昨今のモータリゼーションの激化は、タクシーの需要増加をもたらす反面、その運転手という職業を益々過酷なものへと変えてしまった。そこで創業40周年を機に、郊外の老朽化した本社をこの地に建替え、更にはCIを導入することで、会社のイメージアップと執務環境の向上を図ることになった。

この建物は、タクシー会社の心臓部である配車センターを1階に、本社機能を2・3階に、4～6階には貸事務室を設けている。また、別棟で20台の立体駐車場を設けている。

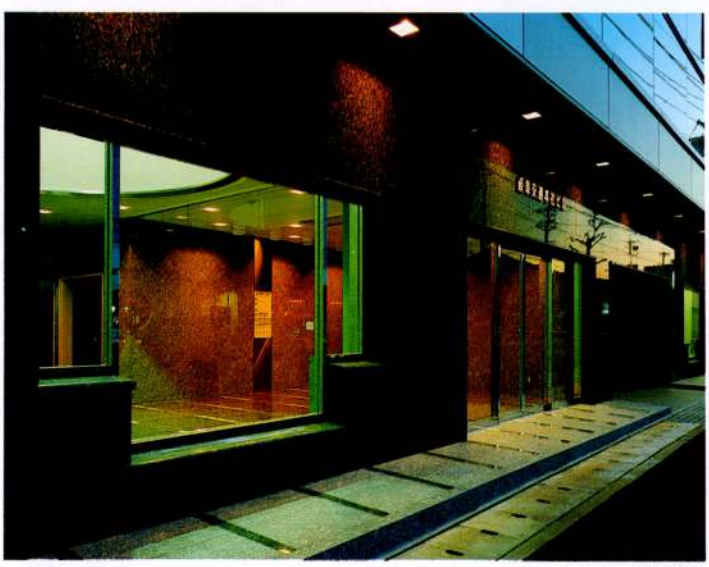
（小田義彦／伊藤建築設計事務所）

所 在 地　岐阜市東興町26、27番地
敷地面積　682.00㎡
建築面積　424.15㎡
延床面積　2,213.21㎡
構造規模　RC、6F 他
工　　期　平成2年6月～平成3年4月
最 寄 駅　名鉄美濃線競輪場前駅

撮　　影　加藤敏明



北西面外観


玄関廻り


玄関ロビー

トヨタ自動車 田原事務館

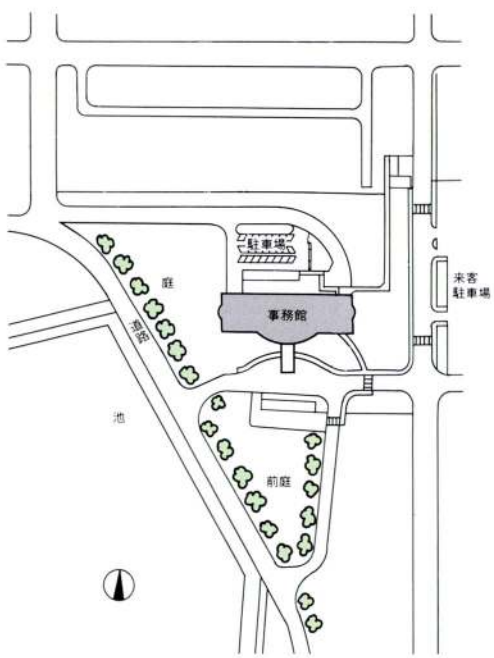
設計　トヨタ自動車一級建築士事務所・大成建設名古屋支店
監理　トヨタ自動車一級建築士事務所
施工　大成建設名古屋支店



外観南西面



玄関廻り



配置図　1：5000

この建物は、東三河臨海工業地帯の田原地区内に建設された、トヨタ自動車田原工場の一角にある事務館である。
事務室・食堂・会議室および接客スペースで構成されている。
計画にあたり以下の3点を基本コンセプトとした。

1.景観の活用

海や緑に囲まれた環境との調和をテーマにし、配置は各道路よりの見え方を検討の上建物を南側道路軸の中心にした。これにより修景を望みながら求心的なアプローチを可能にした。また、近接する池を残すことで西側道路より池越しの美しい景観が確保できた。

2.最新鋭工場にふさわしいファサードの創出

外壁を工場の無彩色と異なる暖色のタイルでまとめ、のびやかな横連窓で水平のもつ安定感と明解さでハイタッチで格調ある表情とした。

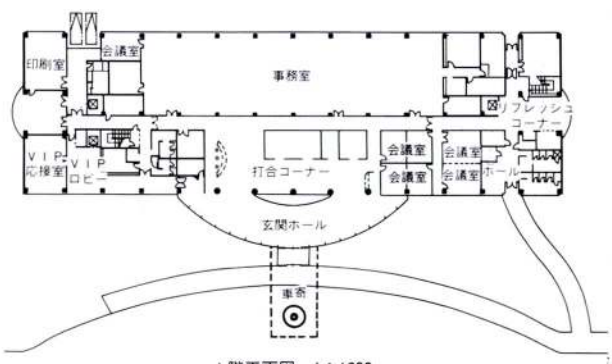
3.接客ゾーンの充実

玄関ホールは充分な広さをとりながら突き当たりに中庭を設けることにより、ショールームとしても活用できるアメニティあふれる空間とした。
国内外要人のための接客スペースが確保され、1階から専用通路で3階まで導かれる、ここでは工場説明、休憩、食事まで対応できる施設内容となっている。

（泰　　誠／大成建設設計部）

所 在 地　愛知県渥美郡田原町緑ヶ浜字3号1番
敷地面積　3,727.849㎡
建築面積　2,015㎡
延床面積　7,039㎡
構造規模　S、3F、PI
工　　期　平成2年11月～平成3年7月
最 寄 駅　豊橋鉄道線田原駅

撮　　影　SS名古屋



1階平面図　1：1200



1階事務室



1階玄関ホール



1階～2階　リフレッシュコーナー

日本ガイシ本社社屋

設計監理　日建設計・名古屋
施　　工　鹿島・大林組共同企業体



外観／企業ＣＩを表現するシャープなデザイン



中庭／神宮公園を意識したみどり



外観／外観はメタリックシルバーのエンボスホーローパネル

所 在 地　名古屋市熱田区六ツ野町1－307
敷地面積　71,540㎡
建築面積　 4,500㎡
延床面積　29,450㎡
構造規模　S、B1、12F、P1
工　　期　平成1年3月～平成2年11月
最 寄 駅　JR・名鉄 金山駅

撮　　影　SS名古屋

敷地は名古屋市の産業活性化計画において産業の知的創造性を高め促進する〝熱田の森トライアングルゾーン〟のなかに位置する工場跡地である。セラミック系製品の製造メーカーの新社屋として当地区に経営の中枢機能を集中するとともに、隣接して研究開発ゾーンを整備する全体構想のもとに建設した。

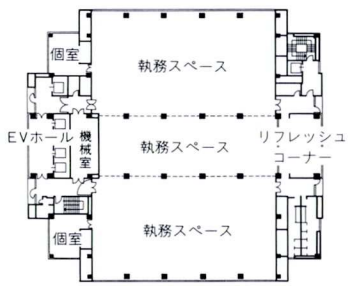
研究開発ゾーンからの利用や将来計画を考慮して厚生棟を中心とした配置としている。また、市内では恵まれた敷地の広さを生かし、建物周辺には充分なオープンスペースと緑を確保しており、地域環境の向上に寄与し、あわせて地域に開かれた企業としてのイメージを高めることに貢献できたものと考える。

外装はホーロー鋼板（NGKウォール）メーカーの本社であることから設計段階より全く新しいイメージのパネルの開発・試作を進めた結果、シルバーグレーのメタリック艶消しエンボスパネルを採用した。高性能熱線反射ガラス、耐候性型鋼サッシュとの組合わせによりシャープな外観を形成している。事務室は一人あたりの床面積や天井高に充分なゆとりを確保し、眺望の開かれたエレベータホール、広々としたリフレッシュゾーンなどアメニティの高いオフィスとなっている。

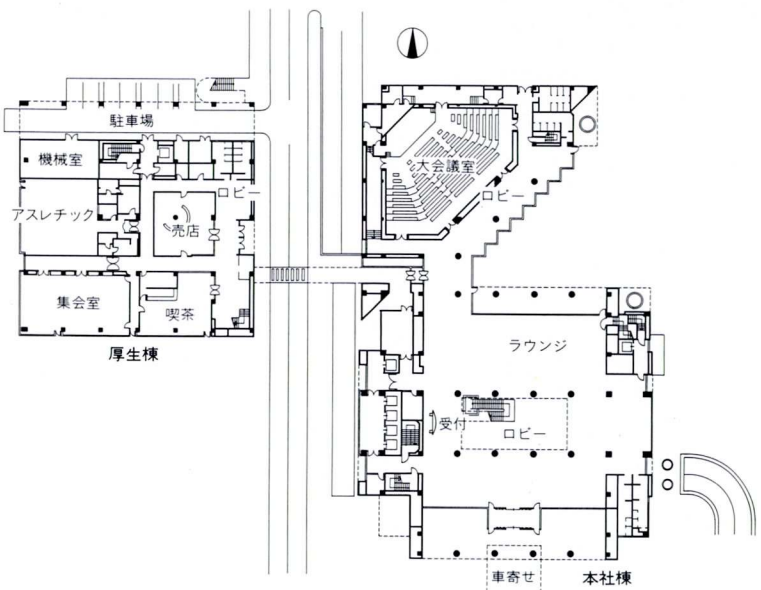
（高山順行／日建設計・名古屋）


本社棟―エントランスホール

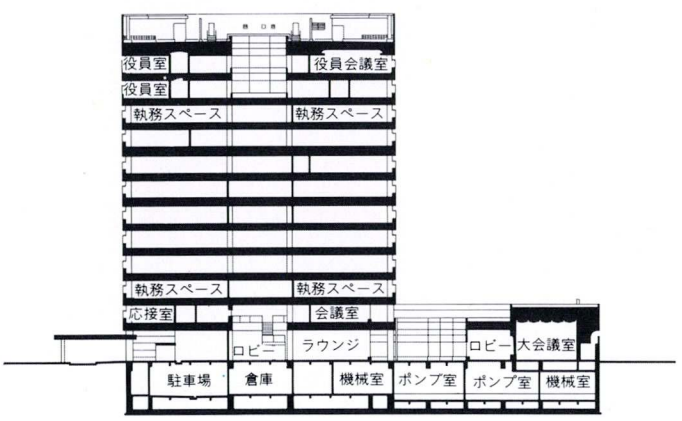

大会議室ロビー



基準階平面図　1：1200



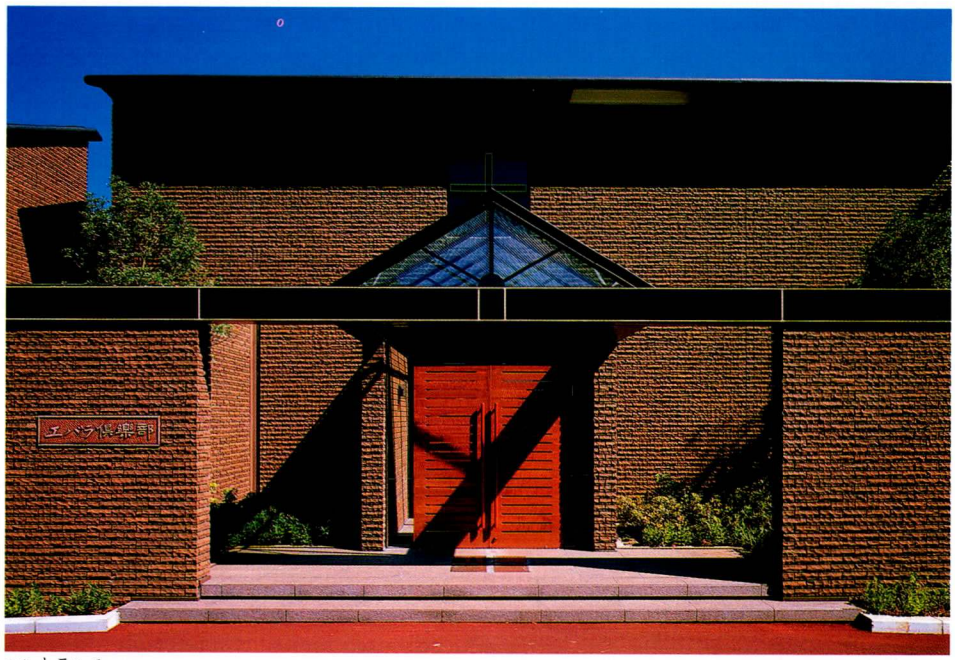
1階平面図　1：1200



断面図　1：1200

エバラ倶楽部

設計施工　清水建設名古屋支店



エントランス


中庭よりリビングルームを見る


アプローチ

所 在 地　静岡県伊東市吉田字大東片瀬
敷地面積　4,499.65㎡
建築面積　795.93㎡
延床面積　1,369.55㎡
構造規模　RC B1、2F、P1
工　　期　平成1年5月～平成2年4月
最 寄 駅　JR伊東線伊東駅

撮　　影　アラ井建築写真

“自然との融合をめざして”

建物は、伊豆一碧湖に程近く、晴れた日には遠方に富士山を望むことのできる分譲保養地内に位置している。

世の中のリゾートブーム・企業のリクルート対策を横睨みしたＣＩブームに乗せられ、ホテル並みの設備を整えた都会的な研修所・保養所が林立してゆく中で、『保養』という原点に立ち戻り、都会の喧騒から逃れ安らかに時を過ごすための空間づくりを試みた建物である。

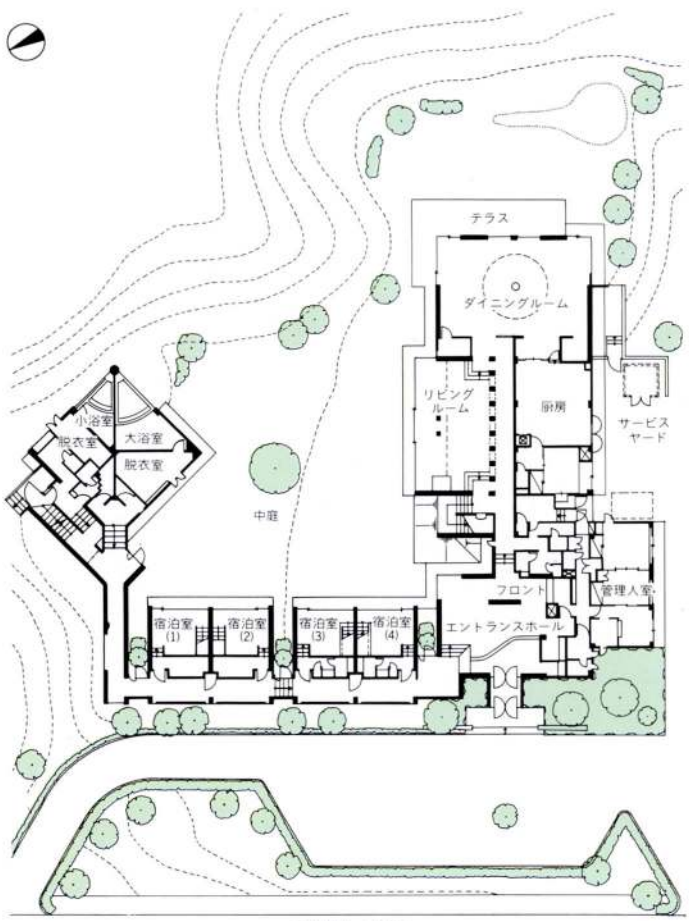
周囲の豊かな自然環境との接し方を、①遠景として眺める自然　②近景として真近に感じる自然　③只中で体験する自然　と段階的にとらえ、それぞれの接し方を意識した建築・植栽計画としている。配置計画としては、□字型（半囲い型）配置とすることにより、分譲保養地内の道路・隣地に対して防御する一方、緑豊かな自然をプライベイトガーデンとして中庭に取り込んでいる。断面的にも、敷地のレベル差をうまく利用する等、自然のコンテクストを生かした配置計画としている。

プランニング的には、パブリック・プライベイトを明確にゾーニング分けした上で、宿泊室・研修室等の建築空間構成要素が外観上それぞれの単位として識別できるようにホロン的に取り扱っている。

内・外装の仕上材料は、装飾的要素・人工的材料をなるべく避け自然的な材料を多く用いることにより、人工的なものに取り囲まれた日常生活から離れ、本来の自分を取り戻すことのできる環境に浸れるように心掛けた。

（栗山茂樹／清水建設名古屋支店）

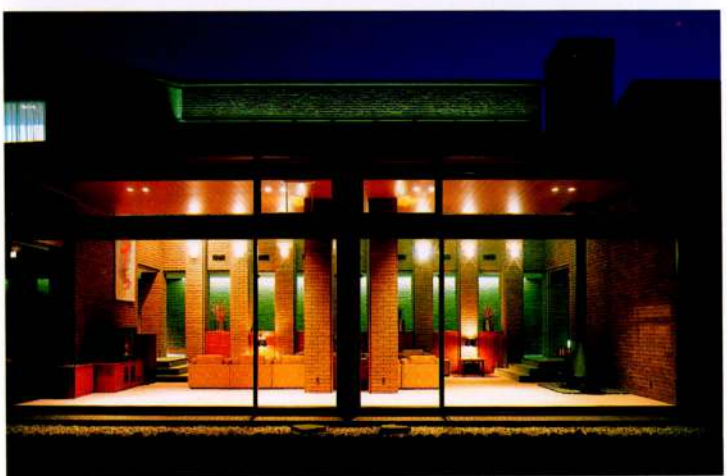
中庭(プライベートガーデン)



配置図　1:600



リビングルーム



リビングルーム夜景

濃飛ニッセイビル

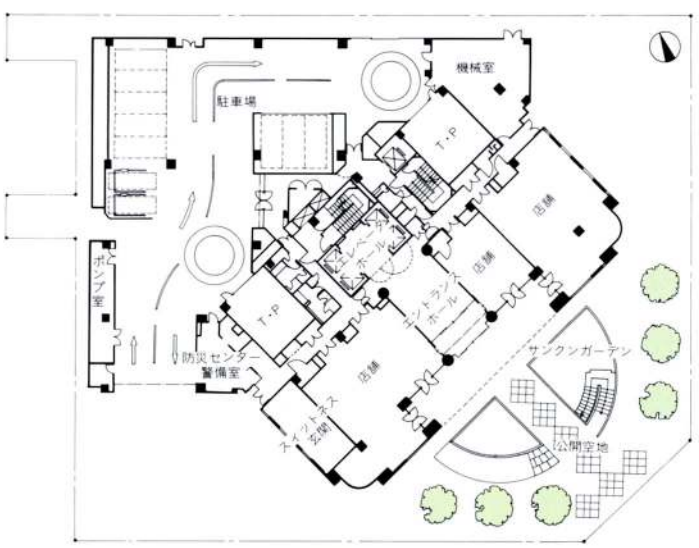
設計監理　清水建設名古屋支店
施　　工　清水・鹿島・大日本土木建設共同企業体



ビルエントランス アーチ部分

所 在 地　岐阜県岐阜市橋本町2丁目8番地
敷地面積　3,039.530㎡
建築面積　1,888.154㎡
延床面積　18,904.771㎡
構造規模　S、(一部SRC)、B1、15F、P1
工　　期　昭和63年12月～平成2年7月
最 寄 駅　JR東海道本線 岐阜駅

撮　　影　SS名古屋



配置図　1：800

都市環境に寄与する公開空地

新しい街づくりを目指し、ＪＲ岐阜駅北口再開発と貨物ターミナル跡地である香蘭地区開発を積極的に推進している岐阜市で、その駅前再開発区域に隣接し香蘭地区の入口となる敷地に、それぞれの先駆として、計画と一体となった質の高い建物を計画した。角地の敷地特性を生かし建物を45°振って配置することにより、三角形の主広場を持つ緑豊かな公開空地を設け都市環境に寄与することを目指した。

都市景観へのインパクト

街の新しいランドマークとして、かつ香蘭地区へのアーバンゲートとしての意味を合わせ持った高層の建物を目指した。時代の流行に流されることなく、いつまでも存在感のある外観を意図し、公開空地に面して、ビルのエントランスとなる大きなアーチを設け、外観を特色づけている。

また、高層棟のコーナー部と、公開空地はライトアップされ、鵜飼や、長良川の花火等、観光都市岐阜市の夜に色どりを添えるべく、計画した。

インテリジェントとアメニティー

当建物は低層と高層と異なった機能を持つ複合ビルとして計画した。

低層にはフィットネスクラブ、公開空地からカスケードに添ってアプローチする地下飲食店舗、クリニック等があり、４階から14階までをインテリジェントオフィスとし、15階を、貸会議室フロアーとし、さまざまなテナント要求に対応できるように計画した。

機能の複合化と緑豊かな公開空地により、質の高い快適なオフィス環境の創出を目指した。

（冨士覇王／清水建設名古屋支店）



正面側ファサード



エントランスホール



サンクンガーデン



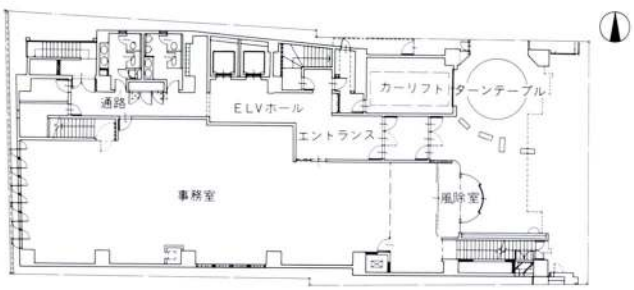
夜景



外観東北面

コスモ栄ビル

設計施工　鴻池組名古屋支店



1階平面図　1:500

当ビルの立地は、名古屋市中区栄三丁目で、市内でも有数な商業、ビジネス、文化の中心的地域に位置している。また、当ビルが面する南大津通り沿道は、近年商店街振興組合「ピュアO^2」をキャッチフレーズに、美しい都市景観づくりを推進している地区でもある。このような恵まれたロケーションのもとで、コスモ証券名古屋支店の旧店舗を解体した跡地に、インテリジェント対応型の賃貸オフィスビルを提案した。

設計上特に配慮した点は、第一に、ビルのファサードは高性能反射ガラスとバックマリオンタイプのアルミカーテンウォールによるシンプルであるが、大胆なインパクトを与える窓面と、周壁部には逆に天然素材特有のソフトなテクスチュアのバーナー仕上花崗石による構成を提案し、ハイセンスな町並みにマッチしたデザインとした。

第二に、一階ピロティのアプローチ計画である。当ビルのキーテナントであるコスモ証券と、その他基準階のテナント事務所への共用エントランス、地下テナントへの専用アプローチ、さらには、ビル共用の駐車場の入出庫アプローチを、道路に面した15mの間口に、各動線を機能面で、安全にかつ明快に配置し、調和のとれたデザインとした。

また第三に、構造計画上の特徴としては、全面道路境界から地上二階部分までは2.5mセットバックし、貸室内はフレキシブルな利用が図れるための無柱空間と、梁型が出ないフラットな天井面を確保、トータルで建物躯体の軽量化を図った。

また、ビルの省エネ及び管理面からのニーズも重要なポイントであり、二方向避難ルートの確保はもとより、ビル全体の不燃化と、各テナント出入口でのカードロック方式による機械警備が採用された。

これにより防災面及びセキュリティーの面でも充分な配慮がなされ、ハード及びソフト両面から、設計コンセプトである良好な執務空間を持った情報化対応未来指向型ビルが誕生した。

（加藤佳三／鴻池組名古屋支店）



玄関廻り


エントランスホール


エレベーターホール

所在地　名古屋市中区栄三丁目704－1
敷地面積　630.24㎡
建築面積　554.38㎡
延床面積　5,477.27㎡
構造規模　SRC、B2F、9F、PI
工　期　平成元年11月～平成3年2月
最寄駅　名古屋市営地下鉄東山線栄駅

撮　影　SS名古屋

東海スケッチ

凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



豊川社会保険事務所庁舎

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：淺沼組
a．愛知県豊川市金屋町32番地
b．1,025.42㎡
c．　498.76㎡
d．　961.73㎡
e．RC、2F、他
f．1990年10月～1991年3月
g．名鉄稲荷口駅



岐阜銀行岐南支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：岐南興業
a．岐阜県羽島郡岐南町八剣1-18、19
b．1,582.50㎡
c．　430.80㎡
d．　576.76㎡
e．RC、2F
f．1991年5月～1991年11月
g．名鉄名古屋本線岐南駅



北伊勢信用金庫川越支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：中村組
a．三重県三重郡川越町大字高松字天神30-1
b．1,096.50㎡
c．　292.26㎡
d．　251.92㎡
e．S、一部RC、平家建
f．1991年6月～1991年11月
g．近鉄名古屋線富洲原駅



愛知銀行荒尾支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：矢野建設
a．愛知県東海市荒尾町恵毛66-1 他
b．1,280.79㎡
c．　410.45㎡
d．　751.96㎡
e．RC、2F
f．1991年6月～1991年11月
g．名鉄河和線聚楽園



白馬47スキー場 ベースセンター レストハウス「アリス」

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：熊谷組
a．長野県北安曇郡白馬村大字神城字南ノ沢27539 他150筆
b．1,288,066.00㎡
c．　716.87㎡
d．　1,081.89㎡
e．S、一部RC、2F
f．1991年7月～1991年11月
g．JR大糸線白馬駅

座談会

建築とデザイン

出席者

伊藤和子
（中部日本放送アナウンス部専任部長）

河邉信行
（名古屋市建築局営繕部長）

寺本英一
（鴻池組名古屋支店営業総括部長）

森口雅文
（伊藤建築設計事務所取締役設計監理総括）

司会

中島　一
（愛知工業大学教授、本会東海支部長）

と き
平成4年1月28日（火）18：00～19：20
ところ
ホテルライオンズプラザ名古屋会議室



座談会風景　左より伊藤、森口、中島（司会）、河邉、寺本の諸氏

司会（中島）　建築をつくるということは、なんといいましてもヴトルビュースの思想の中などでは、ただひたすら建築を創るだけでなくて、まちをつくる、機械をつくる、時計までつくるんだ。むろん機械をつくるのも建築家の役割だと、この様なことを言っております。しかし、現代ではそんな広範囲のものまで建築家が携わるわけにもまいりません。社会的な組織とか、あるいは社会の要望というものが非常に複雑多岐にわたってきました。個人の住宅から大きくは公共建築、公共施設、都市の建設までかかわっているなかで非常に専門分化をしてきたわけです。そういう中で、それぞれ専門を生かしながらも、目標というものは終局的にはまちをつくっていくということでありまして、よく言われますが、国民の生命と健康と財産を保護することによって楽しい生活空間をつくっていくということがねらいの中に入っております。今日はそういったことで、とくに〝建築とデザイン〟についていろいろとお話を拝聴いたしたいと思っております。

まず最初に建築のイメージということですが、我々には幼ない頃から現在まで、建築の中にいろんな面で肌で感じ、直接目で見て感じてきたものがあると思います。幼ない時に感じておられた建築のイメージ、住宅を含めて、現在に至るまでの経過のなかで、あるいはイメージが変わってきたかもしれませんが、お一言づつお願いしたいと思います。

伊藤　私は建築というものに興味を持ったのは非常に遅いんです。最近10年ほど、ラジオ・テレビで住宅関係・建築関係の番組を担当しまして、最初はただアナウンサーとしての関わりだったんですが、もしかしたら、建物、町を含めた、建築という言葉で表現されるものは、人間が生きていくうえで一番大切なものではないかと思うようになりました。子供の教育から、食生活、人間関係、もちろん健康管理も含めて、これをいい加減にしておくとだめだと思います。ついこの間もある庄屋さんの古い民家を見学したんですが、その家では陽の当たる方はお客さまや公の場で、家族の暮らしの場はというと、図面の上でも哀しいくらい小さくて悪い場所にこちょこちょとしかありません。よくあれで昔、たくさんの子供を育てたなあと思う位の住環境だったわけです。10数年前まではこのようなことには無関心だったわけです。まだまだ勉強していかなければならないことばかりです。

幼ない頃の建築のイージ

森口　幼ない頃から今までの建築のイメージというのは、私なりに考えてみたんですが、まず、自分の育った家がモノクロ映画の様に浮んできます。私は京都の出身でして、父の仕事の関係で二条城のすぐ東側の友禅の職人さんがたくさん住んでいる、いわゆる職人処で育ちました。間口が5間、奥行20間という典型的な京都の町家で、うなぎの寝床ともいわれています。界壁はそれぞれにありますが、わずか2～3寸（6～9 cm）のすき間ぐらいしかない。借家の住まいだと界壁は一重という。そういうところで育ちました。当然そういう細長い家ですから、通風や採光をはかるためには中庭は欠かせないものでして、私の家でも大小三つの光庭がありました。ですから建築手法として教わったコートハウスなど格別感慨をもたな

かった記憶があります。表から裏庭まで通じた小屋組が露出したその奥に天窓をもった通り庭も特徴の一つです。といった自分の育った家、木造の家というのがまず一つあります。つぎにその頃は建築として意識したわけではないですが、たまたま中学校・高等学校は同志社へ行ったものですから、中学生になって初めて本格的なレンガ造の建築との出会いがあります。今では国の重要文化財に指定されている、彰栄館と礼拝堂でレンガ造としては著名な建物です。小学校の校舎は当時ではめずらしい鉄筋コンクリート造でしたが、レンガ造のもつ温かさに不思議と心のやすらぎを覚えたことが思い出されます。話がそれますが当然、レンガ造だと本式の定礎石があるわけです。何故か玄関脇の白い御影の定礎石が印象的でした。それから彰栄館に関してもう一つ、私の中学生の頃といえば、どんどん学生数が増えたものですから、キャンバスの増改築が盛んでした。この彰栄館にも増築という話があって、親たちの寄付で増築が実現しました。レンガ造の彰栄館にくっつけて鉄筋コンクリート造で増築されました。今なら考えられない手法ですが、そのときのショック、というのは今だに思い出されますが、鉄筋コンクリート造の校舎としては、当時としては上等なタイルが張ってあったと思うんです。また、中は明るく、確かに使い易くはなったわけですが、木に竹を継いだというか、似てはいますが全く異質のものをくっつけて建築されたというのがそのときの印象でした。その頃はまだ特別に建築に関心があった訳ではありませんが、子供心に強いショックを受けた記憶があります。それが二つ目です。

それからもう一つ、これは先の二つのこととは全然違う話ですが、かれこれもう10数年たちますが、それまでにも病院は少しは手がけてはいましたが、精神病院の設計をはじめて依頼されまして、初めて古い病棟を案内してもらった時に見聞きした世界の印象です。身体の不自由な方のことも含めまして、病院というものは判っていたつもりでいましたけれども、神経に障害をもった人だけが使われる施設というのは造ったことがなかった。こういう人たちを快適に住まわせて、介護してあげるための施設をどうやってつくったらいいのか。とまどいというか、わからなくなったというか、おおげさですがそのショックから立直るのに一週間ぐらいかかったことがあります。あまり脈絡のない断片的な話ですが、建築のイメージと言われた時に、浮かんだことはこの三つの事柄です。

住宅に始まり住宅に戻る

河邉　私の場合、時代別に分けた方がよろしいかと思います。ちょうど私の生まれたのが昭和１ケタの最後ですから、建物に関しては、まずわが家、それから教育の場も非常に恵まれていなかったという背景がございます。親父の職業の関連で転々としていったということもあり、住まいに対してはいい家に住みたいという願望がありました。借家住まいみたいなかたちで転々としていたということもあり、ハイレベルでなくて、低い方の住宅で幼少のころを過してきたということです。ですから大きな家に対する憧れというものがありました。私は生まれたのが愛知県の渥美半島ですが、まず最初に物心がついたのが満州、現在では中国の東北地方といいますか、新京（現在の長春）と奉天（現在の藩陽）の中間あたりの小さい都



河邉信行

1935年　愛知県に生まれる
1957年　名古屋工業大学建築学科卒業
1957年　名古屋市役所建築部に奉職
1980年　㈱名古屋市住宅管理公社西部事務所所長
1983年　㈱名古屋市住宅供給公社技術部長
1985年　建築局営繕部営繕課長
1989年　建築局営繕部長、現在に至る。

市に父が軍人だった関係で住んでいました。その寒冷地における建物と、それから駅舎です。この三つぐらいが強烈な印象として残っております。それから、ときには父に連られて行った、暗いイメージの木造２階建ての兵舎、あれは非常に怖いという感じ、恐ろしいイメージが今でも残っております。

昭和16年に戦争が始まったわけですが、最初の校舎は鉄筋コンクリート造りだったんです。それからが木造ばかりでした。

実は大きな建物を見たというのは余りないんですが、私の記憶のなかには大きな城に父に連られて行った覚えがある程度です。

私は名古屋城の焼けない前の姿は全然知らないわけです。大学へ入ってから城戸先生から話を聞きながら、日本の木造の古代建築にますます興味が引かれて行き、ゼミの方も従って、古い民家の研究をということで城戸先生の指導のもとにやらさしていただきました。

縁あって名古屋市へ入りましたが、職場での話ですが、その頃ご存じのとおり名古屋では学校の大部分が戦災で焼けてしまって教室が足らない。それから校舎が木造から鉄筋コンクリート造に変わる時ですから、とにかく教室を確保するのが目的でした。その当時、仕事をやりながら僕は疑問に思っておりまして、とにかく外壁は、現在見られるような仕上げではなくて、モルタルを塗る。モルタルを塗ってその上に櫛目引き仕上をしていました。これは、後でもう一度仕上げをかけ易いように凹凸をつけます。それを標準で決めたんですが、その櫛目引仕上についてお互いに競争です。この櫛目をいかにきれいに引くかと、当時ほとんどモルタル仕上げばかりで、頑丈な機能本位ということです。昭和30年代を過ぎ、40年代の後半頃から景観の問題が出始めまして、現代の学校建築になって来たわけです。私にとって、建物が幼少の頃の非常に強い暗いイメージと、そして外国に対する憧れが潜在的にありました。しかし一方木造に対する憧れは大学時代のゼミで勉強したことに影響があったのでしょう、あとの寺院建築に対する憧れも、そういう原点からくるのかも知れません。この様な次第で、私の幼少時代の建築のイメージの中に、有名な建築物の実物としての想い出はなく、ほとんどが大学へ入ってからの想い出になります。

寺本　お話を聞いていますと、皆さん自分の家から建築のイメージがスタートということですが、これは私の場合も全く一緒です。小学生の時、昭和20年代の後半にあたりますが住宅事情は非常に悪うございました。さきほどのお話のようにいい家があると、あ、い

いなということになるわけです。それを夏休みの自由作品のときに、小学校4年生の時から、毎年のように模型を作っていました。夢の実現と言うのでしょうか、住宅の模型作りに熱中いたしておりました。これがどうも建築に携わったスタートのようです。

それから中学生、高校生の時期は建築に対して空白の時期がありました。そして大学で専門教育を受け、社会に入って実務経験をいたしました。実務の中でいろいろな用途のものを経験させていただき、オフィス、病院、工場、特殊なものでは寺院建築も随分手がけました。

そうした実務経験を振り返って見ますと、住宅が一番取りつき易いけど一番難しいという印象が強いですね。これは設計の場合も、施工の場合も一緒じゃないかと思います。「住宅に始まって、また住宅に戻る」という言葉がございます。私の場合、小学校時代の模型から始まって、そして実務経験の中で住宅が建築の一番の基本じゃないかというイメージをもっております。

環境と建築

司会　いろいろ建築のイメージというのがありますが、構造素材としては木造から鉄筋コンクリート、レンガ造という話がありました。そういったものに囲まれた建築空間のなかで、いろいろなことの想い出があって、じゃ現在、そしてこれからの建築というのはどうだろうかということをそれぞれお感じになっていったように思います。

ところで、わが国の経済の高度成長が叫ばれてきたのが昭和30年代ですね。30年代には住宅公団、現在の住宅・都市整備公団が出来ました。そして大都市における住宅の不足している地域に、耐火性能を持つ住宅が大量に集団的に建てられたわけです。ちょうどその頃大都市には経済の高度成長という意味で、いろんな会社、事業所が建てられ、農村地帯、地方からたくさんの人が集まってきたわけです。

そして10年経ちますと、今度はそういう人たちが結婚し、大都市あるいはその周辺に住みつくわけですが、そこで核家族という居住形態が出きてきます。そうしますと、急遽、その人たちの住宅を建てなければならない。ということで、今までは都市を計画する場合、土木的な発想で、まず道路をつくるとか、あるいは排水路を付けるとか、塵埃処理場を設置するとか、ということであったんですが、建築家は居住空間をつくるために住宅団地、ダンチという新しい言葉を創りだしてきたわけです。

ようやく建築という生活環境を中心としたまちづくりが注目され、また実施されてきました。これが昭和30年代というわけです。

一方、〝つくる〟ことが一番いいんだ、善だということで建設に努力してきたわけですが、実は残念ながら、そこに都市の公害問題——大気汚染、河川の汚濁、騒音——、交通問題などが出てまいりました。はたと考えてそれでいいんだろうか、反省の声が出てきたのが昭和30年代から40年代にかけてということですが、そこで自然環境を破壊するとか、都市の環境というものに対して注目されてきたわけです。現在の都市の中でも混乱の状態のところがありますが、何かしら住んでいますと、それはそれなりの意味があるように思うんです。

そこでさきほどからのお話の中に個々の建築物についてのお話をイメージとして伺ったわけですが、個々の住宅なら建築などが、集まってきますと都市を形成するわけです。その辺のところについて環境と建築の現況ということでお話を承りたいんですが。

〝広い〟が〝白い〟に

河邊　環境、自然環境をどうとらえるかというのが非常に難しいんじゃないかと思います。まず名古屋を例にとりますと、私は名古屋の行政エリアしか仕事が出来ない。一部市外にある市の施設もあるわけですが、われわれ建築の技術者はどうしても初めは建物、個体の部分のデザインとか、そういうものを制約された中で機能も充実させ、デザインも納得できるものをと思いますが非常に難しい面もあります。これは後の景観の話とも絡めていくような形になると思いますが、名古屋の場合よく言われてきましたのが、地勢、地形が非常に平担なところで、京都に比べると山もない、川もない。ある人が〝広い〟と言ったのが〝白い〟と聞こえたというふうにいわれたりもするんですが。（笑い）　そういうイメージが名古屋においては強いわけです。私も遅まきながら昨年ヨーロッパへはじめて行きましたが、西ヨーロッパの国は言うまでもなく、山も少ないし、平担部が多いところです。パリにしてもウィーンにしても、そこはそこで、分ったことは、この日本は地震があり、台風がある。大きな石はないが木はある。ヨーロッパでも結局は木はたくさんあるんです。石もある。しかし根本的に違うのは地震がほとんどないということ。風土ということから考えていって、非常に平担なところですが、大きな政治、行政の力でまちづくりというのも網の目をかけられてしまって、それに対して市民が、それを柔軟に受け入れる。それに比べて日本は素材として木を用いざるを得なかった。明治に入って、西洋と同じ組積造（レンガ造り）が始まりましたが、これは関東大震災でその欠点が暴露された。次にコンクリートが万能かといいますと、コンクリートの寿命も怪しくなってきて、最近見直しが始められた。これからが結論ですが、人間がある程度自然の中に融け込むのか、また自然がそれを拒絶するのか、その辺のところに非常に難しい面があるわけです。まちづくりの中で人工的な自然



自由通路から増殖したＪＲ金山、名鉄金山駅の総合駅

をつくりながら出来るだけ緑を残すというんですが、ある程度やむを得ないこともあります。これをどの辺でバランスをとり、調和を保った建物を生み出すか、これが公共建築における建築技術者の一つの大事な使命じゃないかと思います。もう一つ突っ込んで言いますと予算の枠がありますから、そうデラックスなものも出来ません。建物の種類も公共性ということが非常に強く叫ばれています。その中では抑えられた形がどうしても出てくるということがあるわけです。そうした中でも最近の名古屋のまちは、非常に美しくなったと思います。その反面、清潔さがヨーロッパの都市にはあります。このあたりが大きな違いじゃないでしょうか。

ヨーロッパと同じなのは、近代建築はどちらも一緒ですから、いかにしてそれとミックスしながら都市の美しさを形成するか。それが自然とどうかかわり合って行くのか、そしてまた、どこから自然になるのか、正直にいいますとその区別が重要なところなのですがまだできません。勉強中であるというのが現実です。

伊藤　私、今のお話で河邉さんがおっしゃった、「どうも建築技術者は個体でまちを考える」。ここに建築とか、デザイン、都市を構成するものの一番大きな問題点があるのではないかと思います。先日、郡上八幡へ取材に行ってまいりましたが、ああいう小さな山間の町でも本当の自然というのはないんですね。なぜかというと電柱が立っていますし、舗装道路やハイウェーが風景の中に存在するのです。所詮、人間の手が入るんだったら、みんなが真剣になって、残す部分と、これからつくる部分について考える。それもひとつ、例えば、橋だけを考えてはだめなんで、この山はこうだから、この橋はこういう風にと、全体のコーディネートというんですか、これを大切にしなければと思います。これからは一軒、家を建てる時は、自分のお隣りには何があって、後にはどういうものがあって、これは大切にしなければというところを意識していかないといけないんじゃないでしょうか。そういう認識度のようなものは外国の方が高いんですね。

一体、自然とは何か？

司会　ヨーロッパへ行った時、一番最初にヨーロッパへ来たなと感ずるのは道路の石畳の上を歩いた時です。あの石の感触、これは日本と違ったものです。それから、道路の両側に建ち並ぶ建物、固いという感触もさることながら、石がまちをつくる構成素材としての基本になりまして、固いものはなかなか改造できない。壊すことが困難だ。ですから非常に幾何学的な、論理的な、形態的なものをまず計画して、それに合わせて創ってきたのだと考えます。例えばチェコスロバキアのプラハなんかでも特にそうです。ボールド川をうまく生かしまして、そして雨宿りの空間もありますが、橋と川の水の流れと、橋のたもとの橋頭堡をランドマークにして、その左右に建っている建物を一体に形成しているところに非常に共鳴するところがあるんですが、日本の場合は、所詮、儒教だとか仏教の精神がありますから、現世というのは仮の宿である、ですから建て替えることによって、まちの、あるいは建物の永遠を請い願うわけです。

ヨーロッパの石造り、レンガ造りは、そのものの中に生命を入れるならば、インテリアに重点を変えているんじゃないだろうかという気がしてならないんです。ですから、まちづくりの手法というのは、そうとう日本と違っているということは、事実のように思うんです。



司会　中島　一

森口　今の自然環境と都市環境というお話の中で、話を難しくするつもりはありませんが、一体自然というのは何なんでしょうね。例えば京都なんかでも、神社仏閣というのは、今でこそ朽ち果てて、塗装ははがれて木の地肌が出て、まわりの緑になじんでいる様に思われますが、金色の金閣寺や平安神宮の社殿にみられる様にもとはギンギラギンだったはずです。果たして、ああいうものを今建築したとき人は何というか、「自然」というでしょうか。環境を破壊したといわないでしょうか。建築行為そのものがどういう意味があったかというのは、ちょっと今日の議論から外すことにして、さきほどの伊藤さんの話じゃないですが、自然を守ろうとかいう時に、一体自然というのはどういうふうに考えたらいいんでしょうか。

河邉　私がさきほど言いたかったのは、そこら辺の自然とは一体何だったかと、人間が手を入れないのが自然なのか、どこまで手を入れていいのか、その辺の兼ね合いが非常に難しいなあというのが実感なんです。さきほど伊藤さんからご発言がありましたし、中島先生はヨーロッパの石畳ということをいわれました。しかし道路の仕上げは名古屋の方がはるかにきれいです。外国は、素材の仕上げ等を見ると非常に荒っぽくて、日本的な感覚からいくと調子はよくないんですが、しかしコモンスペースは草が生えていない。刈るべきものは刈ってある。特に住宅関係の所、日本で言えば市営住宅レベルの所を見学しました。カッセルの町で、そこは兵舎の跡だということですが、やはり電柱がないのはすごくいいですね。もう一つは広告が一切ないですね。だから自然が美しい、それが逆に自然を引き立てている。とにかく自分たちで農耕作をやっている。これは自然ではないと僕は思うんですが、それが、うまく麦畑と遠景に繋がっているなだらかな丘陵とがミックスしています。

または農耕民族と騎馬民族の違いというものもあるのではないかなと思いました。どの国を回りましても、建物の外部についての、いわゆる道路など公共的な部分に面するところは個人の家と言えども、一切自由にならず、個人の自由意思で行えるのは、表札だけです。日本で、名古屋でそのようなことをやれば、えらいことになります。（笑い）　その辺が公の力でもって御していける。またそれに対して市民が受け入れる心が昔から養われているのか、騎馬民族の特性じゃないか。ある一つの命令でどんと行かなければならない。

農耕民族は自分たちで田畑を持っておれば生活できる。これは飛躍しすぎた話かも知れませんが、そういう東洋人と西洋人の生活がそこら辺からも出てきているのがまちづくりにも出てきたんじゃないかと思っています。

寺本　確かに歴史の違い、文化の違いは感じます。それは建築に関係する法律のできる過程から違っています。都市計画法について言えば、アメリカでは1900年ごろ制定されましたが、これは町全体をきれいにしようという市民運動がまず起り、それを行政が手助けして出来たと聞いています。日本ではそれから遅れること20年、大正8年に制定されましたが、どちらかと言うとお上が作り上げたと言わざるを得ません。つまり法律のできた過程はアメリカでは市民主導型、日本では行政主導型だと思います。

でも、行政主導型が悪いと言う訳でもありません。建築と環境を考えた時に、私は行政が果たしてきた役割というのは非常に大きいんじゃないかと思います。例えば昭和40年代後半から始まりました線引、市街化区域と市街化調整区域の色分けですが、スプロール化防止には大きく貢献したと思います。

また、公害の親玉とも言われた工場も、工場立地法で基準が定められました。そうすると新しい工場では周辺に緑地帯が設けられ、今までのイメージとは違った工場が出来ています。

一方、都心では総合設計制度を利用したビルが目立つ様になりました。名古屋の中心部にも見受けられます。そこには公開空地が設けられ、緑があり、水がありと言うことで何となく、やわらいだ雰囲気があります。小さなことですが人工的に自然を取り戻すという点で効果があるのではないでしょうか。

「光」と「風」の中で暮らせるか

司会　今の「自然」というのはなんでしょうか、農耕民族は水田を作っていきます。灌漑用水路をつくるわけです。それは自然を破壊しているんです。しかしところが、今私どもの目には、心が和むような風景を展開しているわけなんですね。緑が多いから自然があるとは、それを直ちに結びつけたくないんです。やはり緑があるということは心が和むとか、あるいは緑の鮮やかさということによって、われわれの心が安まるような雰囲気が作られていくということだと思うんです。ですから自然環境というのは、われわれにどういう雰囲気だとか、あるいは感じを与えるかというところに何か意味があります。ですから建築物をどんどんつくってもらったって、人の心を打つような状態のものにもっていく、これが環境であって、それが例えば、新鮮な空気、輝く太陽だとか緑と、ル・コルビュジェが言っていますが、そういったものが適度に混ざってこそ、いわゆる調和してこそ本当の自然じゃないでしょうか。人工的につくったもの、そのものが自然ではないということは言えないと思いますね。

伊藤　私は、名古屋市がグリーン・シティーをさかんに唱えていたころ、市の広報番組を担当させていただきました。そのころ、つくられたものだと思いますが、ただテレビ塔の下に小川が流れていて、木が植わっているから「自然」だとはこの際考えたくないんです。今、河邉さんが人工的自然というような言葉を使われました。



伊藤和子

愛知県半田市に生まれる
1958年　奈良女子大学文学部国語国文学科卒業
1958年　中部日本放送（CBC放送）入社
現在は、同放送アナウンス部専任部長

この間、名古屋市広報「名古屋ウィークリー」、テレビ「CBC家づくり百科」は1981—1991.9にわたり500回出演。月～金曜日の週5日、愛工大の中島教授にインタビュー形式で建築の話を聞くラジオ「ライフスケッチ」は1979～現在なお継続中。

名古屋市地域住宅計画策定検討委員、豊田市都市景観審議会委員などを歴任。

森口さんが自然に対する疑問を投げかけられたんですが、私はいわゆる深山幽谷の中では現代人は生きられないと思います。

それで、この場合の自然の環境というのは、どこまで自然の「光」と一緒に暮らせるか、どこまで空調などを使わないで「風」を感じて生活できるか、そのようなことも含めた自然というふうに考えてみたいなと思うんです。さっきも田舎にも電柱があって、ハイウェーが通っていることをお話しました。確かに自然破壊なんですよね。その意味では、自然が沢山残っている環境とに分けられます。その何れにしても、いい環境とはなんだろう。いい風景をつくるためにはどうしたらいいんだろう。こういう発想になるんです。

ヨーロッパの街でひとつ象徴的に感じましたのは、家の窓を外を通る人のために飾るという習慣があるということです。日本にはありません。ヨーロッパでは実にきれいに飾られており、これが家や町を考える根底にあるのです。

環境という、むしろ自然とか都市とかというだけではなく、自分の家だけでなく、そのまわりすべての環境という面から考えていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

司会　そういった都市の環境の中で、いい環境をつくるということはだれしも共通の願いですが、それならば、そこにある建築の形態と色彩はどういうふうに考えていったらいいのでしょうか。

森口　去年2週間ばかりスコットランドの田舎へ行ってきたんです。エジンバラから北。やはり一番気になったというか、感心したのは、石畳のよさは別にして、やっぱり電柱なんです。電柱と看板、看板はあることはあるんですが、別に色がいいとかということでなくて、なんとなくほほえましい感じなんです。もっともマクドナルドのそれは別でしたが、日本の街の中の看板というと、これでもか、これでもかと、何か乗り遅れまいとして。あれは気やすめだと思うんです。特に金融機関の看板なんかすごいでしょう（笑い）。それから郊外は別として街中に電柱がみあたらなかったということです。

最近、名古屋でも栄地区や四ツ谷通りで電柱がなくなりましたね。全然景色が変わりましたね。別に国民性を論ずるつもりはありませんが、日本の場合は電気を普及させようと思ったら、とにかく一番安くて早い方法でやってしまった感があります。恐らくあのスコットランドの田舎でも地下の埋設ケーブルというとお金もかかるし時間もかかると思うんです。それでも少し時間がかかっても、そうやってやろうじゃないかと考えてやったんでないかと思うんですが。その辺に日本人のもののつくり方と、景観というのは大いに関係す

るんじゃないかと思います。

高速道路には勝てない

森口　今、建築と景観についてのお話しですが、私は日本の景観を悪くしているのは橋梁や高速道路などの土木工作物ではないかと思います。いくら建築が自己主張しても、あれだけのボリュウムにはとても勝てません。名古屋市も都市高速がありますが、いくら真下に遊園地をつくっていただいて、木を植えてもらっても、根本的な解決とはいえません。聞くところによると、その工法は工区毎に工事費で決まるそうですね。もちろん地盤の情況などによりその工法が変わるのはやむを得んとしても景観を配慮したとは考えにくい。いくら名古屋市が街路灯のきれいなのを計画してもらっても、あれの下ではいくらやっても、勝てないと思います。もちろん瀬戸大橋の様に特に景勝の地に建設される工作物などは、工法とか力学的な裏付けにより形や色についても充分考えられている例も見られますが。街の中の景観というのでしたら、建築以上に土木の工作物に対する配慮が必要と思われます。街の景観を考えるなら、どうしても高速道路を通してはいかんところは土の中へもぐらせるとかをするべきで、工事費や工期だけで決めてはまずいこともあるはずです。

河邉　確かに日本の電柱の話を考えると、電気が発明されて、使い始めたのはヨーロッパも日本も多少の差はあります。そこは日本以外のところの方たちが多分議論したと思うんです。で将来的な景観について、それぞれのコンセンサスを得ながら、そして公共投資をしっかりやられた。税金が高いという話もあることもありますが……。日本の公共建築では、なかなかこうは行かない。例えばさっきの学校建築の話なんですよ。営繕行政の私どもが学校を建てるときに非常に純粋な気持ちの若い頃の時（今までも持っているつもりですが）、なぜ立派な校舎を一度につくらないか疑問に思っていました。その理由は、今頃になってわかりましたが、一度に何十校と作らなくても、それを半分にすれば、いい校舎ができる。その間少し辛棒してもらえばいいんじゃないか。プレハブに入ってもらってもいいんじゃないか。一ついいものを造りながらやった方がいいじゃないかというのが初め入ったときの感想だったんです。しかし、これ以上は立場があってなかなか言えないところが、わかってきましたのでね（笑い）。いち早く耐火耐震的なものを作ってあげないといかんということで、かなり大急ぎで造らなければならなかったというのが最初じゃなかったかな。ようやく神武景気も過ぎ、経済が安定して、昭和50年に入ってからですね。日照の問題とかいろんなことがあって、それを卒業してようやく景観というものを考えなければいかん。建物も機能本位とか、本当に戸数だけつくればいいというのは建築ではない。そういうことに目覚めてきたんじゃないかなと思うんです。その辺が今でも、もうちょっと待ってもらえるといいなあという気が一つと。さきほどの高速道路の話ですが、ヨーロッパを見てきて思ったのは、鉄道もそうなんですが、パリでも確かに古い、千年の歴史のある街が出来上がった後に鉄道というのが発明された。ですから終着駅が全部郊外にあるわけです。街を横切ってというのは全部地下です。日本は構わずどんどん通っています。ああいうところは、だからどうしていいのかな。高速道路を全部地下にやれば、それはきれいじゃないかな。フランスのパリなんか見ても高速道路が苦にならないですね。

司会　では、なぜそういったことになったのか。現状を否定するだけじゃなくて、そういった原因はなんだろうか、その対処の仕方というのはあると思うんです。例えばスウェーデンのストックホルムなんか、地盤は岩盤で出来ている街なんです。地下鉄はトンネル、岩をくり抜いて走っているんです。またヘルシンキへ行きますと岩



名古屋都心、久屋大通り公園テレビ塔を望む

のチャペル。街の真ん中に岩石。氷河時代の岩が残っている。それをくり抜いて教会をつくっている。それはそれなりの必然性があるわけです。では、日本はなぜ高速道路、都市高速が上の方に走っているんだろうか。デザインはなんであんなことをやっているか、というふうなことについても、考えないといけませんが、建築も街中では貧弱なものが多いということも事実ですね。

例えば京都や大阪と比較しますと、名古屋はただ箱をつくっているんじゃないかと言う人もいます。これでいいんだろうか。なぜそういったことが現実繰り返し繰り返しつくられているのか。電柱を立てるということに対して、これは経済的な意味で、つくることによって経費を安くして、他に何かを求めるためにはやむを得なかった時代があったと思うんですが、その辺のところをちょっと掘り下げてお話を聞きたいんですが。

デザインとは調和である

伊藤　今日のテーマのデザインという言葉の意味ですが、なんとなくパリはうまいところに高速道路を通したなという感じです。これが町のデザインと考えられないでしょうか。私、これはまた飛躍した論ですが、もしかしたらある時代から、日本人にはまちをちゃんとつくろうなどという意識がなくなったんじゃないかと思うのです。例えば学校の校舎も、最近いろいろ公共の場に提供するために、やや装飾物なものをつくったり、木造も許されたりという特例が出てきたようですね。私、最近ニュースで読んだのですが、それまでは校舎というのは一つの規格があって、それでなくちゃいけない、補助も出ないとか、そういうところにやっぱり日本人の感性みたいなものの問題があるんじゃないかと思うのです。

今、日本人の一人ひとりが、もっとそういう意味のセンスを身につけなければならない、センスのある個性を育てるというのは、とても長い時間のかかることですが、機能だけを満たせばいいというまちになってしまったのでは、面白くありません。今、日本のまちの一つ一つの建物はとてもすばらしいものがあるのですが、そのお隣りにその大きさや、その高さや、その色を無茶苦茶にするようなものが並んでしまっています。デザインというのは調和だと思うんです。子供の頃から、そういう感覚的なものを育てないと、まちは育っていきません。最近、女性のインテリアへの関心が高まっています。こういうところにうまくのって、これから、出来るところからでいいから、自分の住宅を中心に環境まで関心をもっていかなくちゃいけないんじゃないかと思っているんです。

デザインマインドと子供の感性

河邉　私も同感ですが、さきほど伊藤さんがご発言された日本人は箱庭的な発想で、自分の家の中のデコレーションは非常にすばらしい内装、彫物等でデザインする。しかし外側は全部、門・塀で仕切って囲ってみたり、外から見えないようにしてしまうと。外国は違いますね。郊外の方では一戸建なんかたくさんあるわけですが、それも非常に低い塀で外から十分見える。また団地がありますと必ず大きなコモンスペースがある。結論的に言えば市街地へ入っていくといろんなデコレーションがある。外から見て楽しめるようになっている。ウインドショッピングもできる。



スポーツ施設――（左）野球場、（右）傾斜屋根をもつ多目的ホール

そこで個々の家でも外観に対して非常に無駄になるかしれないが、自分の家からは見えないけれども、外から見た場合にどうなるかということを考えながら、やはり、そういうデザインという家も考えていく、そういう訓練というか、そういうものを地道にやっていくべきじゃないか。これは個人の住宅に対する自分の考えですが。それから公共の建物ですが、学校に例を取ってしまったんですが、最近ではそういうことで、一般に開放するということ、それから地域ともその関連があるわけですが、非常に景観的に力を入れるべきところは、それにマッチした建物にしていこうじゃないかということで、ちょっと手を入れることによって、デザインがよくなる半面お金がかかる問題で、すぐ予算がこれだけという枠の中でやらなくてはいけないが、これは辛抱強く全体のプールの中で執行して行かねばいけない。自分達営繕行政にたずさわる技術者のこのようなデザインに対する気持ちがなくなってしまったんでは、一度に駄目な単なる容器としての建物をつくる格好になってしまうんで、素材としては同じ素材を使うんですから、機能も大事ですが、いかにデザイン的なものをしつらえていけるか。そういう気持ちを行政マンも忘れないようにしていかなくてはいけない。実は自分の話なんですが、ある消防署の出張所を造ったわけですが、昔の火の見櫓の鐘がしまってあったんです。機能的にはそれは使うことはないわけですが、下町風のところでしたので、デザインの先導的役割を果たすというのが景観工事の一つの役割ですが、かといって突飛もないような建物をつくりたくない。そのときに周りの建物に合わせた、ちょっとクラシック調にしながら火の見櫓をデザインにしてワンポイントに使った。予算もそうかかるわけでないものですから、そういう機能の充実も持ちながら、われわれは地道にやっていかなければならないんじゃないかなと思います。

このようなデザインマインドを常に持ちつづけながら、学校建築を例にあげれば、こういう気持でデザインされ出来た校舎の中で育った子供たちが、同じような良い感性を磨かれ、将来のまちづくりに対してのリーダーシップを握ってもらえるんじゃないかなとも思うわけです。

あと一つは、有松の町並を例にあげます。この街道、つまり東海

道ですが、昔は電柱はなかった訳ですよね。この電柱がなくなれば本当にすばらしい街道になります。パリにも負けない立派な街並が再現できる。しかし、トランスとか、それを置く場所がないから電柱がとれないと聞きました。私の夢なんですが、有松に電柱がなくなったら、それこそすばらしい、外国へ出しても自慢できるものになるんじゃないかなと思います。

伊藤　昔の日本人って、京都の祇園祭のときなど、外へむけて、道行く人のために随分飾り付けをしたそうですね。

森口　ええ。普段は格子がはまっているんですが、あれを取りはずしているという風習はありますよね。でも最近は極く限られた地区だけのようですね。

河邊　しかし、非常に狭まい道でも、その道をはさんで内部と外部の空間が一体化していくような感じになりますね。だからそれが遮断されてしまったら、それこそ箱と箱の連続しかならないですが、内側から外に向けてデザインして見せることによって、結局、中と外との心が通うのじゃないか、それが連続性を生み、都市としての美しさもまた出てくるんじゃないかなと思うんです。

司会　かつてル・コルビュジェは機能的なものは美しいと。じゃ、機能を追求するならば、その究極的なところは美しい形態ができるわけなんですが、今のお話を承っていますと、そういうところに帰着するんじゃないかなという気がしますが……。ところで電柱はいけないでしょうか。

電柱の在り方が問題

森口　いいや、電柱だけがいけないんじゃないんです。

司会　電柱があってこそ賑わいもあるんじゃないか。電柱があってこそ生き生きとした都市空間ができるという逆説もまたあり得るかもしれません。問題は電柱の在り方が問題なんですね。看板・広告についても、やはりデザイン的なものが多少欠落している。例えば大阪城の東の方のOBP（大阪ビジネスパーク）ですが、あそこにはビルを建てる場合に、そこの壁面に広告を付けるのは何%以内という、広告の壁面率ということで規定されております。しかしあそこへ行きますと非常に寂しいというアンケート調査の結果も出ています。果たしてそれがまちであるか、まちの中にもやすらぎがあるかも知れませんが、また賑わいのあるゾーンもあるはずですが、私はデザインというものによって賑わいもでき、やすらぎも得られると思うんですけれども。電柱の在り方そのもの、広告の在り方そのものについて、デザイン性というものをもう少し考えてもらえば、もっといいまちができる。ですから学校の、校舎だって同じだと思うんです。むやみやたらに帽子をかぶらない、屋根のないビル的なものがあるから、登校拒否にでる生徒が出てきたり、校内暴力に結びつく環境になっているかも知れない。そういったことを考えると、デザインの重要性というものが感じられるわけですが。

寺本　実務に携わっていますと、クライアントからいろんな注文がついてきます。そうした時に私達と同じ様な考えを持って見える方ですと非常に分りが早い訳ですが、残念ながらそういう方ばかりではありません。子供のころからの環境、教育がそう言った点では、非常に大切だと思います。



寺本英一

1941年　名古屋市に生まれる
1965年　早稲田大学第１理工学部建築学科卒業
1965年　鴻池組に入社
1985年　鴻池組名古屋支店設計部長
1987年　鴻池組名古屋支店営業企画部長
1991年　鴻池組名古屋支店営業総括部長
現在に至る。
1989年　㈳日本建築協会東海支部常議員

建築というものは特殊解である

司会　では次に住み手、使い手と建築、機能、性能などについて、これは住宅に例をとりますと、ハウジングセンターあたりの中にある工業化住宅、プレハブリケーション住宅、いろんな間取り、形、色彩のものがあります。確かにプレハブ住宅のいいところは、目の前に実物があって、それに対する販売価格は幾らであるというふうな即物的なものがあり、需要と供給の中で判断できるという良さがあるわけです。しかし、ああいう形のものがまちの中に建って果たして馴むだろうか。またインテリアを見ましても、ああいうものは一つのレディーメードのものですね。既成の洋服を着ているようなもので、それに体を合わせなければならないようなデザインの洋服と同じような感じがするんです。住みつくための住宅、住みこなすことのできる住宅、この辺のところをちょっとお話を出していただきたいと思います。

森口　ちょっとそれに関連するんですが、伊藤さんも住宅のことはよくご存じで、生産のプロセスも充分御承知のことと思いますが、建築というのは他の工業製品と違いまして、つくり方が一種独特なんです。車や家電製品ですと、買うか買わんかわからんけれども、ともかく売れそうなものをつくるということからスタートする訳ですが、建築というのはまずだれかが、発注する人がいないとはじまりません。次に発注される側から言えば、営々とお金を貯めてきて住宅をつくる様な場合でも、いくらどんな説明を受けても手に入れる現物が即、目の前にある訳ではありません。あくまでも紙の上の説明であったり、模型であったり、現物ではない訳です。さきほどの中島先生のお話しのプレハブでありましても、あれは展示場に展示してあるわけで、特定の敷地に置いてあるわけじゃないです。ですから建築というのはすべて特殊解なんです。プレハブを持ってくるにしたって、二つと同じ条件の敷地はない訳ですから、やはり特殊解なんです。もう一つはすべて一品生産なんですよ。工場でプレハブリケートしておりましても、部分としては規格のものをプレハブリケートしていますけど、現場の組立てを考えれば、一品生産です。以上三つのことが、今の中島先生のプレハブ住宅といえどもあてはまることですから個人の住宅を頼まれるときでもそのことをよく判ってもらった上で、ものごとを頼まれないと責任ある仕事がで



森口雅文

1937年　京都市に生まれる
1960年　京都工芸繊維大学工芸学部建築工芸学科卒業
1960年　日建設計工務㈱入社
　　1967年同社退社
1967年　㈱伊藤建築設計事務所入社
1986年　同社取締役、設計監理総括
　　現在に至る。
1991年　㈳日本建築協会東海支部副支部長

きないのではないでしょうか。住宅の設計をする人というのは建築主のお手伝いをするというくらいのつもりでないといけないのではないでしょうか。大工さんを呼んできて、大工の技術的支援で自分の思うようなものをつくってもらうというのが、もともとでしょうから、その辺の建築をつくっていくうえでの特別なシステムを十分頭に置いておかないとうまく事が運ばないのではないかと思います。

第一の批判者は私の家内

河邉　自分の家をつくって、第一の批判者は私の場合、家内です。しっかり批判されております。

家内から教えられたというと恥ずかしい話ですが、こういうことを言ったんです。家内は名古屋でほとんど育ったものですから、どちらかというと、プレハブ系統にしても、木造にしても、近代的な明るい雰囲気が好きで、いわゆる産地直送のどっしりとした田舎家は嫌いだと言ったんです。だから私もそのセンスとしては自分も一緒だからいいよと、そしてある時家内が姉と一緒に高山方面へ旅行に行って、帰ってきて、「お父さん高山へ行ってよくわかった」と。「私達の家を高山附近のあの雄大な山肌のところへ持っていったら本当に貧弱で見れないけど、あそこへ行くとさすがに飛騨のああいう家のつくりというのは自然と合っているね」と。「うん、そうなんだよ」と。だからああいう家を私の団地に持ってきたところで、それこそ町並に対して合わないなと。これは一例ですが、教えられた面がありまして反省を深くしておるところなんです。

司会　住み手、使い手というのは、現状凍結じゃないんですよね。時代とともにどんどん変わってきます。これには文化的、経済的な背景もあるでしょうし、あるいは身体の成長だとか、子供が成長して、やがて子供たちは独立していきます。次に分散していきます。そうなりますと住み手、使い手というのは特定の住宅に常に拘束されていいんだろうか、同じ建物の中におっていいんだろうかというささやかな疑問というか、これが最大の疑問になるわけです。そうなりますと住宅というのは、例えば住み替えが一つの方法としてあるんじゃないだろうか、あるいは耐久消費財的なものだから、別に気に入らなかったら壊してまた建てればいいんじゃないか。あるいは転売するという考え方も出てきます。経済的な背景を抜きにすれば、そんなことが考えられるわけですが、伊藤さんいかがですか。

伊藤　実はモデルハウスが建ち並んだ展示場へ行きまして、どれがいいかといわれても、目移りして、はっきりこれだという主体性が持てる人って少ないと思うんです。私も、20年前に家を建てた時に、恥ずかしいんですが、「普通はこういうところどうするんですか」、「こうです」、「じゃ、それで結構です」と、いうありさまでした。今、名古屋は東京の雷おこし、大阪の粟おこしで、名古屋ほりおこしっていわれていますが、私、あれもすごい問題だと思うんです。いつか良くなるから、それまでの我慢というのではいけない。いつの時代もそれなりに良くあってほしいというのが都市ですし、都市のデザインだと思います。それと私が今モデルハウスからひとつ選ぶときの話とどういうかかわりがあるかということなんですが、計画性というものが欠如している。これは、家を建てるんだよと言ったら、自分はどういうものがほしいのか、うちの家族はどういう暮らしを望んでいるのか、私の環境はどうなのかということから、考えて行く必要がありますね。これは私自身の反省なんですが、何も考えなくて家を建てる、「この敷地に、家族は何人だから幾部屋ぐらいの家がほしいか」ぐらいで家づくりを始めてしまうのです。本当はそれではいけない、これは都市も同じことで、中島先生がいま機能的なものは美しいとおっしゃったんですが、今は機能がどんどん上積みされて、次から次から変更の必要が出て来ます。まちの場合も電気がまず通って、それから電話線が横っちょから入って、ちょうどタコ足配線みたいな状態がまちの風景をつくっていると思うのです。そして今度は地下に埋めたいから、せっかくきれいにした舗装のタイルをまためくる……。

そうではなくて、いまあるものを生かして、何とかならないかとまず考えることです。

私はデザインというのは、調和と、さきほどいいましたが、調和はどこから生まれるかというと、しっかりした計画性がかなり大切で、その上で、いったんつくったものをこれじゃまずいから容易に取り替えないという発想はよくないと思います。自分の家を例にとれば、ちょっと戸棚をひとつと思っても、場所が狭まくて入らない。といっても、お金がかかるからそう簡単には家の改造は出来ません。勉強なんていう固い言葉は使いたくないですが、しっかりした考えや計画性をもつ人が育っていかないと、いい住み手にはなれませんし、どんないい家をつくっていただいても、いい家としてあり得ないんじゃないかというふうに思います。

司会　例えば、平面図をプランと書いていますが、プランというのは家族計画から住み方まですべてプランなんです。日本の場合は間取りなんです。間を取る、間が取れなかったらまた別の間が取れるような計画をする。これが原則的に従来から伝えられてきたんですが、どうもその辺のところがいささか変わってきまして、若い、大学を卒業したての連中が図面を描きますと、平面図を描かないでプラン。私はプランというのはそんなものじゃないよというんですが。もう一つそういった点も考えてみないと使い手、住み手から忌避されるんじゃないだろうかという気がしてならないんです。

伊藤　さきに、私たちはお手伝いするだけだよっておっしゃいましたが、私、本当にそうだと思うんです。

森口　どこに焦点を合わせるか。先程中島先生がおっしゃったように、これから高齢化社会になるでしょう。そうすると将来のこと

を考えて、例えば段差のない家だとか手すりを将来つけられるようにとか、それを考えておいて、本当にそれじゃ役に立つかということなんですよ。そういう意味では住宅に限って言えば、どの年代というか、何年間かを快適に過ごせるということに照準を合わせざるを得ないのではないでしょうか、それから先のことは住まい手がさらに専門家のアドバイスを得て、改善していくしか方法がないと思います。その人の老い方の予測まではできないのが現実です。

河邊　難しいですね。住む人間、一番生活パターンのわかった人間が、はっきり言えば普段家内と話をしながらやったにもかかわらず、いまいろんな問題点が出てきている。自分が最初に二人で考えていたような住まい方をしていないんです。非常に反省しております。

建築創出するのは一人か

司会　それでは建築を創出するのは建築家一人か、最後にひと言お願いします。

森口　いろいろ反論もあるかも知れませんが、最終的には創作するのは建築家一人だと思います。決して一人で出来ないことはわかっている。ものすごくたくさんの人が集まって共同作業でやるんですが、決断を下すのは一人しかないんです。音楽や演劇と全く同じとは思いませんが、例えば、音楽では作曲する人と演奏する人と、それから前で棒を振る人が一人いる。その棒を振る人は、今、寺本さんのお立場のような建築家もあればわれわれみたいに専業の建築家もいるのが現実です。建築を設計し監理するというのは、たくさんの人間の協同作業です。しかし、それをどうコンタクトするかというのはやっぱり最後はだれか一人でしかやりようがないと思うんです。ですから組織の事務所にいて、そんなこと言っていたらちょっとおかしいように受取られるかも知れませんが、やっぱり組織では設計はできないと言うことが言いたかった訳です。

寺本　その辺がゼネコンの設計と、専業設計事務所の方の設計とちょっと違ってこようかと思います。

森口　寺本さんのところでも、結局決断を下すのはだれか一人じゃないのですか。

寺本　いや、そういう決断をするという問題でなくて、私の建築家に対するイメージは、著名な建築家がみえて、そして作品を発表される、これからの日本の建築、世界の建築の方向性を示していただける点で重要で大切な事だと思います。こういう方は限られた方でいわゆる建築家だと思います。ところが大部分の設計者は、特にゼネコン設計の場合はそうじやないわけです。依頼主がどんなイメージでみえるか、それをよくヒヤリングして、お客さんのイメージを実現してあげる。こういう立場が主力になってこようかと思うんです。

だから逆に言えば設計者としてはどんな用途のものでもできないといけない訳です。日頃の蓄積が非常に大切で、それが技術につながっていくわけなんですが、設計者が自分の趣味を押しつけたり、デザインアニマルであってはならないと思います。

森口　そういうことじゃないんですがね。要するに建築主の意向を無視してとか、自分の主張を押しつけるということじやなくて、建築主の意向も条件の一つなんです。だからさっき言ったように、私はお手伝いするだけよというのは、そのこととつながるのではないでしょうか。「あなたの場合はこれが一番いいんじゃないですか」というのを提言するのが私たちの立場だということです。

司会　ですから建築与条件は無視はしてなくて、お手伝いといいますが建築的な技術的なことの判断の中から形をつくっていくということ。

寺本　最終的に判断するのは、やはりその設計の責任者が、クライアントのイメージはこうだからこれでいきましょうと、そういう意味では同じですね。

森口　立場の違いは大きいですけれどもね。

河邊　官庁営繕でもそれが言えると思うんです。決断する立場の人が、私らの場合でいきますと私であったり、局長であったり、ときには助役だったり市長だったり、こういうラインで決まる。しかし、私らの考え方も非常に複雑な機構の中で機能の充実ももちろん図っていかなければいけないんですから、一口で言えば表現は違うけど黒子に徹しようじゃないか、しかし責任は持とうじゃないか、これが私たちが今、常に前を向きながら、黒子だから逃げるんじゃなくて、やはり大きな組織でやった場合は、そのラインとスタッフということでいきますと、どちらかというとスタッフ部門じゃないのかなと思います。従って黒子に徹しながら、それのポジションをしっかりともつ。市長に言うべきことは私達からも言います。この方がいいんじゃないか、というものを持っていく、こういう形でいきたいと思っています。

森口　河邊さんは一人ですね、発注者の立場というのは、伊藤さんはそうかもしれませんが。我々の方はご下命をいただく方ですから（笑）。

河邊　そうです。だけど決断はもちろんしています。最後に市長にこれはどうですか、そこで断が下る。

司会　ということは発注者側、クライアントはいかに考えていないかということにもなるわけですね。

森口　それを引き出すのも技術のうちなんです。何もいい形をつくったり、いい色をつけたりするだけが私たちの仕事ではありません。

河邊　例えばエリーゼのためにという曲を例にとりますと、だれでもメロディーは同じように聞こえてきますが、演奏されると、その音色は演奏者によって全部違う、それをある指揮者が本に書いていました。それを建築に例えますと建築の設計図を見て、それを構築し、多分大工さん達がつくったにしてもできばえは、同じものが出来ません。音楽もしかりです。やはり音楽も共通する部分があるんだと思っています。

伊藤　私たち市民というか、一般の立場のものが、もっと環境、建築そしてデザインに関心を持って勉強しなければいけないと思います。一方、建築家の方は啓蒙というようなことも含めて、我々をおざなりにせずに一緒に歩んでいただきたいのです。また建築物は長い年月、町を形成していくものです。つくる時は100年先まで責任を持てるような意気ごみでやって下さい。お役所のまちづくりも計画も含めて、どうぞその責任を自覚していいお仕事をしていただきたいと男います。

司会　どうも本日は、お忙しいところをありがとうございました。

社会学と建築のデザイン
——「美」と「実用性」の調和をめぐって

ヤン・スィンゲドー

社会学は、社会的意味や性格を帯びているあらゆる現象を研究対象にする学問的分野であるだけに、建築デザインとも関連を持っていることは言うまでもない。しかし、だからといって、社会学的研究を行なっている筆者が建築デザインを専門的に取り上げたことがあるかといえば、そうではない。そこで、以下に、全く素人の立場からではないにしても、むしろ随想風に「建築デザインの社会性」について一言述べさせていただきたいと思う。

建築デザインという言葉を聞くと、心に浮かんでくるのは、「美」と「実用性」との概念である。この二つは、互いに調和するのが一番望ましいことではあろうが、それが多くの場合に現実よりも理想であると言っても過言ではなかろう。

三十年ほど前のことである。筆者は初めて日本でお正月を迎えることになり、友人と一緒に山に出かけ、小さな山村の知り合いの家で泊めてもらった。家は恐らくその村の最も立派な日本風の建物であったと思う。日本の美、とりわけ伝統的な美に興味を持ちはじめたので、それほど素晴しい家に泊められるのは、もちろん、大喜びであった。しかし、である。夜になると、家の中はますます寒くなり、透き間から吹き込んできた山風を防ぎ、身体を少しでも温めるために小さな火鉢しかなかった。幸いに、お風呂に入り、日本酒をたっぷりいただくことによって、美しい家の建築デザインの欠陥ともみなしたこのハードルを無事に克服することができた。それで、一生忘れられない日本での最初のお正月になったわけである。

その時、自分の生まれ故郷であるベルギーのフランダース地方で迎えたお正月のことを思い出した。子供のときに住んでいた家は決して美しい建物ではなかった。しかし、日本の伝統的な木造の家と違って、煉瓦造りのもので、とくに冬場には中がとても温かく、夜は、ストーブを囲んで母が語ってくれる昔話を聞きながら、今もなお非常に懐しく思う一時を過ごしたのである。そしてとくにお正月の頃、家の中の温かさは特別な意味や性格を持っていた。

ヨーロッパの家でのお正月と、日本の家でのお正月、どちらの方に軍配を挙げればよいか。そう簡単には決められない。建築デザインの「美」と「実用性」とその「調和」との問題も絡み合ってくるので、一層複雑になっているのではないだろうか。そして、「美」とは何か、「実用性」とはなにか。これもまた簡単に定義できるものではない。外国の人の心にも訴える力を帯びている日本の美そのものには、大きな価値があるに相違ない。一方、日本人のあこがれの的にもなっている、ヨーロッパ風の家の実用性にもそれなりの価値があろう。また、確かに最近、美と実用性の調和性を目指して、新しい建築デザインが次々に提供される。ところが、デザイナー自身が—当然のことながら—自分のデザインについていかに満足感に満たされていても、一般の人々の中にはそれに対して鋭い批判を述べる者が大勢いることも事実ではないだろうか。それは一体、何故なのだろうか。

建築デザインの社会性と言うと、それは人間中心のデザインのことであると言えよう。人間は皆、美も実用性も求める。もちろん、文化によってその具体的な形態は異なるはずである。さらに、美と実用性の調和を求めるのも、人間共通の営みである。しかし、はたしてそれだけであろうか。

筆者は子供のときに迎えたお正月のことを懐しく思う。住んでいた家のデザインは確かに寒い冬の夜を過ごすためにきわめて実用的であったが、美の面ではそれほど優れてはいなかった。しかし、「美」はなかったわけではない。どこにあったかと言えば、全体的な、具体的な人間を中心にした家庭的な雰囲気の中に一種の美が見出されたのである。つまり、デザインの美を全く自律的なものとみなすならば、それが欠けていたと言ってもよいかもしれない。一方、それを「人間的環境」との結び付きという観点からみると、欠けていた所は他の要素、とりわけ人間的な暖かみという「社会性」によって補充されていた。その結果、家の中は実はとても美しかったわけである。

また、筆者が初めて日本で迎えたお正月についても同様のことが言えると思う。冬の寒さを全く無視したかのような建築デザインを実用的とは呼べない。にもかかわらず、この「欠陥」は他のものによって十分に補充された。風呂と日本酒だけではなく、友人と一緒にという「人間的環境」も大きな役割を果たしてくれた。つまり、この場合にも、「美」と「実用性」は、互いに調和されなければならない、自律的なものよりも、とくに人間が中心になっている全体的（ホーリスティック）な構造の中に把握されるべきものであると言えよう。そうすることによって、美は初めて人間のための美になり、実用性もまた初めて人間のための実用性になるのである。そして最終的には、美と実用性の調和そのものも新しい意味を持つようになり、より広い「人間社会」に貢献できるものとして再評価され得るのではないだろうか。

社会学であろうと、建築デザインであろうと、現在のあらゆる学問あるいは技術分野はあまりにも専門的になりすぎて、生きている人間との接触を失いつつあるような気がする。すべてのものの相互関連や相互依存の感覚は東洋文化の一つの特徴だと言われる。建築デザインの「社会性」はまさにこの相互関連や相互依存のことを指すものと思われる。もしそれが正しければ、日本の建築デザイナーはまず第一に自分の文化を再評価し、それに誇りを持って「デザインの社会性」の再検討に取り組むべきではないだろうか。

（Jan Swyngedouw／南山大学教授）

都市景観と建築デザイン

都市再開発と景観とデザインと

横井　太郎

街が好きである。都市が好きである

街に育ち、都市ではぐくまれた感性で毎日の生活をし、自分自身けっこう都会派人間と思って、名古屋と云う『田舎』にあっても、『都市』の片鱗をその中から少しづつ深し出し、都会らしい空気を吸う努力をしてきたつもりだ。

仕事は多くの客数を必要とする飲食店で、年間75万～80万人の方々に利用して頂いている。趣味は、都会的なフィーリングを持つ女性の連作タッチのポートレートを撮ることにあり、年間5,000カットを超える感光材料や、撮影機材、そしてモデル……と。

仕事も趣味も、都会に起居しなければ実現不可能なものを扱うのが私のライフスタイルとなっている。だから、街が好きであり必要なのだ。LOVEとWANTが合体したイメージで、これから先の『話』を進めてみよう。

何か変である。どこかおかしい

最近、名古屋では再開発が盛んに行われている。名古屋駅前・金山・大曽根・栄・そして我が街『伏見・納屋橋地区』。

いずれも戦後の「清算」であり、ただ店を作れば、ただオフィスを作りさえすれば良しとした、無節操な高度成長経済の「清算」でもあると感じる。

古ボケた街並、古色蒼然とした建物群、ジャミジャミと混み合った商店街、商品の歩道への張出、我が物顔で道を占領する屋台や荷物等、そのどれもが、一つひとつ名古屋から、確実にその姿を消して行き、代わりにすっきりとした街路、新しいビル群、新鮮な感覚のトレンドに乗った商品が、スマートにデザインされた歩道に出来て商店街も今様に衣替えをしてきた。急テンポで新旧の入れ替わりが激しく行なわれていた昨年、古い友人が20年振りに名古屋へ戻り、その変貌ぶりに、目を見張っていた。

都市公園のスタイルも大きく変容してきた。公園のあちこちに配置されたストリートファニチャー類とファシリティの織りなす絶妙なバランスの良いデザイン感覚は、門外漢の私でもウットリである。

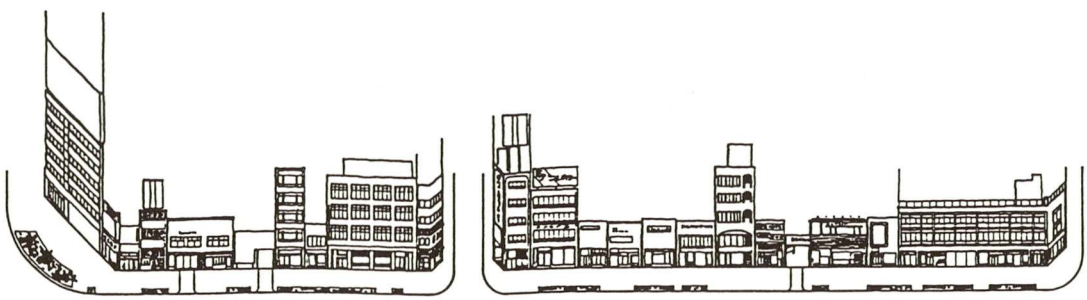
しかし、何か変である、どこかおかしい？何かスッキリしない。風邪のひきはじめに、喉がいがらっぽい事があるが、何故かこれと同じようで、小さな部分かも知れないが、何かが引っ掛かる。

若者の集まるメッカのような場所

この『新生名古屋』を見渡していると、どうも釈然としないのだ。しかし『都市公園』、わけても若宮大通り公園については、不思議な事だが、わだかたまりが全く無い。都市景観的に見ても、あるいは利用者サイドから見ても、この公園の素晴らしさには、特筆すべき事が山ほどあるが、今回は誌面の都合で割愛する。とにかくここが好きなので、名古屋の公園の中では最も多い頻度で利用している。

さて、木々の緑が薫、青葉若葉に包まれる新緑の5月、伏見から東へこの『若宮大通り』を散歩してみる。都市高速道を有効に利用した構造でありながら、落着いた優雅な景観を、全体の印象として感じるのである。子供達のはしゃぎ声や、溢れる陽光のこもれびを心地良く感じつつ、そのまま南大津通りに足を踏み入れる。さて、ここは、若者の集まるメッカのような場所だ。新しい名古屋を代表する顔がこの街には沢山ある。だから、街の新鮮な息吹が、美しくデザインされた建物や街路から、ビンビンと伝わってくるはずだが……ここでSTOP。

私はこの話を『南大津通り界隈』に限定して、進めて行くつもりは全くない。主題のイメージとしては名古屋市全体の再開発を一体として考えたいし、話したいと思う。



前に述べた、『何か引っ掛かる物』とは、何であろう？……

① 一部を除き、街の散策を楽しむ人が、減少傾向にあると感じる。
② 個人商店の類の大幅減少。銀行・金融機関のビルばかり目立つ。
③ 建物の外壁が長く、出入口が少なく、買物感覚では楽しめない。
④ ほっとするような、界隈性と人々の喧騒が無い。
⑤ やすらぎより、機能面やデザイン面の優先主義が横行している。
⑥ 『街の利便性とは何か？』について根本的思想で、利用者不在。
⑦ 『個の自由』より『全体』のトータル主義（色・デザイン等）。
⑧ 『緑』までデザインされすぎて、存在感が薄い。
⑨ 直線的で無機質な素材のスカイラインには、暖かみが無い。
⑩ 法律優先・感性不在・弱者救済思想の偏在・無国籍的感覚。

①～⑩には、レベルや次元のマチマチな内容が含まれていて、正に素人感覚の『都市批判』だが、とにかく間違いなく『人間疎外』の街に変容しつつある現状に対して、この街で生きていく一人として大いなる危機感を持っている事だけでも、理解して欲しい。

我々は常日頃から、簡単に『都市再開発』を口にするが、その時『とても大切な物』を見落としていないか？と問いたいのである。

『街』『都市』を司るのは、アルミニュームやアスファルトでなく我々人間自身であり、『人間の感性』に対する配慮が欠如している再開発を野放しにしておくと、歴史的に見ると多分それらの内容の決定に、参画しなかった大多数のヒューマノイド達の手によって、都市から駆逐ないしは、放棄される運命を歩むと思われる。

故に、『都市再開発と景観とデザイン』について実際的考察を行う時、以下の『私の提案』も是非議論の対象にして頂きたいものである。

私の提案

①『仏作って魂入れず』型の、ハード優先、ソフト追従型の再開発思考を、ソフト重視型への転換。建物さえ作れば良いと云う時代は20年以上前に終わっている事を再認識していただきたい。

②『人と車の共存共栄思考の定着化』街の中から『車』を排除した都市が、その後たどった衰退の歴史は、今も生きている。例えば、車ではないが、列車の通過を嫌った「岡崎市」が、100年たった今、町の主体的アクセスの欠如に、大変苦慮していることは周知の事実。人間は公共交通機関で運輸できるが、物流はまだ当分の間、個々の輸送しか方法が無い。故に都市から車を排斥するのは問題だ。

③『人間復権の街作り』②とは趣旨を異にして、車からの復権思想ではなく、コンクリート・アルミニューム・アスファルトが主役で人間の感性が求める柔らかな素材が、殆ど『防災』の壁に阻まれて何も使えない実情を踏まえ、各種研究機関等の力を借りて、緑化を含め、都市そのものの形成素材を、人間的なものにして頂きたい。

④大型のビルの建設＝再開発と云う単純な発想から、『ビル』を、「再開発の括り道具や方法」に、囚われない思考への転換の促進。又、出入口の極めて少ない、長大な外壁を有するビル化は、都市の活性化にとって、大きなマイナス要因と考えて頂きたい。御存知の香港・九龍地区中心部のビルのように、街路に面した部分全部を、商店或いはそれに準じた構造にすれば、この問題の大半は解決可能であるが、いずれにせよ、都市景観を重要視する余り、形ばかりに目を奪われてしまわないようにする事が大切。

結論として……都市の雰囲気を、或いは形式を左右するのは我々都市で生活を営む者である。我々が寄せる町への『恋心』とをつきつめて行くと、都市景観もデザインも美しいに越したことはないが目指すものは、『ブラジリア』では決してあり得ず、それは現状の延長線上にある、馴染みやすい物の筈であるし、そうでなければ、無理がたたって、発展も向上も活性化も期待できないのである。

（よこい　たろう／東鮮本店代表取締役）





古典にみる建築デザイン

『清少納言の住まい観』

若山　滋

古典文学の中に出てくる建築のデザインとしてもっとも知られているのは『源氏物語』の中の六条院であろう。光源氏が功なり名遂げたのちに営む大邸宅で、春夏秋冬四つの町に分け、そのそれぞれに、紫の上を初めこれまでかかわった女性たちを集めて住まわせるという、まさに男の夢を実現した、一種の桃源郷である。が、これは女性の手によって書かれていることもあり、酒池肉林の快楽の空間というのではなく、極めて文化的な、趣味のよい、風雅な空間となっている。確かに豪華絢爛ではあるが、草花や池などの庭の造りに工夫を凝らした自然の絢爛であって、人工的なものではないところが、王朝文化の特色でもあり、また日本文化の空間の特質ともなっている。

しかし、これは他に紹介されることも多いので、ここでは『枕草子』に現れる清少納言の「住まい」に対する評価の中で、今日の目で見てやや意外なと思われるものを紹介しよう。

「冠得て、何の権守・大夫などいふ人の、板屋などの狭き家持たりして、また、小檜垣などいふもの新しくして、車宿に車ひき立て、前近く一尺ばかりなる木生ほして、牛つなぎて草など飼はするこそ、いと憎けれ。

庭いと清げに掃き、紫革して伊予簾懸けわたし、布障子張らせて、住まひたる、夜は、『門つよく鎖せ』など、言おこなひたる、いみじう生ひ先なう、心づきなし。

親の家・舅はさらなり、叔父・兄などの、住まぬ家、そのさべき人なからむは、おのづからむつまじくうち知りたらむ受領の、国へいきていたづらなむ、さらずば、院・宮ばらの、屋あまたあるに、住みなどして、官待ち出でて後、いつしかよきところ尋ね取りて、住みたるこそよけれ。」

何かの権守・大夫というような、サラリーマンにとっては大企業の部長ぐらいのクラスであろうか、まあ相当の地位についた人が、板屋根の小さな家を持って、垣根を新しくし、車を入れて、狭い庭に木をたくさん植えて、牛つまり今日で言えば犬など飼っていたりするのはよろしくないというのだ。

庭をきれいにし、見るべき人が見ればあまり上等とも思えない新建材、アルミサッシュの建築に、夜は『門をしっかり鍵をかけろ』などと言っている。こんな家で満足している人は、将来性がないというのである。男たる者は、親戚あるいは友人などの空き家になった家を借りて住み、もっと偉くなってから、いい家を探せばよいという。

要するに、男のくせに小市民的な人生観が現れているような住まいは見苦しいということで、何となく身につまされる思いがする。もっとも私は紺屋の白袴で、あいも変わらぬマンション住まいだが。

それにしても、男に対する清少納言の住まいの哲学はなかなか手厳しいではないか。女性の住まいについてはこう言っている。

「女の一人住むところは、いたくあばれて、築土なども全からず、池などあるところも、水草ゐ、庭なども、蓬に茂りなどこそせねども、ところどころ、砂の中より青き草うち見え、淋しげなるこそ、あはれなれ。

ものかしこげに、なだらかに修理して、門いたく固め、きはぎはしきは、いとうたてこそおぼゆれ。」

女の一人住いは、荒れ果てて、土塀も崩れがちで、水草が茂り、庭も蓬ばかりというほどではないが、ところどころ砂の中に青草が見えているぐらいが、寂しげであわれ深くて結構だというのである。

かしこそうに、建物や庭をよく修理して、門をきっちり管理して、目立っているのは不愉快であるという。

これも面白い。現代ならむしろ逆に女の一人住まいだからこそ、人にそしられぬよう気張ってきっちりと手入れするだろう。清少納言から見れば、現代の女性は少し気負い過ぎているのかもしれない。

女性の住まいを「あはれ」とむすびつけるところに、この時代の「あはれ」という美学の実体が浮かび上がってくるように思える。

「雪は、檜皮葺、いとめでたし。すこし消えがたになりたるほど。まだいと多うも降らぬが、瓦の目毎に入りて、黒う丸に見えたる、いとをかし。
時雨・霰は、板屋。
霜も、板屋。庭」

雪の日は檜皮葺の屋根がよく似合う。それも少し消えかかっている時がいい。また瓦葺の目に雪がたまって白と黒の模様に見えるのも面白い。時雨、霰、霜は板葺きの屋根がいいという。

天候と屋根の組み合わせの美学である。言われてみれば、なるほどまさにそのとおりで、これを文章にするところが、鋭い感覚だ。

要するに清少納言は、建築空間そのものを美しいとか醜いとかいうのではなく、住まいにまつわる「風情」を論じているのである。空間を「をかし」「あはれ」とする評価はあくまで、人、季節、雪や時雨などの天候、との関係においてなされるのであって、空間そのものが評価されることはほとんどない。

言ってみればこの美学は、風情の美学であり、状況の美学であり、生活の美学であり、西洋に見られる建築や彫刻や絵画や工芸品の造形に関する直接的な美学ではないのだ。考えてみれば、日本文化の歴史の中で、建築そのものが論理的かつ絶対的に評価されることはほとんどなかったのではないか。

特にこの寝殿造りという様式は、広大な敷地に置かれ、自然の中をいくつかの棟が渡り廊下でつながっていくのであり、内部と外部は簾のようなもので隔てられているだけで、建築と自然は表裏一体ともいうべき密接な関係を持っていた。またその造りも白木、草葺き、掘り立て柱が基本であり、寿命が短く、空間そのものが、生物の生成変化と同じような時間意識の中にあった。建築も生活も常に自然とともにあり、西洋のように建築が自然に対抗して屹立するイメージはまったくなかったのである。その空間評価も、西洋や大陸のように、構築的、永続的な価値観の中でなされるのでなく、極めて自然的、流動的、状況的、相対的な意識の中でなされているのは、ある意味で当然であるかもしれない。

（わかやま　しげる／名古屋工業大学教授）



「寝殿造りの生活」（『源氏物語絵巻』より）

映像にみる建築デザイン

映像に想う「建築空間」

小川　辰男

報道映像の中の「現実」感

情報は世界を駆けめぐる。撮り手のカメラアイによって「現実」から切り取られた映像は「情報」となり、衛星で、受け手の視覚と心情へ瞬時に地球規模で届けられる。その度に、世界中の人々は「現実」を共有・共感し、「仮想体験」を同時進行させる。

ルーマニア独裁者追放！ベルリンの壁打ち壊し！湾岸戦争！ソビエト体制崩壊！等々、「歴史の激動」を伝える映像の中には事件の状況として町・広場・建物が必ず素顔でとりこまれてきた。ブカレストで、ベルリン・バグダッド・モスクワで、建物と町並みは、生き続けた民族の歴史を語るたたずまいを見せ、そこの人々が今遭遇している「運命を包む空間」として、現実感で迫る素材となった。

建築文化財の映像

このような報道映像でなく、カメラ技法をこらして丹念に対象を追う記録ドキュメンタリー「帝国ホテル再建」と、「高等裁判所再生」（両方とも小社制作）の映像を見て、文化財となる建築の意味を考えさせられた。

前者は、1920年代、「機能派」の旗手ライト（米）によって日本近代化の桧舞台として設計完成された帝国ホテルの、明治村移築復元の記録である。マヤ文明をモチーフにライトが独創した玄関内部の復元は、大谷石とテラコッタ・鉄材を組み合わせ空間から空間への機能的結合を構成し、繊細なレリーフ装飾をまとった「光の籠柱」を忠実に再現させる作業となり、「人間と空間の豊かなかかわり合い」を追求したライトの概念を今に呼び戻す映像となった。

また、後者は、同時期に名古屋で創られたネオバロック（一部ルネサンス）の裁判所庁舎を文化資料館に再生させる記録であった。日本固有の黒大理石の円柱やステンドグラスに、塗喰からカーテン地に至るまで当時そのままの手法で制作され、念入りな修復が完了した時、「壮麗さ」を夢見たであろう「大正ロマン」時代の息吹きが建物空間の隅々までよみがえってくる映像となった。このように、時代の生命を吹き込み、磨き上げ創作された価値ある建築デザインは、いつまでも生き続ける文化財として人をあたたかく包み入れる存在となることを学ぶ思いがした。

環境と調和する建築美

建築の外部空間をとらえる映像は、そのものだけのクローズアップであって欲しくない。土地、他の建物、樹や水、光と風、とりわけ人間の動きと密接に有機的に結びつく中でこそ、その建築デザインの真価が決まるものと考えたい。独立し自己主張に満ちた建物も、実際には他とお互いに影響し合い現実の環境空間をつくる。その点で、建物を「群れの美」として感じ得る例がヨーロッパに多い。かの、パリの栄光と変遷を見つづけて来た凱旋門の屋上に立ち、12本の街路が放射線状に伸びる風景を目にすると、此処はカメラアイではなくバードアイで俯瞰するのが最上だと悟らされる。ロマネスク、ゴシック、ルネサンス、バロック、ロココ、ネオバロック、近代、ポストモダン…と幾世紀にもわたる壮大な建築の群れが競い合って、それでなお整然と「花の都」の都市空間を優美に形成している姿は印象的である。ふもとへ降りて歩いたキャフェテラスに憩う者の目に、シャンゼリゼの緑も優しい。テラスの前の植栽や並木は決して目線をさえぎることなく、広い歩道の人波と大通り向い側の建物群を眺める視角のふち飾りになる。新旧の建物は肩を寄せ合ってなお乱雑でなく、色づかいすらお互いの美しさを守る「共通のたしなみ」を働かせているようだ。建物も、街路も、並木も空も噴水も、すべてまとめて「この辺り、快い空間」と人は感じるのではないだろうか。

歴史が宿る建築空間

ローマでは、あまり報道映像に登場しない「カンピドリオの丘」



愛知県犬山市に移築された帝国ホテル正面



名古屋市市政資料館（旧名古屋高等裁判所庁舎）



パリ　凱旋門屋上からの街路と建物



パリ　シャンゼリゼのキャフェテラス

と「ナボーナ広場」がある。カンピドリオは、ここが古代ローマ以来の聖なる地としてミケランジェロが丘全体を一つの建築と見立てて設計しただけに、丘に至る坂、幾何学模様の広場、古代彫刻、三方に控えるルネサンス建築等、一切が不可分の空間として、そこに立つ人をして古代ローマへの想いに誘いこむ。一方、ナボーナ広場は3つの噴水彫刻を静かに見下ろすごとくバロック建築がとり囲む。見上げると何世紀も経たはずの家々の上窓に、往時の人影が見えかくれする錯覚に襲われてくる。このように、いつの時代であれ、精魂こめてデザインされた建築は、やがてその場所になくてはならない存在となり、かってそこに生きた人々の哀歓が宿って、今もささやきかけて来る空間となるのであろうか。

日本の町並み保存

歴史が宿る建築空間はむろん日本にも多い。最近、各地で歴史的な建築文化を遺すため「町並み保存」が叫ばれ、足助、馬籠、妻籠が人気化し、飛弾高山や倉敷に観光客が殺到する有様はしばしばテレビ報道されるところ。片や都市では、優れた建造物に景観賞を与えて優秀デザインと景観向上の動機づけがはかられている。

それに携わる関係者の姿勢・情熱は評価したいが、そのかたわらで開発造成は進み、都市には自由奔放な建設活動が続いているのを見ると、日本経済のエネルギーを喜ぶ反面、デザイン的には「悪貨が良貨を駆逐する」ことになりはしないかと危ぶまれる。建築・土木が、経済性と機能性で計画され、個体的・主観的なデザイン活動が疑いもなく無数の空間処理を行なう場合、不揃いにして国籍不明の建築物は溢れ、町はかってのあたたか味と端正さを切り捨てた顔に変わってしまわないのか。万人共有の客観的外部空間を、思いどおりに変形しデザインを遺す設計者の責任は軽くない。

映像による景観シュミレーション

最近、ハイビジョン普及センター（HVC）は「映像予測シュミレーション」セミナーを開き、景観シュミレーションのためのハイビジョン映像処理技術を紹介して話題を呼んだ。（映像新聞）

高画質のハイビジョン映像のデジタル処理により、CG（コンピューターグラフィック）でシュミレーションするしかけで、ビル建設や鉄橋架橋による景観変化を予測して見せた。

従来のブラウン管が3対4（1対1.33）のアスペクトなのに比べ、9対16（1対1.77）の横長画面は建築デザインと環境の関係を検討する有効な手がかりに今後なるやもしれない。

人間サイドのモジュール

「青丹よし奈良の都は咲く花の薫ふがごとく今盛りなり」と詠んだ万葉びとはしあわせだった。700年代の天平期、作者小野老を包みこむ都は、青瓦と丹の柱の建物が春爛漫の中に連なり、「至福」を実感させる都市空間があった。一方、寺山修司は歌集『少年時代』の中で「大工町 寺町 米町 仏町 老母買う町あらずや燕よ」と、母に寄せる哀惜を歌っているが、それは、超高層ビルの林立するすそ野の無機質な空間にあって蟻と化した？人間がいつの間にか失ってしまった「ぬくもりのある町なみ」を想う心象風景と見えなくもない。高度経済社会にあっても、自らの風土に適した美意識を尊重し、町並みの整合性・新旧共存・自然との融合・人間に好まれる環境デザイン等を中心に据えた、人間サイドのモジュール（尺度）を揮うデザイン活動が強くのぞまれる。

（おがわ　たつお／中部映像関連事業社協会理事長、
ＣＢＣテレビ映画社代表取締役社長）



ローマ　カンピドリオの幾何学模様の広場



妻籠の町並み保存

インテリアと建築デザイン

表現コードの歴史と展開

加藤　和雄

インテリア・建築の表現における包含性の歴史

インテリアとは、建築物の内部、「内部空間」であり、建築は内部空間を包含するものである。

集合論の記号を用いると図ー1（A⊃I）と表現することができる。この空間的包含性において、建築が内部空間より優位にあり、歴史的に展開されてきたという事実が、建築主体の空間の歴史を築いてきたように思われる。

ヨーロッパにおいて、バロック、ロココまでまさに上記のごとく内部空間は建築としての内部空間であり、建築とインテリアは同一の建築の表現コードで表現され、建築とインテリアは空間的にも、精神的にも一体であり、分離できるものではなかった。（A⊇I）

バロック、ロココの到来は、インテリアが建築から分離されるという点において重要な意味がある。（A≠I）内部空間は建築と独立されたコードで表現され、多様な装飾的様式、過去の建築様式のコラージュ、変形的表現の時代が19世紀まで続く。このような状況の中で、1897年オーストリアのウィーンにおいてヨゼフ・ホフマンらが、装飾的様式主義からの離脱を唱え、分離派（ゼシェッション）運動を起し、建築ーインテリアの関係をもう一度古典主義の時代のように一体的な関係（A⊇I）にもどし、装飾的様式のコラージュ的表現を排除し、「用と美」「技術と芸術の統一」を理念とするバウハウスへと、近代建築、モダニズムへの分岐点となり現代へと至るのである。

ヨーロッパにおいて、インテリアと建築の空間的包含性、精神的記号的包含性において、インテリアと建築の一体的表現（A⊇I）の時代が最も長く、古典主義的建築観が正統となり、バロック、ロココのような、インテリアと建築が分離的、独立的表現が邪道とされるのは歴史的にみて理解しやすい。このような考え方は今日においても主流となっているように思われる。

日本においては、ヨーロッパのように建築とインテリアの対立はあまり意識的ではなく、それはおそらく、木の文化、気候によるところが多いと思われる。例えば茶室を例にとるとインテリアと建築は疑うことなく、空間的・精神的にも、表裏一体であり、（A⊇I）が意図的ではなく、自然に取り入れられてきたように思う。

空間の包含性と視点の移行

インテリアは建築に包含されている。（A⊃I）図ー1①の包含関係はインテリアと建築の空間関係を適切に表現していると思われる。（A⊃I）という世界において、ある人が空間を移動すると、その視点の移行によって、同じ空間であっても、ある視点においてインテリア、エクステリア、建築へと変化してゆく。

（図ー2Ⓒ）において①の位置にいる人にとって、空間A_1は内部空間内の建築としてとらえることができる。②の位置に移行すると、内部空間内の建築のインテリア（IN_2）を体感することとなり、次に③の位置まで移行すると内部空間内の建築A_1は、まさに本来の建築A_3として変貌してしまう。

すなわち、空間の包含性とは相対的なものであるということが理解できる（図ー2）、体感者の視点の位置が問題なのである。その基準をどこにとるかによって、同じ空間がインテリアにもなり、エクステリアにもなり、建築としても成立しうるということである。

ふたつの視点

I N→E X

インテリアからエクステリアへの視線軸に基準がある場合。

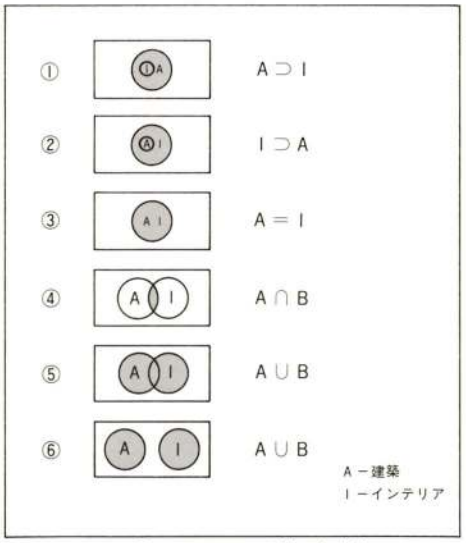


図-1 「インテリアと建築の包含性」

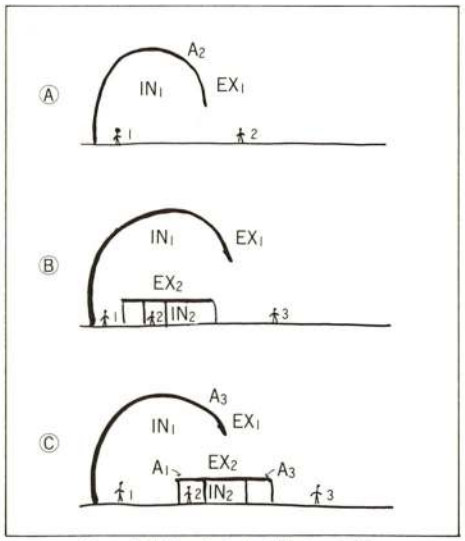
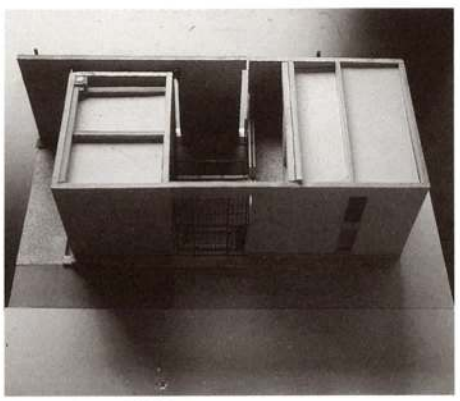


図-2 「空間の包含性と視点の移行」



南面から見た建築模型

「竜安寺の石庭」を例にとると、建築の内部から眺めた時、室内の画像が近景としてあり、中景として、白砂の中に15個の石が点在し、大海の島々を想うのもよし、また虎の児渡しと見るのもよし、見る人の心の変化によって変化する融通無碍の世界、いわゆる哲学する庭があり、遠景として深い樹海が展開され、周囲の人家は隠され陶酔の世界を構築している。これはインテリアからエクステリアへの視線において、近景．中景．遠景、それぞれ異質でありながら調和した濃密な空間の重ね合せであり、インテリアを基準にした重ね合せの「関係性の美学」をもとにしている。

このことは茶室においても同様であり、ＩＮ→ＥＸという自然に対し開放的、交流的な空間の重ね合せであり、同時に精神的世界も表現している。このように石庭、茶室にみる空間性は日本において特徴あるものといえる。

ＥＸ→ＩＮ

エクステリアからインテリアへの視線軸に基準がある場合。

ヨーロッパにおける寺院、宮殿 etc において外部空間の配列、ＥＸ→ＩＮの進行軸に重要さがあり、外に対し閉鎖的、防御的、権威的であり、空間の「配列の美学」をもとにしている。

記号的・精神的包含性

（図―1）において、

① インテリアの表現を建築の表現コードで表現する。
② 建築の表現をインテリアの表現コードで表現する。
③ 建築もインテリアも同一コードで表現する。
④ 建築の表現コード、インテリアの表現コードが別々に存在する中で、建築・インテリア共通の表現コードで表現された部分。
⑤ 建築の表現コード、インテリアの表現コード、建築とインテリアの共通コードで表現された部分、これらの全体。
⑥ 建築の表現コード、インテリアの別の表現コードの全体。

これらの多様な建築・インテリアの表現コードの包含性が複雑に同居し、今日的なインテリア、建築デザインの状況を呈している。

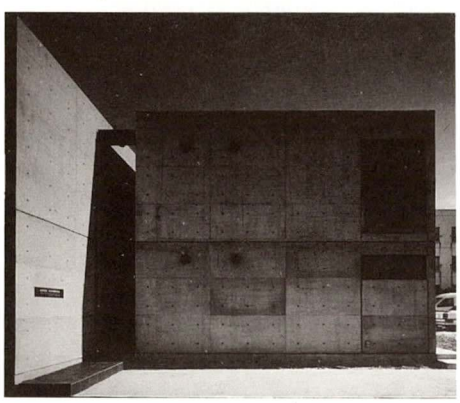
私のインテリア、建築デザイン

私自身、インテリアと建築の表現コードの関係はＡ⊇Ｉ、Ａ⊆Ｉ、Ａ＝Ｉを理想と考えている。先ごろ、インテリアデザイナーである内田繁氏のデザイン・プロデュースによる福岡のホテル「イルパラオ」はイタリアの建築家アルド・ロッシとの共作で建築をアルド・ロッシ、インテリアを内田繁が同じタイプの表現コードでデザインをし、今後のインテリア、建築デザイン界にひとつの方向を示唆した作品といえる。

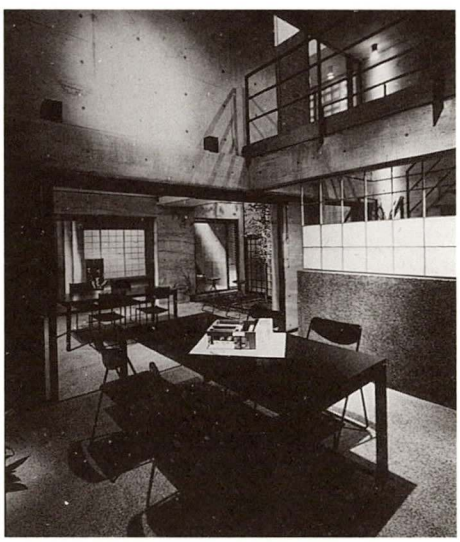
最後に私の自邸におけるインテリア、建築デザインについて紹介すると、私自身の設計事務所であり住居でもあるこの建築には、設計当初から、100人ほどのコミュニケーションが可能なパブリック・スペースを持たせたいという熱い思いがあった。

中庭を中心にオフィスの打合せ室、バーカウンターをもつ住宅の居間を両側に配し、空間的に一体化させ、客やデザイナー仲間と家族とのコミュニケーションを重視し、ミーティング、ギャラリー、セミナー、パフォーマンスなどの多目的に活用できるよう「オフィス」＋「中庭」＋「住居」のパブッリクスペースへの共存化、一体化を図ったものである。

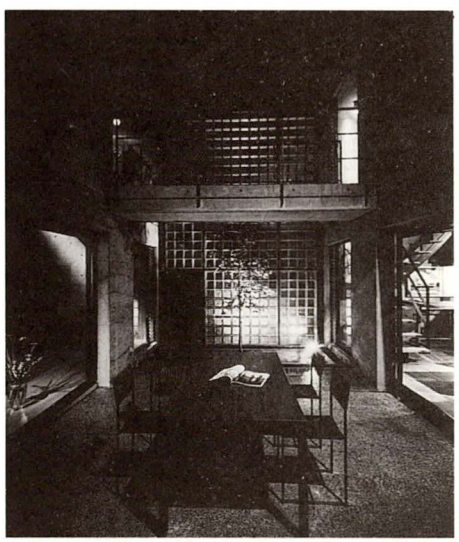
（かとう　かずお／建築家・加藤和雄／状況空間研究所所長）



アプローチ正面からファサードを見る。(H.I.9)



打合せ室（ＩＮ）→中庭（ＥＸ）→居間（ＩＮ）の「重ね合せの空間」



中庭（ＥＸ）の空間の両側に居間（ＩＮ）．打合せ室（ＩＮ）があるので中庭の空間は内部空間のようにも見える。

ストラクチァーと建築デザイン

近代建築の流れの中で——ストラクチャーの様相と変移

渡辺　誠一

ストラクチァーと建築デザインを語るとき、その歴史を抜きにしては語れないだろう。人間が、この地球上に生存し始めてより、「住」はどう扱われてきたか。日本の縄文、弥生時代の竪穴住居からもわかるように、そのストラクチァーとデザインは自然界の材料による最少限の空間と自然現象から身を守るためのものであった。しかし、時代の変化とともに文化、社会構造に対応した建物が必要となり、木造建築の粋ともいうべき寺社建築、城郭建築がストラクチァー即、建築デザインとして近世まで、我が国では続いてきた。しかし、明治に入り、西洋建築様式が入り、鉄・コンクリートなどの構造素材とともに、木造建築も影響を受け、新しい建築が行なわれてきたのであるが、ストラクチァーと建築デザインについて近代建築の流れの中で述べることにする。大雑把にいって戦後1950年代からのモダン建築（構造表現を建築デザインとする）から、1970年代からはじまったポストモダン建築（構造を表現することをきらう）へ、そしてまた近年ではテクノロジーの発展とも相まってか構造をデザイン表現することによる新しい傾向の建築が出来てきている。

1例をあげれば、N.フォスターの香港海上銀行（**写真－1**）であり、I.M.ペイの中国銀行（**写真－2**）、伊藤建築設計事務所・東京（織田）のアサヒビール茨城工場（**写真－3**）、黒川雅之の美和ロック工業玉城工場他がある。

このような時代の流れにストラクチァーと建築デザインはどう絡みあっていくのだろうか。

1．力の流れと建築デザイン

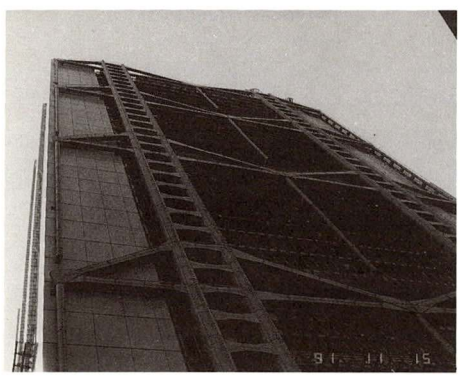
古代ローマの神殿の影響といわれる法隆寺の柱のふくらみエンタシス、石造神殿の重厚な建築、その重厚さを支えるエンタシスは円柱に荷重を載荷したときの円柱の力学的変形性状そのものであり、木造建築とはいえ瓦葺の大屋根の重量を支えるエンタシスの柱はいかにも重厚さとその安定感を与える力学的デザインそのものを感じさせてくれる。また、中世の城郭建築の石積みと城郭の力の流れのシルエットはいかにも安定感がある。

さて、現代の建築において、これらをみるとき、いかなるものがあろうか、現代の建築は経済社会のニーズから、高層住宅、大空間を必要とする建築、地価の高騰と経済効果の追求による建物、超高層建築までその多様化はきわまりない。そして、その多様化の中にも力の流れを構造表現する建築もまた多くみられる。例えば丹下の国立代々木競技場（**写真－4**）の如く吊り構造によるダイナミックな力の流れを建築デザインとしている。しかし、最近のテクノロジーの発達は20数年前とは著しく、比べものにならず、コンピュータのテクノロジーが、地震国の日本にも超高層ビルを、可能ならしめ、耐震のテクノロジーが、従来の剛構架（耐震壁）から、柔構造、免震構造へ、そして地震波をいち早く感知して、コンピュータにより建物の剛性を制御し、建物への地震入力を減らそうというアクティブな制震構造の建物が出現している。この様なハイテク駆使時代のストラクチァーの力の流れと建築デザインには大きな変化がもたらされている。

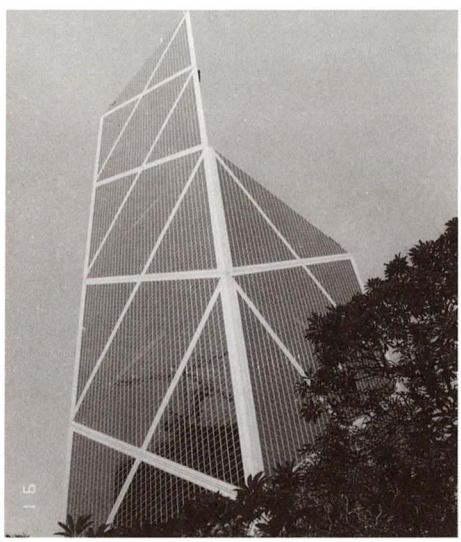
それらは、新宿副都心における超高層建築群の中にストラクチァーと建築デザインのかかわりに見ることができる。例えば、東京都新都庁舎におけるストラクチァー（鉄骨造メガストラクチァー）と建築デザインの中に力の流れの必然性を見出すことができるであろうか。

2．構造素材と建築デザイン

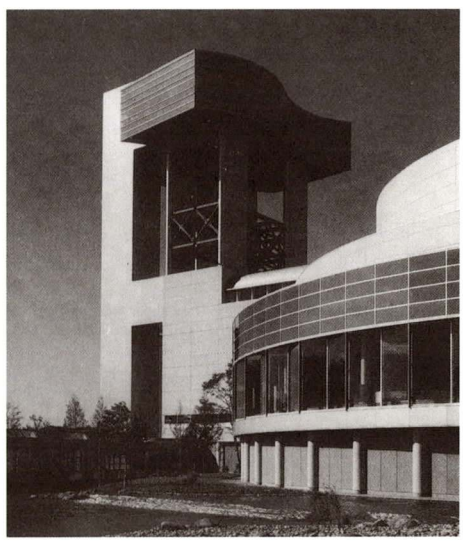
17世紀後半の産業革命より19世紀にかけて鉄、コンクリートの建



写真－1　香港上海銀行



写真－2　中国銀行



写真－3　アサヒビール茨城工場Zタワー（接待展望棟）

築への使用が建築に大きな変化をもたらした。錬鉄によるパリーのエッフェルのタワー、O ペレーの鉄筋コンクリート構造材料の美を建築デザインへ応用、ミースの鉄骨とガラスの建築、ネルビーのコンクリートプレファブ部材を用いた大ドーム建築など構造素材の開発と進歩が建築のデザインを変えてきた。日本においても木材から耐震、耐火性能のすぐれたコンクリートへ（その急激な推進が、木造建築を駆逐してしまったともいえる。）、昭和30年代のコンクリート打放し建築デザイン、鉄骨骨組を表した建築デザイン、コンクリートプレキヤスト材の組立工法の建築意匠など、構造素材が、建築デザインと深いかかわりを持ち、素材の持味がデザインとして使用されるに及んでストラクチァーとともに建築家のデザイン意欲を大きくかきたてる要素となってきた。アルミニウム、ステンレスはもとより、GRC、耐候性鋼材、耐火鋼材、炭素繊維材料など、ニューマテリアルのさらなる建築デザインへの応用が期待される。

3．建築家と構造家

昔はストラクチァーもデザインもひとりの棟梁によって行なわれてきた。しかし、今日のように複雑化した情報社会とハイテクの時代ではもはや、ひとりの棟梁、建築家では、建物を設計することは不可能となってきた。ここでは、種々の分野のプロフェッショナルが必要となる。本来、構造とは建築デザインとして骨組をデザインとして用いても、用いなくても、自然の外力に耐えることを目的とすればどちらでもよいといえばいえよう。しかし、構造が、建築のデザイン要素として参画しているとすれば、構造家にとっては申し分のないことである。建築家も構造家とのかかわりあいにおいて大別してみると大きく二つのタイプがある。一方は、建築家自身が、あるアイデアのもとに計画し、構造家には単に構造の法的裏付け（構造計算）を求めるタイプと、片方は、あるプロジェクトに関して、初期の段階から、プロフェッショナルの参加を求め、建築家の発想をパートナーであるプロフェッショナルとの交流の中からヒントを得て発想をより豊かなものへとするタイプである。例えばN.フォスターやR.ピアノなどは後者のタイプの建築家といわれ、現在、日本で建設中のR.ピアノの関西国際空港の流れるような屋根のデザインも、構造や設備のエンジニアとのデスカスションの中にヒントがあったといっている。R.ピアノによれば「クリエーティブな仕事のプロセスは現実的には、非常にインフォーマルなものである」と。ハイテク時代の建築デザインの発想はプロフェッショナルとのインフォーマルな日常会話の中にも存在するといっているのである。

さて、構造技術が普遍化してくると構造のデザインは単なる構造解析への技術者となりさがり、新しい構造デザインの挑戦がなくなるという意見がある。また、構造家として美しさへの意欲がないのは構造家がオーナーと結びつきを持たないからではないかと指摘する建築家もいる。現代社会の分業化が、そうしているともいえなくもない。しかし、新しい建築がこれからデザインされるためには、少なくとも構造が、建築にとって材料と施工、メンテナンス、建築コストなどに深くかかわる以上、構造家は建築構造のテクノロジーの他にデザインの感性を養う必要があろう。建築家のパートナーとして、建築空間をいかに創造するか。建築家はパートナーである構造家次第で、構造家もまた建築家次第で、新しい作品が生れる可能性があるのである。

地震国の日本で設計されたN.フォスターのセンチュリータワー（**写真－5**）の建築空間とストラクチァーを見るとき、何か考えさせられるものがあるのではなかろうか。今、筆者も新しいストラクチァーとデザインを模索中ではあるが（**写真－6**）。

（わたなべ　せいいち／伊藤建築設計事務所取締役兼セントラル技術センター代表取締役）



写真－4　国立代々木競技場第２体育館



写真－5　センチュリータワー



写真－6　国営木曽三川公園三派川地区センター展望塔（仮称）指名競技設計１位当選案（伊藤建築設計事務所）

生産システムと建築デザイン

省力化の対策例と今後の課題に向けて

岩田　正弘

はじめに

ここでいう「生産システム」という言葉の概念を「広い意味での建築の施工法及組み立て工法」ととらえて進めたいと思います。

既に、御存知のように建設投資は今でこそやや落ち込んできましたが、それまでの３～４年間は増加の一途で、1990年度は83兆円に達しました。一方でこの建設投資を消化すべき建設業界では慢性的な人手不足で、とても必要なだけの型枠大工、鉄筋工等の作業員を確保することはむづかしい状況でした。

そこで、建設業界ではこの増え続ける建設投資を消化するために、どうしても従来の現場労務集約的な生産システムを現場での労務を極力削減する生産システムへ改革する必要に迫られていました。

そこでこの３～４年間の生産システムの改革の動きを追ってみたいと思います。

1．生産システムの変遷

まず、最初に現場での型枠大工、鉄筋工の工数を極力削減することに主眼が置かれ、そのための主な対策として次のようなものが取り上げられ推進されました。

対策１　地上部の構造をなるべく鉄骨造とする。

工事入手後、従来工法の設計を変更して鉄骨造にしようとすると、その設計変更のために多大の時間と労力が必要となり、そのためにかえって現場の進行の足を引っ張ることになりかねないので注意が必要です。

また、型枠大工や鉄筋工が確保しにくい事情は建設業界のどこでも同じなので、鉄骨造の設計の建物がふえて、鉄骨業者へ注文が殺到したことは御承知の通りです。

対策２　地上の外壁をなるべくカーテンウォールとする。

前の**対策１**と密接に関連しますが、地上部を鉄骨造とした建物の外壁をカーテンウォールとし出来るだけ工場で加工して現場での工数を削減しようとするものです。

対策３　床型枠をなるべく無支保工工法とする。

従来の床型枠工法ではセキ板用型枠ベニヤ、支保工用パイプサポート等床型枠を組み立てる場所迄持ち込む材料の運搬・組立解体手間が大変なので、その工数を削減しようとするものです。この場合、デッキプレートを単に型枠代りとして使用する工法とデッキプレート合成床板といってデッキプレートが硬化後の上部の床コンクリートと一体となって曲げに抵抗する工法の二種類に大別されます。

無支保工法はこのデッキプレートをハーフＰＣ板等に置き換えて多用されています。

対策４　床、カーテンウォール以外にもＰＣ部材を多用する。

バルコニー床板、柱、梁、壁の型枠として厚さ75㎜程度のハーフＰＣ板を使用したり、あるいはＰＣ工場や現場の地上でＰＣ小梁を製作し鉄骨と同様に建方することも行なわれています。

対策５　なるべく型枠を大型化する。

型枠を大型化して型枠大工の工数を削減しようとするもので、各メーカーで各種のものが開発されています。なかでも「アルマシステム」とか「バリオシステム」が著名です。この型枠の大型化は、多くの場合、いわゆる「ＶＨ工法」と併用されます。

対策６　鉄筋工の工数を削減する。

多く使用されているのは、工場製作されたメッシュ鉄筋を壁筋、床筋、基礎梁スターラップとしての使用と柱フープ、梁スターラップにＦＢリング、TSK フープなどの使用です。

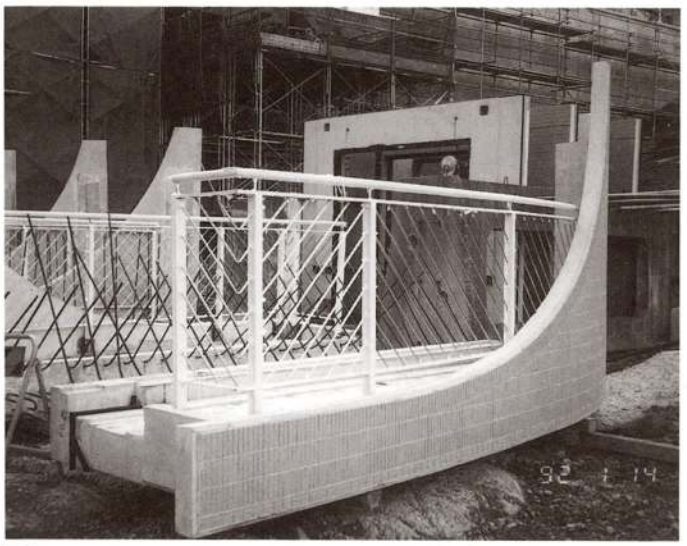
以上のような対策を主な柱として、当初からの目標のように型枠大工、鉄筋工の現場での工数を極力削減するために、前記の対策を採用する現場が多くなるように推進しようとしたのですが、現場の責任者とすれば不慣れな工法を採用するために、余分な検討作業が必要になり、またその検討作業では予測もつかなかったミスが発生するリスクを背負い込むよりも、手慣れた従来からの工法で施工し

た方が楽で安心だという気持の人が多く、この種の対策が広く採用されるまでにはかなりの時間が必要でした。

しかし今ではこの種の対策を採用するのが当然と考えられるようになり、設計者、業者の現場と協力業者の意識も変り、同時に実践を通じてお互いの技術レベルも上り、**写真－1**、**写真－2**に示すような複雑な形のバルコニーのタイル打込のフルＰＣ板も採用されるようになり、仕上精度も良く好評です。

また、今まで述べた現場工数の削減対策とは趣きが違いますが、当社では高層ビルの鉄骨工事、外壁カーテンウォール、床ＰＣ板を自動的に迫り上りながら施工し、且つ最上部を雨風に左右されない覆いをつけ、その覆い自体も迫り上がっていき全天候で作業出来る工法を開発し、これをスマートシステム（Ⓢ himizu Ⓜ anufacturing system by Ⓐ dvanced Ⓡ obotics Ⓣ echnology）と名付け、名古屋市内で着工した十六銀行名古屋ビル（設計：日建設計）で実施します。

この工法は生産システムの将来を示唆していると思います。



写真－1　バルコニー用タイル打込フルＰＣ板の近景（志摩タラソホテル）

2．生産システムと建築デザインの今後の課題

以上のように、この3～4年間に建築の生産システムは急激に変化し、また今後も変化させていかねばならぬと思います。

この際、一旦従来の工法で設計したものを先に述べた現場工数削減の工法へ設計変更しようとすると、その時間と労力が大変なので、当初設計段階よりその種の工法を折り込んだ設計にして頂くよう発注者、設計者の方へ特にお願いしたいと思います。

また、生産システムの変化が進行していくと、現在以上に工場製品を現場で多用するようになります。それに伴なって、どうしても同一モデュールや類似モデュールが多用されることになり、建築デザインを単調なものに押しやりがちとなります。この欠点をどのように克服して良い建築デザインを生み出していくのかが、発注者、設計者、建設業者に課せられた今後の課題だと思います。

（いわた　まさひろ／清水建設㈱名古屋支店生産システム部部長）



写真－2　同上バルコニー用ＰＣ板の取付状況（志摩タラソホテル）

北欧の都市と建築（4）——フィンランド・ヘルシンキ（II）

中島　一

〝バルト海の乙女〟という愛称で親しまれているヘルシンキのよさは、まずは環境のすばらしさである。三方を海に囲まれた旧市街をはじめ、市内のいたるところが緑と水に取り囲まれており、そのうえ、美しい現代建築が建ち並び都会的ムードが漂っているのである。ここは建築家エリエル・サーリネンやアルヴァ・アアルトをはじめ、数多くのモダンな建築家の手によって創出された秀作が多いことは、ご承知のとおりである。さて、車で街へ出かけるとしよう。

フィンランディア　アルヴァ・アアルトの作品であるコンサート・ホール兼会議場のこの建築は、新しくデザインされたヘルシンキ市センターの部分をなすもので、1961年、テーレ湖畔に計画されたセンター最初の建物である。敷地の木々はそのまま残されていて、歩行者ゾーンが、ヘスペリア公園に沿ってマンネルハイム通りとコンサート・ホールの間を走っている。主ホールは1,750席をもち、350席のリサイタルや室内楽のための小さなオーディトリウムもある。また、300人収容する分割可能なレストランもある。白い大理石張りのファサードは、遠望を意識したもので、テーレ湖側からの白い大理石張りのファサードは見事である。

アルヴァ・アアルトの作品のなかでも私の最も好きなものの一つである。ところが、外装の大理石にそりが出て落下防止のための補強金物が取りつけられ、落下防止ネットが貼っていたのには驚いた。

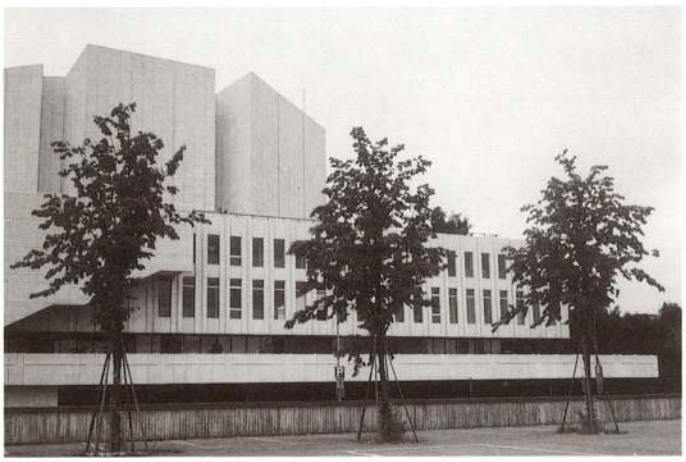
オタニエミ工科大学本館　キャンパス計画のコンペは1949年に行なわれたもので、これまたアルヴァ・アアルトの作品である。キャンパスは主要建物の一方の側の広場が自動車用にあてられ、その反対側が歩行者ゾーンになっていて、階段状に公園のようにつくられている。扇形で屋外劇場にも使えるホール部分を中心として、各学部の建築が連結されている。教室は、小さな中庭の周りに集められているが、これらの教室群の中には、中講義室・実験室等がおかれている。建築は大きく四ブロックに分けられている。管理ゾーン・一般教養科・地理学科・建築学科であるが、建築学科棟だけが白大理石仕上げとなっていて異色である。アプローチから全てのブロックが眺望でき、すばらしい景観を創出している。

タピオラとオタニエミ　1951年、増大するヘルシンキ市の人口に対処するため、住宅財団はヘルシンキ市中心部から西へ10kmのエマボー市内のタピオラ（森の精の意味）に衛星都市を建設する計画に乗りだした。この計画のコンセプトは、「人間の個性と自然への接触を守る」とし、住宅だけでなく、道路・街灯・公園・上下水道・発電所・企業などの建設も管理するとしている。このため、建設以前に生えていた樹木はそのまま残され、住宅は林の中に建てられ、傾斜地や池はそのまま巧みに市民広場や公園の素材として利用されている。樹木より高い高層住宅は全体の1／3以下におさえられている。

市の中心部にあるケスクストルニという13階建ての高層ビルは、全市の管理センターになっている。またこの屋上は展望台になっていて、ここに登るとタピオラの全容を一望のもとに眺め渡すことができる。このビルの周囲には広々としたスペースがとられ、市民の憩いの場になっている。また、ここを中心に銀行・レストラン・カフェ・ショッピングセンター・デパートなどの施設が整っており、ケスクストルニの前にある人工池には噴水が飛沫をあげ、それを囲むように教会・スポーツセンター・ヘルスセンターが配置されていて、まことに細かいところまで行き届いた配慮がなされている。

タピオラの北東、工科大学のあるオタニエミには、学生、教員だけでなく、その家族、大学の職員が住んでおり、数々の名建築が林のなかに建ち並んでいる。なかでもアルヴァ・アアルトの工科大学本館、カイヤ・シレンとヘイッキ・シレン共作の礼拝堂および学生食堂、レイマ・ピエティラとライリ・パーテライネン共作の学生会館ディポリなどは、静かな落ち着いた白樺林との調和がとれたすばらしい都市景観を形成している。

カタヤノッカ　都心に近接するカタヤノッカ島の再開発として計画されたものである。古くからの港湾工場地区であったカタヤノッカ島の古い建物の修復、リニューアルと集会住宅建設により、都心住居地区として再生している。集合住宅は中層囲み型の連続形をとっている。1972年の再開発計画のコンペティションによって全体計画を決定し、これにもとづき、各ブロックごとに建築家を替えて設



アルヴァ・アアルトの作品であるフィンランディア



アルヴァ・アアルトの作品であるオタニエミ工科大学　大オーディトリウム



タピオラのケスクストルニの展望台から高層住宅群を見る



タピオラの白樺林の中の低層集合住宅群

計したもので、形態も色彩においても見事に調和した景観を形式している。各ブロック内は、公営の賃貸、分譲と民間分譲を混合し、これら相互の階層の融合をはかるのに成功している例である。

ウエスト・パシラ　ヘルシンキのオールドタウンの北方約4 kmの副都心開発地区である。鉄道の拠点であったパシラ地区を副都心として開発するアイデアは古くから提案されていたものの、実現に至らなかった。しかし、近年のオールドタウンの過密化と交通混乱の解決のため、交通ターミナル・商業施設・公共施設・集合住宅の広域複合開発が行なわれたものである。この中心地区は高層オフィスビル、商業施設等で構成され、また2階レベルを歩行者空間として歩車分離を図っている。集合住宅地区は現在もなお建設中である。

イースタンセンター　都心の東方約10kmのヘルシンキ東部地区センター開発。ヘルシンキ市の都心機能の分散整備計画による開発拠点の一つである。地下鉄とハイウェイで都心と結ばれており、バスターミナル・商業施設・文化施設および集合住宅等の複合開発となっている。1972年に計画され、現在、ターミナル・文化施設・商業施設の一部が完成。ターミナルビルは1階が駅とパーキング、2階レベルが広場で、2階以上に商業施設・オフィス等が入居している。さらに中心施設周辺部は2階レベルを歩行者レベルとし、積極的に歩車分離をはかっている。

*

今回の北欧の旅は8月3日から8月12日の10日間であった。一年中で最も日が長い期間、太陽が深夜まで輝きを見せてくれた。

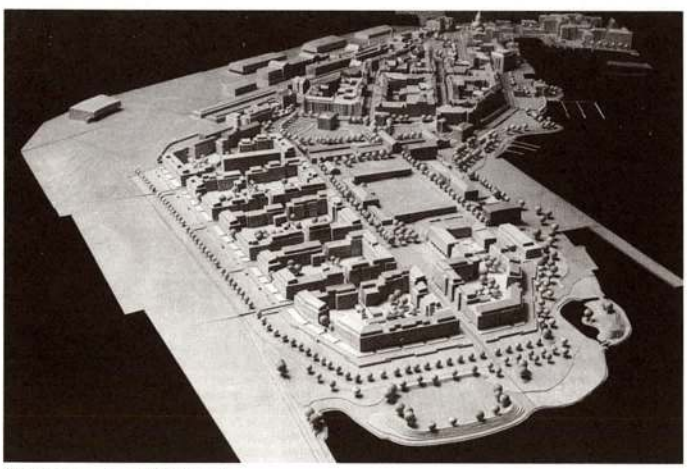
（なかじま　はじむ／愛知工業大学教授）



タピオラの市の中心地区



イースタンセンター　地区センター



カタヤノッカの再開発計画



ウエスト・パシラ副都心再開発地区

■追悼文

名誉正会員・元京都支部長

井手正雄氏逝く



明治36年12月22日　京都府に生まれる

略　歴

大10年３月　京都府立京都第一中学校卒業
　14年３月　第三高等学校高等科卒業
昭３年３月　京都大学工学部建築学科卒業
　４年４月　大阪市勤務
　11年３月　私立商工学校を経営
　15年１月　㈱烏丸学園を設立　理事に就任
　17年３月　京都市立第二工業学校勤務
　18年10月　京都府地方技師に任命
　22年７月　商工技官に任命
　23年２月　京都府技術吏員に任命
　23年８月　京都府総務部営繕課長
　　兼土木部特別建設課長
　27年４月　㈱烏丸学園が㈱清和学園に変更
　　同上　理事に就任
　28年　㈱清和学園を解散㈻清和学園設立
　　同上　理事に就任
　30年９月　京都府建築部建築課長
　31年８月　京都府を退職
　32年４月　㈻清和学園長に就任
　33年５月　㈱清和建築設計事務所設立
　　代表取締役に就任

協会歴

昭６年４月　個人正会員として入会
　29.3～31.2　評議員
　32.4～34.3　理事
　35～　48　京都支部長
　49.2～　名誉正会員

平成３年12月17日　逝去（88歳）

井手正雄氏を偲ぶ

河　島　勝　三

本会名誉正会員　井手正雄氏は、平成３年12月17日88歳の天寿を全うされ、惜しくもご逝去になりました。

ここに同氏が歩まれた88歳の歴史を振り返り、ありし日の面影を偲びつつ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

井手家はもともと京都府綴喜郡井手町のご出身であります。700坪に及ぶ広大な屋敷は昭和28年８月、井手町の大正池の決潰によって流され、跡形もない荒地と化してしまいました。幸いにもその２年前に仕事の関係もあって京都市内に転居され、多くの死者を出した災害から難を逃れられることができました。今も、井手家のお墓はこの井手町の山麓にあり、同氏もここで安らかに永久の眠りにつかれるのであります。

同氏は明治36年12月22日生まれで、小学校の頃は、算術と図画を得意とする利発な子でありました。そして、両親の希望どおり、当時の京都にあっては最高の学歴といわれた、京一中、三高、京大へと進学の道を果たされるのであります。三高時代はラグビー部に籍を置き、勉強とスポーツで心身共に鍛えられました。氏は自伝の中で、「私は中学の頃から鼻が悪く蓄膿症で困っていました。ラグビーはきつい運動ですが、半年間でそれがすっかり治り、こんなことに効果があるとは思いもよらぬことで、鼻の病気が治ると、すっきりとして勉学が楽になって大助かりでした。」と回顧しておられます。

大学への進学については、東大の工学部造船科にしようか、京大の工学部建築科にしようかと随分悩まれたようですが、ご家庭の事情もあって京大へ進まれることになりました。

京大では構造力学のゼミに入り勉学に励まれるかたわら、三高時代からのラグビーを続けられ、また、絵画にも親しまれました。特に、絵画は後年京都チャーチル会のメンバーとして活躍されるなど氏の終生の道楽として、多くの作品を残しておられます。

昭和３年大学を卒業され翌４年には、大阪市役所へ勤務されることになりますが、これが氏の建築人生の始まりであります。氏は晩年「私の88年の永い人生の間の半分以上を建築技術者として生活してきましたが、建築とは如何なるものかと云うことを適確に説明することは容易でないと思います。幸いにも私はその途の専門の学校を卒業しましたけれども、学校での僅かばかりの年月の間では、建築の匂いをかいだに過ぎず、その後就職して建築関係の仕事に従事しましたが、初めの数年間は見習いか手伝いの仕事で五里霧中でした。約十年が経って、まがりなりにも設計図面を描くことができるようになったと思います。」としみじみと述懐しておられます。いずれにしても、昭和３年から昭和31年までの間長い役人生活を送られたのでありますが、この時期は戦前・戦中・戦後にわたる昭和の激動期であり、大変なご苦労があったと推察されます。

氏は、建築技術者であると共に、父君が創設された学校法人の経営にも励まれ、また、お忙しい時間を割いて日本建築協会・建築士会といった建築関係団体の運営にも尽力いただいたのであります。

時には技術者として、時には芸術家として、そしてまた教育者として多忙なうちに88年の人生を送られた井手正雄先生の人生は充実した一生でありました。

井手の里で永遠の眠りのなかから、私達後輩をお導きくださるようお願い申し上げ、追悼の辞といたします。

（日本建築協会京都支部事務局長）





構造の頁

202

鋼構造の設計/生産における汎用3次元モデルとCAD/CAMアプリケーション

山本　義行

きたるべき21世紀へ向けて、3次元実物モデルに準拠した新たな手段による設計のシステム化や標準化と、コンピュータネットワークによる部門間や企業間のモデル情報交換による関連システムとの有機的連結が極めて重要となる。

本文では、このような主旨にそって開発され、社内での豊富な実用実績を背景に、すでに一般鉄骨ファブリケータのみならず、設計主導による事態の打開をめざす大手ゼネコンや鉄骨系プレファブメーカーなどでも採用され始めた「HYPER.CAD」について紹介する。

3次元モデルの概念と構造

本システムにおける3次元モデルの概念は、3次元任意平面上にその法線ベクトル方向に厚みをもって定義される任意形状の「板」を基本単位とする。必要に応じて、これにボルト孔配置情報や外周辺に溶接開先など縁端形状情報を定義するとともに、曲げ軸線を与えることで曲げ形状を定義する。この「板」のさまざまな形での集合が「製作モデル」を構成する。

この「製作モデル」を、詳細設計では厚さのないペーパーの集合におきかえてモデル化し、さらにこれを基本設計ではスケルトンにおきかえてモデル化することにより、設計の概念で「製作モデル」をコントロールする。

表—1　各モデルの概念と構造

	基本設計モデル	詳細設計モデル	製作モデル
部材	スケルトンモデル	部材片の集合	
部材片	—	板の集合	
板	—	ペーパーモデル	板モデル
部品	—	部材と板の集合	
製品	—	—	部品の集合

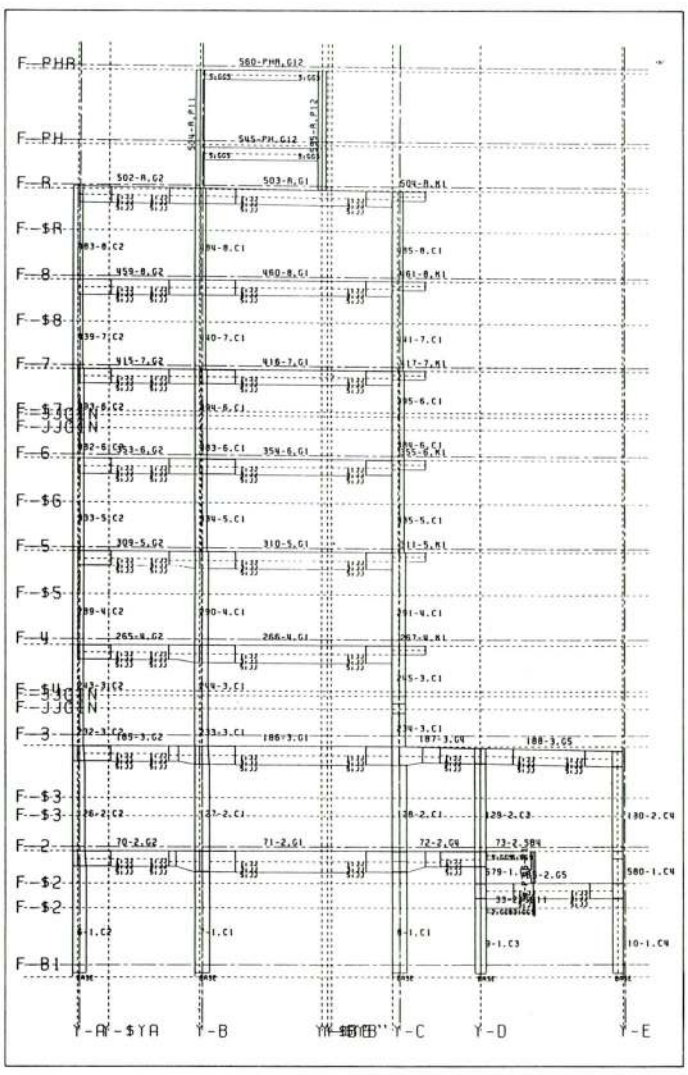
これらの本システムのモデルの概念と構造は、**表—1**のごとく整理される。

3次元モデリングの概念と機能

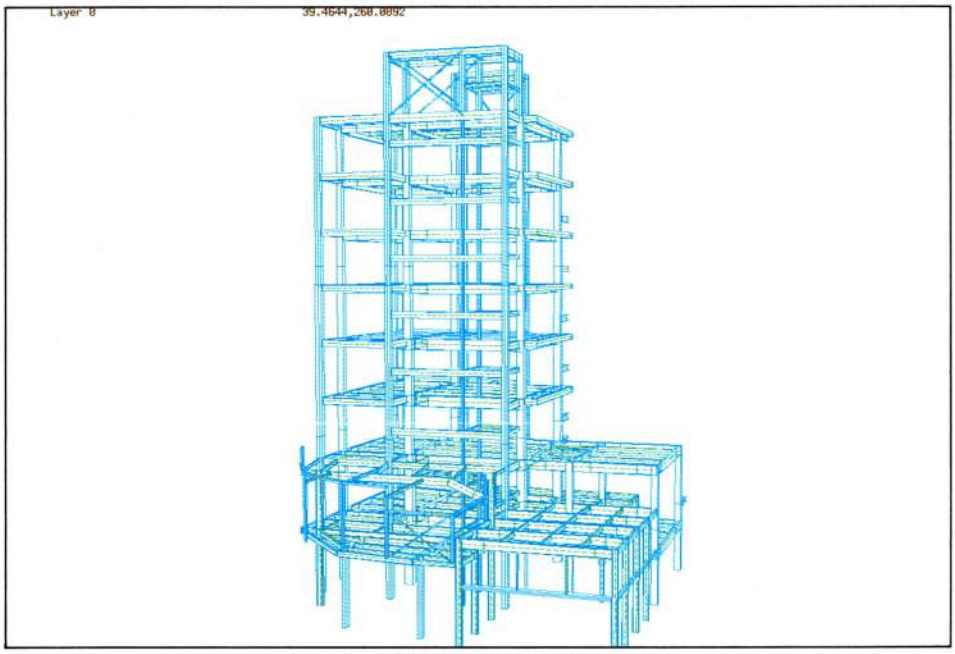
本システムの3次元モデリングの概念は床面、通り面といった平面を基準として、部材スケルトン、部材片、板といったオブジェクト（設計対象物）の原形の定義／配置操作と、設計の進展に伴い随時必要となるこれら原形の変形、再配置操作を行うこととなる。言い換えれば、設計の概念とプロセスに従って、各部の部材片／板相互の接合関係が「製作モデル」として納まるように随時変形させるプロセスを、コンピュータグラフィックスを媒体として再現させる機能がモデリングの機

表—2　モデリング機能の概要

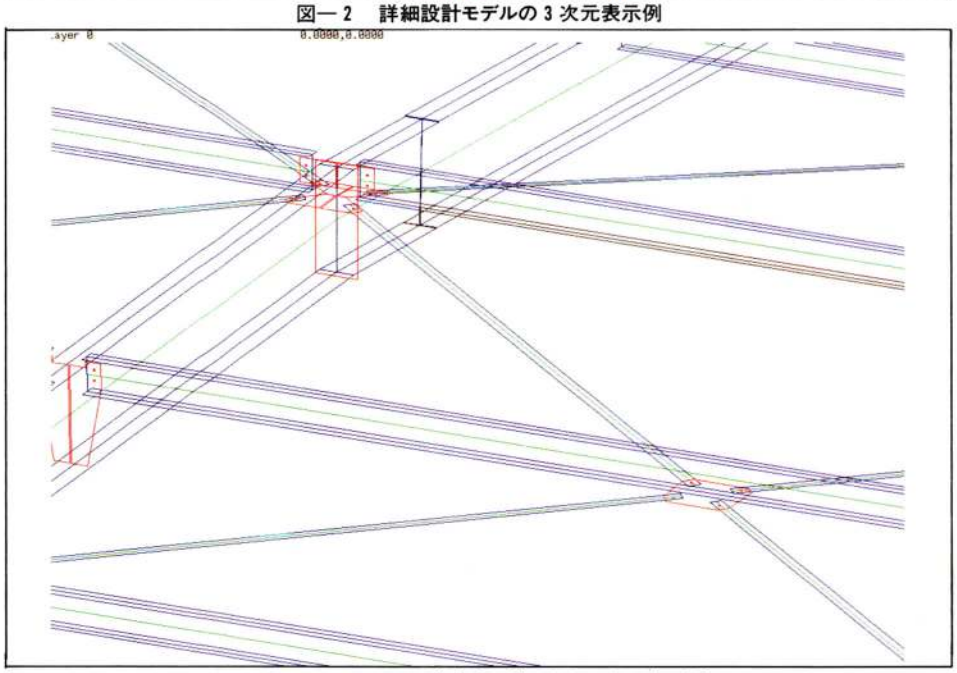
共通機能	オブジェクトの検索	検索条件を指定して任意のオブジェクトあるいはオブジェクト群を検索し、コマンドの入力フォーマットとともに出力する。
	操作コマンド入力	当該オブジェクトに関する所要の操作コマンドとパラメータを、1オブジェクトに対して1行で割り当てられたフォーマットに入力する。先頭行に後続するオブジェクトに対して入力を省略した場合は、先頭行のコマンド/パラメータを参照する（自動コピー）。
	タスクの実行単位	入力の単位とその実行の単位は独立している。入力の都度実行させることもできるし、入力データを任意の単位でまとめて実行させることもできる。これにより、局部的な修正/変更が自在となる。
	実行結果のレビュー	実行結果をオブジェクトの検索条件で指定した範囲につき、2次元あるいは3次元でモデルをレビューできる。必要に応じて図面紙に出力して、一括イエローチェックすることも可能である。
	基準値/標準値の登録/編集	接合/補強部の設計に関する全プロジェクト共通の基準値/標準値あるいは当該プロジェクトに共通の基準値/標準値として随時引用するために、事前に登録/編集する。
	標準手順の登録/編集	特殊な詳細に関する一連のコマンドを、パラメータの基準値/標準値とともに、その繰り返し参照のために随時登録/編集する。
設計機能	部材納まり設計	面/部材の定義/配置/編集を行うとともに、スケルトンの移動/回転/伸縮/投影等による部材配置のリファイン操作を行う。部材分割/切断による部材片への展開操作と板継/柱絞り/梁ハンチ等の定義による部材片形状のリファイン操作を行う。必要に応じて、移動/回転等による部材片配置の個別微調整操作を行う。
	接合/補強部の設計	継手/ガセット仕口/柱脚/パネルゾーンにおける接合/補強板の形状/穴配置等の定義/部材片への配置操作を行う。その他部材片の曲げ加工/部材片端特殊形状切断や型鋼接合片等の形状/穴配置の定義と部材片への配置操作、また、その他のスチフナー/リブ/カバープレート等補強プレートの定義と部材片への配置操作を行う。特殊部材として、ラチス部材の形状/配置の定義と部材への配置操作も行う。いずれも標準化されておれば入力の大半が省略されうる。



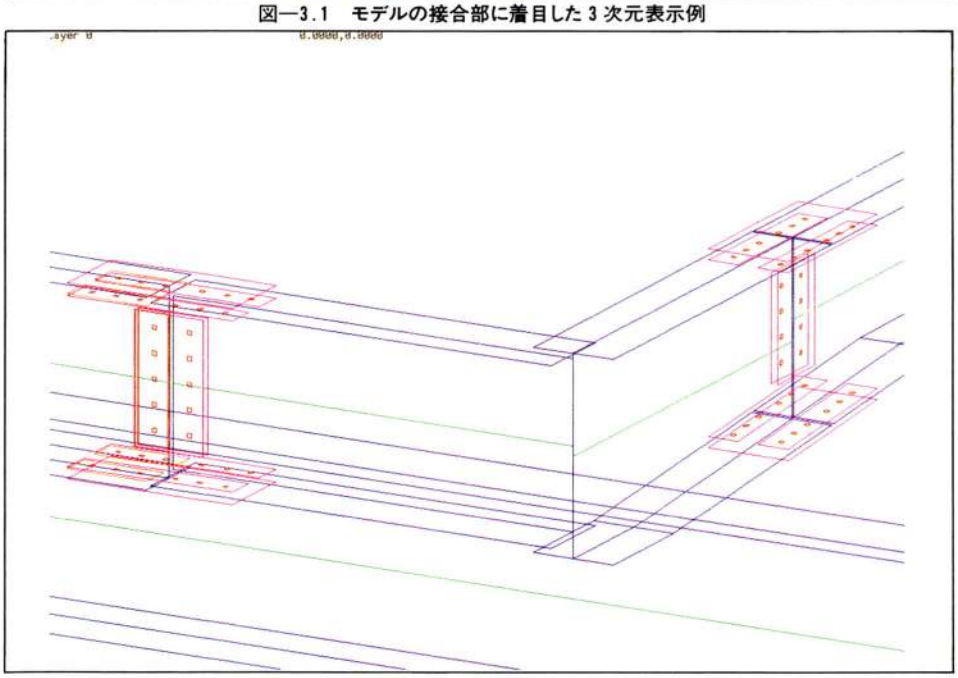
図—1　詳細設計モデルの軸組図表示例



図— 2　詳細設計モデルの 3 次元表示例



図—3.1　モデルの接合部に着目した 3 次元表示例



図—3.2　モデルの接合部に着目した 3 次元表示例

能である。これを一言でいえば設計の概念と手順で原寸をコントロールする機能ともいえる。

この 3 次元モデリングの機能の概要は、**表— 2** に示す通りである。

図面／帳票に関する自動編集機能と対話編集機能

上記モデリングで完成された詳細設計モデルの軸組図表示例と 3 次元表示例を、それぞれ**図— 1** と**図— 2** に示す。また、モデルの接合部に着目した 3 次元表示例を**図— 3** に示す。

最終的な「製作モデル」はこのモデルから自動的に生成される。同時に、この「製作モデル」から一般図、製品詳細図、単品詳細図(定規リスト／原寸型板）といった図面類並びに製品や部品の数量明細書類が自動的に編集される。こうして自動的に展開された図面を対話で修正／再編集したり、部分的な図面／型板等を対話方式で直接描くことも当然可能である。

これら出力機能の概要を**表— 3** に示す。

表— 3　出力処理機能概要

一般図	伏図/軸組図/アンカープラン/継手、仕口リスト/部材断面リスト ただし、伏図/軸組図は骨組詳細図としての出力も可能である。
工作図 製品詳細図/ 単品詳細図	製品マーク/部品マーク/員数処理並びに溶接開先/スカラップ/縮み代/クリアランス処理並びにダクトスリーブ/鉄筋穴/セパ穴等付帯穴処理並びにバンドプレート/カンザシ/タラップ/ハイステージ受け/安全金物等付帯金物処理等を含む。
数量明細書	径別/首下長別ボルト本数、溶接長を含み、モデルの構造と工区にそった明細の分類/集計が可能である。

3 次元モデリングの将来性

前述の図面／帳票の自動編集機能は、常に100%の入力項目とその精度を要求するものではない。その出力内容と精度は、唯一その処理時点での設計モデルの内容と精度に一致する。したがって、必要に応じて随時一般図や鋼材手配など所要の検討や業務のための図面や積算書として機械的に得ることができる。

ところで、構造計画にはじまり実際の製作が可能になるまでの設計のプロセスは、最初はラフなモデルにはじまり、構造計算や他の建築設計や製作／施工上との整合性をとりながら、最終的に製作に足る正確なモデルへと収束させていく行為にほかならない。本来、人が精力をつぎ込まなければ点は図面作成や積算にあるのではなく、この収束を効率よく行うように工夫していくことにある。

このシステムのモデルと標準値とを設計者／製作者／施工者との間で共有し、より密接な相互連携が可能なように関連システムとの連結を計っていくことにより、建築鋼構造の設計／生産のプロセスを革新していくことこそが本システムの目的とするところである。

（やまもと　よしゆき　新日本製鐵株式会社鉄骨 CAD／CAM センター（TCC 大阪）所長）

設備の頁

202

体感温熱環境制御用センサー

古川　良知

人の温冷感は、人体の状態としての着衣量と活動量、環境としての気温、輻射熱、気流、湿度があり、ほぼ6つの要素によって形成されている。

しかし現在においても空調の多くは気温のみを一定に保つ制御であり、1日の周期（あるいは季節の周期）で変動する輻射熱や湿度、また換気流等の変化に対応できず、かならずしも満足されるものではなかった。

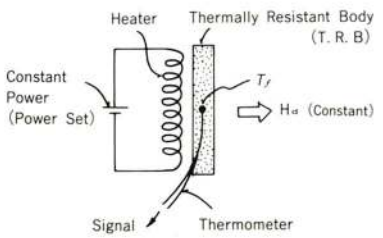
人の温冷感に近い出力が得られるセンサーを組み込み、オフィス設備にマッチした安価な製品を開発したので、この機会に報告したい。

センサーの原理

このセンサーは、射場本（勘）による皮下泉面モデルの乾性放熱に基づいて設計されている。

人体の産熱や外界との熱収支の複雑なメカニズムを工学的に実現するため単純化し、人体の産熱をヒーターに、外界に接する皮膚部を熱抵抗体に、皮下泉面温度（Tf）の温熱感覚 RECEPTOR を測温素子に置き換えている。

図—1は、センサーの工学的な伝熱モデルである。ヒーターで発生した一定熱量が熱抵抗体（T. R. B）を通り，放熱（Hd）されると、Tf は温熱環境（気温、輻射熱、気流）によって変化するので、この Tf の温度信号を制御用信号とすることができる。



図—1　センサーの伝熱モデル

アメニティセンサーの概略

写真—1は、机上設置タイプで、人体の形状をモデル化している。空調機器制御用のほか、簡易的な温熱環境モニターや評価用としても利用されている。（AS—11型）

写真—2は、新しく開発された製品AS—10で、デザイン、機能をともにオフィス空間の空調用センサーとして適合させている。

センサーは、従来の室温制御用センサーと同様の壁面取り付けタイプであることから、片面検出タイプとし、人の存在する中央域を代表させて検出する工夫がされている。

操作パネルは空調のON／OFFスイッチのほか、好みに応じて標準より暖かめ、涼しめ、の設定ができるようになっている。

操作性の良さとオフィスの壁面に取り付けた場合にも違和感の生じない大きさ（**図—2**）になっている。

制御用出力は、PMV に対応した DC4～20mA のアナログ出力となっている。

また、**図—3**に示すように、取り付け方法は、JIS 規格の2個用ボックス使用を標準としている。

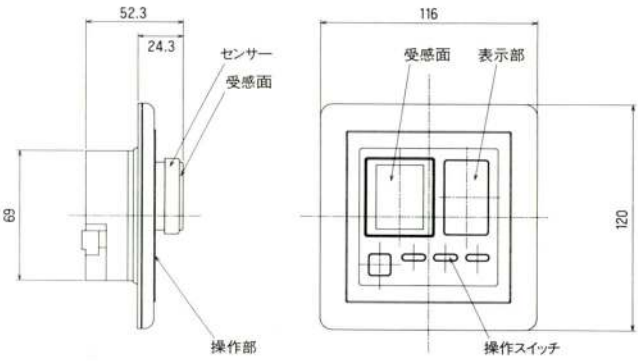
表—1に主な仕様を記す。



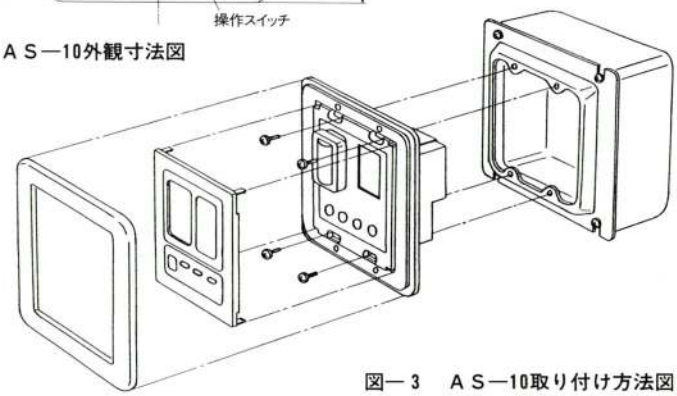
写真—1　AS—11



写真—2　AS—10



図—2　AS—10外観寸法図



図—3　AS—10取り付け方法図

表—1　アメニティセンサーの仕様

型式	AS—10
測定範囲	PMV：－1～＋1
着衣量(季節)設定	0.5clo(夏) 0.9clo(春/秋) 1.3clo(冬)
微調整	±3ステップ
受感方向	片面
出力信号	DC 4～20mA (PMV：－1～＋1に対し)
制御ポイント	DC12mA(Tf；34.5℃) (AS—10の出力がDC12mAになるように制御することで、快適な空調空間が得られる)
電源	AC24V

今後の課題

オフィス空調の実用に即した壁取り付けタイプのセンサーは、開発されたばかりであり、研究室レベルでは良好な特性が得られるが、一般に使われる場合、このセンサーの特長（気温、気流、輻射熱を総合的に感じる）を生かした空調システムの開発やノウハウの蓄積、また特殊なケースも考えられるため、使用マニュアルの作成などが必要となるだろう。

この製品（アメニティセンサー）が、近年特に望まれている快適なオフィス環境を実現する一助となれば幸いである。

参考文献

・体感温と暖冷環境の設計理論
：射場本（勘）［科学技術広報財団］
・温熱環境センサーの開発
：黒岩、荒川、青柳、射場本（忠）
［電気加熱技術情報 No. 14 1984］
・温熱環境制御用センサーの試作と熱特性の検討
：射場本（忠）、吉沼、黒岩、荒川
［空気調和・衛生工学会学術論文集'85］
・温感センサを使用したファジィ制御による快適空調の実例
：平井、出口、伊藤、道本、坂元、三宅
［空気調和・衛生工学会学術講演会講演論文集'90、10.24-10.26札幌］
・複合型室内放熱方式と温感制御による低エネルギー活用の検討
：射場本忠彦　［IBEC'91.3］

（ふるかわ　よしとも　京都電子工業株式会社研究室主任研究員）

施工材料の頁

180

万能大口径削孔工法
（ＢＧ工法）

秋山　一郎

1．概要

本工法は独バウアー社との技術提携により1983年に導入された油圧式万能型大口径削孔機（ＢＧ機）による削孔工法で、日本基礎技術㈱が製作、販売し、現在日本国内でＢＧ-７・ＢＧ-11・ＢＧ-14の３機種が稼働中である。

地盤状況、その他の条件に応じ、乾式または湿式により錐具を適宜交換し、場所打ち杭、障害物撤去のプレボーリング、山留杭等の施工ができる。

2．特徴

(1)アタッチメントの交換により、オールケーシング、アースドリル、オーガーおよびエアーハンマー工法が使える。転石、玉石の地盤でも削孔が可能である。

(2)木杭、鉄筋コンクリート構造物等の障害物のある地盤での杭施工が可能である。

(3)支持層が岩盤でも、必要な根入れ長の確保が可能である。

(4)機械がコンパクトにできているので、20°の急傾面でも走行できる。

(5)機動性がよく、360°回転可能であり、狭隘地での施工が可能。

(6)補助ウインチを備えているので、削孔機自体で、ケーシングや鉄筋カゴ、Ｈ鋼、シートパイルなどのつり込みも出来る。

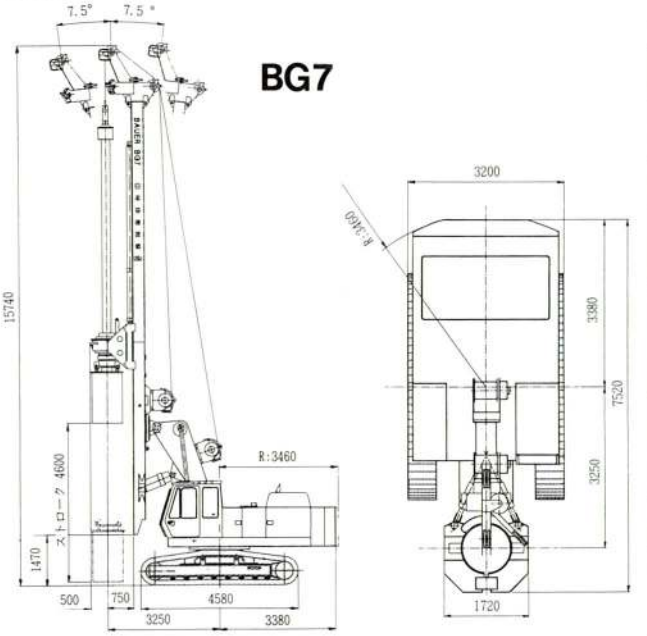
(7)全油圧駆動方式で、高張力鋼を使用しているため、構造は頑丈かつ小型で、低騒音・低振動作業ができる。

3．用途

場所打基礎杭、山留杭(柱列杭)、抑止杭、障害物の撤去、既設杭の引抜き撤去、プレボーリング、ディープウェル等の大口径削孔。

（あきやま　いちろう／日本基礎技術㈱大阪支店工事課課長代理）

■寸法図



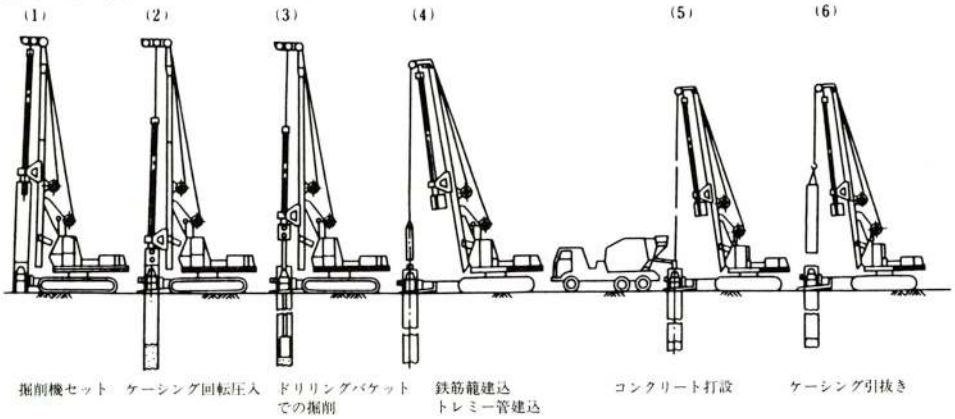
機種		BG-7
ロータリーパワーヘッド	最大トルク	7.0tfm
	最高回転数	40rpm
最大削孔径	ノーケーシング	φ1300mm
	オールケーシング	φ1000mm
削孔深度	標準ケリー	18m
	延長ケリー	24m
フィード	引抜力	15tf
	押込力	15tf
	速　度	20m/min
主ウインチ	最大引張力	7.5tf
	最大巻上速度	60m/min
	ロープ長	40m
	ロープ径	20mm
補助ウインチ	揺動機を除き	5.5tf
	運搬時	60m/min
	長　さ	40m
	幅	20mm
重　量	揺動機を除き	37.5tf
	運搬時	30.0tf
運搬中の寸法	長　さ	9.08m
	幅	3.20m
	高　さ	3.25m

■仕様・性能

		掘削径(mm)		最大掘削長(m)		パワーロータリーヘッドトルク(t·m)		出　力
		最小	最大	標準ケリー	長尺ケリー	最小	最大	
BG 7	ノーケーシング	＊470	1300	18	24	3.7	7.4	145PS
	オールケーシング	550	1000					109kw
BG11	ノーケーシング	640	1800	24	32	6.0	12.0	210PS
	オールケーシング	750	1500					158kw
BG14	ノーケーシング	640	1800	24	32	7.1	14.3	280PS
	オールケーシング	750	1500					210kw

備考：＊印の数字は、エアーハンマーの場合 φ450mm とする。

■施工方法(場所打基礎杭の場合)



大阪府公共建築設計コンクール

本コンクールは、永く人々に愛され親しまれる公共建築づくりの一環として、大阪府が建設する小規模な公共施設の基本アイデアを高校生・専修学校生から公募したもので、本年度から実施しています。平成3年度大阪府公共建築設計コンクールは、下記要領で行われ、入賞者が決定しました。

応募総数181点。応募者総数は197人でした。

最優秀作品の提案主旨は、大阪府警察本部が建て替え予定の箕面警察署・萱野派出所の設計に取り入れられます。

—コンクール概要—

□設計課題

「ちょっとおしゃれなYOU・MEの派出所」

□設計内容（概要）

敷地面積　130㎡

規模・構造　鉄筋コンクリート造または鉄骨造、2階建て

延べ床面積　110～120㎡

□建設予定場所

箕面市萱野2丁目3番32号

□募集期間

平成3年11月20日～平成4年1月20日

□応募状況

応募作品総数　181点（第1部　59点・第2部　122点）

応募者総数　197人（第1部　64人・第2部　133人）

＊第1部：高校生の部（大阪府下の工業高等学校等の生徒）

第2部：短大・専修学校生等の部（大阪府下の短期大学・専修学校・高等職業技術専門校の学生・生徒）

□入選作品の数および賞

第1部・第2部から各4点づつ、計8点を入選とし、その他に奨励賞を2点選びました。入賞者には、賞状、記念楯および副賞が贈られます。

最優秀作品	1点	優秀作品	3点
佳作	4点	奨励賞	2点

□審査委員（順不同、敬称略）

紙野　桂人（大阪大学工学部教授）—審査委員長—

太田　隆信（坂倉建築研究所取締役大阪事務所長）

篠崎由紀子（府警を語る会委員）

高橋　叡子（大阪府教育委員）

田端　修（大阪芸術大学助教授）

平岡　豁（大阪府警察本部警ら部警ら総務課長）

実藤　清二（大阪府建築部営繕室長）

—入賞者—

最優秀作品	大阪府知事賞	土井　秀宰	大阪府立西野田工業高等学校　定時制建築科3年	
優秀作品	大阪府警察本部長賞	長谷川昌美	修成建設専門学校　第2本科建築工学科1年	
	大阪府教育委員会賞	高　彰男	大阪市立都島工業高等学校　建築科2年	グループ応募
		佐藤　裕司	〃　〃	
		永岡　伸介	〃　〃	
	大阪21世紀協会賞	小原　勝彦	大阪工業技術専門学校　建築学科1年	
佳作	日本建築協会賞	安藤　高志	大阪府立西野田工業高等学校　定時制建築科2年	
	大阪府建築士会賞	保田　直宏	大阪府立守口高等職業技術専門校　建築設計科1年	グループ応募
		坂元　裕明	〃　〃	
		長島　友美	〃　〃	
	大阪建築士事務所協会賞	池　由佳	大阪工業技術専門学校　建築学科1年	
	新日本建築家協会賞	山森サチヨ	大阪府立西野田工業高等学校　建築科1年	
奨励賞	大阪府建設監理協会賞	岡田　依子	大阪市立工芸高等学校　建築科3年	
		金　純美	大阪府立守口高等職業技術専門校　建築設計科1年	グループ応募
		大池　裕二	〃　〃	

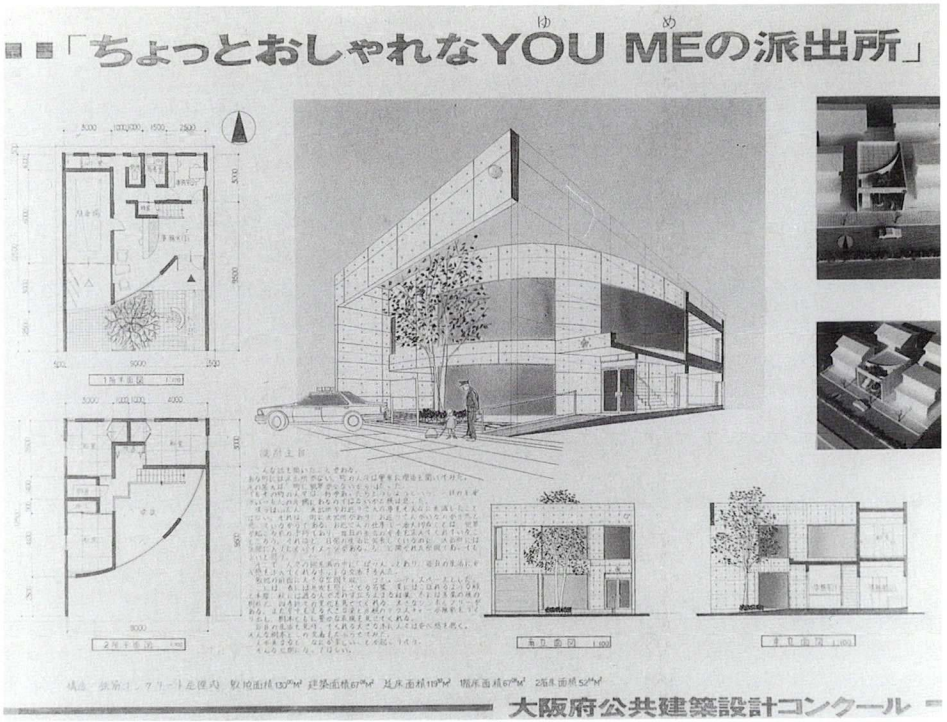
—審査講評—

応募要領が発表されてからそれほど余裕のあるスケジュールではなかったが、181点もの応募案が集まった。コンクールのテーマである「派出所」が、身近かにあって、日頃からみなれた施設であるということもあづかっているだろう。だがそれ以上に、この結果は、若者の公共建築への関心がたいへん高いことを示すものであり、関係者一同おおいに安堵と喜びを感じている。

応募案の水準は全体として高く、たくさんの力作が揃った。慎重な審査の結果、2点の奨励賞をふくめ10点の作品が残されたが、これらはそれぞれに若者らしい積極的なアイデアを盛り込んだ提案であった。

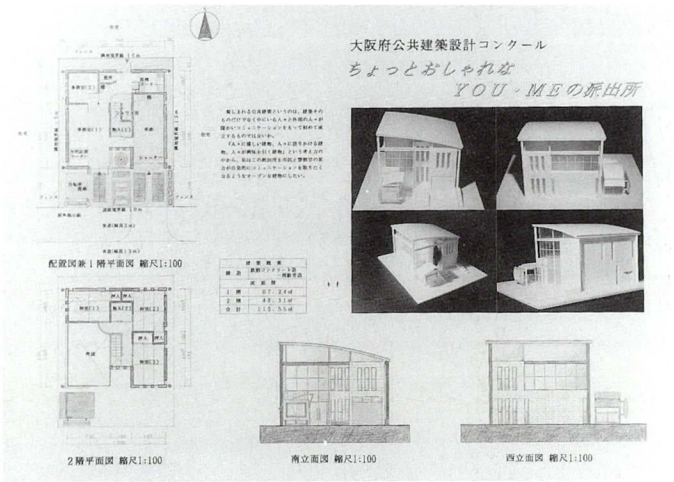
大切なのは、この課題の求めるところを読み取って適切な提案を行っているか、という点である。課題「ちょっとおしゃれなYOU・MEの派出所」というタイトル、あるいは応募要領の「目的」「課題主旨」の中に述べられている、「愛され、親しまれる公共建築」「個性的で、夢のあるアイデア」、「若者らしいアイデア」などについて、しっかりと理解し、設計・提案に反映していくことが必要である。と同時に派出所が担うべき社会的機能についての解決が求められる。この意味から、少し手を加えれば実際に建てることのできそうだが新鮮みのない案、現にどこかにありそうな案など、類型化された捉え方にとどまる作品、また、個性・夢・若者らしさ、愛され親しまれるなどのフレーズを単なる形容詞として受けとって形の表現力に高めるに至らなかった作品は、上位には入らなかった。

最優秀作品



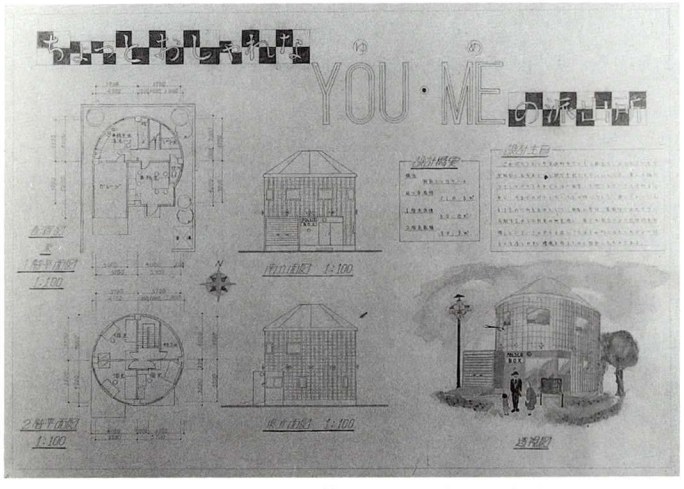
土井秀宰
（大阪府立西野田工業高等学校　定時制建築科３年）

優秀作品



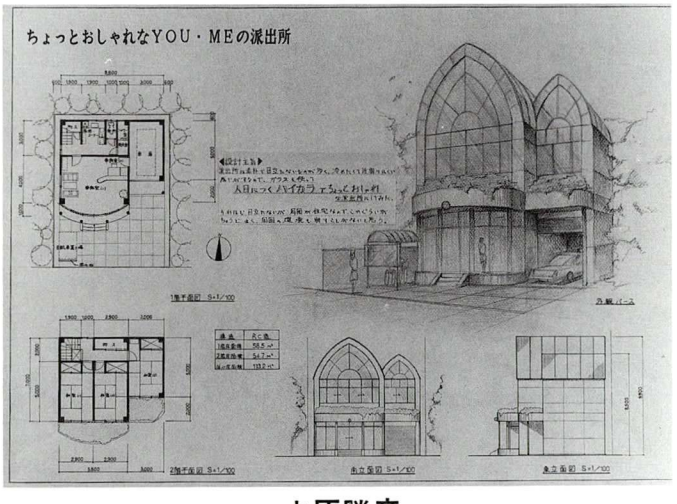
長谷川昌美
（修成建設専門学校　第２本科建築工学科１年）

優秀作品



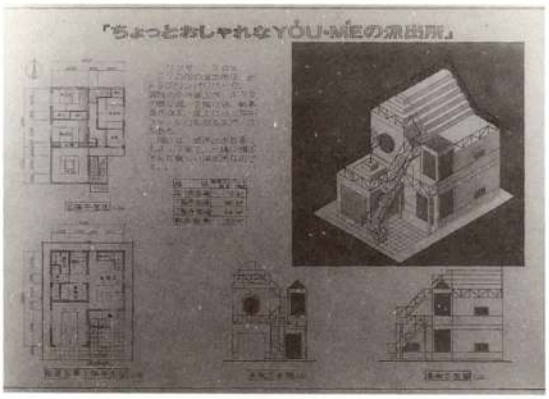
高　彰男・佐藤裕司・永岡伸介
（大阪市立都島工業高等学校　建築科２年）

優秀作品



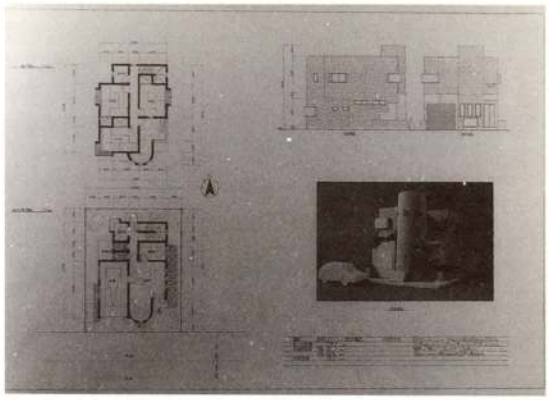
小原勝彦
（大阪工業技術専門学校　建築学科１年）

佳　作



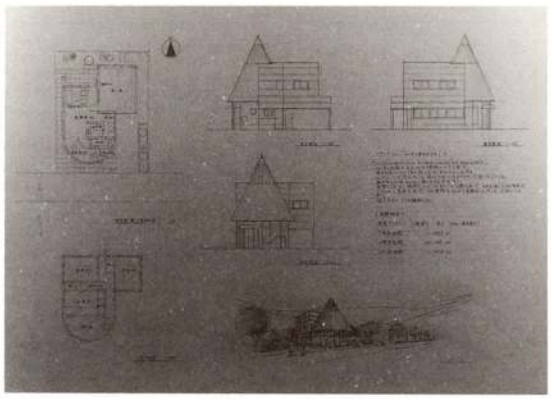
安藤高志
（大阪府立西野田工業高等学校　定時制建築科２年）

佳　作



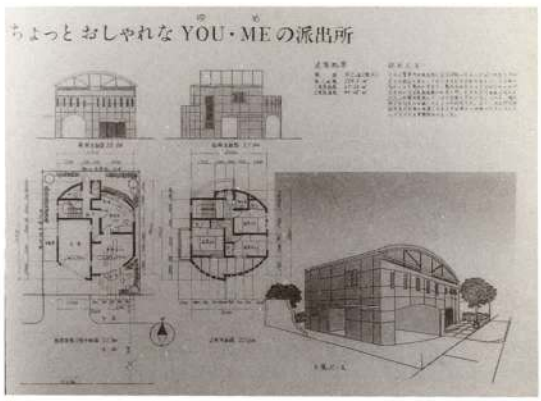
保田直宏・坂元裕明・長島友美
（大阪府立守口高等職業技術専門校　建築設計科１年）

佳　作



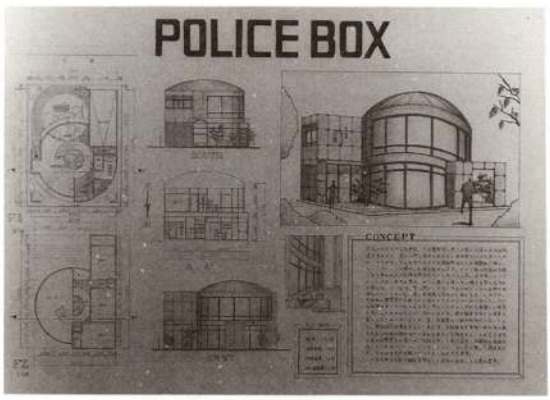
池　由佳
（大阪工業技術専門学校　建築学科１年）

佳　作



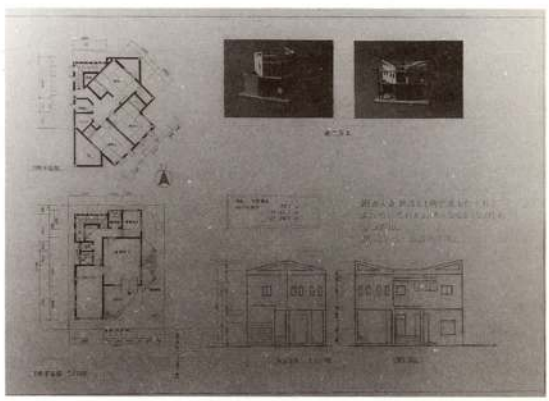
山森サチヨ
（大阪府立西野田工業高等学校　建築科１年）

奨励賞



岡田依子
（大阪市立工芸高等学校　建築科３年）

奨励賞



金　純美・大池裕二
（大阪府立守口高等職業技術専門校　建築設計科１年）

入選作品の選評

■最優秀作品に選ばれた土井秀宰君の作品は、柔らかに４分円を描く建物壁面と前庭に配された大きな樹木により、派出所に親しみやすさを、周辺環境にはうるおいを創出し、また街路側上部を走るコンクリートのフレームはここに派出所ありという「シンボル」として人びとに信頼と安心感を与える役割をねらうなど、ゆき届いた配慮がなされている。要領をよく読み、これを統合する設計テーマを定めたうえで、制作に取り組むという、確実な作業過程を想像させるまじめな作品である。

■優秀作品の長谷川昌美さんの作品は、片流れ屋根のゆったりしたカーブ、吹き抜けを生かした所要室のレイアウト、大きな開口部と閉鎖的な壁面を組み合わせた立面構成など、まことにバランス感覚よくおさまっており、プロ好みの整ったデザインであるといえる。添付された写真からみて、模型も美しく、またシャープに作られている。好感のもてる作品である。

■優秀作品の高彰男君・佐藤裕司君・永岡伸介君（グループ応募）の作品は、２層の円形平面に円錐状の屋根をかけた愛らしい、またいかにも若者らしい夢にあふれた提案である。応募案の中には円や曲面を使ってやわらかさと親しみのある形態を創り出そうとする案が多く見られたが、その中では抜きんでてスケール感のよい作品であった。

■優秀作品の小原勝彦君の作品は、ポインテッドアーチをもつ大小２つのブロックにより構成した案である。小規模な敷地条件の中で車庫がともすれば目立ちやすいという、この課題の難しさのひとつに対して、平面的に奥まって配した小ブロック側にこれを納めるという解決は巧みである。

■佳作の安藤高志君は、作品を「ワンダーBOX」と名づけ、外部階段や屋上を近所の人びとの遊び場にするというユニークで楽しい提案を、佳作の保田直宏君・坂元裕明君・長島友美さん（グループ応募）らは、シンボリックにたち上げた円筒状のタワーを中心によくまとまった平面計画を提案してくれた。また、佳作の池由佳さんの作品は、とんがり屋根をモチーフにした楽しさの溢れるデザインと図面・プランのまとまりが優れており、同じく佳作の山森サチヨさんの作品は、外壁・屋根の双方にゆるやかな曲面を用いて、おしゃれな外観を創り出すことに成功しており、可能性を感じさせる。

■奨励賞に選ばれた岡田依子さんの、円筒と直方体を組み合わせた形態構成、同じく奨励賞の金純美さん・大池祐二君（グループ応募）の、１・２階の平面グリッドを互いに45度ずらすことによる変化のある空間演出も、また創意豊かな提案であった。

連続公開講座「都市」(フジタ都市講座)、4月はフランチェスコ・ダル・コの氏の講演

異なった都市・建築に対する視点からそれぞれの考え方や構想を多角的に捉えてみようとする日本大学工学部連続公開講座が、来年12月まで12回、磯崎新氏をモデュレーターとして開催される。

●第1回講座

講師：フランチェスコ・ダル・コ（イタリア）―同時通訳

日時：1992年 **4** 月**15**日（水）18：00～

場所：日本大学会館ホール（東京都千代田区九段南4-8-24　JR市ヶ谷駅下車徒歩2分）

定員：450名

申込：往復ハガキに住所、氏名、電話番号、勤務先等、年齢を明記の上、申し込むこと。返信ハガキ（住所・氏名記入）をもって聴講整理券とする。第1回講座は3月2日から受付開始。（2回目以降は講演の1ヵ月前から）

申込先：日本大学理工学部・都市講座事務室
（〒101 東京都千代田区神田駿河台1-8
TEL03-3259-0998）

インターコミュニケーション'92

『脱着するリアリティ』入江経一＋藤幡正樹

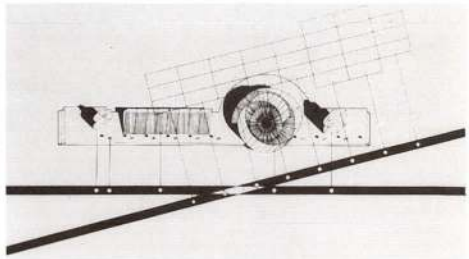
インターコミュニケーション'92実行委員会（浅田彰、伊藤俊治、彦坂裕）は、3月28日から約3週間に渡り、観賞者参加型のインスタレーション『脱着するリアリティ』を開催する。

電子技術やメディア技術の進歩により大きな時代の曲がり角を迎えている現在、その曲がり角の向こうにどんなリアリティが見えるのか？建築家・入江経一とコンピュータ・アーティスト・藤幡正樹が初めて共同制作するインスタレーションの世界で展開される。入場無料。

なお、このインターコミュニケーションは、東京・西新宿『東京オペラシティ』内に1996年オープン予定のインターコミュニケーションセンター（略称：ICC）のプレ・インベントとしてオープンまで毎年開催されるものである。

日時　1992年 **3** 月**28**（土）～ **4** 月**16**日（木）
11：00～20：00

会場　東京・青山スパイラル1F



「脱着するリアリティ」入江経一＋藤幡正樹イメージイラスト

アーティスト

入江経一（建築家）
1950年　東京生まれ
1976年　東京芸術大学大学院建築科修了
1985年　『参宮橋の住宅』
1989年　『千葉の住宅』
1991年　『モノル』：玉川学園集合住宅

藤幡正樹（コンピュータ・アーティスト）
1956年　東京生まれ
1981年　東京芸術大学美術研究科大学院修了
1983年　"VIDEO CULTURE CANADA" Tront, Canadaにて CG部門でグランプリを受賞
1989年　NHK衛星放送『形と幻想』総合演出
1990年　"APE CALL from TOKYO"（New York ADC Gallery, U. S.）
1991年　NHK『アインシュタイン・ロマン』＝プロローグ編＝演出協力

「第4回建築省エネルギー賞」決まる

㈱住宅・建築省エネルギー機構は、平成4年2月、省エネルギー月間特別企画の一環として「建築省エネルギー賞」の作品募集を行い、審査委員会（委員長：藤井正一芝浦工業大学名誉教授）において審査を進めていたが、このたび審査を終え、建設大臣賞3点、財団理事長賞3点、審査委員会奨励賞5点を決定した。

建築省エネルギー賞は、総合的に優れた省エネルギー建築物を表彰することにより、建築省エネルギーに関する設計、施工、施設の運用管理技術等の進歩・向上を図ることを目的として、昭和60年度から隔年で実施しているものである。

第4回建築省エネルギー賞



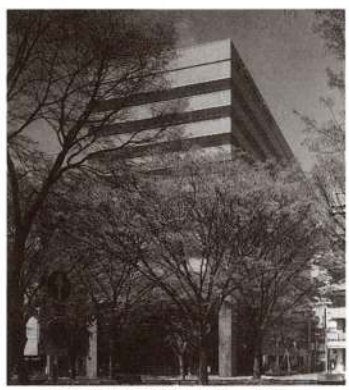
三井倉庫箱崎ビル（東京都中央区）―建設大臣賞―



南海放送サンパーク美術館（松山市）―建設大臣賞―



讀賣新聞横浜工場（横浜市）―建設大臣賞―



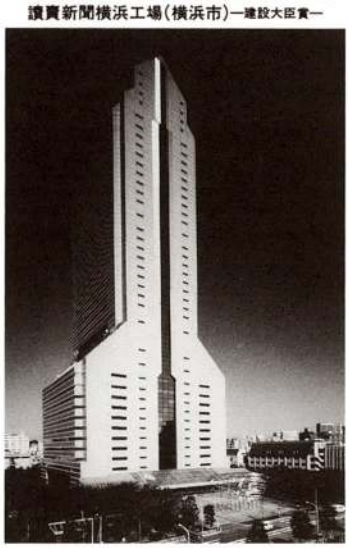
仙台定禅寺ビル（仙台市）―奨励賞―



東京電力㈱東村山総合社屋（東村山市）―奨励賞―



東京ベイホテル東急（浦安市）―財団理事長賞―



日本電気本社ビル（東京都港区）―財団理事長賞―



芳賀町庁舎（栃木県芳賀町）―奨励賞―



日本アイ・ビー・エム大阪南港ビル（大阪市）―奨励賞―



太陽の郷博修館（茅ヶ崎市）―財団理事長賞―



邦和セミナープラザ（名古屋市）―奨励賞―



善行第三団地高齢化対応パッシブソーラー集合住宅（藤沢市）―奨励賞―

日本建築協会

月間の動き

平成4年1月分

理　事　会

第3回常任理事会

29日　4時～4時45分　於本会会議室

出席者　佐野会長ほか16名

議事　(1)定時評議員会開催の件
(2)平成4年度事業計画（素案）の件
(3)名誉正会員推挙の件
(4)'92経営セミナーオーナークラス研修会後援の件
(5)入退会者承認の件
(6)報告事項

評　議　員

技術部門評議員懇談会

20日　4時～5時　於本会会議室

出席者　鶴田委員ほか5名

議事　技術部門選出評議員候補者6名推せんの件

編　集　委　員　会

第10回編集委員会

9日　6時～7時30分

出席者　溝神委員長ほか3名

議事　(1)2月号「こだわりのインテリア」・「近畿郵政局」特集経過報告
(2)3月号「建築家のための設備知識—III」「東海支部」特集経過報告
(3)4月号「地球環境時代の建築」特集経過報告
(4)平成4年度の特集計画検討
(5)作品作風頁レイアウト検討
(6)収支状況報告

第7回構造分科会

13日　6時～8時半　於本会会議室

出席者　角幹事ほか2名

議事　構造特集の企画

第10回会員企画小委員会

14日　6時30分～8時　於本会会議室

出席者　佐伯副委員長代行ほか2名

議事　(1)シリーズものの報告と掲載予定
(2)新しい企画案について

執筆者打合会

16日　5時～8時　於本会会議室

出席者　北島章因・中野格（東畑）、押田忠明（日建）、日根東治（安井）、中村秀行（大阪ガス）、中村秀夫・辻田紀子（関西電力）

第10回作品作風小委員会

16日　6時30分～8時30分　於本会会議室

出席者　宮下副委員長ほか6名

議事　(1)作品の掲載予定の報告
(2)作品の選定
(3)「Gallery」内容報告及び今後の予定
(4)誌面（「作品作風欄」・「スケッチブック欄」）について

第7回施工材料分科会

17日　5時～7時30分　於本会会議室

出席者　村上幹事ほか3名

議事　(1)平成4年度特集について
(2)「施工材料の頁」

第8回計画分科会—建築系

23日　7時～9時30分　於本会会議室

出席者　北村幹事ほか6名

議事　平成4年4月号「地球環境時代の建築」特集の検討

第10回広告企画小委員会

28日　4時～5時30分　於本会会議室

出席者　溝神委員長ほか5名

議事　(1)2月号「こだわりのインテリア」・「近畿郵政局」特集経過報告
(2)3月号「設備（集合住宅篇）」・「東海支部」特集広告経過報告
(3)4月号「地球環境時代の建築」特集経過報告
(4)5月号「住宅・都市整備公団関西支社」特集経過報告
(5)平成4年度特集企画、独自特集企画、及び収支予算案検討
(6)収支状況報告

事　業　委　員　会

第6回若い会員の集い小委員会

7日　6時30分～9時　於本会会議室

出席者　杉本副委員長ほか9名

議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告
(3)今後の企画について
(4)島隆男委員の時間

第6回広報小委員会

14日　6時30分～8時30分　於本会会議室

出席者　原見副委員長ほか7名

議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)第1分科会からの報告と検討
(3)第2分科会からの報告と検討

第6回見学会小委員会

16日　6時～8時　於本会会議室

出席者　南副委員長ほか8名

議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告
(3)今後の予定
(4)今後の見学会の候補について

第6回事業委員会

22日　4時～5時　於本会会議室

出席者　多井委員長ほか4名

議事　各小委員会からの報告と検討

出　版　委　員　会

第8回出版委員会

17日　5時～6時　於本会会議室

出席者　須賀委員長ほか8名

議事　(1)「プロのノウハウ」と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定
(3)「プロのノウハウ」講座シリーズ

教　育　委　員　会

第9回工高生教育小委員会

21日　6時～8時30分　於本会会議室

出席者　和田副委員長ほか2名

議事　(1)本年度・第37回工高生デザインコンクールの実施報告
(2)次年度・第38回工高生デザインコンクールについて
(3)工高生デザインコンクール入選作品集

「工高生デザインコンクール入選作品集」幹事会

27日　3時30分～5時30分　於本会会議室

出席者　和田副委員長ほか2名

「工高生デザインコンクール入選作品集」

見学会・講演会

伊丹アイフォニックホールと白雪酒造蔵を訪ねる

28日　12時～4時15分　於本会会議室

参加者　43名

グリーンセミナー鷲尾金弥氏を囲んで

21日　2時～4時15分　於本会会議室

参加者　32名

坂本龍馬記念館の設計をめぐって
—高橋晶子氏講演会

24日　6時30分～9時
於イトーキ大阪・クリスタルホール

参加者　142名

建　築　ク　ラ　ブ

新年宴会

14日　6時～7時　於大阪グランドホテル

参加者　60名

建築11団体合同新年交礼会

6日　2時～3時　於マイドーム大阪

参加者　730名

1月の入会者（敬称略）

〔団体会員2社〕

㈱コンサル・プランナー7　　東北工科情報専門学校

〔個人会員2名〕

神崎　健史（井上守建築事務所）　　柴田　正規（REO建築計画研究所）

◀会員の訃報

〔正会員〕

高橋久治（79歳）平成3年3月28日死亡

〔元評議員〕

稗田　治（82歳）平成4年2月24日死亡

建築技術の単行本
全国書店で好評発売中

名画と遊ぶおもしろ音響学
音響額 —名画に探る音の不思議—
山下充康 著　B6判　152頁　税込定価1,600円
「晩鐘」や「最後の晩餐」…。数々の名画の中で音はどう響いているのか？そんな疑問から、音響学者がおもしろく『音』を語る。

建築構造問題快答集15巻
石黒徳衛 監修　A5判　316頁　税込定価4,000円
実務の上で遭遇した疑問・難問に対して明快に回答する
———シリーズ第15巻完結編！

あと施工アンカー
—初歩から応用まで— **設計・施工読本**
広沢雅也・松崎育弘 編　A5判　256頁　税込定価3,500円
あと施工アンカーを正しく活用するための設計・施工上のポイントを、多くの事例をまじえながら紹介した実務的な入門書となっています。

株式会社　建築技術
〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2 福西ビル
TEL. 03-5371-3811 FAX. 03-5371-8282

建築技術者必携の専門誌 **建築技術4**
3月18日 全国書店一斉発売 税込定価1,350円

● ● ● ● ● 特集 ● ● ● ● ●

建築デザインのための 雨仕舞と防水

最近の建築デザインの多様化という状況のなかで、実際の建物の雨仕舞と防水をどのように納めたらよいのかを考えます。特に、各部位の雨仕舞と防水の納まりを取り上げ、その具体的な手法を詳細に紹介します。

1. 建築デザインの多様化と納まり
2. 実践・雨仕舞と防水の納まり
   ①屋根　②外壁　③屋上防水　④地下防水
   ⑤室内設備関係防水　⑥エキスパンションジョイント

特別企画
—S造の新たな展開—
FR鋼による無被覆鉄骨の設計

■ 連載 ■
現代建築紀行【第4回】仙台市青年文化センター
●住まいのアメニティ⑩　【新連載】構造計算の実務 ～知っておきたい根拠と常識～
●地下水のはなし⑪

建築デザインのための 構造計画

須賀好富 著　B5判・216頁・2800円（消費税抜）
建築技術選書〈特装版〉

よいデザインは構造計画によって支えられ，構造計画はよいデザインの「かて」となる．建築家が構造計画を認識し，構造家の計画案が建築家のアイデアに刺激を与えることにより始めて優れた建築が生まれる．建築家と構造家のギャップを埋めるための知識を図・写真などの最新情報を載せてわかりやすくまとめた，両者待望の技術書．

〈目　次〉
第1章　構造とデザイン
第2章　柱の計画
第3章　はりの計画
第4章　架構の計画
第5章　屋根の計画
第6章　床の計画
第7章　耐震壁の計画
第8章　コストと構造計画

企画／日本建築協会
〒600　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
☎075-343-0811　振替／京都 0-26789
(株)学芸出版社

プロのノウハウ
四六判・2色刷・224頁・2000円（消費税抜）
加賀秀治 著

コンクリート工事のチェックポイント100

生コン工場の普及につれてその技術面はメーカー任せとなり，現場技術者のコンクリートに対する知識の低下を招き，施工不良による欠陥構造物につながりやすくなっている．本書では，使用材料の選定から施工欠陥の補修までコンクリート工事に必要な基本的事項と管理のポイントを改訂されたJASS5に従い簡便に解説．

Ⅰ．コンクリート技術の展望
Ⅱ．コンクリート工事の施工計画
Ⅲ．使用材料の選定
Ⅳ．コンクリートの調合設計
Ⅴ．生コンの発注　Ⅵ．型わく工事
Ⅶ．コンクリートの運搬（ポンプ圧送）
Ⅷ．コンクリートの打込み・締固め
Ⅸ．コンクリートの養生
Ⅹ．コンクリートの品質管理・検査
Ⅺ．施工欠陥と補修
Ⅻ．特殊コンクリートの施工

企画／日本建築協会
〒600　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
☎075-343-0811　振替／京都 0-26789
(株)学芸出版社

「建築と社会」誌21年●特集一覧——昭和47年～平成4年

「建築と社会」誌は昭和42年からA4変形判となり、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。売価は980円（消費税込）。購読希望者は事務局（06—348—0635）へ。

＊は欠号

巻号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和47年（53集）	冬期オリンピックと札幌	＊600号記念号	＊インテリアデザイン	＊都市交通問題	＊水利用	＊量産住宅の設備	＊一般号（桂中学）		＊都市住環境へのアプローチ	＊都市防災	＊第19回青年技術者	＊北陸の新建築
昭和48年（54集）	建築教育	＊泉北ニュータウンのコミュニティ施設	＊大阪大林ビルディング	＊レジャーと施設	＊大阪国際ビルディング	＊老人コミュニティ	住宅—建築家のすまい	＊新用途地域制と環境	＊構造と施工	＊仕上と材料	＊第20回青年技術者	＊ヨーロッパのまちづくり
昭和49年（55集）	歴史的環境保全	＊明日の建築はどうなるか	＊保養所作品	既成市街地の住宅地整備の方策	＊北摂ニュータウン計画	建築生産と流通機構の変容	ビルの省エネルギー化	高層プレハブ住宅の構造設計	＊みどり	＊屋根防水工事の失敗例とその対策	＊第21回青年技術者	ビル防災に関する12章
昭和50年（56集）	図書館	＊東海の新建築	＊インテリア	PC板を使用した工業化住宅	＊社会・建築・法	都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	＊人間環境としてのターミナル	騒音対策と防音材料	＊第22回青年技術者	＊集合住宅の設備
昭和51年（57集）	＊証言'76—建築デザインの動向	＊建築基礎構造の問題点	＊医療施設	＊床工法と材料	建築防災と法	＊市街地整備	＊工場建築と設備	鉄骨構造のジョイント	＊集住体のハードとソフト	＊結露防止対策と断熱材料	＊第23回青年技術者	設備からみた建築の問題点
昭和52年（58集）	＊デザインの動向—部分と全体	兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	＊日影規制と法	＊身障者施設	＊照明設備	埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	＊ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	建築における省エネルギー化	＊第24回青年技術者
昭和53年（59集）	デザインの動向—新旧のコントラスト	＊水	医療施設—病院建築と情報システム	＊外壁塗装材料	＊電波障害と建築	組合方式による集合住宅計画	住宅設備	新しい耐震設計	CAD—設計とコンピュータ	＊一般号	＊第25回青年技術者	ビル環境
昭和54年（60集）	＊転換期の再開発	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	＊日影規制	ホテル建築と情報システム	＊農村施設の変貌	＊建物の終局強度の検討	＊庄内のまちづくり	＊80年代のインテリア	＊第26回青年技術者	＊建設業の労務事情
昭和55年（61集）	＊80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望	＊●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	＊●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	＊住宅の耐久性	＊建築行政と法規	＊最近の防水工法	＊都市景観とアメニティ	＊屋内体育施設の設備	＊水ぎわのまちづくり	＊今後の外装吹付仕上材	＊●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅	＊設計のための新耐震設計法
昭和56年（62集）	＊職能論	＊中国の論文—北京の都市計画	＊ポートピア'81	＊台所まわりの計画と設備	＊シーリング材の知識	＊災害と法—安全な環境をめざして	＊都市住宅—住まい手からの発想	＊●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集	＊住宅都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割	＊間仕切壁の性能評価	＊第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年（63集）	＊新たな商業空間の展開	＊省エネルギーと開口部	＊医療施設—地域医療と設備計画	＊近畿の地盤と地質	＊都市景観—まちなみ美観への誘い	＊大阪市庁舎（第一期）	＊音とホール建築	＊大スパン構造	昭和設計作品集	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	＊●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築	＊風土・空気と人間
昭和58年（64集）	関西の建築文化を考える	マイコンの建築への利用	＊多様化する運動施設	建築と品質管理	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	大阪駅とターミナルビル	維持管理と設備更新	東海の将来と文化を考える	オフィス・インテリアの変革	プレストレスト(鉄筋)コンクリート構造	＊●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール	集合住宅と生活音
昭和59年（65集）	21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	関西の超高層ビル	ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—	建設産業とロボット開発	住環境と法制度	＊●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口（アバンティ）	消防設備のポイント	みどりとそれをとりまく人々	高齢化社会と生活空間	床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	光応用システムと建築
昭和60年（66集）	＊大阪湾物語	東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	情報化をめぐる建築・都市事情	ホール—それが生み出す文化—	建物の表情—最近の外壁材料	大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	都市と健康スポーツ	●接合 ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●東海特集	第32回青年技術者
昭和61年（67集）	これからの住空間—都市型集合住宅にみる	屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	インテリジェントビルの建築・設備計画	自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎	21世紀の住居と設備	●開発 ●ツイン21	CAD—その応用と展開	オフィス空間の構成	第33回青年技術者	インテリア・イクステンションとリニューアル
昭和62年（67集）	入浴物語	腐食	創立70周年記念号	躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	室内の仕上床	駅	行政建築家の可能性	シティホテルの設備	宝塚のまちづくり	●建物と街並みの接点 ●昭和設計作品集	第34回青年技術者
昭和63年（69集）	ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	＊建物の外装リフレッシュ	都心居住	中国地方の展望とひろしまのまちなみ	21世紀への照明	制振	超高層住宅を考える	＊●大阪府営繕 ●集合住宅のリフレッシュ	＊●第35回青年技術者 ●800号記念	讀賣テレビ
昭和64年平成元年（70集）	夢をのせる輸送設備	●竹中工務店創立90周年記念 ●リゾート事情	＊●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術	省力化のための材料工法	まちづくりと法	博覧会とまちづくり	都市環境創造と設備Ⅰ	建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	第36回青年技術者	最近の博覧会パビリオン
平成2年（71集）	＊商業化住宅のデザイン	ニュータウン・ルネサンス	東海の都市景観	スケール感	プレハブ住宅技術の現在と未来	国際花と緑の博覧会	建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	＊高強度化設計の多様化をめざして—	やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	＊●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観	感性の時代を迎えての外装材
平成3年（72集）	新しい都市空間づくり—Ⅰ—	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくりⅡ— ●建築の風景	東海支部復活30周年記念	大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルにおけるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
平成4年（73集）	夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	建築とデザイン—東海支部—	建築家のための設備知識	地球環境時代の建築	住宅・都市整備公団関西支社—公団の集住これからの10年—						

空気調和・給排水・衛生・防災設備 設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話(3434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話(302)2271(代)
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03-3344-1851(大代)　大阪本社☎06-448-3603(代)
大阪支社 ☎06-448-5851(代)　名古屋支店 ☎052-211-1535(代)　中国支店 ☎082-247-5541
九州支店 ☎092-431-2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒650 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和　給排水衛生　搬送機設備　設計施工
人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号　電話 06-364-6661(代表)
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号　電話 03-3211-8511(代表)

空気調和設備　給排水設備　電気設備　産業設備　水処理施設　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
大阪支店長　三田村嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2-2-21　電話06(202)3071(代表)
本　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06-313-1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9-3　電0720-49-2128

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(352)1131(代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2-22　電話(3667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06-949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-1911
大阪本店　大阪市北区西天満4丁目6番18号　電話 06-363-1371
支　店　仙台・横浜・名古屋・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・京都・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長 依藤孝行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351-5428(代)
FAX(06)351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1　2階)
郵便番号542　電話 大阪(06)768-5031　代表
メンテナンス部　電話　大阪(06)768-1651　代表
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
郵便番号112　電話(03)5689-2351代表

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

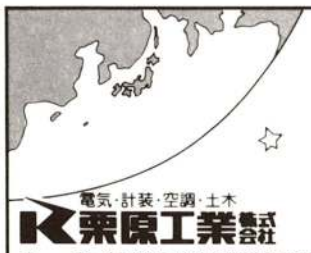
本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話 (06)352－3501㈹
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610㈹
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431㈹
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22－9738㈹

Carrier　冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キヤリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7



自然環境を大切に
夢ある未来を
くりエイト！

電気・計装・空調・土木

K栗原工業株式会社

本　社／〒530 大阪市北区角田町1番1号(東阪急ビル)
TEL 06(313)1101　FAX 06(315)0050

電気設備　設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山本貴士

本　社　大阪市北区中之島3－2－4　朝日ビル　TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所　TEL 大阪06(385)1361(代)　京都営業所　TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所　TEL 東京03(3574)0665　福岡出張所　TEL 福岡092(771)6168

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 土井敏裕

本　社　大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電　話　06(361)3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03(3666)1478(代)
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

関西支社

支社長 馬田栄

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話 大阪(202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

――誠実と技術でお応えする――

住友電設株式会社

取締役会長 代谷正元
取締役社長 相馬一男

本社/〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)537-3400(大代)　東京/〒105 東京都港区芝2丁目2-17 ☎(03)3454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理

●電力工事　配変電設備工事　架空送電線工事　地中送電線工事　土木工事
●設備工事　ビル電気設備工事　工場電気設備工事　防爆電気設備工事　計装工事
空調工事　給排水衛生工事　特殊配管工事　消防施設設備工事
●プラント工事
●情報システム工事　光伝送システム工事　CATVシステム工事　各種アンテナ装置工事

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉納秀一

本　社　〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル)　TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社　〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル)　TEL.03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店　〒462 名古屋市北区金城3-12-14　TEL.052(991)5131・FAX052(914)7535
神戸支店　〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル)　TEL.078(881)5571・FAX.078(871)6261
堺研究所　〒590 大阪府堺市三宝町七丁369　TEL.0722(27)8408・FAX.0722(27)1424

＊奉仕感謝の店

タイル及び規格石一式施工

株式会社 川岸窯業商店

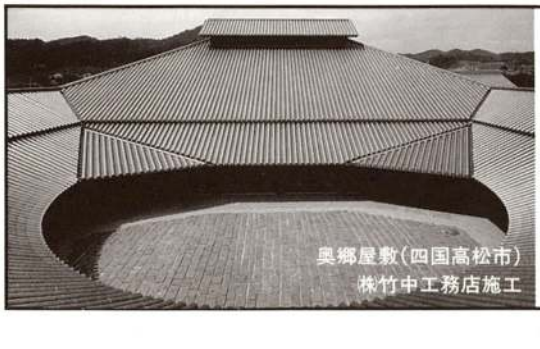
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06－532－0461(代表)
FAX.06－535－5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

学校建築のトータルアドバイザー

二葉工業株式会社

黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5
TEL.06(792)5858　FAX.06(792)2810



奥郷屋敷(四国高松市)
株竹中工務店施工

〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 五六一～七四一六
ファックス 五六一～七四五四

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

■情報処理　■編集・企画　■印刷・製本

JAPAN ELECTRIC TYPESETTING CO.,LTD.

日本電植株式会社

〒530 大阪市北区天満1-7-23
TEL.06(357)1803㈹　FAX.06(357)4950

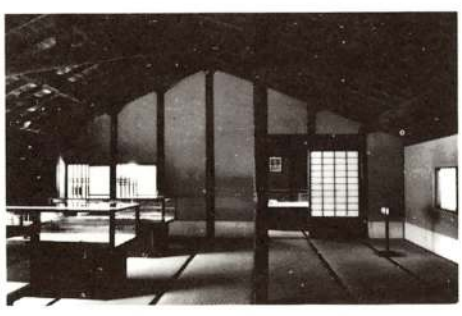
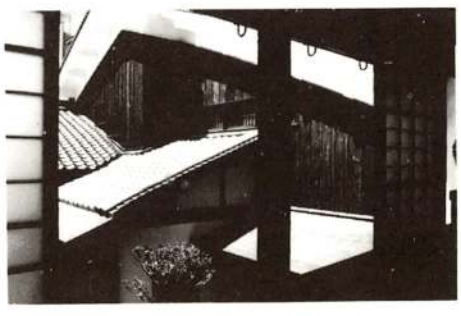
特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙 ●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL(０７２９)３９－３６１０
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木３－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

営業種目
●防　水　工　事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹　付　工　事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建　設　業　許　可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－21
星和地所扇町ビル201S
TEL06(315)０７０１
(株)特殊技研

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは,日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した,二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（０７７２７）２－２２２０
舞鶴（０７７３）７６－０１３３
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）３２７２－８５０１
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１
光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００
株式会社トーゴー
TEL 滋賀・守山(０７７５)８３－２３８１

テトカッパー防水層

カッパー防水帯――――――――コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264
大阪事務所 TEL06(391)1081～2 FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660
横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341
埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

T Y Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区常盤町1－3－8（日本生命谷町ビル）
TEL（06）943－6571（代）
■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
・鋼板製オリエンタルフネンシングル
・オリエンタルオリセラム
・オリエンタルエターノコアー(ETC-F)

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログをご請求下さい。



大和郡山市九条スポーツセンター屋根　エターノコアーF

オリエンタルメタル製造株式会社

大　阪　本　社　〒660 尼崎市昭和南通り３－26　電話大阪(06)412—5131㈹
大阪支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・姫路
東京本社及工場　〒335 蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42—3115㈹
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

建築と社会
第73輯第3号

三和シャッター



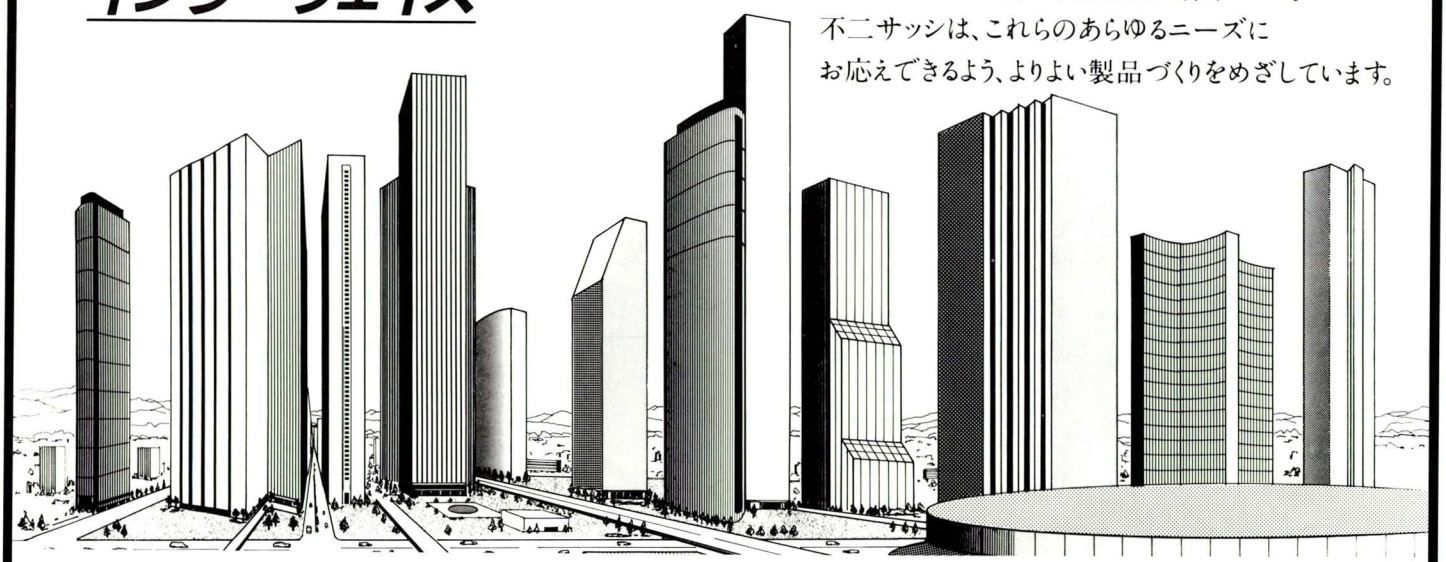
地球ブランド

「三和から～New Sanwa」へとたしかなビジョンのもとに、世界に通用する総合建材メーカーとして歩み始めました。

三和シヤッター工業株式会社
営業本部関西営業推進部
〒532 大阪市淀川区宮原4-4-50 真和ビル8F ☎061(396)6871

サッシ、それは建物と環境のインターフェイス

窓は、人の暮らしと自然環境とをつなぐインターフェイス。そこに求められる気密性、水密性、採光、換気、耐久性、美観、使い勝手……。
不二サッシは、これらのあらゆるニーズにお応えできるよう、よりよい製品づくりをめざしています。



超高層ビルから住宅用まで
窓から広がる豊かな暮らし

不二サッシ

- カーテンウォール
- 改装・取替サッシ
- ビル用サッシ・ドア
- 住宅用サッシ・ドア
- 防音サッシ
- エクステリア建材
- 断熱サッシ

本　社　〒211 川崎市中原区中丸子135 TEL(044)422-1111(大代表)
大阪支店　〒541 大阪市中央区本町3-4-10(本町野村ビル) TEL(06)262-2541(代)

社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪06(348)0635 FAX06(348)0634
振替口座大阪一三九九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九八〇円（本体九五一円 消費税一九円 送料共）